

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第382集

しみず
清水遺跡発掘調査報告書

一般県道薄衣舞川線緊急地方道整備事業関連調査

(第1分冊)

岩手県一関地方振興局土木部

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

しみず

清水遺跡発掘調査報告書

一般県道薄衣舞川線緊急地方道整備事業関連調査

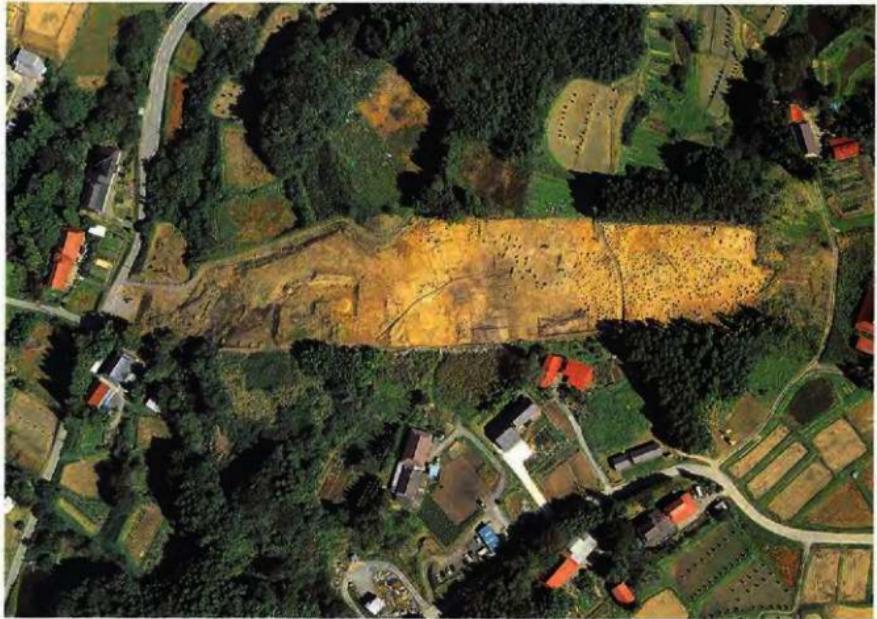
(第1分冊)



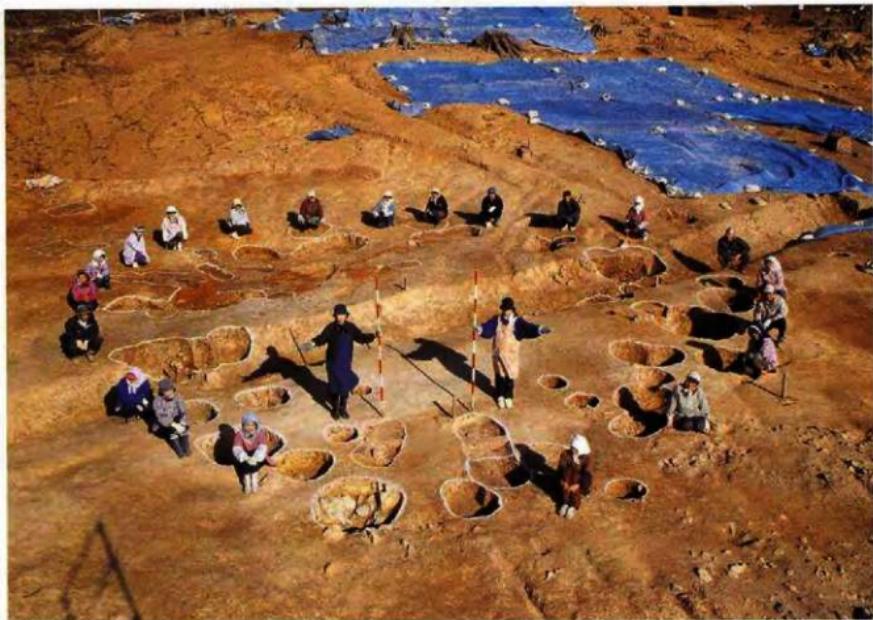
遺跡全景



遺跡遠景（西方上空から）



調査区全景（平成11年度終了時）



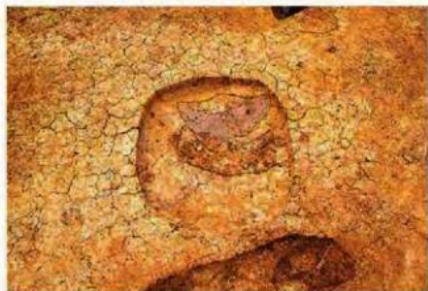
建物跡 1 (大形円形建物跡)



半截木柱痕 (C 4 P112)



同左断面



半截木柱痕 (C 4 P125)



半截木柱痕 (C 4 P122)



B区捨て場（北西から）



B区基本土層



出土状況（4B4）



出土状況（5B4:N1）



6T断面（東から）



出土状況（6T1-2）



分層取上げ作業（CB）



作業風景



B区捨て場 帯状焼土造構



東から



断面



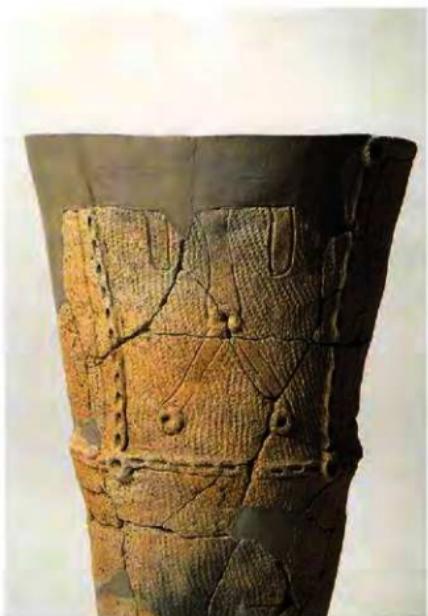
手前が新。奥が古。



焼土造構と遺物出土状況



人体文のある土器 (BM-1237)



人体文近影（BM-1237）



別区画の意匠（同左）



台付注口深鉢（BM-516）



壺形土器（BM-204）



壺形土器（BF-93）



壺形土器（BA-63）



壺形土器（BM-700）

割れ口に現れた繪積面の刻目（同左）



壺形土器（BM-931）



口縁部に孔と段がめぐる土器（BM-1457）



土 偶



土製耳飾



蝶形土製品



有脚石皿（左・Se-18）とそれを模した石皿形土製品（右・Df-1・4・5）



実寸大につくられた大形の石皿形土製品（左・Df-3）。右の石皿（Se-25）に良く似る。



有孔石製品。左の 2 点 (Sh-1・2) は石笛。



棒状石製品 (石棒)。小形のものには繊細な加工が施される。

序

岩手県には旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、平成10年度の岩手県教育委員会のまとめでは10,500箇所を超えております。これら先人たちの創造してきた文化遺産を保存し後世に伝えていくことは、我々県民に課せられた重大な責務であります。

一方、広大な面積を有する県土の大半は山地であり、地域開発に伴う社会資本の充実もまた、県民の切実な願いであることは言うまでもありません。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和は今日的課題であり、当岩手県文化振興事業団では、埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の調整のもとに、開発事業によって破壊され消滅する運命にある遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は一般県道薄衣舞川線緊急地方道整備事業に関連して、平成10年度から2カ年にわたって発掘調査を実施した一関市清水遺跡の調査成果をまとめたものであります。このたびの調査では、縄文時代中期末葉～後期前葉に営まれた集落跡が姿をあらわし、丸太を半割した材を柱に用いた特異な建物跡や、バラエティーに富む大量の遺物が見つかるなど、当時の日常生活から精神世界までをうかがい知ることのできる貴重な資料を得ることができました。そして、これらの資料の整理・分析をへて、ここに報告書を刊行する運びとなりました。この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまで発掘調査および報告書作成に多大なご援助・ご協力を賜りました岩手県一関地方振興局土木部、ならびに一関市教育委員会をはじめとする関係各位に對し、衷心より謝意を表します。

平成14年2月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 村上勝治

例　　言

1. 本書は、岩手県一関市舞川字河岸122-1ほかに所在する清水遺跡の調査成果を収録したものである。
2. 本書は第1分冊本文・遺構編、第2分冊遺物図版編、第3分冊写真図版編からなる。本冊は第1分冊本文・遺構編である。
3. 岩手県遺跡台帳における本遺跡の登録番号はNE87-1199、遺跡の調査路号はSZ-98（平成10年度）・SZ-99（平成11年度）である。
4. 本遺跡の発掘調査は、一般県道薄衣舞川線緊急地方道整備事業に伴い、岩手県教育委員会の調整を経て、岩手県一関地方振興局土木部の委託を受けた財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
5. 野外調査は2カ年にわたり実施した。調査期間／調査面積／調査担当者は以下の通りである。

| | | |
|--|---|------------|
| 1998（平成10）年4月14日～11月17日／8,062m ² | ／ | 村上 拓・七田 芳直 |
| 1999（平成11）年4月15日～11月12日／10,873m ² | ／ | 〃・江藤 敦 |
6. 室内整理の期間／担当者は以下の通りである。

| | | |
|-----------------------------------|---|------------|
| 1998（平成10）年11月1日～1999（平成11）年3月31日 | ／ | 村上 拓・七田 芳直 |
| 1999（平成11）年4月1日～1999（平成11）年10月31日 | ／ | 〃（野外調査と併行） |
| 1999（平成11）年11月1日～2000（平成12）年3月31日 | ／ | 〃・江藤 敦 |
| 2000（平成12）年4月1日～2001（平成13）年3月31日 | ／ | 〃 |
7. 本書の執筆・編集は村上が担当した。
8. 野外調査では、岩手県一関地方振興局土木部、一関市教育委員会、遺跡周辺の住民の方々より多大なるご協力を得た。
9. 各種分析・鑑定は以下の方々・機関に依頼した。

| | |
|-----------------------------|----------------------|
| 【火山灰分析】 | パリノ・サーヴェイ株 |
| 【放射性炭素 ¹⁴ C年代測定】 | 樹古環境研究所 |
| 【石質鑑定】 | 花崗岩研究会（代表 矢内桂三） |
| 【獸骨鑑定】 | 佐々木務（岩手県教育委員会事務局文化課） |
10. 発掘調査及び報告書作成にあたり、以下の方々のご指導・ご協力をいただいた。（五〇音順・敬称略）

| | |
|----------------|--|
| 石井寛（横浜市ふるさと財団） | 石川巖根・石川界（一関市舞川課題対策協議会）、福野裕介（北上市教育委員会）、福村晃嗣（川崎市立橋高校）、大道篤（一関市立本寺中学校）、工藤武・小岩弘明（一関市立博物館）、熊谷常正（盛岡大学）、斎藤邦雄（岩手県教育委員会事務局文化課）、酒井宗孝（花巻市教育委員会）、佐藤嘉広（岩手県立博物館）、千田一司（舞草刀研究会）、中村良幸（大迫町教育委員会）、八木光則（盛岡市教育委員会） |
|----------------|--|
11. 以下の学校のご理解・ご協力を得て、児童・生徒・教員による見学・及び体験発掘を実施した。

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 【小学校】 | 一関市立舞川小学校・中里小学校・赤萩小学校 |
| 【中学校】 | 一関市立舞川中学校・中里中学校・山目中学校・桜町中学校・萩荘中学校 |
12. 本遺跡の出土遺物及び諸記録類は岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

目 次

第1分冊 本文・遺構編

巻頭カラー写真図版 i ~ xii

序

例言

目次

[本 文]

| | | | |
|------------------------|----|-----------------------|-----|
| I. 調査に至る経過..... | 1 | IV. 検出遺構と出土遺物 | 25 |
| II. 立地と環境 | 1 | 1. 概要 | 25 |
| 1. 遺跡の位置 | 1 | 2. 北尾根 | 27 |
| 2. 周辺の地形 | 5 | (1) 柱穴群と建物跡 | 27 |
| 3. 基本層序..... | 5 | (2) 穫穴住居状遺構 | 71 |
| 4. 周辺の遺跡 | 8 | (3) 土坑 | 75 |
| III. 野外調査と室内整理 | 11 | (4) 土器埋設遺構 | 90 |
| 1. 野外調査 | 11 | (5) 陥穴状遺構 | 90 |
| (1) 調査区 | 11 | (6) C区沢跡 | 91 |
| (2) 区割 | 11 | 3. 南尾根 | 103 |
| (3) 試掘・表土除去 | 12 | (1) 穫穴住居跡 | 103 |
| (4) 遺構の検出と精査 | 12 | (2) 柱穴群 | 108 |
| (5) 遺構名 | 16 | (3) 土器埋設遺構 | 113 |
| (6) 実測 | 17 | (4) 陥穴状遺構 | 113 |
| (7) 土層断面の分層と注記 | 17 | (5) 平安時代の竪穴住居跡 | 114 |
| (8) 写真撮影 | 17 | (6) 近世墓坑群 | 116 |
| (9) 啓蒙普及・広報活動 | 18 | (7) 時期不明の遺構 | 116 |
| (10) 野外調査の経過 | 19 | V. 捨て場および遺構外 | |
| 2. 室内整理 | 20 | 出土土器 | 121 |
| (1) 本書の構成 | 20 | 1. 捨て場の調査 | 121 |
| (2) 遺物の掲載方法 | 20 | (1) 概要 | 121 |
| (3) 遺物の選別と掲載方法 | 20 | (2) 捨て場の調査と掲載方法 | 121 |
| (4) 遺物の取上区分と掲載番号 | 21 | (3) 土層 | 126 |
| (5) 凡例 | 23 | (4) 帯状焼土遺構 | 147 |
| (6) 室内整理の経過 | 24 | (5) 捨て場の形成過程 | 148 |

| | | | |
|------------------|-----|--------------------------------|-----|
| 2. 捨て場出土土器 | 149 | (4) 石斧 | 160 |
| (1) 層別資料 | 149 | (5) 石皿 | 160 |
| (2) 焼土造構とその上下の資料 | 154 | (6) 敷磨器類 | 160 |
| (3) その他 | 154 | (7) 石錐 | 161 |
| (4) 底部資料 | 155 | (8) 有孔石製品 | 161 |
| 3. その他の造構外出土土器 | 156 | (9) 有孔礫 | 161 |
| (1) A区出土土器 | 156 | (10) 斧形石製品 | 161 |
| (2) C区出土土器 | 156 | (11) 棒状石製品 | 161 |
| 4. 土製品 | 156 | (12) 器状石製品 | 161 |
| (1) 土偶 | 156 | (13) 円盤状石製品 | 161 |
| (2) 耳飾 | 156 | (14) 石核・剥片石器素材礫 | 162 |
| (3) 環状土製品 | 157 | (15) 敷磨器類素材礫 | 162 |
| (4) 鐸形土製品 | 157 | (16) 溶岩 | 162 |
| (5) 斧形土製品 | 157 | 6. 動物遺存体 | 162 |
| (6) 石皿形土製品 | 157 | VII. まとめ | 163 |
| (7) 土鍬 | 157 | | |
| (8) 円盤状土製品 | 158 | 附編 1 放射性炭素 ¹⁴ C年代測定 | 165 |
| (9) その他 | 158 | 附編 2 火山灰分析 | 167 |
| (10) 焼粘土塊 | 158 | 附編 3 動物遺存体 | 171 |
| 5. 石器・石製品 | 158 | | |
| (1) 石鎌 | 159 | 報告書抄録 | 402 |
| (2) 石錐 | 159 | | |
| (3) 石匙 | 160 | | |

[表]

| | | | |
|----------------------------|-----|-----------------------|-----|
| 表 1 周辺遺跡一覧 | 10 | 表 10 B区捨て場出土土器 | |
| 表 2 基準杭・区画割付杭一覧 | 11 | [焼土造構とその上下の資料] | 224 |
| 表 3 C区柱穴一覧 | 52 | 表 11 B区捨て場出土土器 [その他] | 230 |
| 表 4 C区造構内出土土器 | 100 | 表 12 B区捨て場出土土器 [底部資料] | 248 |
| 表 5 D区柱穴一覧 | 111 | 表 13 造構外出土土器 | 274 |
| 表 6 D区造構内出土土器 | 120 | 表 14 土偶 | 280 |
| 表 7 B区捨て場NO.取上遺物 帰属層位一覧 | 151 | 表 15 耳飾 | 283 |
| 表 8 B区捨て場地点別出土土器重量表 | 153 | 表 16 環状土製品 | 283 |
| 表 9 B区捨て場出土土器 [層別資料] | 174 | 表 17 鐸形土製品 | 283 |
| | | 表 18 斧形土製品 | 284 |

| | | | |
|-------------|-----|------------------|-----|
| 表19 石皿形土製品 | 284 | 表30 石錐 | 373 |
| 表20 土錐 | 284 | 表31 有孔石製品 | 373 |
| 表21 円盤状土製品 | 285 | 表32 有孔礫 | 374 |
| 表22 その他の土製品 | 305 | 表33 斧形石製品 | 375 |
| 表23 焼粘土塊 | 305 | 表34 棒状石製品 | 375 |
| 表24 石錐 | 306 | 表35 器状石製品 | 375 |
| 表25 石錐 | 353 | 表36 円盤状石製品 | 376 |
| 表26 石匙 | 357 | 表37 石核および剥片石器素材礫 | 378 |
| 表27 石斧 | 359 | 表38 敗磨器類素材礫 | 379 |
| 表28 石皿 | 362 | 表39 溶岩 | 399 |
| 表29 敗磨器類 | 363 | | |

【図版】

| | | | |
|------------------------|----|------------------------|----|
| 第1図 岩手県全図 | 2 | 第23図 C 3・C 4 区柱穴断面図(3) | 49 |
| 第2図 遺跡周辺の地形 | 3 | 第24図 C 3・C 4 区柱穴断面図(4) | 50 |
| 第3図 地形分類図 | 6 | 第25図 C 3・C 4 区柱穴断面図(5) | 51 |
| 第4図 基本層序模式図 | 7 | 第26図 住居状C 4 J 2 | 72 |
| 第5図 周辺の遺跡 | 9 | 第27図 住居状C 4 J 3 | 73 |
| 第6図 調査区とグリッド配置 | 13 | 第28図 住居状C 4 J 4 | 75 |
| 第7図 各区割図 | 15 | 第29図 C区土坑(1) | 83 |
| 第8図 凡例 | 23 | 第30図 C区土坑(2) | 84 |
| 第9図 遺構分布図 | 26 | 第31図 C区土坑(3) | 85 |
| 第10図 C 2区柱穴群 | 27 | 第32図 C区土坑(4) | 86 |
| 第11図 建物跡1(大形円形建物跡) | 35 | 第33図 C区土坑(5) | 87 |
| 第12図 建物跡1構成柱穴断面図(1) | 36 | 第34図 C区土坑(6) | 88 |
| 第13図 建物跡1構成柱穴断面図(2) | 37 | 第35図 C区土坑(7) | 89 |
| 第14図 建物跡1構成柱穴断面図(3) | 38 | 第36図 C区土器埋設遺構 | 91 |
| 第15図 建物跡1構成柱穴断面図(4) | 39 | 第37図 C区陥穴状遺構 | 92 |
| 第16図 建物跡1構成柱穴断面図(5) | 40 | 第38図 C区遺構内出土土器(1) | 93 |
| 第17図 建物跡1構成柱穴断面図(6) | 41 | 第39図 C区遺構内出土土器(2) | 94 |
| 第18図 建物跡1構成柱穴断面図(7) | 42 | 第40図 C区遺構内出土土器(3) | 95 |
| 第19図 C 3・C 4 区建物跡(1) | 43 | 第41図 C区遺構内出土土器(4) | 96 |
| 第20図 C 3・C 4 区建物跡(2) | 45 | 第42図 C区遺構内出土土器(5) | 97 |
| 第21図 C 3・C 4 区柱穴断面図(1) | 47 | 第43図 C区遺構内出土土器(6) | 98 |
| 第22図 C 3・C 4 区柱穴断面図(2) | 48 | 第44図 C区遺構内出土土器(7) | 99 |

| | | | |
|--|-----|--------------------------------|-----|
| 第45図 住居跡D 1 J 1 | 105 | 第57図 B区捨て場区割図 | 122 |
| 第46図 住居跡D 2 J 1 (1) | 106 | 第58図 捨て場出土遺物の取上方法 | 123 |
| 第47図 住居跡D 2 J 1 (2)・ 住居跡D 2 J 2 | 107 | 第59図 層位の表記方法 | 125 |
| 第48図 D 1 区柱穴群 | 108 | 第60図 B区捨て場土層断面 [2 T] | 129 |
| 第49図 D 2 区柱穴群 | 109 | 第61図 B区捨て場土層断面 [3 T] | 131 |
| 第50図 D区土器埋設遺構・陥穴状遺構 | 113 | 第62図 B区捨て場土層断面 [4 T] | 133 |
| 第51図 住居跡D 2 H 1 (1) | 115 | 第63図 B区捨て場土層断面 [5 T] | 135 |
| 第52図 住居跡D 2 H 1 (2) | 116 | 第64図 B区捨て場土層断面 [6 T] | 137 |
| 第53図 D区近世墓坑群 | 117 | 第65図 B区捨て場土層断面 [7 T] | 139 |
| 第54図 D区周溝状遺構 1 | 117 | 第66図 B区捨て場土層断面 [8 T] | 141 |
| 第55図 D区鍛冶炉状遺構 | 118 | 第67図 B区捨て場土層断面 [9 T] | 143 |
| 第56図 D区遺構内出土土器 | 119 | 第68図 B区捨て場土層断面 [10T*11T] | 145 |

[付 図]

- 付図 1 北尾根（C区）遺構群全体図 本冊巻末
 付図 2 南尾根（D区）遺構群全体図 本冊巻末

I. 調査に至る経過

清水遺跡の発掘調査は、一般県道薄衣舞川線緊急地方道整備事業の実施に伴い事業区間に所在する埋蔵文化財が破壊され消滅することになったことをうけ、これを記録として保存し、後世に遺すことを目的として実施された緊急発掘調査である。

事業対象の一般県道薄衣舞川線は、両磐地区（西磐井郡・東磐井郡）を連絡する補助幹線を形成する路線である。しかし、孤禪寺狭窄部のすぐ上流側に面する一閑市舞川付近の区間は、北上川の増水時に度々冠水して通行不能となるため、これまで市民生活に大きな影響を及ぼしてきた。このことから、舞川地区における当該区間を冠水に強い道路に改良するため、平成8年度より道路整備を行うこととなった。

一閑地方振興局土木部は、事業区内における埋蔵文化財包蔵地の分布調査および試掘調査を岩手県教育委員会に依頼し、その結果、当該計画予定箇所は埋蔵文化財包蔵地であることから、現状保存できない場合、別途記録保存を図る発掘調査が必要になる旨的回答を得た。これをうけ、一閑地方振興局土木部と岩手県教育委員会との間で協議・調整が重ねられ、清水遺跡の発掘調査は財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とされることになった。埋蔵文化財センターは、平成10年4月1日付の委託契約にもとづき同年4月14日から現地の発掘調査に着手した。

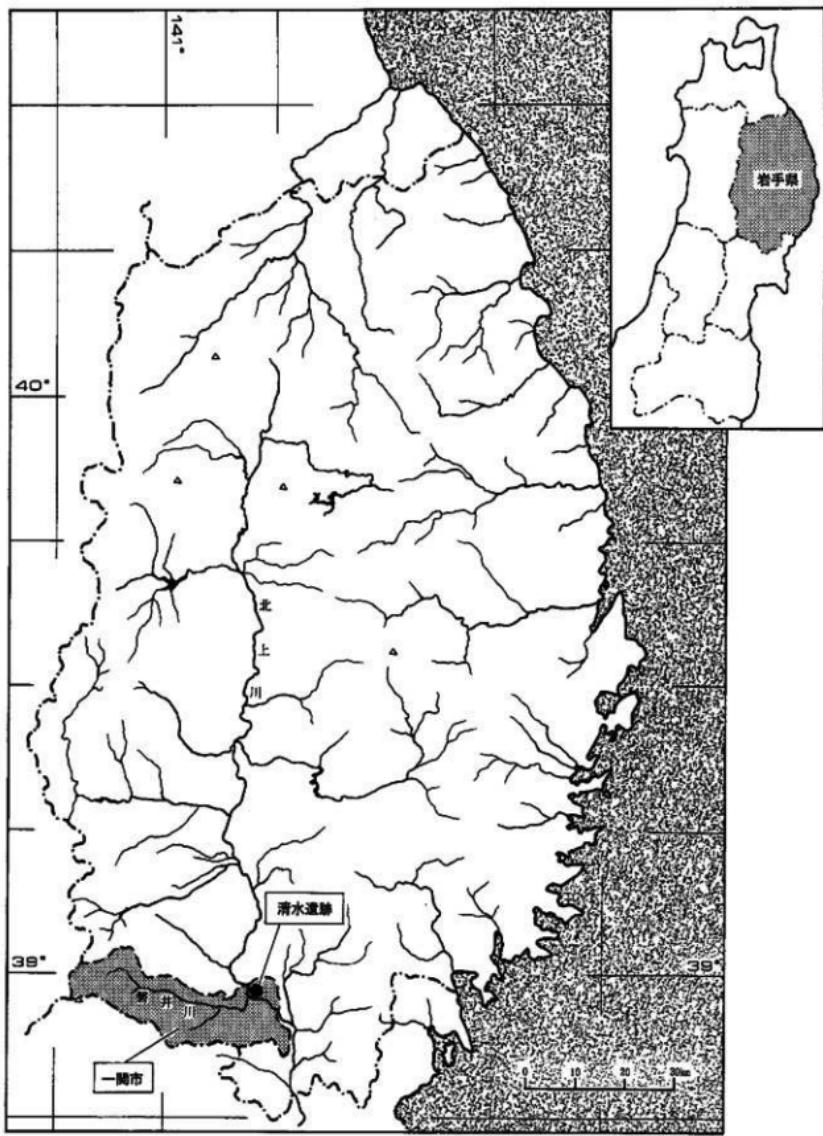
II. 立地と環境

1. 遺跡の位置（第1・5図）

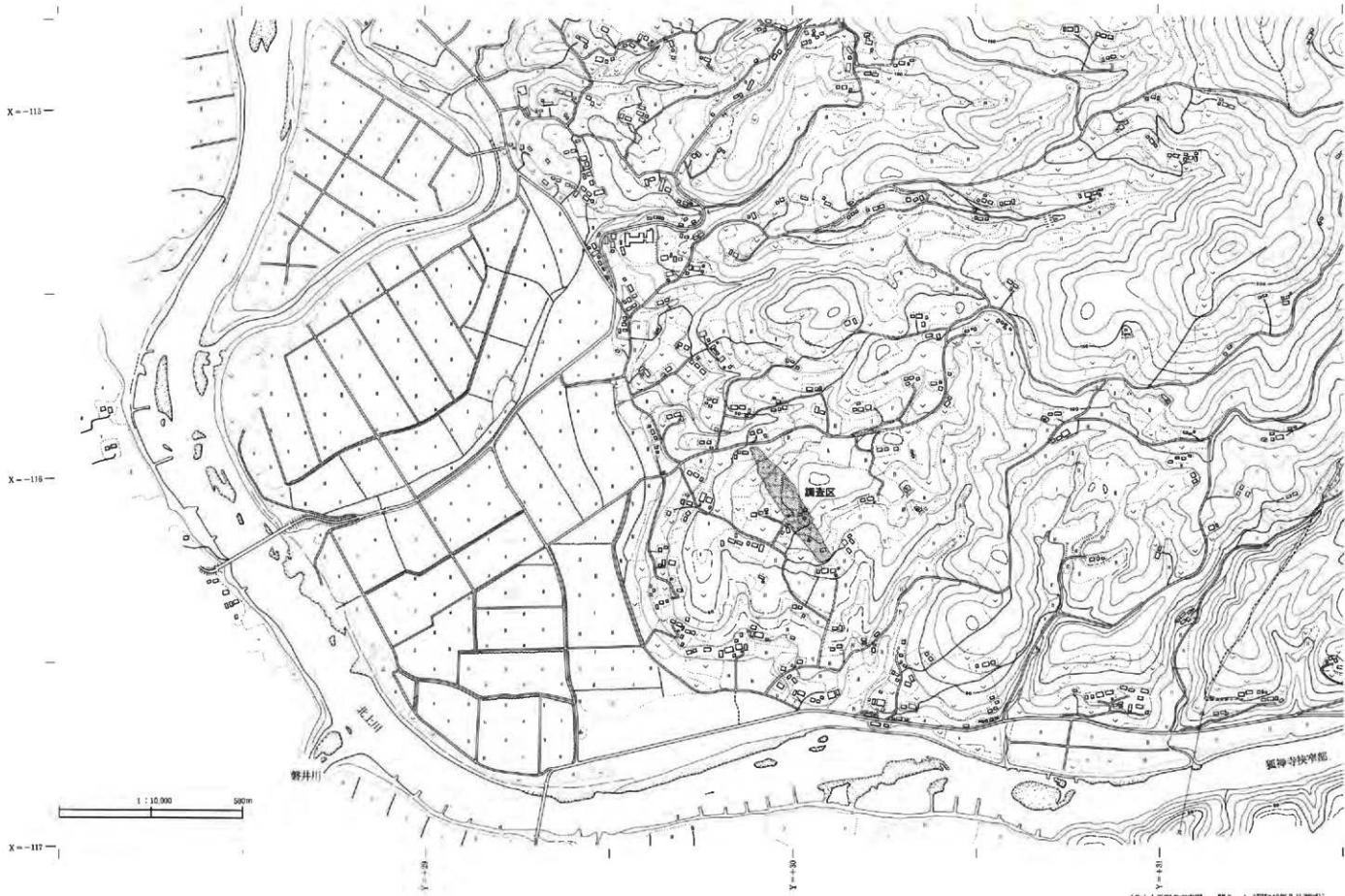
清水遺跡が所在する一閑市は岩手県の南西部に位置し、東は北上山地西縦部から西は奥羽脊梁山脈に及ぶ東西に細長い形状を呈する。奥州藤原氏が榮華を誇った西磐井郡平泉町・国内最北の前方後円墳とされる角塚古墳を有する胆沢郡胆沢町とは北辺で接し、また同様に、東に東磐井郡東山町・同郡川崎村、南に西磐井郡花泉町・宮城県栗原郡金成町・同郡栗駒町、西では秋田県雄勝郡東成瀬村と接している。古くより岩手県南部から宮城県北部の経済・交通・文化の中核を担ってきた都市である。

清水遺跡は、当市の市街地からは北上川をはさんで対岸にあたる市域東部の舞川地区に所在し、東日本旅客鉄道一閑駅の北東約4.7km、同、山目駅の東北東約3.8kmの地点、東経 $141^{\circ} 10' 46''$ 、北緯 $38^{\circ} 57' 14''$ 付近に位置する。舞川地区は、明治22年の町村制施行により舞草村と相川村が合併、各村名の一字を用いて舞川村とされ、さらに昭和23年の第一次市制施行に次ぐ昭和30年の第二次市制施行によって一閑市に合併された地域である。日本刀の源流とされるいわゆる舞草刀の発祥は当地であり、舞草鐵治の名で世に知られる。

遺跡が立地するのは孤禪寺狭窄部に臨む北上川の左岸、北上山地西縦の山麓緩斜面で、南方から北西にかけて大きく開けた視界には、曲流する北上川とその両脇に発達した広大な沖積平野が一望できる。北には延喜式大社の舞草神社が祀られる蠶音山（325.2m）が迫り、北上川に向かって優美な裾野をたなびかせている。北上川は遺跡付近の孤禪寺狭窄部によってその川幅を急激に絞り込まれており、増水時には遺跡の眼下に広がる沖積平野が一面に冠水して正に湖と化す。昭和22年のカスリン台風、翌23年のアイオン台風では、遺跡付近で北上川に合流する磐井川が河水が逆流して市街地へと流れ込み、大きな被害を出した。現在、当地域の洪水対策として、氾濫原を堤防によって取り囲む「一閑避水池事業」が進められている。



第1図 岩手県全図



第2図 遺跡周辺の地形

(北上山系開発地図 一覧 6-4 (昭和40年7月版))

2. 周辺の地形（第2・3・4図）

北上川は岩手県内陸部の大半をその流域に含み、北上山地と奥羽脊梁山脈の間を縦断して南流し、宮城県北部を経由して石巻で太平洋に注いでいる。

北上川流域に発達した北上盆地の南端部に位置する一関付近では、北上川はやや大きく蛇行しながら南東に向を変え、その両岸には幅約3.5kmにも及ぶ広大な沖積平野が形成されている。北上川はさらに本遺跡の付近で急激な角度をもって流路を東へと転じ、中流域と下流域の境界とされる孤擣寺狭窄部（孤擣寺峡谷）へと至る。孤擣寺狭窄部は北上盆地の唯一の排水路であり、上流部から大量の出水があった場合、河水を蓄留・逆流させ、しばしば一関地域に水害をもたらす元凶となってきた。

北上山地西縁部の丘陵は、奥羽脊梁山脈から連続する磐井丘陵と孤擣寺狭窄部で接している。磐井丘陵は北上川の西岸に広く発達しており、これを南北に分断している磐井川の流域には河岸段丘が形成されている。磐井川は孤擣寺狭窄部手前の北上川屈曲部でこれと合流している。北上川西岸における一関市域の大半は、磐井丘陵と磐井川の流域によって占められている。

本遺跡が立地するのは北上川に向かってせり出す北上山地西縁の山麓の緩斜面で、幅の広い沖積平野が急激に収束し、北上川が孤擣寺狭窄部へと突入する入口に臨む位置にあたる。遺跡付近の丘陵は東船山塊・石藏山塊から連続するもので、背後には観音山（325.2m）・中貝山（293m）・烏兔ヶ森（350.9m）などがある。丘陵の縁部は北上川に向かう谷によって刻まれ、いくつもの尾根が並列する。丘陵縁部は遺跡付近までは南北方向に連続するが、北上川の屈曲に沿うように孤擣寺狭窄部の直前で東西方向へと向きを変えており、遺跡が立地する高台はこの屈曲部に位置する。南方向および西方向に下る谷にはさまれることで、広く緩やかな頂部をもつ土饅頭様の形状を呈しており、沖積平野に向かって岬状にやや突出している。

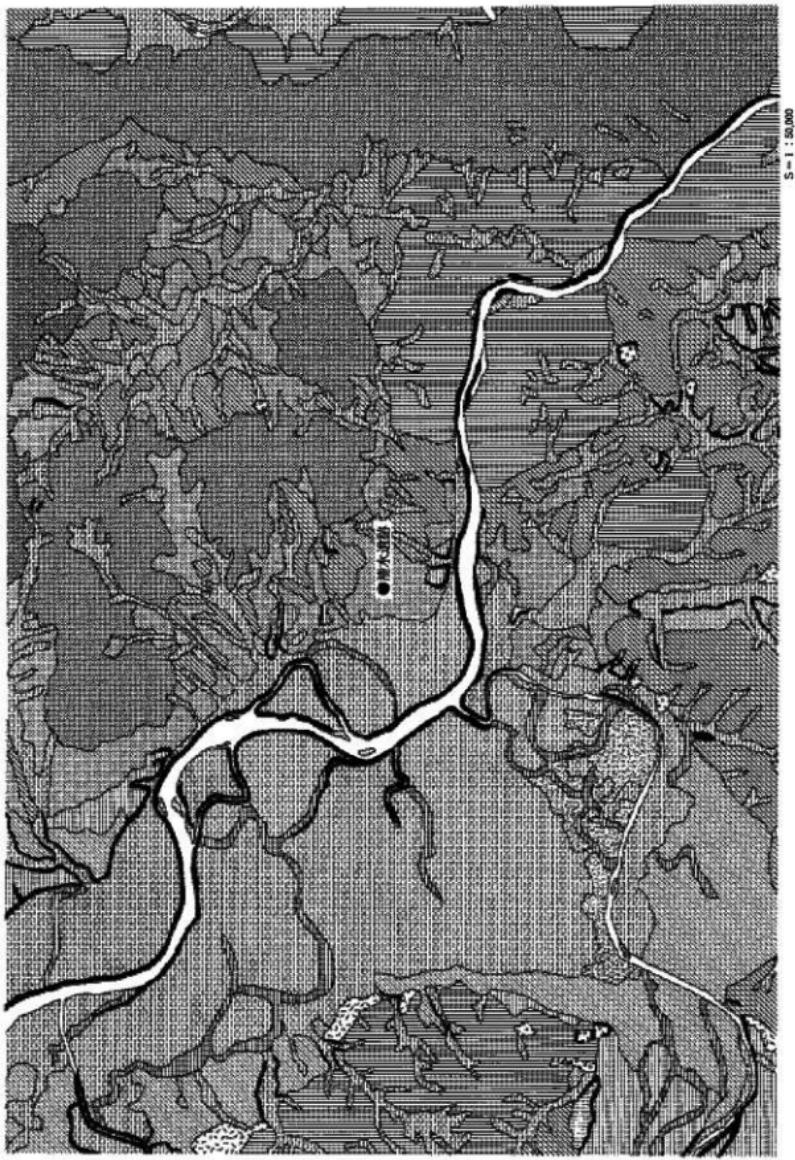
3. 基本層序（第4図）

野外調査では、遺跡内に堆積する土層の新旧関係及び各層の時期を把握するようつとめた。第4図は、清水遺跡の基本層序模式図である。大きくⅠ～Ⅷ層に分けることができる。なお、以下の記載に用いる地点名称は次章（Ⅲ章1. (2)区割）を参照されたい。

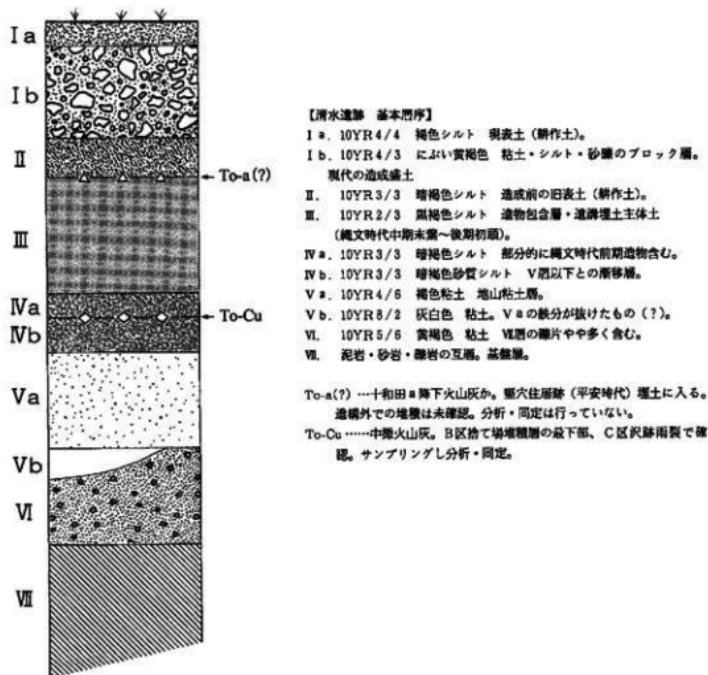
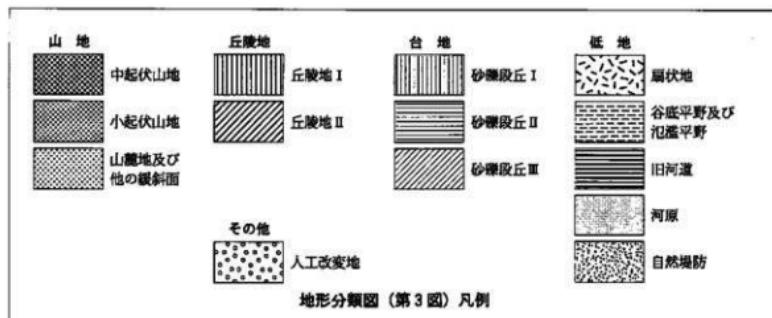
調査区は風化浸食によって丘陵状の地形を呈しており、基盤を構成するのは更新統の泥岩・砂岩・礫岩の互層〔Ⅶ層〕である。基盤層の上には前沢火山灰以上に相当する火山灰〔V a層〕が堆積している。V a層の堆積が顕著なのは調査区外にあたる北・南尾根が接する付近で、高位ほど厚く、斜面下方に向かうにつれ徐々に層厚を減じている。また、C区沢跡に面するC 3・C 4区の境界付近では本火山灰層の最下部が地下水の作用によって鉄分を奪われ灰白色を呈する〔V b層〕。この付近の造構底面はV b～Ⅶ層に達するものも多く、人為的に埋め戻された造構の埋土にはV a・V b層のブロック、Ⅶ層の礫片が混在する。火山灰層の上位には漸移層〔IV b層〕をはさんで暗褐色土層〔IV a層〕が堆積する。さらにこれらの上に堆積するのが本遺跡の主体である繩文時代中期末葉～後期前葉の遺物を包含層する黒色土層〔III層〕である。

さて、調査区は両端に向かってそれぞれ北北西・南南東に傾斜しており、上述のように斜面下側ほど火山灰層は薄くなるため、基盤の角礫を含んだ火山灰層〔VI層〕、あるいは基盤層そのものが黒色土層の直下にみられるようになる。この状況が観察されるのはA 1～A 3区およびD 2区で、黒色土層〔III層〕には基盤層に含まれる小礫が多く含まれるようになる。特にD 2区では基盤層が全面に露出しており、Ⅲ層相当層は砂礫を多く含み褐色がかった土となっている。

また、調査区内は隨所において後世の耕作・整地・造成の痕跡が認められ、旧地形が改変されるとともに、



第3図 地形分類図



第4図 基本層序模式図

本来遺跡内に堆積していた土層が失われているらしいことがわかる。例えば、遺構が集中するC3・C4区では、現表土層の下面に直接地山粘土層や基盤砂礫層が接しているが、当区域の遺構埋土に黒色土が堆積していることは、遺構が埋没過程にあった段階にはⅢ層相当の黒色土層が表土層として存在していたことを示している。一方、南尾根上の緩斜面であるD2区遺構分布域では遺構の埋土に堆積するのが上述した褐色味を帯びた砂質土であることから、当時から他の区域と比して黒色土が生成・堆積しにくい環境にあったことが推測される。

4. 周辺の遺跡（第5図）

「岩手県埋蔵文化財包蔵地一覧」（岩手県教育委員会文化課、1999）に登録される一関市管内の遺跡は171カ所を数える。これらには旧石器時代から中・近世まで幅広い時代の各種遺跡が含まれる。第5図は報告対象である清水遺跡周辺の遺跡分布状況である。図中の●は縄文時代および弥生時代の遺跡、□は古代以降の遺跡を示す。図幅中における遺跡の分布状況を概観すると、まず、北上川東岸では沖積平野に臨む北上山地西縁の段丘および丘陵上に縄文時代遺跡のまとまった分布が認められ、本遺跡もこの遺跡群に含まれる。一方、北上川西岸では磐井川流域の河岸段丘上および丘陵縁部に遺跡が分布する傾向がみてとれる。

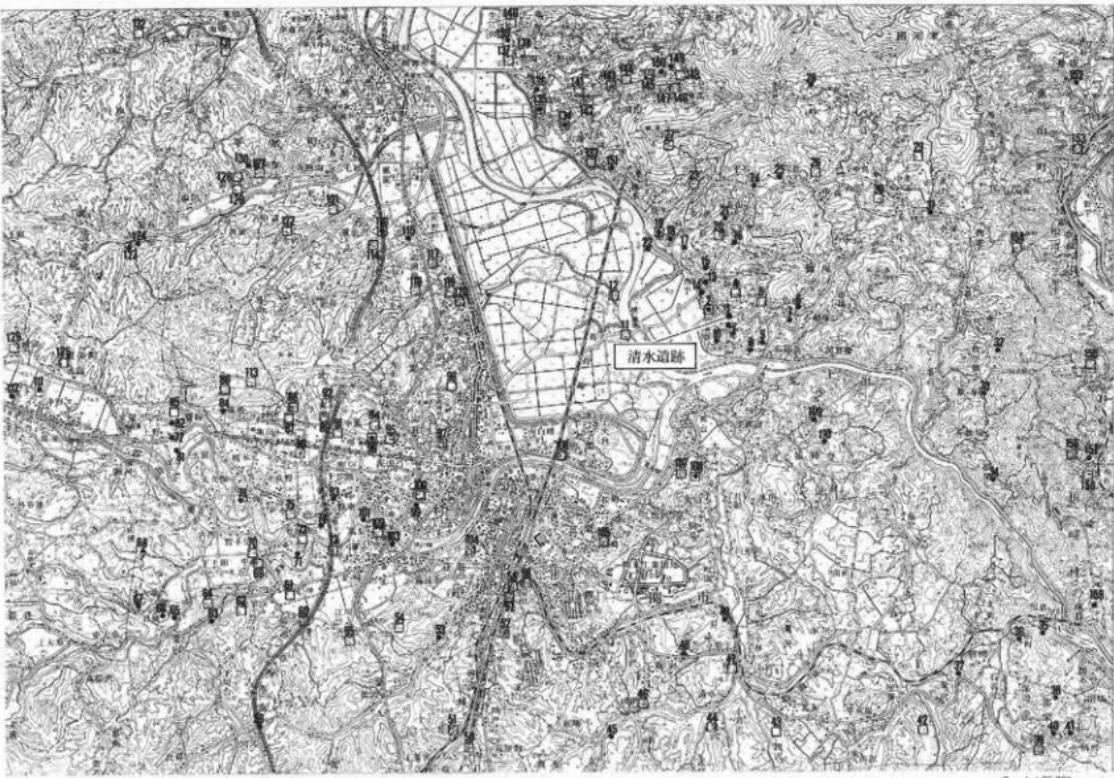
一関市内の遺跡の発掘調査はこれまであまり多くなく各遺跡の詳細については不明であるが、近年、北上川左岸の舞川地区に所在するいくつかの遺跡が岩手県埋蔵文化財センターによって調査されている。平成9年度に調査された細田遺跡【18】（舞川字細田）では、「捨て場」から縄文時代晩期末葉～弥生時代初頭の土器をはじめ比較的多量な該期の遺物が出土した。また、平成11年度に調査された羽場城遺跡【20】（舞川字水無沢）では縄文時代前期前葉の土器を中心に、縄文時代晩期末葉～弥生時代初頭の土器が出土している。同じく平成11年度に調査された堀切遺跡【17】（舞川字堀切）では、平安時代の窓穴住居跡と土器類・須恵器等の遺物に混ざって縄文時代前期初頭および晩期（？）の土器片が出土している。今回調査した清水遺跡では、標高約70～80mの緩斜面に縄文時代中期末～後期前葉の居住域が検出され、さらに標高80m以上の尾根頂部で縄文時代前期初頭の遺物が表面採集されていることも考え合わせると、付近の丘陵地帯では、おむね、尾根頂部の高位面に縄文時代前期遺跡、沖積地へ向かって下る緩斜面上に中期～後期、沖積地に面する丘陵緩斜面縁部に縄文時代晩期～弥生時代遺跡および古代の遺跡が立地するという傾向を読みとることができそうである。

さて、近隣町村に視野を広げると、近年、発掘調査の増加と共に縄文時代遺跡の調査事例が増えつつある。大東町中の台遺跡、花泉町下館銅屋遺跡、藤沢町上野平遺跡などはいずれも縄文時代中期～後期の集落跡であり、清水遺跡の調査成果についても、これら周辺地域の遺跡群との比較検討が課題となろう。

【II章 参考文献】

- 岩手県農政部 1978 「北上山系開発地域 土地分類基本調査 一関」
一関市史編纂委員会 1978 「一関市史」1 過史
八色一雄・小野寺啓 1992 「一関市の歴史」上 岩手県市町村地域史シリーズ11
岩手県教育委員会 1999 「岩手県遺跡台帳」
岩手県埋文センター 1999 「細田遺跡発掘調査報告書」岩埋文報283集
岩手県埋文センター 2000 「上野平遺跡発掘調査報告書」岩埋文報333集
岩手県埋文センター 2000 「岩手県埋蔵文化財発掘調査情報（平成11年度分）」岩埋文報340集
岩手県埋文センター 2001 「堀切遺跡発掘調査報告書」岩埋文報364集
* 岩手県埋文センター＝(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター ** 岩手県埋文報＝岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書

第5図 周辺の道路網



III. 野外調査と室内整理

1. 野外調査

(1) 調査区

調査区は北北西—南南東に約375m、最大幅約65mの広がりをもつ細長い形状を呈する。当初、調査予定面積として示された16,000m²を対象としたが、遺構の分布が予定区域の南南東側にさらに広がる可能性も指摘されていたため、この部分については本調査開始後にトレーニングを設定し、遺構分布範囲の確認を行うこととなった。結果、着手した総面積は当初予定面積より2,935m²増加し、2カ年合計18,935m²となった。

(2) 区割

①グリッド設定と基準点(第6図)

調査によって検出される各種遺構・遺物の詳細な座標値を記録するため、調査区全体を覆う碁盤目状のグリッドを設定した。上述のように調査区は北北西—南南東に細長く、平面直角座標軸第X系と調査区の長軸方向にはズレが生じる。よって、調査区の形状と地形に沿ったグリッドを設定することとした。

まず、任意の2点【点α・点β】を設け、調査区の中心を縦断するようにこの2点を通る基軸線を設定した。

$$\text{点}\alpha : X = -115,950 \cdot Y = +29,900 \quad \text{点}\beta : X = -116,250 \cdot Y = +30,100$$

上の2点のうち点αを基点とし、基軸線に直交・平行するようにして、調査区全面を網羅する100×100mの大グリッドを設定し、さらに大グリッドの一辺を20等分して小グリッド(5×5m)とした。

大グリッドは東北東側から西南西に向かってローマ数字I～II、北北西側から南南東に向かって英大文字A～Eとして「IA」または「IB」のように表し、さらに小グリッドも同様に東北東側から順に算用数字1～20、北北西側から順に英小文字a～tとして「1a」または「2b」のように表した。特定の小グリッドを指示するには、これらを組み合わせて「IA 1a」のように表記した。現地では各グリッドの四隅のうち北隅に位置する杭にその名称を表記して用いた。同様に、本書中の平面図において杭の点に併記したグリッド名は、その杭が北隅に当たる小グリッドの名称を示している。よって、基点である点αはIB 1aグリッド杭に相当する。

表2 基準杭・区画割付杭一覧

| | X | Y | H | グリッド杭 |
|-----|-------------|-----------|--------|------------|
| 基1 | -116019.338 | 29976.272 | 74.140 | I C1a |
| 基2 | -116033.206 | 29955.471 | 73.196 | II C1a |
| 基3 | -115991.603 | 29927.735 | 68.619 | II B1k |
| 基4 | -115950.000 | 29900.000 | 58.146 | II B1a(点α) |
| 基5 | -116116.410 | 30010.940 | 75.776 | II D1a |
| 基6 | -116074.908 | 29983.205 | 74.025 | II C1k |
| 補1 | -116049.847 | 29966.565 | 73.861 | II C1e |
| 補2 | -116020.725 | 29947.150 | 73.140 | II B1r |
| 補3 | -115966.641 | 29911.094 | 62.116 | II B1e |
| 補4 | -116041.527 | 29942.990 | 71.698 | II C4a |
| 補5 | -115999.923 | 29915.254 | 68.388 | II B4k |
| 補6 | -116006.857 | 29967.951 | 73.849 | I B1r |
| 補7 | -115980.509 | 29944.376 | 68.553 | I B1k |
| 補8 | -115941.679 | 29912.481 | 58.334 | I B18a |
| 補9 | -116158.013 | 30038.675 | 73.753 | II D1k |
| 補10 | -116137.211 | 30024.808 | 76.412 | II D1f |
| 補11 | -116095.609 | 29997.073 | 74.382 | II C1p |
| 補12 | -116166.333 | 30026.194 | 69.389 | II D4k |
| 補13 | -116124.731 | 29998.459 | 71.711 | II D4a |
| 補14 | -116083.128 | 29970.724 | 71.837 | II C4k |
| 補15 | -116149.693 | 30051.156 | 76.464 | I D18k |
| 補16 | -116108.089 | 30028.421 | 78.414 | I D18a |
| 補17 | -116066.488 | 29995.686 | 75.962 | I C18k |
| 補18 | -116099.769 | 30035.902 | 80.588 | I D15a |
| 補19 | -116078.968 | 30022.034 | 79.928 | I C15p |
| 補20 | -116058.167 | 30008.167 | 78.547 | I C15k |

上記のグリッド設定を実際に調査区に割り付けるため、現地には基準杭とこれを補う区画割付杭を打設した。基準点測量業務は総合土木コンサルタントに委託した。各杭の第X系座標値・標高値、及び対応するグリッド杭名は表2の通りである。

②地形的区割（第7図）

調査区および周辺の地形は中央部の沢跡（C区沢跡）を境として南北2つの尾根に区分され、それぞれ尾根上の緩斜面部と縁部の急斜面部からなる。各遺構はいずれかの尾根に属しており、その分布状況から地形の特質に即した選択的な土地利用が行われているものと理解された。そこで、遺構・遺物の地形上の位置を示す場合に用いる大区割として、北側の尾根を「北尾根」、南側を「南尾根」とした。IV章では、尾根ごとに遺構群を分割して記載している。

③便宜的区割（第7図）

グリッドのほかに現在の地境に従った便宜的な区割も用いた。調査は北北西端から南南東に向かって順次進めており、着手順にA～D区までを設定した。各区はA1区・A2区のようにさらに細分される。

この区名は主にトレンチ名・遺構名に複合させ、それが属する区を示している（例えばA3区T3、B区捨て場、C区沢跡、住居跡D1J1など。遺構名の表記については後述）。なお、A～C区は上述の「北尾根」、D区は「南尾根」に含まれる。

④B区捨て場の区割（第57図）

B区捨て場は北尾根北部斜面の沢跡（B区沢跡）に形成されており、土層の堆積方向とグリッドの軸方向にずれが生じている。このため、堆積状況の把握に有利な方向に合わせてトレンチを設定し、さらにこれを分割した独自の区割を設けた。B区捨て場における遺物出土地点の表記はこの区割に従っている。これについては「V章1. 捨て場の調査」で詳述する。

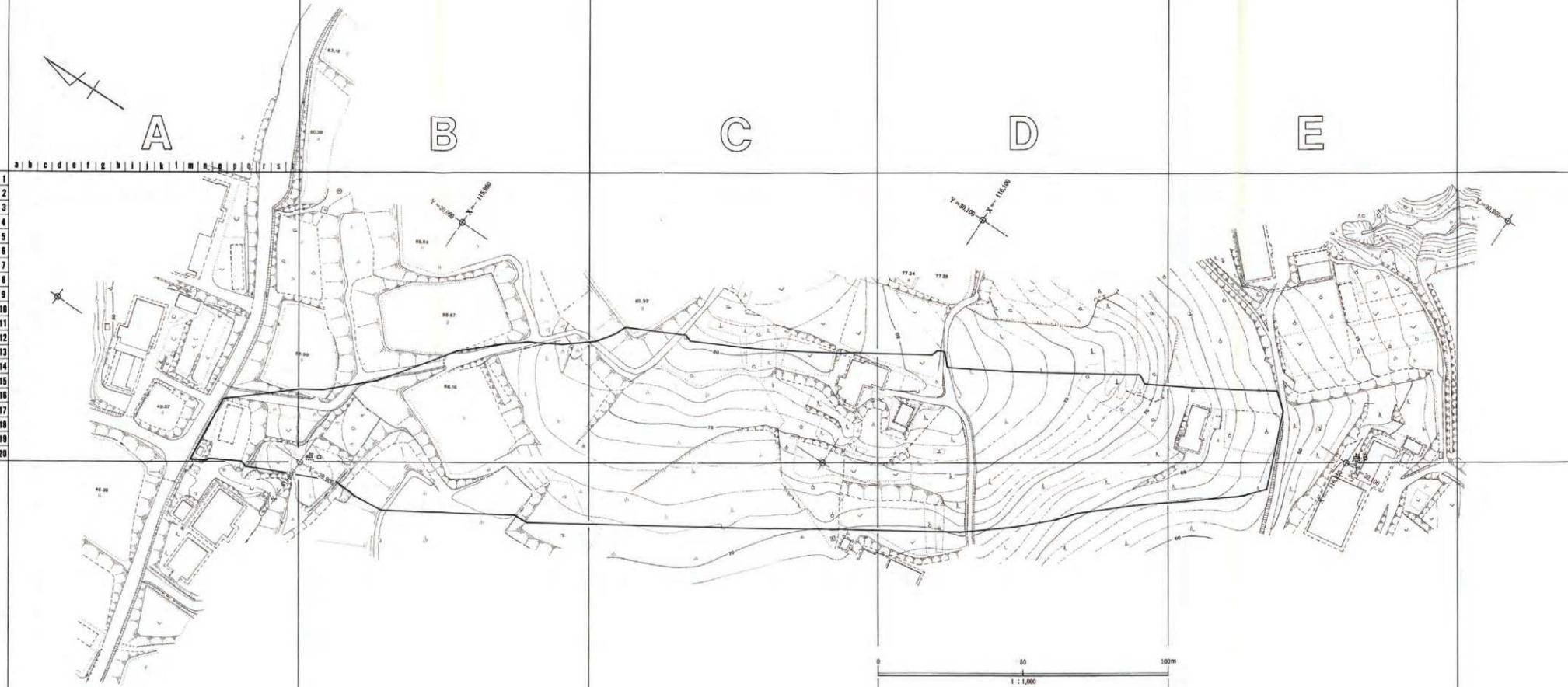
（3）試掘・表土除去

調査では、まず対象区域に任意に試掘トレンチを設定し、人力掘削によって土層の堆積状況と遺構の存否を把握した。試掘により遺構・遺物が存在しないことを確認した範囲はこれをもって調査終了とし、一方、遺物包含層および遺構が確認された場合は、その上面を面的に広げるよう土層除去を行った。この際、バックホー・キャリアダンプ等の重機を積極的に用いたが、検出面までの土層が薄い場合や遺物が集中的に出土する場合、植林による木根が密な場合など、重機の使用が適さないと判断された区域は人力による掘削を行った。

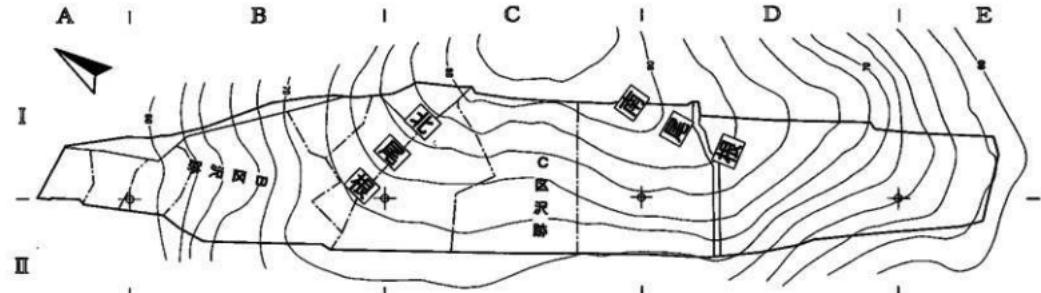
（4）遺構の検出と精査

表土除去の後、鋤簾（じょれん）・両刃草刈り・移植ベラを用いて遺構検出を行い、必要に応じてスプレー塗料による白線で遺構プランにマーキングを施した。

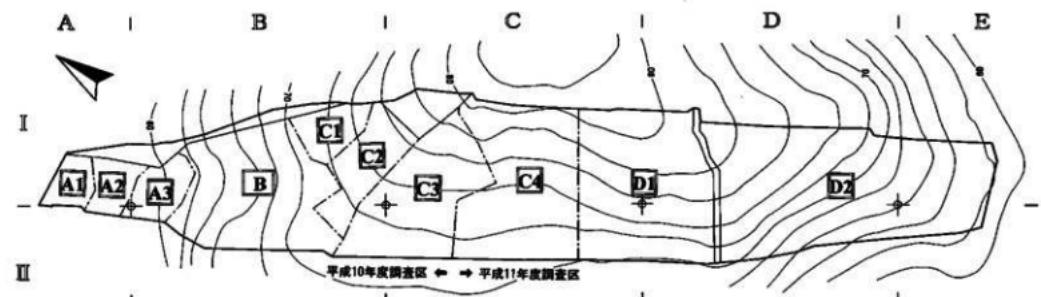
精査では遺構の規模に応じて2分法・4分法を使い分け、土層断面を観察しながら埋土を除去した。検出時に遺構の重複が認められた場合、なるべく平面観察で新旧関係を把握するように努め、原則として新期のものから順に埋土の掘削を行った。この場合、両者を縦断する断面を設定し土層の堆積状況からも併せて新旧関係を検討した。また、平面プランの確定や埋土の解釈が困難な場合には、積極的にサブトレンチを活用してこれらの確認に努めた。これにより完掘段階には平面プランの一部がサブトレンチで壊された状態になつたものも多い。出土した遺物は、遺構名やグリッド名、出土層位を記録して取上げ、必要に応じて実測・撮影を行った。



第6図 調査区とグリッド配置



地形的区割



便宜的（地理）区割

0 1:2,000 50m

ところで、平成10年度の調査ではB区の大規模な捨て場の精査に多くの時間を要したため、C3区で検出された柱穴群の調査に十分な時間をとれない事態となつた。この時点では、A～C3区の範囲は調査終了直後から道路工事の掘削が開始される計画となつてゐる。掘削対象区域の調査終了が急がれる中、終了予定期日間に検出された大形円形建物跡に伴う柱穴が検出されたが、検出面で埋土性状を記録した後スコップを用いて一度に掘り上げるという方法をとらざるを得なかつた。このため柱穴間の新旧関係・堆積状況・柱痕跡の状況など、本来記録されるべき情報を失う結果となつたのである。平成11年度にはこの反省にもとづき、柱穴の可能性をもつ円形プランの遺構が検出された場合はまず検出面で柱痕跡の有無を確認し、これが認められないときはプラン内全体を2～5cm程度掘り下げて再度平面での確認を行つた。その後、柱痕跡の中心を通る断面を設定して半裁し、埋土の断面を記録した。ただし、平面・断面でも柱痕跡が認められず埋土の様相も単純な場合は、埋土の性状を記録した後、断面記録を省略して完掘したものも多い。

(5) 遺構名

①野外調査での仮名称

遺構には検出時に随時、固有の仮名称を与えた。上述の便宜的区割の各区ごとに1から順に命名している。

検出段階で整穴住居跡の可能性があると判断したものは、区名→所属時代(縦文=J・平安=H)→番号(数字)の順で「C3区J1住」のように表した。

住居跡以外で円～稍円形プランをもつ遺構には遺構種別に関係なく全て「p」の略号を用い、区名と組み合わせて「C3区p1」のように表した。これは、直径1m前後の円形プランを持つ遺構に大形の柱穴が複数含まれることが確認され、検出時点では柱穴以外の土坑類と区別することが困難となつたためである。さらに、検出遺構の増加にともなつて名称付与を複数の人間が併行して行うようになり、遺構種別の認定にばらつきができるおそれが生じたため、柱穴・土坑以外の遺構にも共通して「p」を付した遺構名を検出順に与えることとした。結果的に「p」を付した遺構には柱穴・土坑のほかにも、土器埋設遺構・窓穴状遺構などが含まれることとなつた。また、名称の重複を避けるため分担した各人が区切りのいい番号(001・101など)からそれぞれ付与を行つたため、多くの欠番が生じている。

これらのはかに、形態や想定される性格が特徴的なものにはそれぞれの特徴を示す遺構名を与えた。鍛冶炉状遺構、周溝状遺構などがそれに該当する。

以上の仮名称は、室内整理段階でも作業用名称としてそのまま用いた。

②本書中の掲載名称

本書中では、野外調査および室内整理で用いた仮名称を下記のように変更している。

| 仮 名 称 | 掲 載 名 称 | 例 |
|--------|------------|-----------------------------|
| ▲▲区J△住 | → 住居跡▲▲J△ | D2区J1住 → 住居跡D2J1 |
| | → 住居状▲▲J△ | C3区J2住 → 住居状C3J2 |
| ▲▲区p△ | → 土坑▲▲p△ | C4区p180 → 土坑C4p180 |
| | → 土器埋設▲▲p△ | C4区p219 → 土器埋設C4p219 |
| | → 窓穴状▲▲p△ | C3区p776 → 窓穴状C3p776 |
| | → ▲▲p△ | C4区p112 → C4p112(柱穴・柱穴状ピット) |

主に区名の「区」を省いた点、種別（性格）を冠した点が変更内容となる。区名である▲▲、遺構番号である◇の部分は仮名称からそのまま引き継いでおり、変更前と同様に欠番が存在する。

これらの他に、室内整理段階で建物跡を構成すると思われる柱穴を抽出し、柱穴配置復元案として「建物跡1」から順に掲載している。

（6）実測

遺構や出土状況などの平面実測は、ラジコンヘリコプターを用いた写真測量（㈱シン技術コンサル）と、小グリッドを再細分した1m方眼を基準に実測・作図する簡易造り方測量を行った。検出遺構の主体となる柱穴群の実測には前者を用い、後者はその他の個々の遺構や遺物出土状況の記録のため、必要に応じて行った。いずれも縮尺は1/20を基本とし、必要に応じて1/10図を作成した。このほか平板・光波トランシットを用いて、トレンチ位置図・遺構配置図・現況地形図等の作成を行った。断面図は水平に設定した水糸を基準にして実測・作図した。縮尺は1/20を基本とし、細部表現を要する場合1/10図も作成した。

（7）土層断面の分層と注記

遺構やトレンチなどの土層断面は慎重に観察し堆積状況を把握するよう努めた。分層は堆積過程を表現するのに必要と思われた場合は細部にも配慮したが、薄層が連続的に互層をなす部分や、偶然の結果と思われる混入物の偏りなどは徒らに細分することはせず、有意と思われるまとまりの境界を表現した。

この分層の根拠を示すため、各層の性状を記録した。土層は主体土と混入土（物）によって構成されるものと考え、色調・土性・混入物・粘性・締まりの程度等を記載した。また、解釈可能な場合は、その層の持つ性格を想定し付記した。

遺構埋土や捨て場堆積層の主体土には、認識可能な場合、その層が堆積した段階に表土を形成していたと思われる土（埋没開始時点における最新期の土）をあてた。例えば地山土のブロックが大半を占める遺構の壁の崩落層であっても、当時の表土と思われる黒色土が僅かに含まれている場合は、後者を主体土とし、「地山土が大量に混入している状態」と解釈している。主体土と基本土層の対比によって、その層の堆積時期を推定することが可能だと考えたからである。

土色の表記は新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議事務局）に準じたが、調査員には感じられる層間の印象の違いが、土色名の差として反映されない場合も多くあった。このため、各層の記録には調査員個人の主観による相対的な層全体の印象（明暗や色味の差）も併記することとした。例えば、「○層よりも明るい」・「焼土含み全体に赤味」・「炭化物多く黒味強」・「地山土含み黄味がかる」などの表現がこれにあたる。また混入物の量について「極微」・「やや多」等の表記を行っているが、調査員の主観的基準を土色帖に示されているバーセント表記に置き換えれば、概ね、極微（1～2%）・微（3～5%）・少（5～10%）・やや多（15～20%）・多（30～50%）・大量（50%以上）となろうか。

上述の方法によって、分層・注記は主担当の調査員が一人で行っていたが、遺構数の増加にともない、他の調査員の応援を必要とする局面が生じた。このため、観察した調査員の違いが表記法の差として現れてい る部分が認められる。統一性を欠くものとなったが、本書ではそのまま掲載することとした。

（8）写真撮影

野外調査では6×7cm判カメラ（モノクロ）をメインカメラ、35mm判カメラ2台（モノクロ・カラーリバーサル）を補助カメラとして用い、各種遺構の全景・土層断面・遺物出土状況等を撮影した。撮影に際しては、撮影状況を記したカードをその部屋写し込み、現像後これを元に整理した。なお、一部の遺構ではいずれかのカットを省略した場合がある。また、不手際によって必要なカットを撮影できなかったものも含まれる。

平成11年度の調査終了間際にはセスナ機による空中写真を撮影し、また、ラジコンヘリコプターによる写真測量の際には、測量用写真とは別に各区および調査区全体の俯瞰写真を撮影した。

(9) 啓蒙普及・広報活動

本道跡で行われた普及活動は、第一に小・中学校の授業・行事として児童・生徒・教員を対象にしたもの、第二に地元住民（作業員含む）を中心とする一般を対象としたものに分けられる。

学校が対象の普及活動は、学年・学級単位の道跡見学や発掘体験学習、中学生の職場体験学習等が主であり、また、「道跡」・「縄文時代」などを文化祭の研究テーマとした学級からの取材もあった。いずれの場合も、目的・方法・安全管理等について教員と調査員との間で事前に打ち合わせを行い、有意義な学習となるよう配慮した。後日届いた子供達からの礼状やレポートからは確かな手応えを得ることができた。

一方、周辺住民の関心も調査開始以来一貫して高いレベルにあったといえる。野外作業員の多くは道跡近隣の方々で、家族・隣人を通じて地域内に調査の話題が広がり、見学に立ち寄る人も次第に増え始めた。そこで、調査区の入り口には見学者を歓迎する旨の看板を設置し、通りがかりの住民にも簡単な説明を行うようにした。以来、地元での関心はさらに高まりを見せ、区長会・舞川地域課題対策協議会をはじめとする住民の方々から、調査成果の周知や事後の活用方法について一問市側に検討を求める声があがるなど、地域ぐるみの自発的な活動が展開されるに至った。さらに平成11年10月には、市内のショッピングセンターを会場に発掘作業員一同と地元舞川地域課題対策協議会主催による清水道跡写真展示会が催された。準備・運営そして解説まで野外作業員が手弁当で行い、規模こそ控えめながら、市民の関心を大いに喚起した。

振り返ってみると、調査者側の発信による「広報」活動よりも、むしろ対象者側からの自発的・積極的な求めに対応したケースが多かったことに気づく。これは、作業員から家族へ、世間話や回覧板で地域全体へ、教員（学校）間の情報交換を経て多くの学校の子供達へと対象者各層のネットワークを通じて道跡の話題が効果的に広がった結果であり、ある意味、理想的な展開だったといえよう。

【主な団体見学・取材対応】

〈平成10年度〉

| | |
|----------|----------------------------------|
| 7月23日 | 舞川小学校6年生（34名）・教員（3名）見学 |
| 8月3日 | 舞川地区区長会（18名）見学 |
| 8月5日 | 一問市小中学校教職員組合研修 |
| | 舞川公民館職員（2名）見学 |
| 8月7日 | 舞川地区陶芸教室（数名）見学 |
| | 舞川7区子供会（10数名）見学 |
| 8月10日 | 岩手日日取材 |
| 9月9日 | 中里小学校6年生（55名）・教員（3名）見学 岩手日日取材 |
| 10月23日 | 西磐井社会科教育研究会（2名）発掘体験 |
| 〈平成11年度〉 | |
| 4月30日 | 岩手日日取材 |
| 7月13日 | 中里小学校児童（数十名） |
| | 岩手日日取材 |
| 8月4日 | 西磐井社会科教育研究会（7名） |
| 8月18日 | 山目中学校1年A組（35名）発掘体験学習 |
| 9月3日 | 桜町中学校生徒（6名） |
| | 赤萩小学校教員（5名） |

| | |
|----------|---|
| 9月6日 | 赤萩小学校6年生（56名）・教員（3名） 発掘体験学習 |
| 9月9日 | 桜町中学校生徒（6名）職場体験学習 岩手日日取材 |
| 9月17日 | 赤萩小学校5・6年生（105名）・教員（6名） 発掘体験学習 |
| 9月30日 | 舞川小学校教員（6名）見学 |
| 10月9～11日 | 清水道跡写真展示会（於：一問サティ） 主催：清水道跡作業員一同・舞川地域課題対策協議会 |
| 10月14日 | 舞川中学校生徒（3名）・教員（1名） 文化祭での研究発表取材 |
| 10月15日 | 舞川中学校生徒（3名）・教員（1名） 山目中学校生徒（3名）・教員（1名） 文化祭での研究発表取材 |
| 10月17日 | 現地公開（約250名） |
| 10月22日 | 舞川小学校2年生（40名）・教員（3名） |
| 10月26日 | 鹿児島埋立課職員（3名） |
| 11月9日 | 岩手日報取材 |

(10) 野外調査の経過

①平成10年度の調査

平成10年4月14日、現地事務所に器材等を搬入し調査開始。4月16～24日、調査区北端部（北尾根の北側斜面下部）のA1・A2区から着手。トレーナーを設定し試掘を行ったが、遺構・遺物は検出されず両区を調査終了とした。4月27～28日、北尾根頂部に向かって南進しA3区・B区及びC1～3区の雑物撤去の後、各区を試掘。A3区のトレーナーからは遺物がまとまって出土し、5月11日までの間、同区の調査を行った。

一方、造成された水田となっていたB区では、厚い盛土の下に遺物包含層（のちに「B区捨て場」となる）が残存することが判明。5月11日より重機を導入し盛土層の除去を開始した。急斜面に造られた水田の盛土は極めて厚く、また大量の廃土処理に手間取るなどして、盛土除去作業に1ヶ月以上を要した。盛土の除去後旧地形が姿を現し、B区は北尾根頂部からA区に向かい調査区中央を縦断して下る小規模な沢に浸食された凹地であることが判明した。B区の南北部は水田造成によって削平されているものの、斜面下方側にあたる北半部には大量の遺物を含む捨て場が良好な状態で残存し、その範囲は約1000m²の広がりをもっていた。

6月18日よりB区捨て場の精査に着手。以降10月末日まで連日、作業員の大半（約30名/日）を投入してB区の調査にあたった。B区の作業量は当初の予想を大きく超え、その後の調査計画を圧迫することとなった。

当年度に調査終了を予定していたのはA区～C3区までの範囲であり、B区の作業と併行しながら少人数でC区の調査にも着手した。6月22～24日、C1・C2区の試掘・表土除去・遺構検出を行い、C1区は遺構・遺物なく終了。C2区では柱穴群が検出され7月14日まで断続的に精査を行い終了した。また8月20日から着手したC3区では多数の柱穴が西縁部に集中して検出され、これらの精査は調査終了直前の11月13日まで続いた。11月9日、委託者（一関地方振興局土木部）立ち会いのもと県教委文化課による終了確認。11月16日、C3区遺構群の写真測量を行い、同17日、平成10年度分野外調査を終了し現地より撤収した。

②平成11年度の調査

4月15日、器材搬入・現場設営を行い調査開始。4月16日より雑物撤去を行い、20日からC4・D1・D2区の試掘を行った。南尾根斜面部南端（D2区南端部）では試掘の結果、遺構・遺物が検出されず、これで遺跡範囲の南限と判断した。この区域を廃土置き場とし、重機を用いて調査区全域の表土除去を行った。

4月末よりD2区の遺構検出に着手。当区では地山層と遺構埋土の識別が困難なため、検出作業は5月後半までの期間を要した。その後、北進してD1区、次いでC4区の遺構検出を行い、6月中旬より検出作業と併行して遺構の精査に着手。7月に入り各区の遺構精査が作業の主体となった。検出遺構の大半は柱穴状ピットであり、調査区の端から順次グリッド単位で精査・記録を進めた。

10月17日、一般市民を対象に現地を公開、約250名が来訪。10月19日、セスナ機による空中写真撮影。10月20日には委託者立ち会いのもと県教委文化課による終了確認を受ける。11月11日、当年度調査区全域の写真測量を行い、併せて俯瞰写真を撮影。11月12日、平成11年度分野外調査を終了し現地より撤収した。

③天候不順の影響

調査日数のうち雨天により作業不能となった日数は平成10年度28%、11年度は19%である。平成10年5～9月の月間雨天率は継続して30%以上、中でも8月は44%となり26～31日の長雨では北上川が氾濫、眼下の沖積平野が一面に冠水した。斜面地が大半を占める本遺跡にとって、この悪天候は単に実働日数を目減りさせるだけでなく、雨水の排水や天候回復後に増加する潤水の処理、流出土砂で再埋没した遺構の復旧など、調査再開のために必然的に伴う事後作業が本来の計画を圧迫し、調査の進行に著しい障害となった。

2. 室内整理

今回の調査では極めて多量の遺物が出土しており、調査員の力量の限度からも、本報告書において調査成果の全てを網羅することは困難であると思われた。そこで整理作業に際しては、何に重点を置いた報告書にするかの方針をさだめ、これに近づけることを目標とした。結果としてこの目標さえ十分に達成できていないが、本遺跡の整理作業方針及び本報告書における遺構・遺物の掲載方法を以下に記す。

(1) 本書の構成

本書は第1～3分冊で構成される。第1分冊本文・遺構編（本冊）には本文のほか遺構実測図版及び遺構内出土土器図版、遺物一覧表、各種分析鑑定報告書等をまとめ、また巻頭にカラー写真図版、巻末には付図を掲載した。第2分冊遺物図版編（別冊）はB区捨て場出土土器・遺構外出土土器・石器・土製品・石製品の実測図を収録した。第3分冊写真図版編（別冊）は野外調査の記録写真、及び遺物写真を掲載した。

なお、本書中に用いた遺構の名称及び遺物掲載番号は全冊に共通している。

(2) 遺構の掲載方法

①尾根別掲載

検出した遺構は北尾根・南尾根の2つの尾根上に分布しており、両者を比較すると遺構の種類や分布状況には相違点が認められる。また、両尾根が接する今次調査区東隅区域をはじめ、検出された遺構群が連続して分布することが推測される周辺区域の様相が不明である現段階においては、遺跡全体の構造は未だ不明といわざるを得ず、両者を区別して記載するのが適当と判断した。そこで本書では両尾根の遺構群を連続した一連の集落としては扱わないこととし、それぞれの尾根上の空間における空間利用状況の把握を目的として、北尾根遺構群〔IV章2. 北尾根〕と南尾根遺構群〔IV章3. 南尾根〕に節を分け、遺構については各節で種別ごとに掲載することとした。

②遺構名

前述のとおり、作業用遺構名を若干変更を加え、掲載用の新たな名称を付した。これについては「Ⅲ章1. (5) 遺構名」を参照されたい。

③遺構図版

遺構図版にはそれぞれ縮尺率を示すスケールと方位を付した。遺構図版内の表現は第8回の通りである。

(3) 遺物の選別と掲載方法

①土器

今回の調査で出土した土器は、接合前の破片状態で約580箱／40袋に及ぶ。大半はB区捨て場から出土したもので、縄文時代中期末葉から後期初頭を中心とする多量の土器が層位的に良好な状態で得られている。該期の土器についてはこれまで発見に議論されてきてはいるものの、詳細について未だ共通認識が形成されるには至っていないといえる。よって、まとまった資料が得られた本遺跡の報告書では、第三者による再検討が可能となるよう、層位的資料をできるだけ多く、かつ報告者による恣意的な取捨選択を極力介在させない形で掲載する義務があると考えた。このため出土層位・地点等の調査記録が不鮮明になったものや、室内作業の不手際で帰属層位が不確実になった場合などは、躊躇することなく非層別資料へと降格した。また逆に、帰属時期が明らかかな一括遺物群のなかに異時期の個体が含まれている場合であっても、あえてこれを除外するという操作は行わないこととした。

土器の接合復元作業は平成10年度末から11年度末までの約1年間を要した。平成11年度の室内整理は野外調査と併行して行われ、調査員不在の、接合復元作業は作業員のみで進められた。復元個体を除いた土器破

片群から地文以外の装飾（沈線・隆蒂ほか）をもつ破片資料を作業員が選抜し、調査員は後日これらの中から実測・掲載用の資料を再選抜して登録した。ただし、調査員が再選抜を行ったのは「遺構内出土土器」、「B区捨て場層別資料」および「A・C区遺構外出土土器」のみである。時間的な制約から、B区捨て場出土土器のうち層別資料以外の破片資料は觀察検討を経ることなく不掲載とせざるを得なかった。

②石 器

いわゆる定形石器は全点を登録した。このうち石礫や敲磨器類など個体数が多いものは、登録・分類の後、一部の実測・撮影を行ってこれに代表させ、残りは表掲載とした。時間的制約から二次加工・微細剥離を有する剥片の登録および掲載は断念した。このほかに石核・剥片石器の素材となる礫・礫石器の素材となる礫（使用痕が不明瞭だが用いられた可能性をもつもの）も遺物として登録したが、石核の一部除き実測・撮影を行っていない。

③土製品・石製品

全点実測掲載を目標としたが、個体数が多い円盤状土製品などは一部を実測・撮影して代表させ、残りは表掲載のみとした。

（4）遺物の取上区分と掲載番号

①取上区分

調査では各遺物の出土層位を記録しているが、遺構内遺物として取り上げたもの・細分層位ごとに取り上げたもの・基本層序の各層名で一括（非細分）して取り上げたものなど、取上方法の異なるものが混在する。

この出土層位記録方法の違いを表すのが「取上区分記号」である。出土区名の英大文字と、取上方法の別を示す英大文字の組み合わせで表記している（下表参照）。

層位的事実の記録という観点に立てば、資料価値の程度は「K>M>F>A」の順となろう。

【取上区分記号対応表】

| 取上方法 | 取上方法を示す記号 | 取上区分記号 | | | |
|--------------------------------------|-----------|--------|----|----|----|
| | | A区 | B区 | C区 | D区 |
| 遺構内出土遺物として取り上げたもの | K | - | - | CK | DK |
| B区捨て場の直層別分層で取り上げたもの | M | - | BM | - | - |
| B区捨て場の帯状焼土遺構を鍵層として取り上げたもの | F | - | BF | - | - |
| B区捨て場の直層一括（非細分）または他区の遺構外出土として取り上げたもの | A | AA | BA | CA | DA |

（出土区名+取上方法）

遺構内の出土を示す「K」に該当する遺物は遺構が検出されたC区・D区のもの【CK・DK】、また細分層別取り上げを示す「M」及び「F」に該当するのはB区捨て場出土遺物の一部である【BM・BF】。

取上区分記号は各器種別の一覧表中「取上区分」欄に記した。ただし、B区捨て場出土土器【層別資料】は、下記のとおり、表中当該欄の表記が他と異なることに留意されたい。

②B区捨て場出土土器【層別資料】の取上区分

捨て場における層位的資料をできるだけ多く掲載するため、B区捨て場出土土器【層別資料】【BM】には、帰属層位が明らかな土器（純粹なBM）に加え、同一個体に復元可能な土器片群のうち一部のみが「B M」であるもの（BMよりもBF・BAの破片が多いもの）も含めている。言うまでもなく資料としての信頼度は後者が劣る。この違いを明示するため、表中「取上区分」欄では前者を「M」、後者を「S」と表記した。

B区捨て場の層位関連事項及び遺物取上方法については「V章1. 捨て場の調査」で詳述する。

③掲載番号

〈土器〉土器は上掲の「取上区分」別にまとめて掲載しており、掲載番号は上掲の取上区分記号を冠して、CK-1～(C区造構内出土土器)・BM-1～(B区捨て場出土土器〔層別資料〕)・AA-1～(A区造構外出土土器)のように表した。したがって、掲載番号から出土区・取上区分が分かるようになっている。

ただし、表掲載のみ行ったB区捨て場出土土器〔底部資料〕だけは他と異なり、取上区分と関係なく区名「B」と底部の意「B」を組み合わせてBB-1～のように番号を与えた。

〈土製品・石器・石製品〉土製品は、土製品であることを示す「D」と器種を示す英小文字「a～j」を組み合わせ、Da-1～(土偶)・Dh-1～(耳飾)のように表した。また、石器及び石製品は石製であることを示す「S」と器種「a～p」を組み合わせ、Sa-1～(石錐)・Sb-1～(石錐)のように表している。

〈整理用仮番号について〉整理作業では、器種を示す英字と数字を組み合わせた整理作業用仮番号を遺物に与えて管理した。器種を示す英字部分が掲載番号とは異なっており、両者の対応関係を示したのが下表である。一部の器種は整理終了後に掲載番号をつけ直す余裕がなかったため仮番号のまま収納している。個々の遺物の仮番号と掲載番号の対応関係は各遺物の一覧表に仮番号を表示しているのでこれを参照されたい。

【作業用仮番号・掲載番号 対応表】

| 土 器 | 仮番号 | 掲載番号 |
|---------------------|-----|----------|
| 各区造構内出土土器 | | CK・DK 1～ |
| B区捨て場出土土器 [層別資料] | | BM 1～ |
| B区捨て場出土土器 [施工造構の上下] | | BF 1～ |
| B区捨て場出土土器 [その他] | | BA 1～ |
| B区捨て場出土土器 [底部資料] | | BB 1～ |
| A区造構外出土土器 | | AA 1～ |
| C区造構外出土土器 | | CA 1～ |

| 土 製 品 | 仮番号 | 掲載番号 |
|--------|------|-------|
| 土偶 | A 1～ | Da 1～ |
| 耳飾 | B 1～ | Dh 1～ |
| 環状土製品 | G 1～ | De 1～ |
| 錐形土製品 | H 1～ | Dh 1～ |
| 斧形土製品 | I 1～ | De 1～ |
| 石皿形土製品 | K 1～ | Df 1～ |
| 土錐 | C 1～ | Dg 1～ |
| 円盤状土製品 | D 1～ | Dh 1～ |
| その他 | J 1～ | Di 1～ |
| 燒成粘土壤 | | Di 1～ |

| 石 器・石 製 品 | 仮番号 | 掲載番号 |
|------------|------|-------|
| 石錐 | a 1～ | Sa 1～ |
| 石錐 | b 1～ | Sb 1～ |
| 石錐 | c 1～ | Sc 1～ |
| 石斧 | d 1～ | Sd 1～ |
| 石皿 | e 1～ | Se 1～ |
| 敲磨器類 | f 1～ | Sf 1～ |
| 石錐 | g 1～ | Sg 1～ |
| 有孔石製品 | h 1～ | Sh 1～ |
| 有孔器 | i 1～ | Si 1～ |
| 斧形石製品 | j 1～ | Sj 1～ |
| 椎状石製品 | k 1～ | Sk 1～ |
| 器状石製品 | l 1～ | Sl 1～ |
| 円盤状石製品 | m 1～ | Sm 1～ |
| 石錐・剥片石器素材錐 | n 1～ | Sn 1～ |
| 敲磨器素材錐 | o 1～ | So 1～ |
| 溶岩 | p 1～ | Sp 1～ |

④遺物図版

遺物の実測図は造構内出土土器【CK・DK】を除き、全て第2分冊「遺物図版編」に収録した。第1分冊・第2分冊ともそれぞれ第1図から始まるので、本文中で第1分冊の図版を指す場合はそのまま「第1図」、第2分冊の図版は「第[2]-1図」のように表すこととする。

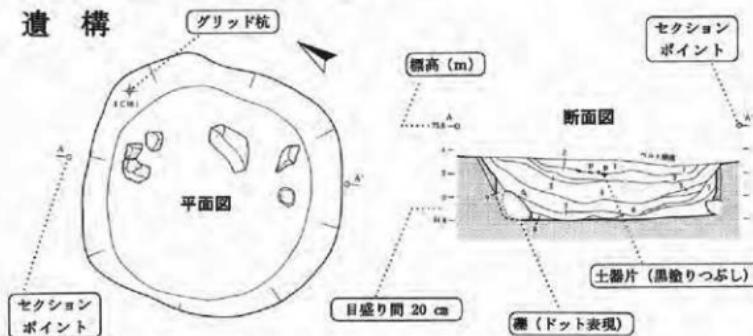
⑤遺物一覧表

遺物の掲載番号・仮番号・出土地点・層位・計測値・その他観察事項等を記載した一覧表を作成し、本冊巻末に掲載した。本来であればあらゆる観察事項を網羅すべきではあるが、実測図から読みとれる属性については、時間的制約から記載を省略したものも多い。また、表中に項目を設けながらも未記入に終わってしまった部分もある。調査員自身の力量不足を恥じ、深くお詫びするものである。

(5) 凡例(第8図)

遺構図版・遺物図版内の表現は下図の通りである。

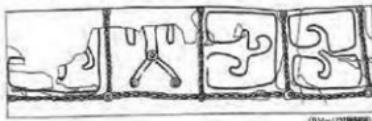
遺構



遺物

土器文様帯展開図

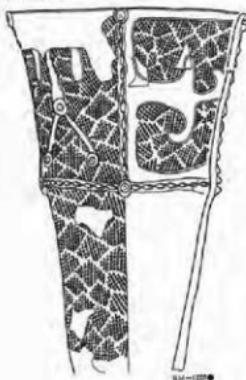
全周する場合 =両端閉じる



全周しない場合 =両端閉じない



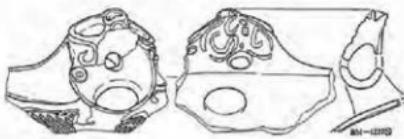
土器実測図



破片資料



オモテ → ウラ → 断面図



第8図 凡例

(6) 室内整理の経過

本遺跡の室内整理作業は、平成10年度の冬期間（11～3月）及び平成11～12年度の全期間にわたって行われた。以下、年度ごとに作業の経過を述べる。

①平成10年度

平成10年度の室内整理作業は11月2日に開始され、担当調査員1名、期限付調査員1名、室内整理員平均12名の体制で3月31日まで行った。当年度の整理作業は、B区捨て場から出土した大量の遺物洗浄作業に終始したと言える。人手による洗浄の前処理として、自家用車の洗車などに使う小形の電動水流噴射機を用いて下洗いを行うなど効率化を図ったが、洗浄作業を終了するには3月15日までの期間を要した。3月16日に漸く土器の接合復元に着手し、B区捨て場の区割に従って順次すすめた。

調査員はこの間、土器以外の遺物（石器、土・石製品等）の選別・登録作業を行い、また図面・写真等野外調査で得た諸記録類の整理を行った。

②平成11年度

4月1日より作業開始。当年度は室内整理員平均15名の体制で、前年度から継続して土器の接合・復元作業を行った。前述の通りこの年度は野外調査も併行して行われ、担当調査員は一関市に長期出張となった。このため、野外調査期間中の4月15日～11月12日の間は基本的に調査員不在となり、整理員のみで作業が進められた。調査員は出張から戻る週末や野外作業を中止した雨天日など、野外調査の合間に綴って室内整理作業の指示・点検・遺物の選別等の作業を行った。整理員は調査員が戻る週末に合わせて毎週に接合作業に区切りをつけ（というより打ち切って）、調査員の確認・選別を経てから再び別の遺物を広げるという流れを繰り返した。土器の接合率は極めて高く、石背入れ等を含めると、接合復元作業には翌年3月末日まで丸1年間を要することとなった。調査員不在の間の作業効率は必然的に低下し、後の作業計画を圧迫、調査員作業の累積をもたらした。

野外調査を終えた後、担当調査員は期限付調査員1名とともに本格的に室内整理作業に着手し、復元個体の登録や破片資料の選別、また11年度調査分の遺構図面収集などを行った。

③平成12年度

当年度は通年の室内整理期間が与えられ、担当調査員1名、室内整理員8名の体制で4月3日から作業を開始した。まず登録が済んでいた土製品・石製品の実測から始め、5月に整理員16名体制となるのを待って土器実測にも着手した。6月後半から10月初旬までの作業は土器実測一色となり、この間約1400個体を図化した。これに続けて土器トレース、破片資料の実測及び採拓、石器実測及びトレース、土製品・石製品トレースを分担して行い、また各種遺物の写真を撮影した。

調査員はこれらの整理員作業と同時進行で各作業の指示・点検を行った。このうち土器実測図の点検・修正指示・観察表作成の仕事量は膨大で、調査員は当年度の大半をこの作業に費やした。一調査員と多数の作業員との間に生じる「点検や修正のいたちごっこ」を断ち切るべく、修正作業に従事する整理員は少人数に絞り、完成した実測図がトレース担当班へ流れるようにした。この方法は実測図の均質化と作業効率の向上に一定の効果をもたらした。2月末に至って遺構・遺物の図版作成を開始し年度末までこの作業を継続。3月30日、原稿執筆及びその他の作業を残して室内整理期間の終了を迎えた。

IV. 検出遺構と出土遺物

1. 概要(第9図)

(1) 成果の概要

今回の調査により、遺跡は縄文時代中期末葉から後期初頭を中心とする集落跡であることが判明した。北尾根の緩斜面上では約1100の柱穴状ビットのほか、住居状遺構3棟、土坑32基、土器埋設遺構2基、陥穴状遺構2基が検出されている。柱穴群は円形・方形・その他の柱配置をもつ建物跡の集合体とみられ、このうちC区沢跡に臨む柱穴群南部に位置する大形円形建物跡「建物跡1」は集落内において特殊な役割を担った中心的建物であったと推測される。この建物を構成する柱穴からは平面形が半月状の柱痕跡が検出され、丸太を半削した柱材が用いられていたことが判明した。このほか北尾根の北部斜面では、遺構分布域側から投棄された多量の遺物と土砂が堆積している捨て場が確認され、約7tに及ぶ多量の土器をはじめ各種の遺物が出土した。捨て場では堆積土の北縁に沿って弧状に形成された帯状焼土遺構も検出されている。

一方、南尾根では3棟の堅穴住居跡が尾根頂部の標高78m線上に弧状に並んで検出され、その下方には約150の柱穴状ビットが分布する。縄文時代の遺構としてはこのほかに土器埋設遺構1基、陥穴状遺構1基がある。その他の時代の遺構としては南尾根南斜面で平安時代の堅穴住居跡が1棟検出されたほか、近世墓坑群1箇所、時期不明の鍛冶炉状遺構1基、周溝状遺構2箇所がみつかっている。

(2) 各区の概況

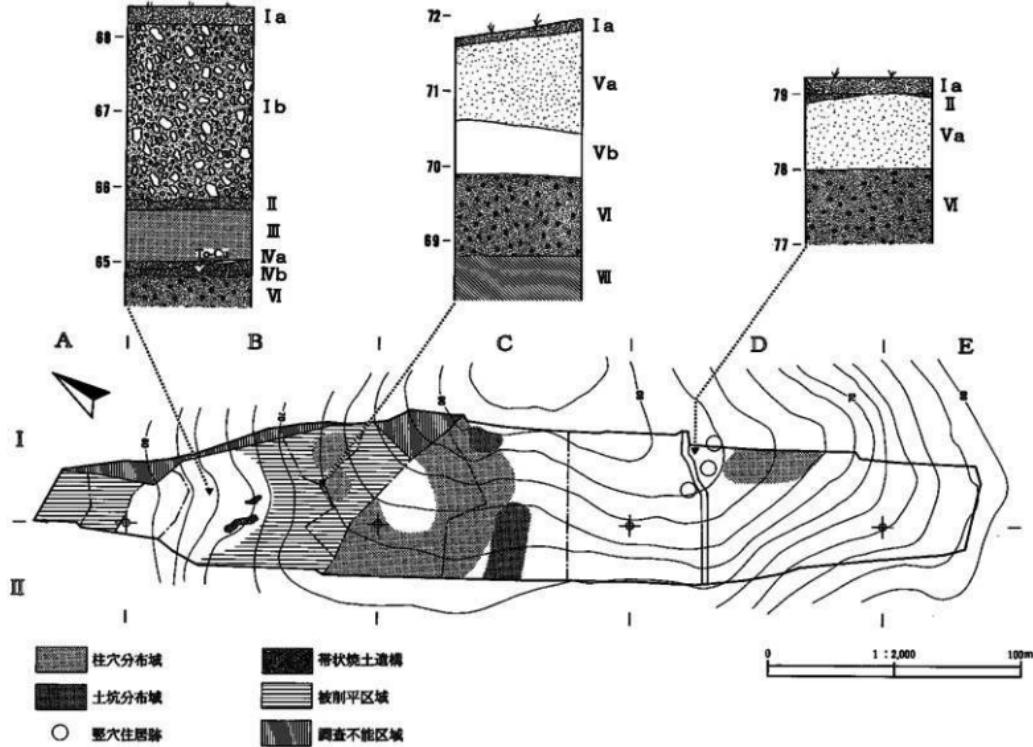
A区：調査区の北北西端（北尾根北側斜面下端部）に位置する。斜面地が3段に造成されており、最低位面から高位面に向かってA1～3区とした。調査前の現況は畠・山林で、A1～2区は全面に地山層以下まで擾乱が及び包含層は残存しない。A3区も同様に擾乱を受けているが遺物包含層であるⅢ層が東半部で部分的に残存し、縄文時代後期初頭～前葉の遺物がやや多量に出土した。A3区東端の井戸は調査時点にも使用されていたため、この周囲の調査は水質保持のため断念した。いずれの区でも遺構は検出されなかった。

B区：本来、北尾根頂部からA区方向に下る斜面を開拓する「B区沢跡」の沢筋にあたる区域だが、水田造成時に南北を削平、北半を盛土され旧地形が失われていた。盛土に覆われた北半（下半）部で捨て場堆積層が残存し多量の遺物が出土した。当区の調査については草を改め「V章1. 捨て場の調査」で詳述する。

C区：北尾根頂部～南側緩斜面に相当する区域でC1～C4区に区分した。C1区は耕作による擾乱で遺構・遺物とも残存しない。C2区は斜面上方側を大きく削平されているが北端部に40基の柱穴群を検出した。C3～C4区は北尾根南側緩斜面部で、約1200の柱穴が分布する本遺跡集落の主体部にあたる。C3区西縁部が最も柱穴の密度が高く、分布は西側調査区外に確実に連続するものと思われる。C4区南縁には南尾根との境界をなす「C区沢跡」があり、沢跡西半（下半）部に縄文時代後期初頭の遺物を包含するⅢ層の堆積が認められる。土坑群は柱穴群と沢跡との間で沢筋に沿うように分布するものと、北尾根最上部のC4区東端付近に分布するものに分けられ、後者には出土遺物から縄文時代前期初頭に帰属する土坑も含まれる。

D区：調査区内の道路を境界にD1・D2区に二分した。D1区は南尾根頂部～西側斜面部、D2区は南東緩斜面と南側斜面にあたる。南尾根頂部平坦面に柱穴状ビット22基が検出され、その平坦面の縁を巡るよう堅穴住居跡3棟が位置する。また、尾根上の幅の狭い緩斜面部であるD2区の東縁部には約110の柱穴が分布する。このほか、南側斜面の中位では平安時代の堅穴住居跡が1棟検出されている。当区は全体に斜面部が多く、遺構分布面の面積は少なかった。

圖 6 地質分佈圖



2. 北尾根

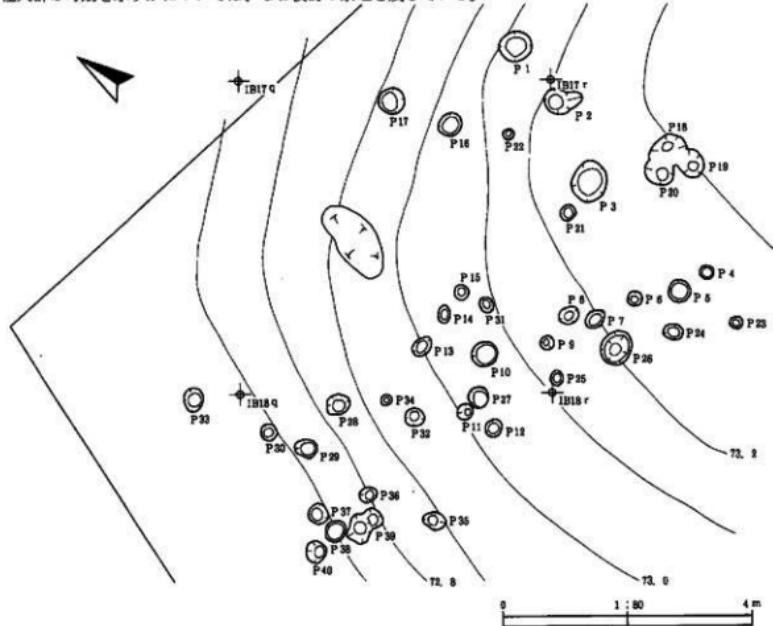
北尾根ではB区捨て場とC区沢跡に挟まれた緩斜面上から柱穴（建物跡）・竪穴住居状遺構・土坑・土器埋設遺構が検出された。今次調査区内において遺構の分布が最も密な区域であり、集落中心部に相当するものと思われる。以下には検出された遺構について種別毎に記載する。

（1）柱穴群と建物跡

① C 2 区柱穴群（表3・第10図・写真図版32）

C 2 区は斜面上方側を大きく削平され旧地形が失われているが、計40基の柱穴が検出されている。本来、建物跡を構成するものと思われるが、十分な検討を行う余裕がなく検出状況をそのまま掲載した。全体の配置は I B18 q～I B17 r グリッドにかけて東西方向に列状に展開する傾向が認められる。埋土は多くが暗褐色シルト～粘土質シルトを主体土とする。

総じて遺物は乏しいが、C 2 p 10・16・17・21・28から縄文時代中期末葉～初頭に相当すると思われる摩滅した土器片が出土している（CK-104～107：文様わかるもののみ・第42図・写真図版53）。また、B区と接するC 2 区北西縁のI B18 p グリッド付近では僅かに自然堆積のⅢ層が残存しており、土器片のまとまった出土が見られた。「C 2 区土器集中部」として文様の判別できる資料に限り掲載しているが、柱穴内出土土器と同様の時期のものと思われる（CK-108～114・第42図・写真図版54）。これらの出土土器がそのまま柱穴群の時期を示すかについては、なお検討の余地を残している。



第10図 C 2 区柱穴群

②C3・C4区柱穴群（表3・第11～25図・写真図版6～19・付図1）

平成10年度調査ではC3区において多数の柱穴が検出され、翌11年度、隣接するC4区にも柱穴群の分布が連続することが確認された。両区で検出された柱穴は計1100基を超える。

柱穴の密度が最も高いのはC3区西部で、部分的に疎密のむらはあるもののC4区北部からC3区東部へと連続している。C3区中央部には柱穴等の遺構の分布が極端に希薄な区域（IC19cグリッド付近を中心とする直径15～20mの範囲）があり、調査区内に限って言えば、建物跡を構成していたと思われるこれらの柱穴群がこの空白域を取り囲むかのように分布する。とはいっても、この柱穴群は調査区境を越えてさらに広がって展開するものと思われ、特にC3区西縁に集中する柱穴群が西側へと分布を延長することは明らかである。北尾根緩斜面上においても、C3区西縁の柱穴集中部付近は特に傾斜がなだらかでかつ広い空間を有しており、集落中心部を設ける場として選択されるには好適な条件を備えている。この空間は調査区境を越えてC3区の西方へと広がっており、また扇状に広がるB区捨て場堆積層の頂点（土砂や遺物を投棄した供給地点）が調査区外のこの付近に求められることなどからも、本遺跡の集落の中心部（居住域？）がC3区西縁付近及びこれに隣接する区域に位置するとも考えることもできる。いずれにせよ、今回の調査では本遺跡における遺構分布状況の一部を垣間見たにすぎず、北尾根上における集落構造の詳細については未だ明らかではない。

③C区建物跡一柱穴配置の復元（第11・19・20図）

先述の通り、現地では柱穴配置の検討を行う余裕もなく、個々の柱穴を単体の遺構として扱い最低限の記録を行ったにすぎない。そのため、ここで行う復元作業は机上のものとならざるを得ず、積極的に報告する価値を有する「事実」とは乖離している可能性を含んでいることをまずお断りしておかなければならぬ。加えて柱穴の分布密度は極めて高く、図上復元とはいっても個々の建物に分解する作業は極めて困難であった。よって、以下の建物跡の柱穴配置はあくまで復元の一「案」であることをここに明記し掲載を行うものである。

a. 円形基調の建物跡（建物跡1～16）

さて、無数に分布する柱穴群の中から個々の掘立柱建物跡を抽出するには何らかの規則性を見いだす必要があった。そこで、まず柱穴群のなかで弧状に連続するよう見える柱穴列に着目し、弧の中心を求めて円を描き、その円周上に位置する柱穴及び円内に含まれる柱穴を対象に柱配置を検討した。

この作業によって抽出された建物跡（案）を以下に挙げることとする。

建物跡1（大形円形建物跡）（第11～18図・写真図版7～13）

【位置】 C3区とC4区との境界、IC20hグリッド付近に位置する。柱穴群分布範囲の南縁部にあたり、C区沢跡に臨む位置となっている。

【検出状況】 V層上面で環状に巡る柱穴列として検出された。検出面には粘性の強いVb層（Va層から鉄分が奪われて灰白色を呈する粘土層）が露出しているために検出作業が捗らず、加えて埋土には振り方の揮削で生じたと思われる粘土ブロックが多量に埋め戻されておりプランの確定もまた困難であった。

【規模・平面形】 本建物跡に關係すると思われる柱穴は長軸方向を東北東～西南西にもつ梢円形の範囲に分布し、長径13.5m・短径12.2mを測る。

【柱穴配置】 本建物跡を構成あるいは関連すると思われる柱穴はC 3 p 715～727・732～745・803～805・975～984及びC 4 p 106・107・111～142・207～209・211・904～906・910～913・926・927である。なお11年度調査で前年度調査区分を再検出した際に新たにみつかった柱穴を追加したため、第11図に示したC 3・C 4区の境界線付近ではC 4 p 207～209・904がC 3区側に入り込んだ形となっているので注意されたい。

柱穴配置復元の手順は次の通りである。まず、環状柱穴列の南西部に認められる長梢円形ビットが対となる部分（C 3 p 119・123）を出入口状施設と仮定し、これらの中間点と、ここから最も遠くに位置する柱穴（C 3 p 718）をつなないだ線（南西—北東）を本建物の仮の中軸線として設定した。

次に、環状の柱穴列は数次の重複関係にあるものの概ね二重の環からなると判断し、内側の環（以後「内環」）を形成する柱穴のうち、中軸線との直交方向で最も遠いもの同士を結ぶ線（北西—南東）を設けた。そして、中軸線とこの基準線とが交差する点を内環の中心点として半径4.5mの円を描いたところ、内環に属する柱穴は中軸線の左右に対称的に並ぶことが判明した。第11図中で細線で表しているのがこれにあたる。

一方、外側の環（以後「外環」）は、内環と同じ点を中心とする同心円になるか、もしくは中心を異にする別の円を形成するかのいずれかと考え配置の検討を行ったが、その作業の結果、外環は真円にはならず梢円形を呈するものであることがわかった。そこで内環に設定した中心軸を基準に検討したところ、外環に属する柱穴は内環と同じ線を中軸線として左右対称に位置することが判明した。第11図中には太線で表している。

以上のように、本遺構は二重の環状柱穴列からなる建物跡として柱配置を復元できた。繰り返しになるが、ここに示したのはあくまでも一復元案であり、検討を深める必要がある。

【半円状の柱痕跡】 本遺構を構成する柱穴のうちC 4 p 115・116・121・122・125・126では平面形が半円～三日月形を呈する柱痕跡が認められた。これは丸太材を縦に半削したもの柱として用いていることを示している。柱痕跡から推定される材の直径は50～60cm程度と見られる。多くがその断面を環の外側に向けて掘えられており、「環状木柱列」（ウッドサークル）などと呼ばれる特殊遺構と同様の特徴を有している。

断面と直交方向の土層断面を観察すると、検出面では三日月形に見えていたものでも底面付近では半円形の痕跡をのこしており、意識的に半削材を用いていたことがわかる。また、本来半円形を呈していた柱（痕跡）が三日月形となって検出される理由は、断面観察の結果、断面中央の芯部分から腐食が進み、そこに生じた空隙に掘り方埋土が再堆積したことによると考えられる。

なお、第11図ではC 3区側の柱穴内に全く柱痕跡が記録されていないが、先述の通り、本遺構のC 3区分は平成10年度調査の最終段階で検出され、諸記録を省略して一気に掘り上げたためであり、本来、柱痕跡が残存していたことは明らかである。事実C 3区分の柱穴の精査段階でも柱痕跡と思われる黒色土部分が検出されており、これを記録できなかったことは大いに悔やまれる。

【柱穴掘り方と埋土】 外環に属する柱穴はやや大きく径80～100cm程度であるのに対し、内環はこれよりも一回り小さいようである。深さは斜面上部で深く、下部ほど浅い傾向があるが、全体的に底面レベルは一定していない。本遺構が立地する付近では地山粘土層の下面がやや大きく波打ち、部分的にさらに下位の礫層（地山礫層）が高く浮いている部分が認められる。このため掘り方を掘削する際にこの礫層に阻まれ、意図した深さまで底面を下げられなかっただことが度々あったようである。実際、一旦は礫層上面まで掘り下げた柱穴に再度土を入れ直し、礫を敷くなどして底面レベルの調整を行った様子が確認できるものもある。これは本遺構が構造上、柱材の頭部をそろえる必要があるものであることを示すとおもわれ、その性格を「建物跡」と考える根拠のひとつとしている。

【他遺構との位置関係】 東方約8mに住居状C4J4、北方約3mに建物跡2、西方約15mに建物跡3・4が位置し、南方にはC区沢跡の沢縁にまとまる土坑群がある。

【出土遺物】 複数の柱穴から縄文土器片が出土しているが、文様が判別できる破片は限られる。C3p718・719・724から出土したものは縄文時代後期初頭の特徴を有する(CK-170~173・第44図・写真図版55)。

【時期】 出土遺物から縄文時代後期初頭に属する可能性が高い。

建物跡2(第19図)

【位置】 C3区、I C18eグリッド付近に位置する。

【規模・形状・柱穴配置】 直径8.6mの円形に展開し、主柱穴は8角形に配置されているものと推定した。

【構成柱穴】 本建物跡を構成するものとして採用したのはC3p647、C3p648、C3p649、C3p651、C3p747、C3p964、C3p973等である。

【出土遺物】 C3p649から縄文土器片が出土している(CK-164・第44図・写真図版55)。

【重複関係】 重複はない。

【時期】 埋土及び出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉に属する可能性がある。

建物跡3(第20図)

【位置】 C3区、II C4dグリッド付近に位置する。

【規模・形状・柱穴配置】 直径8.3mの円形に展開し、主柱穴は8角形に配置されているものと推定した。

【構成柱穴】 本建物跡を構成するものとして採用したのはC3p510、C3p514、C3p517、C3p545、C3p562、C3p585、C3p600、C3p606等である。

【出土遺物】 以下の柱穴から縄文土器片が出土している。

C3p517(CK-147・第43図・写真図版54)

C3p606(CK-160~161・第44図・写真図版55)

【重複関係】 建物跡4、建物跡8、建物跡9、建物跡20と重複する。

【時期】 埋土及び出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉に属する可能性がある。

建物跡4(第20図)

【位置】 C3区、II C3eグリッド付近に位置する。

【規模・形状・柱穴配置】 直径6.0mの円形に展開し、主柱穴は8角形(a)及び長方形(b・c)に配置されているものと推定した。

【構成柱穴】 8角形の建物跡を構成するもの(a)に採用したのはC3p566、C3p589、C3p593、C3p596、C3p599、C3p604である。一方、長方形の建物跡を構成するものとして採用したのは、(b)がC3p591、C3p596、C3p598、C3p603、(c)がC3p570、C3p595、C3p602、C3p968である。

【出土遺物】 以下の柱穴から縄文土器片が出土している。

C3p566(CK-156・第43図・写真図版55)

C3p570(CK-157・第43図・写真図版55)

C3p598(CK-158・第43図・写真図版55)

C 3 p 604 (CK-159・第44図・写真図版55)

【重複関係】建物跡3、建物跡8と重複する。

【時期】埋土及び出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉に属する可能性がある。

建物跡5（第20図）

【位置】C 3 区、II C 2 c グリッド付近に位置する。

【規模・形状・柱穴配置】直径5.6mの円形(大きい方は6.5m)に展開し、主柱穴は10角形(a)及び6角形(b)に配置されているものと推定した。

【構成柱穴】10角形の建物跡を構成するものとして採用したのはC 3 p 379、C 3 p 389、C 3 p 392、C 3 p 397、C 3 p 503、C 3 p 571、C 3 p 575、C 3 p 767、C 3 p 769である。6角形の建物跡を構成するものとして採用したのはC 3 p 379、C 3 p 389、C 3 p 395、C 3 p 503、C 3 p 572、C 3 p 767である。

【出土遺物】C 3 p 503から縄文土器片が出土している(CK-145・第43図・写真図版55)。

【重複関係】建物跡10、建物跡20と重複する。

【時期】埋土及び出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉に属する可能性がある。

建物跡6（第20図）

【位置】C 3 区、II C 2 a グリッド付近に位置する。

【規模・形状・柱穴配置】直径6mの円形に展開し、主柱穴は8角形に配置されているものと推定した。

【構成柱穴】本建物跡を構成するものとして採用したのはC 3 p 286、C 3 p 290、C 3 p 323、C 3 p 327、C 3 p 385、C 3 p 387、C 3 p 411である。

【出土遺物】C 3 p 411から縄文土器細片が出土している。

【重複関係】重複はない。

【時期】埋土から縄文時代後期初頭～前葉に属する可能性がある。

建物跡7（第20図）

【位置】C 3、II B 4 s グリッド付近に位置する。

【規模・形状・柱穴配置】直径7.7mの円形に展開し、主柱穴は8角形に配置されているものと推定した。

【構成柱穴】本建物跡を構成するものとして採用したのはC 3 p 28、C 3 p 55、C 3 p 67、C 3 p 124、C 3 p 130、C 3 p 137、C 3 p 145、C 3 p 148、である。

【出土遺物】C 3 p 67・124・148から縄文土器細片が出土している。

【重複関係】建物跡13、建物跡14、建物跡15、建物跡21と重複する。

【時期】埋土から縄文時代後期初頭～前葉に属する可能性がある。

建物跡8～16（第20図）

建物跡8～16は、弧状に展開する柱穴列に対し、その中心を求めて補助線的に円を描いたものであり内部の具体的な柱穴配置は不明なものである。従って、上掲のものよりもさらに検討を要する。また逆に、これら以外にも弧状に連続する柱穴列は複数認められる。

建物跡8-II C 4 e グリッド付近に位置、直径6.2mの円形範囲。
建物跡9-II C 4 d グリッド付近に位置、直径9.6mの円形範囲。
建物跡10-II B 2 b グリッド付近に位置、直径8.4mの円形範囲。
建物跡11-II B 1 t グリッド付近に位置、直径11.6m・9.8m・7.4mの円形範囲。
建物跡12-II B 3 t グリッド付近に位置、直径5.3mの円形範囲。
建物跡13-II B 3 s グリッド付近に位置、直径7.2mの円形範囲。
建物跡14-II B 4 s グリッド付近に位置、直径9.6mの円形範囲。
建物跡15-II B 4 r グリッド付近に位置、直径7.5mの円形範囲。
建物跡16-II B 3 r グリッド付近に位置、直径7.0mの円形範囲。

b. 長方形～長多角形の建物跡（建物跡17～23）

ここでは「a. 円形基調の建物跡」を除き、規則的な柱配置を呈するものをまとめた。

建物跡17～18は多角形、建物跡19～20は6本柱の長方形、建物跡21～23は4本柱の長方形を呈するものである。個々について以下に記載する。

建物跡17（第20図）

【位置】C 3 区、II B 1 s グリッド付近に位置する。

【規模・形状・柱穴配置】7.0m×3.7mに展開し、主柱穴は6角形に配置されているものと推定した。

【構成柱穴】本建物跡を構成するものとして採用したのはC 3 p 11、C 3 p 262、C 3 p 265、C 3 p 332、C 3 p 337、C 3 p 353である。

【出土遺物】C 3 p 11・265・353・332から縄文土器細片が出土している。

【重複関係】建物跡11、建物跡18と重複する。

【時期】埋土から縄文時代後期初頭～前葉に属する可能性がある。

建物跡18（第20図）

【位置】C 3 区、II C 1 a グリッド付近に位置する。

【規模・形状・柱穴配置】2.4m×2.4mに展開し、主柱穴は6角形に配置されているものと推定した。

【構成柱穴】本建物跡を構成するものとして採用したのはC 3 p 271、C 3 p 272、C 3 p 328、C 3 p 332、C 3 p 337、C 3 p 948である。

【出土遺物】C 3 p 271から縄文土器細片が出土している。

【重複関係】建物跡11、建物跡17と重複する。

【時期】埋土から縄文時代後期初頭～前葉に属する可能性がある。

建物跡19（第20図）

【位置】C 3 区、II C 1 e グリッド付近に位置する。

【規模・形状・柱穴配置】6.0m×1.8mの方形に展開する。

【構成柱穴】本建物跡を構成するものとして採用したのはC 3 p 204、C 3 p 609、C 3 p 610、C 3 p 614、

C 3 p 775、C 3 p 780である。

【出土遺物】C 3 p 609・610・614・775・780から縄文土器細片が出土している。

【重複関係】重複はない。

【時期】埋土及び出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉に属する可能性がある。

建物跡20（第20図）

【位置】C 3 区、II C 3 c グリッド付近に位置する。

【規模・形状・柱穴配置】5.5m×3.3mの方形に展開する。

【構成柱穴】本建物跡を構成するものとして採用したのはC 3 p 494、C 3 p 498、C 3 p 512、C 3 p 536、C 3 p 766、C 3 p 956である。

【出土遺物】以下の柱穴から縄文土器片が出土している。

C 3 p 494 (CK-138・139・第43図・写真図版54)

C 3 p 498 (CK-141～143・第43図・写真図版54)

C 3 p 536 (CK-149～151・第43図・写真図版55)

【重複関係】建物跡3、建物跡5、建物跡9と重複する。

【時期】埋土及び出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉に属する可能性がある。

建物跡21（第20図）

【位置】C 3 区、II B 3 s グリッド付近に位置する。

【規模・形状・柱穴配置】2.8m×2.7mの方形に展開する。

【構成柱穴】本建物跡を構成するものとして採用したのはC 3 p 61、C 3 p 130、C 3 p 139、C 3 p 928である。

【出土遺物】C 3 p 61・139から縄文土器細片が出土している。

【重複関係】建物跡7、建物跡13、建物跡14、建物跡15と重複する。

【時期】埋土及び出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉に属する可能性がある。

建物跡22（第20図）

【位置】C 3 区、II B 3 r グリッド付近に位置する。

【規模・形状・柱穴配置】3.0m×3.0mの方形に展開する。

【構成柱穴】本建物跡を構成するものとして採用したのはC 3 p 5、C 3 p 16、C 3 p 209、C 3 p 912である。

【出土遺物】掲載遺物なし。

【重複関係】建物跡13、建物跡14、建物跡15、建物跡16と重複する。

【時期】埋土から縄文時代後期初頭～前葉に属する可能性がある。

建物跡23（第20図）

【位置】C 3 区、II B 4 r グリッド付近に位置する。

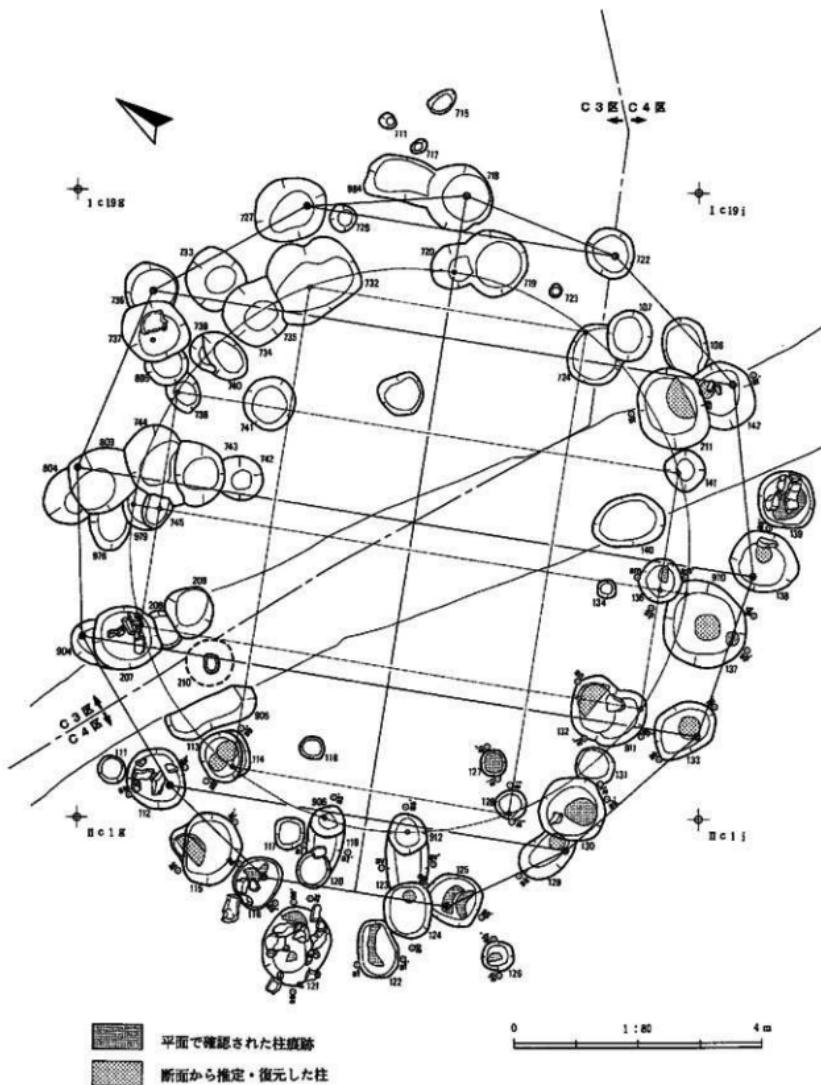
【規模・形状・柱穴配置】2.9m×2.0mの方形に展開する。

【構成柱穴】本建物跡を構成するものとして採用したのはC3p1、C3p3、C3p21、C3p909である。

【出土遺物】C3p1・3・21から縄文土器細片が出土した。

【重複関係】建物跡14、建物跡15、建物跡16と重複する。

【時期】埋土から縄文時代後期初頭～前葉に属する可能性がある。



第11図 建物跡 1 (大形円形建物跡)



【C 4 P112】

1. 5に似るが全体に灰色味帯びる。2及び5との境界は漸移的。半裁材断面側の腐食部に5が徐々に入り込んだものと解釈。

2. 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 岩縫隙 灰白色粘土がクラックを埋めるように階段状に進入。

3. 10YR5/3 に似る 黄褐色 粘土 岩縫隙。

4. 10YR7/2 に似る 黄褐色 粘土ブロック層 グラフィ化しやや灰色味。

5. 10YR7/2 に似る 黄褐色粘土ブロックと10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックの混土。10YR3/3暗褐色シルト極微。(10YR7/2に似る)黄褐色粘土ブロックが大半で全体白っぽい。

6. 5より10YR5/6黄褐色砂質シルト 10YR3/3暗褐色シルトが多く、全体に暗い。後土粒縫隙。

7. 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト 10YR7/2に似る 黄褐色粘土ブロック ($\phi 20\sim50$ mm) やや多。粘土ブロックは上下につぶれた長円形(上方から下向き固められた影響?)。

8. 10YR7/2 に似る 黄褐色 粘土ブロック層 10YR5/6黄褐色砂質シルト・10YR3/3暗褐色シルト僅かに含む。5よりさらに白味強。

9. 10YR7/2 に似る 黄褐色 粘土ブロック層 限りなく地山粘土ブロック層に近いが締まりやや弱く、ブロック間に10YR3/3暗褐色シルトをくっ付けて含む。

※1～4：柱痕跡。5～9：掘方埋土。底面に礫石有り、特に柱底部に $\phi 10\sim20$ cm の礫巣。

【C 4 P113・114】

1. 10YR5/6 黄褐色砂質シルトブロックと10YR7/2に似る 黄褐色粘土ブロックの混土。それぞれブロックも小さい(5~10mm)。10YR3/3暗褐色シルトブロック極微。2より10YR7/2に似る 黄褐色粘土ブロック少く飛ぶ。

2. 10YR7/2 に似る ブロックも大きく(2~5cm)。10YR7/2に似る 黄褐色粘土ブロック多く白味強。

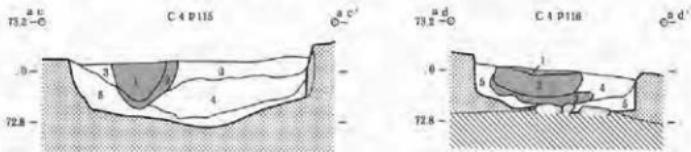
3. 10YR5/3 に似る 黄褐色 砂質シルト含む。灰やや多。

4. 3 \times 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト 10YR7/2に似る 黄褐色粘土ブロック少。

5. 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト 10YR7/2に似る 黄褐色粘土ブロック少。

6. 10YR7/2 に似る 黄褐色 粘土ブロック層。

※1：p114柱痕跡、2：p114掘方埋土、3～6：p113掘方埋土。



【C 4 P116】

1. 2に10YR7/2に似る 黄褐色粘土・10YR5/6黄褐色砂質シルトの小ブロック含む。柱在腐食部に掘方埋土流入？(半裁材断面は左図)。

2. 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 岩縫隙。

3. 10YR7/2 に似る 黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックの混土。ブロック $\phi 5\sim10$ cm。

4. 3 \times 10YR5/6暗褐色シルト少含む。ブロックも3より細かく、全体やや暗い。

5. 10YR7/2 に似る 黄褐色 粘土ブロック層。

※1～2：柱痕跡。3～6：掘方埋土。

【C 4 P116】

1. 10YR3/4 暗褐色 シルト 塵土ブロック多。炭少。全体赤味。柱材喪失後の流入土？

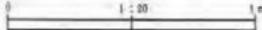
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト 10YR7/2に似る 黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトのブロック ($\phi 5\sim10$ mm) やや多。

3. 10YR5/3 に似る 黄褐色 粘土。

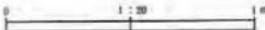
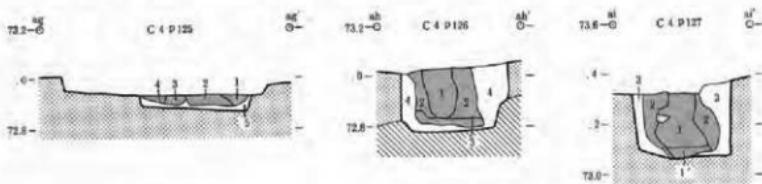
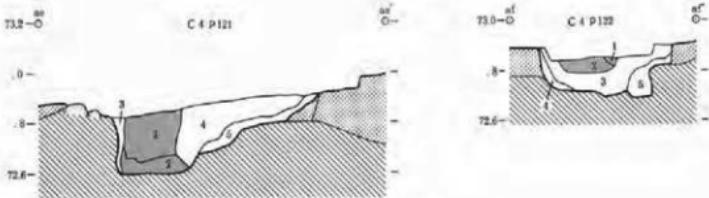
4. 3 \times 10YR5/6暗褐色シルトを少含み5より暗い。

5. 10YR7/2 に似る 黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックの混土。

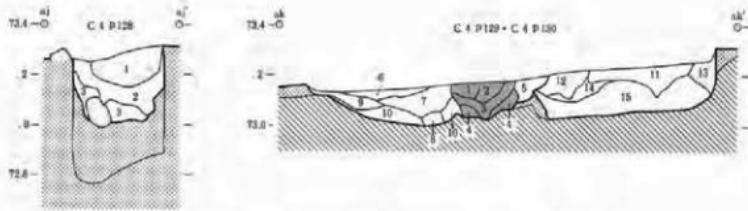
※1～3：柱痕跡。4～5：掘方埋土。底面には地山岩盤が露出しており、掘削時に生じた岩片を柱底部に敷いたようにも見える。



第12図 建物跡1構成柱穴断面図(1)



第13図 建物跡1構成柱穴断面図(2)



[C 4 P128]

1. 10YR7/2 に近い黄褐色 粘土ブロックと10YR5/6黄褐色砂質シルトの混土。上部に礫土粒・炭化物。
2. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR7/2に近い黄褐色粘土ブロックと10YR5/6黄褐色砂質シルトブロック少。
3. 10YR7/2 に近い黄褐色 粘土ブロック層 最下部に10YR3/3暗褐色砂質シルトブロック少。

[C 4 P129・P130]

1. 10YR5/2 灰黄褐色 粘土質シルト 層微。
 2. 10YR5/2 灰黄褐色 粘土質シルト 地山屢微。
 3. 10YR5/2 灰黄褐色 粘土質シルト 地山屢微。
 4. 10YR5/2 灰黄褐色 粘土質シルト 地山屢微 (2より少)。
 5. 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト。
 6. 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト 地山屢微。
 7. 10YR5/2 灰黄褐色 粘土質シルト 10YR7/2に近い黄褐色粘土ブロック少。地山屢微。
 8. 10YR5/2 灰黄褐色 粘土質シルト 層微。
 9. 10YR7/2 に近い黄褐色 粘土ブロックと10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックの混土。地山屢微。
 10. 10YR7/2 に近い黄褐色 粘土ブロック層。
 11. 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト 地山屢微。
 12. 10YR7/2 に近い黄褐色 粘土ブロック層 地山屢微。
 13. 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト 10YR7/2に近い黄褐色粘土ブロック微。
 14. 10YR5/2 灰黄褐色 粘土質シルト 10YR5/6黄褐色砂質シルト微。
 15. 10YR5/2 灰黄褐色 粘土質シルト 層微。全体に14より厚い。
- * 1~4 : p129柱模様。5~10 : p129方塊土 (8は古柱柱跡?)。11~15 : p130柱土 (柱痕跡不明)。

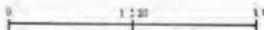


[C 4 P131]

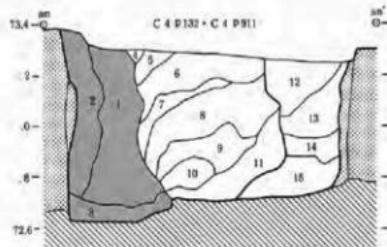
1. 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト。
 2. 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 10YR7/2に近い黄褐色粘土ブロックやや多。
 3. 10YR7/2 に近い黄褐色 粘土ブロック層。
 4. 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト 10YR7/2に近い黄褐色粘土ブロック少。
- * 1~2 : 柱痕跡。3~4 : 挖方埋土。図左側が半裁材断面。

[C 4 P136]

1. 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 層微。
 2. 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 10YR7/2に近い黄褐色粘土ブロックやや多。
 3. 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 10YR7/2に近い黄褐色粘土及び10YR5/6黄褐色砂質シルトの小ブロック多。
 4. 10YR5/6 黄褐色 砂質シルトブロック層。
 5. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR7/2に近い黄褐色粘土及び10YR5/6黄褐色砂質シルトの小ブロック多。
 6. 10YR7/2 に近い黄褐色 粘土ブロック層。
 7. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR7/2に近い黄褐色粘土ブロック微。
- * 1~3 : 柱痕跡。4~7 : 挖方埋土。

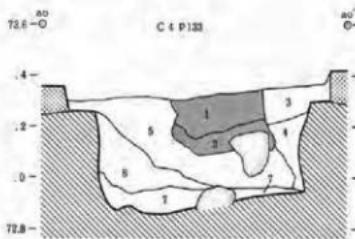


第14図 建物跡1構成柱穴断面図(3)



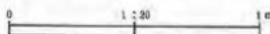
【C 4 P 132 + C 4 P 911】

1. 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 10YR7/2にない黄褐色粘土ブロック微。炭微。燒土粒極微。
 2. 10YR3/4 黄褐色粘土質シルトと10YR7/2にない黄褐色の混土。1との境界は漸移的。
 3. 10YR5/3 にない黄褐色 粘土 炭微。
 4. 10YR7/2 にない黄褐色粘土と10YR5/6黄褐色砂質シルトの混土。地山塊片少含。全体に白味。
 5. 10YR3/4 黄褐色 シルト 10YR7/2にない黄褐色粘土ブロック少。燒土粒・炭や多。全体深黒い。
 6. 4に類似。
 7. 5と同じ。
 8. 4及び6に類似するが、やや暗い。
 9. 5及び7に類似するが、10YR7/2にない黄褐色粘土ブロックが多い。
 10. 10YR7/2 にない黄褐色粘土ブロックと10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックの混土。11より10YR5/6黄褐色砂質シルト多く、黄味強。
 11. 4・6・8に類似するが、8より明るい。
 12. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR7/2にない黄褐色粘土ブロック及び10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックやや多。
 13. 10YR7/2 にない黄褐色粘土ブロックと10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックの混土。11より暗く、ブロック径大。
 14. 10YR5/3。
 15. 13に類似するが、ブロック径はよりさらに大。
- ※1～3 : p132柱痕跡。4～11 : p132掘方埋土。12～15 : p013掘方埋土。

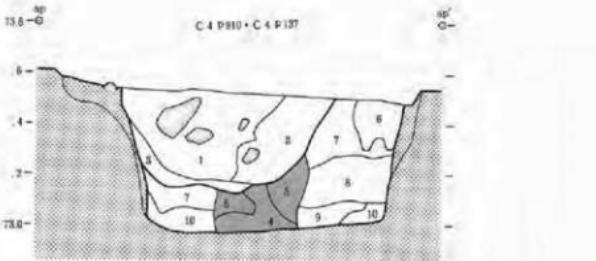


【C 4 P 133】

1. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR7/2にない黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロック・地山小礫や多。炭微。
 2. 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 10YR7/2にない黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロック・地山礫少。炭微。
 3. 10YR7/2 にない黄褐色 粘土ブロック層 10YR3/3暗褐色シルトブロック・10YR5/6黄褐色粘土質シルトブロック極微。
 4. 10YR7/2 にない黄褐色 粘土ブロック層 3より10YR3/3暗褐色シルト多く暗い。
 5. 10YR7/2 にない黄褐色粘土ブロックと10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックの混土。ブロック細かい ($\phi 5\sim 10mm$)。10YR3/3暗褐色シルト極微。
 6. 10YR7/2 にない黄褐色粘土ブロックと10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックの混土。5より10YR7/2にない黄褐色粘土ブロックのや大きい。
 7. 10YR7/2 にない黄褐色粘土ブロックと10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックの混土。地山礫少含。
- ※1～3 : 柱痕跡。3～7 : 掘方埋土。

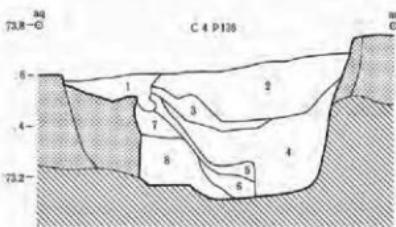


第15図 建物跡1構成柱穴断面図(4)



【C 4 P 137・C 4 P 910】

1. 10YR5/3 に似る黄褐色 砂質シルト 10YR7/2に似る黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックや多。草木の地山屢少。
 2. 10YR5/3 に似る黄褐色 砂質シルト 1と同様地山土ブロックをやや多く含むが、10YR5/3暗褐色シルトブロック含みやや暗い。
 3. 10YR5/3 暗褐色 シルト 10YR7/2に似る黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロック少。
 4. 10YR5/3 に似る黄褐色 粘土 底層。上部に地山小礫混合。
 5. 10YR5/3 に似る黄褐色 粘土 10YR7/2に似る黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロック少。
 6. 10YR5/4 暗褐色 粘土質シルト 上部に10YR5/6黄褐色砂質シルトブロック含み、4・5より赤味強。
 7. 10YR7/2 に似る黄褐色粘土ブロックと10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックの混土。
 8. 7に似るが、より10YR5/6黄褐色砂質シルト多く全体赤味。
 9. 10YR2/3 暗褐色 シルト 10YR7/2に似る黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックや多。
 10. 10YR2/3 暗褐色 シルト 10YR7/2に似る黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロック少。
- * 1～3 : p910埋土。4～5 : p137柱脚跡。6：柱軸跡に似る。7～10 : p137擁方埋土。



【C 4 P 138】

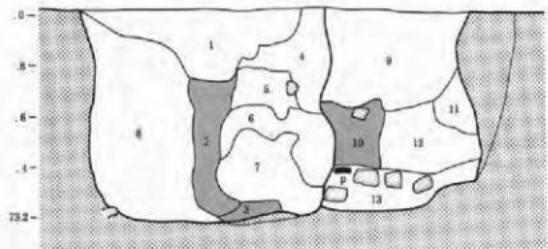
1. 10YR3/3 暗褐色 シルト。
 2. 10YR3/3 暗褐色 10YR7/2に似る黄褐色粘土ブロック大量混（ほぼ粘土ブロック層）。
 3. 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト。
 4. 10YR2/3 黄褐色 シルト 10YR7/2に似る黄褐色粘土及び10YR5/6黄褐色砂質シルトの小ブロック少。炭微。
 5. 10YR2/3 黑褐色 シルト 10YR7/2に似る黄褐色粘土及び10YR5/6黄褐色砂質シルトの小ブロック多。
 6. 10YR2/3 黑褐色 シルト 4に似る。
 7. 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト 10YR7/2に似る黄褐色粘土ブロック層。
 8. 10YR3/3 暗褐色 シルトブロック・10YR7/2に似る黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックの混土。
- * 1～5 : 柱材抜取痕または別通構か。7～8 : 挊方埋土。

0 1:20 1m

第16図 建物跡1構成柱穴断面図(5)

74.2-0

C 4 P211・C 4 P142

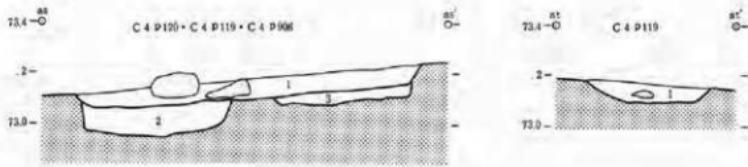
at
0-

【C 4 P142・C 4 P211】

1. 10YR5/3 單褐色 砂質シルト 10YR5/3暗褐色シルトブロックや多。
 2. 10YR5/4 暗褐色 黏土質シルト 繼続の明瞭な段片(φ10mm程度) 稀。
 3. 10YR5/2 暗褐色 黏土。
 4. 10YR5/3 暗褐色 シルト 10YR7/2に於いては黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロック少。
 5. 10YR5/3 暗褐色 シルト 土器細片及び根少。10YR7/2に於いては黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロック多。(4・6よりブロック大)。炭化物目立ち全体に黒味強。
 6. 5に似るが、より地山土ブロック多い。
 7. 10YR7/2 に於いては黄褐色 黏土ブロック層。
 8. 10YR7/2 に於いては黄褐色 黏土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックの混土(7より後者の割合多)。
 9. 10YR5/3 暗褐色 シルト 10YR7/2に於いては黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックや多。4に似るがブロック多く大。4との境界にクラック。
 10. 10YR5/4 暗褐色 黏土質シルト 10YR7/2に於いては黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロック少。炭化物。
 11. 10YR5/4 暗褐色 黏土質シルト 炭化物。地山ブロックの埋入なく黑味強。
 12. 10YR5/3 暗褐色 シルト 10YR7/2に於いては黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックや多。
 13. 10YR5/3 暗褐色 シルト 10YR7/2に於いては黄褐色粘土ブロック・10YR5/6黄褐色砂質シルトブロック大量。
- ※ 2～3：p211柱痕跡。材置食部に脚方埋土が刷落流入した状況示すか(圓右側が半截材截断面?)。4～8：p211圓方埋土。10：p142柱痕跡。11：柱痕跡に似る。12～13：p142圓方埋土。

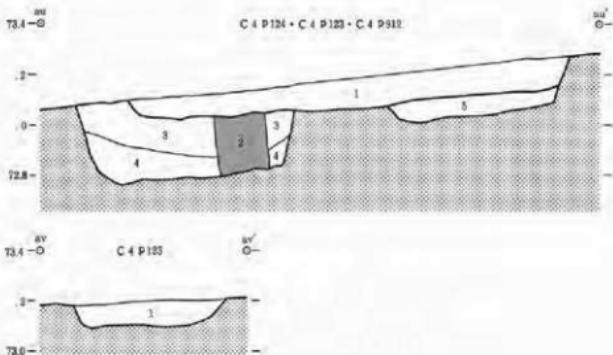
0 1 : 20 1 m

第17図 建物跡1構成柱穴断面図 (6)



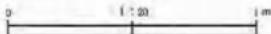
【建物跡 1 出入口部 (C 4 P119 + C 4 P120 + C 4 P906)】

1. 10YR5/3 に近い黄褐色 粘土ブロック層 10YR3/6暗褐色シルトブロック層。全体灰色味。
 2. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR7/2に近い黄褐色粘土ブロック + 10YR5/6黄褐色砂質シルトブロック多。
 3. 2と酷似。
- ※1 : p119, 2 : p120, 3 : p906

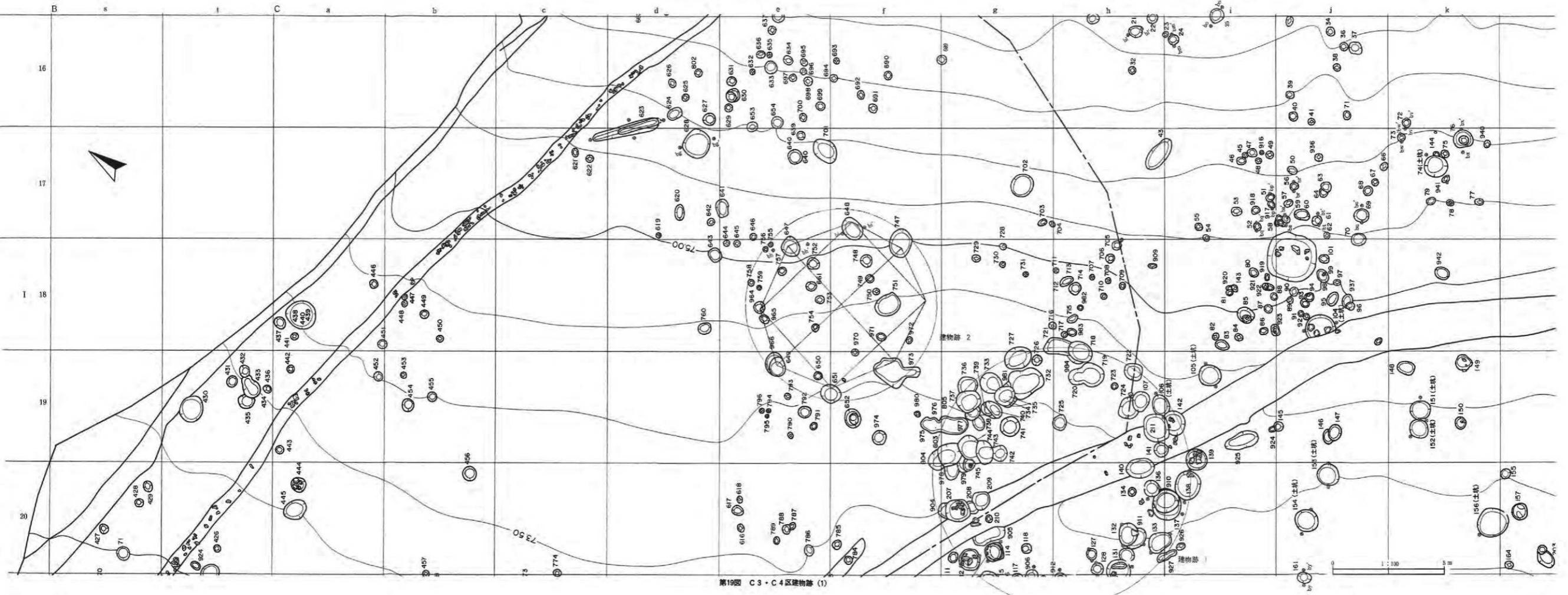


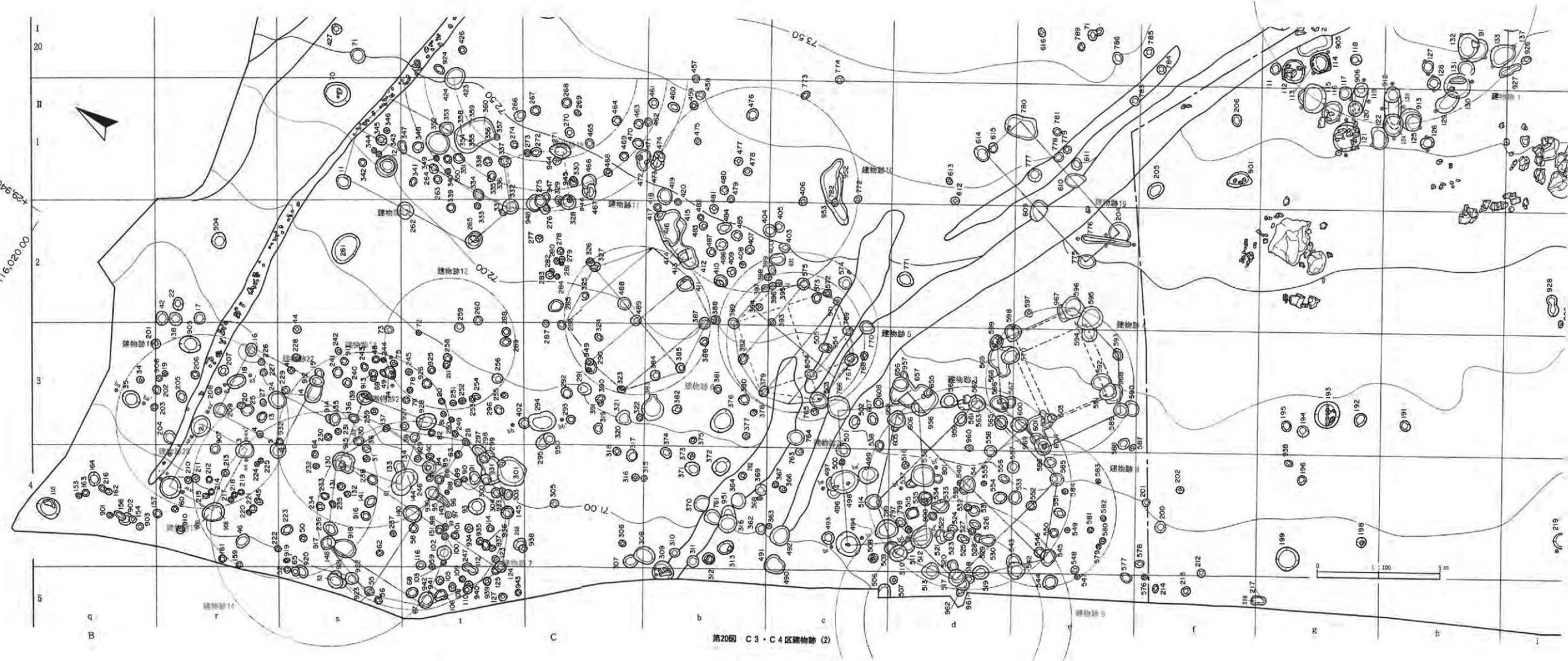
【建物跡 1 出入口部 (C 4 P123 + C 4 P124 + C 4 P912)】

1. 10YR5/3 に近い黄褐色 粘土ブロック層。全体灰色味。
 2. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 層極微。
 3. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR7/2に近い黄褐色粘土ブロック + 10YR5/6黄褐色砂質シルトブロック多。
 4. 3に似るが、10YR5/6黄褐色砂質シルトブロックの割合多い。
 5. 4に酷似。
- ※1 : p123, 2 : p124柱廻隙。3~4 : p124幅方埋土。5 : p912。

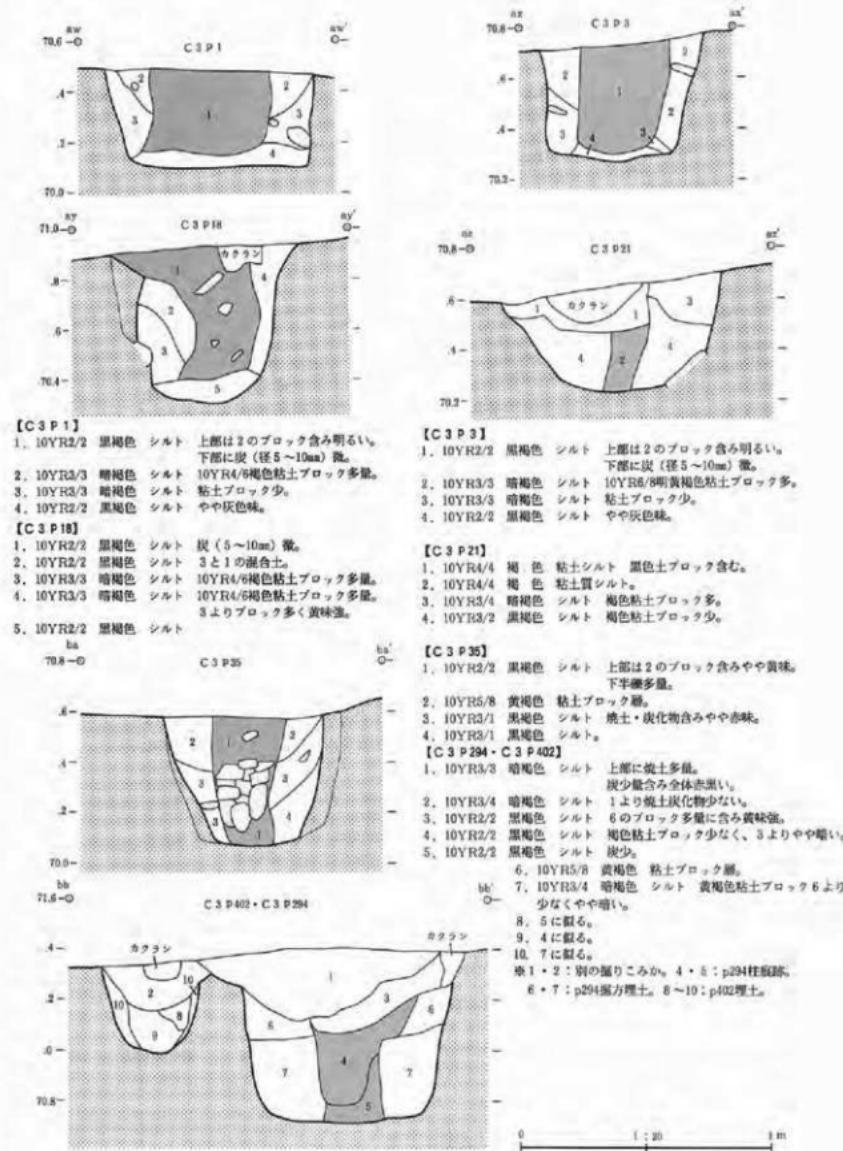


第18図 建物跡 1 構成柱穴断面図 (7)

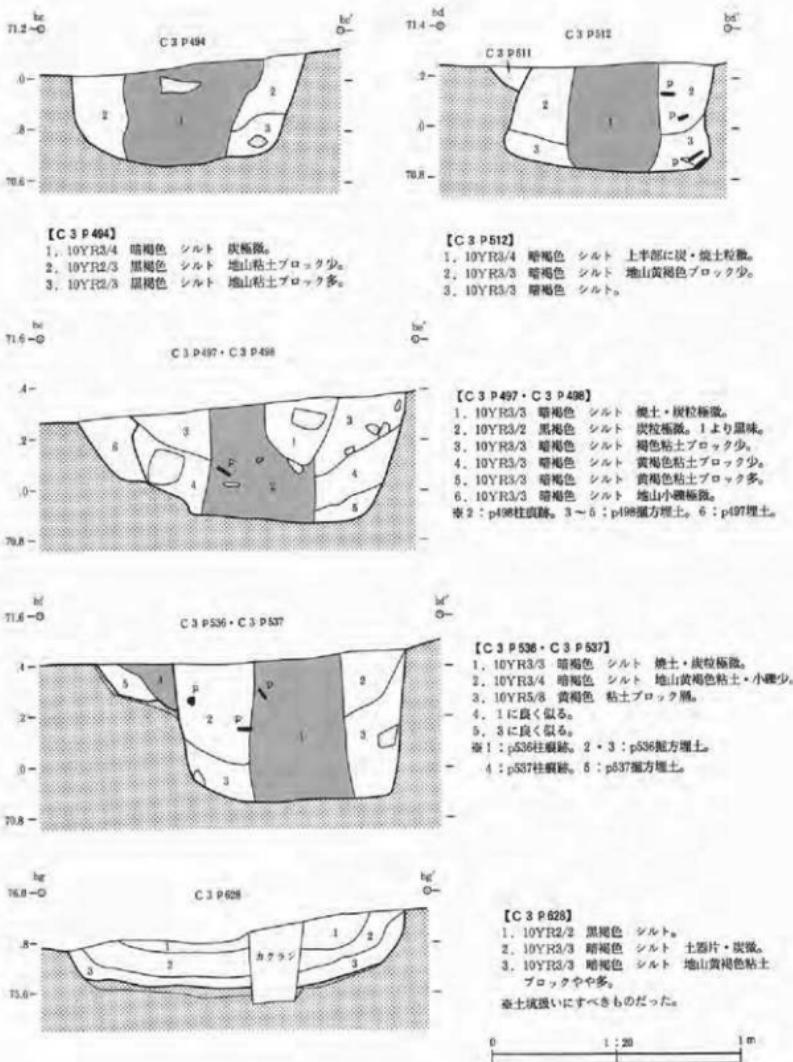




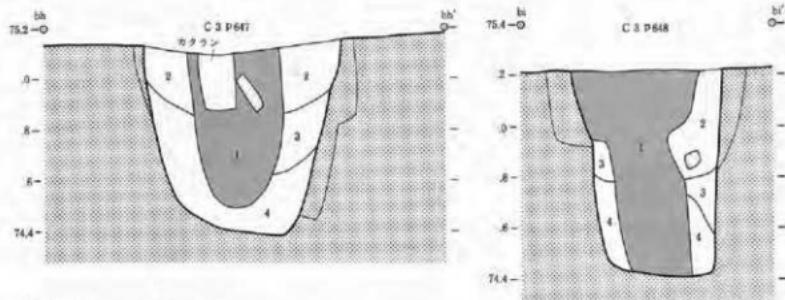
第20図 C3・C4区建物跡(2)



第21図 C3・C4区柱穴断面図(1)



第22図 C3 + C4区柱穴断面図(2)

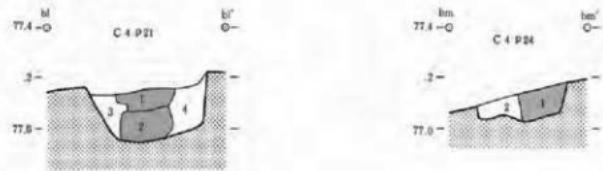


【C 4 P 6】

1. 10YR3/3 暗褐色 シルト 地山粘土ブロック微・炭質。粘性有。
 2. 10YR2/2 黑褐色 シルト 地山粘土ブロック微・炭質。粘性有。
 3. 10YR3/3 暗褐色 シルト 地山粘土ブロック多。
 条1～2：柱痕跡。3：掘方埋土。

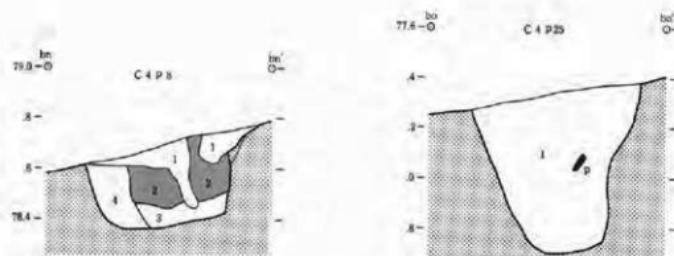
【C 4 P 9】

1. 10YR3/3 暗褐色 シルト 炭・燒土粒極微。
 2. 10YR4/4 灰色 黏土シルト 地山粘土ブロック大量(粘土ブロック層)。
 条1：柱痕跡。2：掘方埋土。



0 1 : 20 1 m

第23図 C 3・C 4 区柱穴断面図(3)

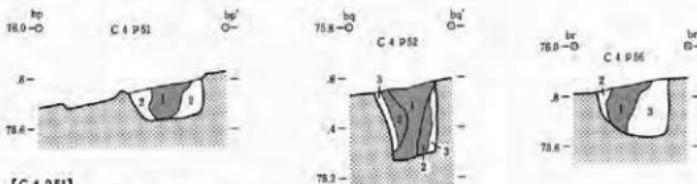


【C 4 P 8】

1. 10YR3/4 喙褐色 シルト 細次 (根カクラン)。
 2. 10YR2/2 黒褐色 シルト 土壌細土・炭・純土・地山粘土ブロック含。粘性有。縫隙有。
 3. 10YR2/2 黒褐色 シルト 地山粘土ブロック大量。
 4. 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 地山層に似るが暗く特徴。
- ※2 : 柱削跡。4 : 振方埋土。

【C 4 P 25】

1. 10YR3/3 喙褐色 シルト 炭少含 (全体に均質)。



【C 4 P 51】

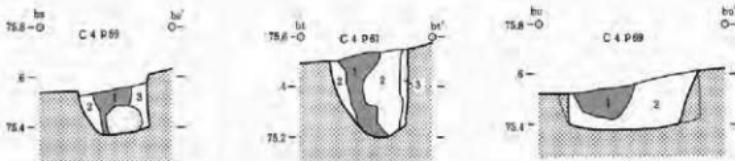
1. 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト。
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト 地山粘土ブロック少。

【C 4 P 52】

1. 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 捩掘微。
2. 10YR2/3 黑褐色 シルト 地山粘土ブロック少。
3. 地山粘土ブロック層。

【C 4 P 56】

1. 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 炭微微。
 2. 10YR2/3 黑褐色 シルト 地山粘土ブロック少。
 3. 10YR2/3 黑褐色 シルト 粘土粘土ブロック少 (2より少)。
- ※1 : 柱削跡。2~3 : 振方埋土。



【C 4 P 59】

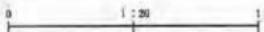
1. 10YR3/4 喙褐色 シルト。
 2. 10YR2/3 黑褐色 シルト 地山ブロック少。
 3. 10YR2/3 黑褐色 シルト 地山ブロック多。
- ※1 : 柱削跡。2~3 : 振方埋土。

【C 4 P 61】

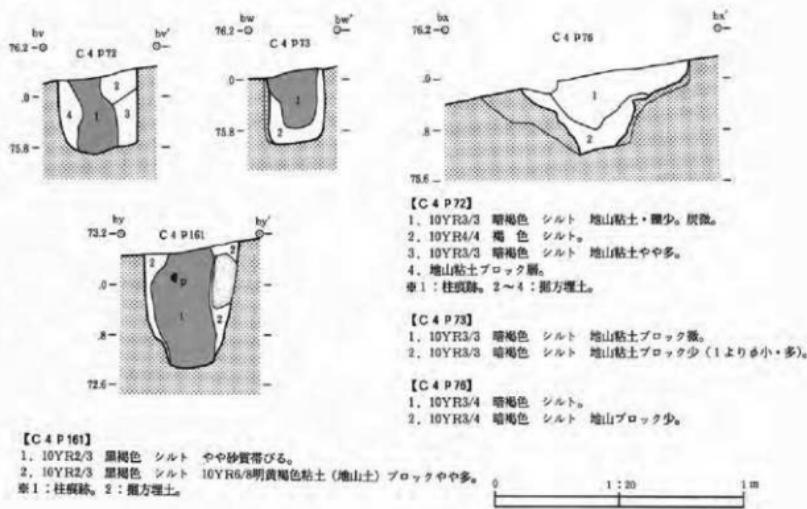
1. 10YR3/4 喙褐色 シルト。
 2. 10YR2/3 黑褐色 シルト 地山ブロック少。
 3. 地山ブロック層。
- ※1 : 柱削跡。2~3 : 振方埋土。

【C 4 P 69】

1. 10YR3/4 喙褐色 シルト。
2. 10YR2/3 黑褐色 シルト 地山ブロック少。



第24図 C 3・C 4 区柱穴断面図 (4)



第25図 C 3・C 4柱穴断面図(5)

| 区 | No. | 位 置 | 掘り方埋土・土体土 | | 混 入 物 | 底 面 レベル | 帰属遺構 | 出土遺物 | | | 備 考 |
|----|-----|---------|--------------|---|-------|---------|-------|------|----|----|-----|
| | | | 色 | 調 | | | | 種別 | 回数 | 写真 | |
| C3 | 24 | II B03s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 少 | ○ ○ ○ | 70.67 | | | | |
| C3 | 25 | II B03s | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.71 | | | | |
| C3 | 26 | * | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | — ○ | | | | | |
| C3 | 27 | II B03s | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.95 | | | | |
| C3 | 28 | II B03t | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 少 | ○ ○ ○ | 71.04 | 建物跡? | | | |
| C3 | 29 | * | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 少 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 30 | II B03s | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 31 | II B04s | 7.5YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.92 | | | | |
| C3 | 32 | * | 7.5YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 33 | II B03s | 7.5YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.75 | | | | |
| C3 | 34 | II B03s | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.52 | | | | |
| C3 | 35 | II B03s | 7.5YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.26 | | | | |
| C3 | 36 | II B04s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 少 | — ○ | 70.82 | | | | |
| C3 | 37 | * | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 38 | II B03s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.86 | | | | |
| C3 | 39 | * | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 40 | II B04s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 41 | II B03s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | — ○ | 70.95 | | | | |
| C3 | 42 | II B02s | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.55 | | | | |
| C3 | 43 | * | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 44 | II B03s | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 71.01 | | | | |
| C3 | 45 | II B04s | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.54 | | | | |
| C3 | 46 | II B04s | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.28 | | | | |
| C3 | 47 | * | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 48 | II B03s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | — | — ○ | 71.12 | | | | |
| C3 | 49 | II B03s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 少 | ○ ○ ○ | 71.00 | | | | |
| C3 | 50 | II B04s | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.42 | | | | |
| C3 | 51 | * | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 52 | II B03s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.29 | | | | |
| C3 | 53 | II B03s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.12 | | | | |
| C3 | 54 | * | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 55 | II B03s | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.31 | 建物跡? | | | |
| C3 | 56 | II B03s | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.41 | | | | |
| C3 | 57 | * | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 58 | II B04s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 少 | ○ ○ ○ | 70.45 | | | | |
| C3 | 59 | II B05t | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 少 | ○ ○ ○ | 70.49 | | | | |
| C3 | 60 | * | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 61 | II B04s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | 建物跡? | 21 | 土器 | |
| C3 | 62 | II B04s | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.45 | | | | |
| C3 | 63 | * | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 64 | II B04s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 少 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 65 | II B03s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.13 | | | | |
| C3 | 66 | * | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 67 | II B03s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 少 | ○ ○ ○ | 70.31 | | | | |
| C3 | 68 | II B03s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.36 | | | | |
| C3 | 69 | II B03s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 71.09 | | | | |
| C3 | 70 | II B01s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 少 | ○ ○ ○ | 72.04 | | | | |
| C3 | 71 | I B20s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 72.33 | | | | |
| C3 | 72 | II B03t | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 少 | ○ ○ ○ | 71.36 | | | | |
| C3 | 73 | II B03s | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 少 | ○ ○ ○ | 71.29 | | | | |
| C3 | 74 | II B03s | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 71.04 | | | | |
| C3 | 75 | II B03s | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 71.11 | | | | |
| C3 | 76 | * | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 少 | — ○ | | | | | |
| C3 | 77 | * | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 少 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 78 | II B03t | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 71.14 | | | | |
| C3 | 79 | II B03t | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 71.06 | | | | |
| C3 | 80 | II B03t | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 少 | ○ ○ ○ | 71.11 | | | | |
| C3 | 81 | II B03t | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 71.09 | | | | |
| C3 | 82 | II B03t | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.97 | | | | |
| C3 | 83 | II B04t | 10YR3/3 喧褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 84 | II B04t | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | 70.80 | | | | |
| C3 | 85 | II B04t | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 86 | II B04t | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 多 | ○ ○ ○ | | | | | |
| C3 | 87 | * | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 少 | ○ ○ ○ | | | | | |

| 区 | No. | 位 置 | 掘り方堆土主体土 | 混 入 物 | 底 面 レベル | 帰属遺構 | 出 土 遺 物 | | 備 考 |
|----|-------|---------|-----------------|-------|------------|-------|---------|----|-----|
| | | | | | | | 種別 | 図版 | |
| C3 | 152 | II B04q | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.06 | 土器 | | |
| C3 | 153 | II B04q | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.16 | | | |
| C3 | 154 | II B04q | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.20 | | | |
| C3 | 155 * | | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | | | | |
| C3 | 156 | II B04q | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.18 | | | |
| C3 | 157 | II B04q | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.16 | | | |
| C3 | 158 * | | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | | | | |
| C3 | 159 | II B04q | 10YR3/2 黒褐色 | シ 少 | ○ ○ ○ | 70.31 | | | |
| C3 | 160 | II B04q | 10YR3/3 喙褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.33 | | | |
| C3 | 161 | II B04q | 10YR3/3 喙褐色 | シ 多 | - ○ ○ | 70.39 | | | |
| C3 | 162 | II B04q | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.24 | | | |
| C3 | 163 | II B04q | 10YR3/2 黒褐色 | シ 少 | ○ ○ ○ | 70.13 | | | |
| C3 | 164 | II B04q | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.16 | | | |
| C3 | 165 * | | 10YR3/3 喙褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | | | | |
| C3 | 166 * | | | | | | | | |
| C3 | 167 * | | | | | | | | |
| C3 | 168 * | | | | | | | | |
| C3 | 169 * | | | | | | | | |
| C3 | 170 * | | | | | | | | |
| C3 | 171 * | | | | | | | | |
| C3 | 172 * | | | | | | | | |
| C3 | 173 * | | | | | | | | |
| C3 | 174 * | | | | | | | | |
| C3 | 175 * | | | | | | | | |
| C3 | 176 * | | | | | | | | |
| C3 | 177 * | | | | | | | | |
| C3 | 178 * | | | | | | | | |
| C3 | 179 * | | | | | | | | |
| C3 | 180 * | | | | | | | | |
| C3 | 181 * | | | | | | | | |
| C3 | 182 * | | | | | | | | |
| C3 | 183 * | | | | | | | | |
| C3 | 184 * | | | | | | | | |
| C3 | 185 * | | | | | | | | |
| C3 | 186 * | | | | | | | | |
| C3 | 187 * | | | | | | | | |
| C3 | 188 * | | | | | | | | |
| C3 | 189 * | | | | | | | | |
| C3 | 190 * | | | | | | | | |
| C3 | 191 * | | | | | | | | |
| C3 | 192 * | | | | | | | | |
| C3 | 193 * | | | | | | | | |
| C3 | 194 * | | | | | | | | |
| C3 | 195 * | | | | | | | | |
| C3 | 196 * | | | | | | | | |
| C3 | 197 * | | | | | | | | |
| C3 | 198 * | | | | | | | | |
| C3 | 199 * | | | | | | | | |
| C3 | 200 * | | | | | | | | |
| C3 | 201 | II B03r | 10YR4/3 にじい・黄褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.60 | | | |
| C3 | 202 | II B03r | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.53 | | | |
| C3 | 203 | II B03r | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.44 | | | |
| C3 | 204 | II B03r | 7.5YR4/2 灰褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.49 | 植物跡19 | | |
| C3 | 205 | II B03r | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.60 | | | |
| C3 | 206 | II B03r | 10YR3/2 黒褐色 | シ 少 | ○ ○ ○ | 70.53 | | | |
| C3 | 207 | II B03r | 10YR3/3 喙褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.59 | | | |
| C3 | 208 | II B03r | 10YR3/2 黒褐色 | シ 少 | ○ ○ ○ | | | | |
| C3 | 209 | II B03r | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.71 | 植物跡22 | | |
| C3 | 210 | II B04r | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.04 | | | |
| C3 | 211 | II B04r | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.32 | | | |
| C3 | 212 | II B04r | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.20 | | | |
| C3 | 213 | II B04r | 10YR3/3 喙褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.52 | | | |
| C3 | 214 | II B04r | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.12 | | | |
| C3 | 215 | II B04r | 10YR3/2 黒褐色 | シ 多 | ○ ○ ○ | 70.10 | | | |

| 区 | No | 位 潜 | 割り方埋土主体土 色 調 | 混 入 物 | 底 面 レベル | 堆積過程 | 出土遺物 | | | 備 考 |
|----|-----|---------|-----------------|-------------|------------|-------|--------|---------------|----|-----|
| | | | | | | | 種別 | 図版 | 写真 | |
| C3 | 472 | II C01a | 10YR4/6 棕褐色 | シ 少 | 堆 級 | 72.48 | | | | |
| C3 | 473 | II C01b | 10YR4/5 棕褐色 | シ 少 | — 微 | 72.46 | | | | |
| C3 | 474 | II C01b | 10YR3/4 喧褐色 | シ 少 | 微 | 72.39 | | | | |
| C3 | 475 | II C01b | 10YR3/4 喧褐色 | シ 微 | 微 | 72.61 | | | | |
| C3 | 476 | II C01b | 10YR3/4 喧褐色 | シ 少 | 微 | 72.59 | | | | |
| C3 | 477 | II C01b | 10YR3/4 喧褐色 | シ 少 | 微 少 | 72.58 | | | | |
| C3 | 478 | II C01b | 10YR3/4 喧褐色 | シ 微 | — 微 | 72.49 | | | | |
| C3 | 479 | II C01b | 10YR4/4 棕褐色 | シ 少 | — 微 | 72.41 | | | | |
| C3 | 480 | II C01b | 10YR4/4 棕褐色 | シ 少 | 微 | 72.44 | | | | |
| C3 | 481 | II C02b | 10YR4/6 棕褐色 | シ 中 | — 級 | 72.40 | | | | |
| C3 | 482 | II C02b | 10YR4/6 棕褐色 | シ 少 | 微 | 72.29 | | | | |
| C3 | 483 | II C02b | 10YR4/6 棕褐色 | シ 少 | 微 | 72.23 | | | | |
| C3 | 484 | II C02b | 10YR4/4 棕褐色 | シ 多 | — 微 | 72.31 | | | | |
| C3 | 485 | II C02b | 10YR4/6 棕褐色 | シ 少 | — 微 | 72.30 | | | | |
| C3 | 486 | II C02b | 10YR4/6 棕褐色 | シ 少 | — 微 | 72.19 | | | | |
| C3 | 487 | II C02b | 10YR4/4 棕褐色 | シ 少 | 微 | 72.13 | | | | |
| C3 | 488 | II C02b | 10YR4/6 棕褐色 | シ 少 | 微 | | | | | |
| C3 | 489 | II C04c | 10YR3/4 喧褐色 | シ 多 | 微 | | | | | |
| C3 | 490 | II C04c | 10YR3/4 喧褐色 | シ 中 | 微 | 70.60 | | | | |
| C3 | 491 | II C04c | 10YR4/4 棕褐色 | シ 多 | — 二級 | 70.60 | | | | |
| C3 | 492 | II C04c | 10YR4/3 にじく黄褐色 | シ 少 | 微 | 70.91 | | | | |
| C3 | 493 | II C04c | 10YR3/3 喧褐色 | シ 中 | 微 | 70.86 | | | | |
| C3 | 494 | II C04c | 10YR3/3 喧褐色 | シ 中 | 微 | 70.71 | 建物跡30 | 土器 CK-138-139 | 54 | |
| C3 | 495 | * | 10YR3/3 喧褐色 | シ 中 | 微 | | | | | |
| C3 | 496 | II C04c | 10YR3/3 喧褐色 | シ 多 | — 二級 | 71.08 | | | | |
| C3 | 497 | II C04c | 10YR3/3 喧褐色 | シ 多 | 微 | 71.27 | | | | |
| C3 | 498 | II C04c | 10YR3/3 喧褐色 | シ 中 | 微 | 70.91 | 建物跡30 | 土器 CK-141~143 | 54 | |
| C3 | 499 | II C04c | 10YR3/3 喧褐色 | シ 多 少 | 重 | 70.77 | | | | |
| C3 | 500 | II C04c | 10YR3/2 喧褐色 | シ 少 | — 微 | 71.39 | | | | |
| C3 | 501 | II C04c | 10YR4/2 灰黄褐色 | シ 多 ○ ○ | ○ ○ | 71.15 | | | | |
| C3 | 502 | II C04c | 10YR4/2 灰黄褐色 | シ 少 ○ ○ | ○ ○ | 71.41 | | | | |
| C3 | 503 | II C03c | 10YR4/2 反覆褐色 | シ 多 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.23 | 建物跡5ab | 土器 CK-145 | 54 | |
| C3 | 504 | II C03c | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.56 | | | | |
| C3 | 505 | II C03c | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.71 | | | | |
| C3 | 506 | II C03c | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 70.83 | | | | |
| C3 | 507 | II C05d | 10YR2/1 黑褐色 | シ 多 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.05 | | | | |
| C3 | 508 | II C04c | 10YR3/1 黑褐色 | シ 多 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.06 | | | | |
| C3 | 509 | II C04d | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.09 | | | | |
| C3 | 510 | II C04d | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 70.68 | 建物跡3 | 土器 | | |
| C3 | 511 | II C04d | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 70.92 | | | | |
| C3 | 512 | II C04d | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 70.85 | 建物跡30 | 土器 | | |
| C3 | 513 | II C04d | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 70.74 | | | | |
| C3 | 514 | II C04d | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 70.75 | 建物跡3 | 土器 | | |
| C3 | 515 | II C04d | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.14 | | | | |
| C3 | 516 | II C04d | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.35 | | | | |
| C3 | 517 | II C05e | 10YR4/2 反覆褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 70.88 | 建物跡3 | 土器 CK-147 | 54 | |
| C3 | 518 | II C05e | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 70.94 | | | | |
| C3 | 519 | II C05e | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 70.87 | | | | |
| C3 | 520 | II C04d | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.00 | | | | |
| C3 | 521 | II C04d | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.07 | | | | |
| C3 | 522 | II C04d | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.07 | | | | |
| C3 | 523 | II C04d | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 70.96 | | | | |
| C3 | 524 | II C04d | 10YR4/2 反覆褐色 | シ 多 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.12 | | | | |
| C3 | 525 | II C04d | 10YR4/2 反覆褐色 | シ 多 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.14 | | | | |
| C3 | 526 | II C04d | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.14 | | | | |
| C3 | 527 | II C04d | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.06 | | | | |
| C3 | 528 | II C04d | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 70.94 | | | | |
| C3 | 529 | II C04d | 10YR4/2 反覆褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.07 | | | | |
| C3 | 530 | II C04d | 10YR4/2 反覆褐色 | シ 多 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.07 | | | | |
| C3 | 531 | II C04d | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 71.17 | | | | |
| C3 | 532 | II C04d | 10YR4/2 反覆褐色 | シ 少 ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 70.30 | | | | |
| C3 | 533 | II C04d | 10YR3/2 帯褐色 | シ 少 微 | 微 | 71.01 | | | | |
| C3 | 534 | II C04d | 10YR4/3 にじく黄褐色 | シ 多 — — | — — | 71.01 | | | | |
| C3 | 535 | II C04d | 10YR3/3 帯褐色 | シ 中 微 | 微 | 71.13 | | | | |

| 区 | No | 位置 | 掘り方堆土主体土 | | 混入物 | | | 底面 レベル | 帰属遺構 | 出土遺物 | | 備考 |
|----|-----|---------|----------|--------|-------|-----|---|-----------|-------|---------|----|----|
| | | | 色調 | 土質 | 地山ogn | 出土量 | 炭 | | | 種別 | 図版 | |
| C3 | 536 | II C04d | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 多 | 微 | 微 | 70.78 | 建物跡20 | | |
| C3 | 537 | II C04d | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 多 | 微 | 微 | 71.25 | | | |
| C3 | 538 | II C03c | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 少 | 微 | 微 | 71.34 | | | |
| C3 | 539 | II C04d | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 多 | 微 | 微 | 71.32 | | | |
| C3 | 540 | II C04d | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | — | 微 | 71.44 | | | |
| C3 | 541 | II C04d | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 中 | 微 | 微 | 71.21 | | | |
| C3 | 542 | II C04e | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 多 | 少 | 少 | 70.86 | | | |
| C3 | 543 | II C04e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 多 | 微 | 微 | 71.07 | | | |
| C3 | 544 | II C05e | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 多 | 微 | 微 | 70.91 | | | |
| C3 | 545 | II C04e | 10YR4/4 | 褐褐色 | シ | 多 | 微 | — | 70.95 | 建物跡3 | | |
| C3 | 546 | II C04e | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 少 | 微 | 微 | 71.14 | | | |
| C3 | 547 | II C05e | 10YR4/3 | にじく黄褐色 | シ | 中 | — | 微 | 71.04 | | | |
| C3 | 548 | II C04e | 10YR4/4 | にじく黄褐色 | シ | 多 | 微 | 微 | 71.06 | | | |
| C3 | 549 | II C04e | 10YR4/3 | にじく黄褐色 | シ | 多 | — | 微 | 71.28 | | | |
| C3 | 550 | II C04e | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 微 | 微 | 微 | 71.22 | | | |
| C3 | 551 | II C04e | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 71.12 | | | |
| C3 | 552 | II C04e | 10YR4/3 | にじく黄褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 71.36 | | | |
| C3 | 553 | II C04e | 10YR4/3 | にじく黄褐色 | シ | 少 | ○ | ○ | 71.22 | | | |
| C3 | 554 | II C04d | 10YR3/2 | 黑褐色 | シ | 少 | ○ | ○ | 71.22 | | | |
| C3 | 555 | II C04d | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 71.31 | | | |
| C3 | 556 | II C04d | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 71.25 | | | |
| C3 | 557 | II C04e | 10YR3/2 | 黑褐色 | シ | 少 | ○ | ○ | 71.26 | | | |
| C3 | 558 | II C04d | 10YR3/2 | 黑褐色 | シ | 少 | ○ | ○ | 71.25 | | | |
| C3 | 559 | * | 10YR3/2 | 黑褐色 | シ | 少 | ○ | ○ | — | | | |
| C3 | 560 | II C03d | 10YR3/2 | 黑褐色 | シ | 少 | ○ | ○ | 71.31 | | | |
| C3 | 561 | II C03d | 10YR3/2 | 黑褐色 | シ | 少 | ○ | ○ | 71.80 | | | |
| C3 | 562 | II C03d | 10YR3/3 | 黑褐色 | シ | 少 | ○ | ○ | 71.32 | 建物跡3 | | |
| C3 | 563 | II C03d | 10YR3/2 | 黑褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 71.32 | | | |
| C3 | 564 | * | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 71.32 | | | |
| C3 | 565 | II C03d | 10YR3/2 | 黑褐色 | シ | 少 | ○ | ○ | 71.67 | | | |
| C3 | 566 | II C03d | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 71.33 | 建物跡4 a | | |
| C3 | 567 | II C03d | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 71.78 | | | |
| C3 | 568 | II C03d | 10YR3/2 | 黑褐色 | シ | 少 | ○ | ○ | 71.90 | | | |
| C3 | 569 | II C03d | 10YR3/2 | 黑褐色 | シ | 少 | ○ | ○ | 71.90 | | | |
| C3 | 570 | II C03d | 10YR3/2 | 黑褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 71.80 | 建物跡4 c | | |
| C3 | 571 | II C02e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 少 | — | — | 72.10 | 建物跡5 a | | |
| C3 | 572 | II C02e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 少 | — | 微 | 72.05 | 建物跡5 b | | |
| C3 | 573 | II C02e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | 微 | 少 | 72.00 | | | |
| C3 | 574 | II C02e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 少 | 微 | — | 72.05 | | | |
| C3 | 575 | II C02e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 少 | 微 | 微 | 72.12 | 建物跡5 a | | |
| C3 | 576 | II C05e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 多 | — | 微 | — | | | |
| C3 | 577 | II C05e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 多 | — | 微 | 71.10 | | | |
| C3 | 578 | II C04e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 多 | — | 微 | 70.95 | | | |
| C3 | 579 | II C04e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 少 | — | 微 | 71.23 | | | |
| C3 | 580 | II C04e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 多 | — | 微 | 71.28 | | | |
| C3 | 581 | II C04e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 少 | — | — | 71.29 | | | |
| C3 | 582 | II C04e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 多 | — | 微 | 71.22 | | | |
| C3 | 583 | II C04e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 少 | — | 微 | 71.44 | | | |
| C3 | 584 | II C04e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 少 | — | — | 71.43 | | | |
| C3 | 585 | II C04e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 強 | 微 | 微 | 71.34 | 建物跡3 | | |
| C3 | 586 | II C04e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | 微 | — | 71.48 | | | |
| C3 | 587 | II C03e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 多 | 微 | 微 | 71.59 | | | |
| C3 | 588 | II C03e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 多 | 微 | 微 | 71.64 | | | |
| C3 | 589 | II C03e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | 微 | 微 | 71.67 | 建物跡4 a | | |
| C3 | 590 | II C03e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 多 | 微 | 微 | 71.77 | | | |
| C3 | 591 | II C03e | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 少 | 微 | 微 | 71.57 | 建物跡4 b | | |
| C3 | 592 | II C03e | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 少 | 微 | 微 | 71.94 | | | |
| C3 | 593 | II C03e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 多 | 微 | 微 | 72.04 | 建物跡4 a | | |
| C3 | 594 | II C03e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 多 | 微 | 微 | 71.98 | | | |
| C3 | 595 | II C02e | 10YR4/3 | にじく黄褐色 | シ | 中 | 微 | 微 | 71.83 | 建物跡4 c | | |
| C3 | 596 | II C02e | 10YR4/3 | にじく黄褐色 | シ | 多 | 微 | 微 | 71.87 | 建物跡4 ab | | |
| C3 | 597 | II C02e | 10YR4/3 | にじく黄褐色 | シ | 多 | 微 | 微 | 72.17 | | | |
| C3 | 598 | II C03d | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | 微 | 微 | 72.03 | 建物跡4 b | | |
| C3 | 599 | II C03d | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 少 | 微 | 微 | 71.96 | 建物跡4 a | | |

| 区 | No. | 位 置 | 探り方埋土主体土 | | 温 入 物 | 底 面 レベル | 帰属地層 | 出土遺物 | | | 備 考 |
|----|-----|---------|----------|--------|-------|------------|------|------|-------|---------|--------|
| | | | 色 | 調 | | | | 土質 | 地図コード | 出土量 | |
| C3 | 600 | II C02e | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 多 | 黒 | 微 | 71.41 | 建物跡 3 | |
| C3 | 601 | II C02e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | 黒 | - | 71.72 | | |
| C3 | 602 | II C02e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 中 | 黒 | - | 71.72 | 建物跡 4 c | |
| C3 | 603 | II C02e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | 黒 | - | 71.64 | 建物跡 4 b | |
| C3 | 604 | II C02e | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 多 | 黒 | - | 71.30 | 建物跡 4 a | |
| C3 | 605 | II C02d | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 幾 | 黒 | 微 | | | |
| C3 | 606 | II C02e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 中 | 黒 | 微 | 71.34 | 建物跡 3 | |
| C3 | 607 | II C02e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 多 | 黒 | 微 | 71.33 | 土器 | CK-159 |
| C3 | 608 | II C02e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 多 | 黒 | 微 | 71.67 | | |
| C3 | 609 | II C02e | 10YR3/2 | 黒褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | | 建物跡 19 | |
| C3 | 610 | II C01e | 10YR3/2 | 黒褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 72.72 | 建物跡 19 | |
| C3 | 611 | II C01e | 10YR3/2 | 黒褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 72.78 | | |
| C3 | 612 | II C01d | 10YR3/2 | 黒褐色 | シ | 少 | ○ | ○ | 72.78 | | |
| C3 | 613 | II C01d | 10YR3/2 | 黒褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 72.79 | | |
| C3 | 614 | II C01d | 10YR3/2 | 黒褐色 | シ | 少 | ○ | ○ | 72.84 | 建物跡 19 | |
| C3 | 615 | II C01d | 10YR3/2 | 黒褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 73.12 | | |
| C3 | 616 | I C20e | 10YR3/2 | 黒褐色 | シ | 少 | - | ○ | 73.41 | | |
| C3 | 617 | I C20e | 10YR4/2 | 灰褐色 | シ | 少 | - | ○ | 73.43 | | |
| C3 | 618 | I C20e | 10YR4/2 | 灰褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 73.55 | | |
| C3 | 619 | I C17d | 10YR3/2 | 黒褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 74.95 | | |
| C3 | 620 | I C17d | 10YR3/2 | 黒褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 75.14 | | |
| C3 | 621 | I C17c | 10YR3/2 | 黒褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 75.35 | | |
| C3 | 622 | I C17c | 10YR3/2 | 黒褐色 | シ | 多 | ○ | ○ | 75.39 | | |
| C3 | 623 | I C17d | 10YR3/1 | 黒褐色 | シ | 少 | ○ | ○ | 75.32 | | |
| C3 | 624 | I C16d | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 少 | 黒 | 微 | 75.90 | | |
| C3 | 625 | I C16d | 10YR4/4 | にじく黄褐色 | シ | 多 | - | 黒 | 75.34 | | |
| C3 | 626 | I C16d | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 多 | 黒 | 微 | 76.00 | | |
| C3 | 627 | I C16d | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | - | 黒 | 微 | 75.82 | | |
| C3 | 628 | I C17d | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 微 | 黒 | 微 | 76.84 | | CK-163 |
| C3 | 629 | I C16e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 微 | 黒 | 微 | 76.84 | | 55 |
| C3 | 630 | I C16e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | - | 黒 | 76.14 | | |
| C3 | 631 | I C16e | 10YR4/3 | にじく黄褐色 | シ | 少 | 黒 | 微 | 76.06 | | |
| C3 | 632 | I C16e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 少 | 黒 | 微 | 76.36 | | |
| C3 | 633 | I C16e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | 黒 | 微 | 76.19 | | |
| C3 | 634 | I C16e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 多 | - | 黒 | 76.40 | | |
| C3 | 635 | I C16e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 多 | - | 黒 | 76.40 | | |
| C3 | 636 | I C16e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | - | 黒 | 76.37 | | |
| C3 | 637 | I C16e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 多 | 黒 | 微 | 76.58 | | |
| C3 | 638 | I C16e | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 少 | 黒 | 微 | 76.74 | | |
| C3 | 639 | I C17e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 中 | 黒 | 微 | 75.85 | | |
| C3 | 640 | I C17e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 多 | 黒 | 微 | 75.81 | | |
| C3 | 641 | I C17e | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 少 | - | 黒 | 74.99 | | |
| C3 | 642 | I C17d | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 中 | 黒 | 微 | 75.00 | | |
| C3 | 643 | I C18d | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 中 | 黒 | 微 | 74.87 | | |
| C3 | 644 | I C18e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | - | 黒 | 74.87 | | |
| C3 | 645 | I C18e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | - | 黒 | 74.87 | | |
| C3 | 646 | I C18e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 中 | - | - | 74.97 | | |
| C3 | 647 | I C18e | 10YR4/4 | にじく黄褐色 | シ | 少 | 黒 | 微 | 74.64 | 建物跡 2 | |
| C3 | 648 | I C17f | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 黒 | 微 | 74.79 | 建物跡 2 | |
| C3 | 649 | I C19e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | - | 黒 | 微 | 73.71 | 建物跡 2 | |
| C3 | 650 | I C19e | 10YR4/3 | にじく黄褐色 | シ | 少 | 黒 | 微 | 73.98 | | |
| C3 | 651 | I C19f | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 少 | 黒 | 微 | 73.61 | 建物跡 2 | |
| C3 | 652 | I C19f | 10YR4/4 | にじく黄褐色 | シ | 多 | 黒 | 微 | 73.73 | | |
| C3 | 653 | I C18e | 10YR4/3 | にじく黄褐色 | シ | - | 黒 | 微 | 75.76 | | |
| C3 | 654 | I C18e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | - | 黒 | 微 | 75.77 | | |
| C3 | 655 | II C03d | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 多 | - | 黒 | 71.56 | | |
| C3 | 656 | II C03d | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 多 | 黒 | 微 | 71.57 | | |
| C3 | 657 | II C03d | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | 黒 | 微 | 71.72 | | |
| C3 | 658 | I C15c | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | - | 黒 | 76.74 | | |
| C3 | 659 | I C15c | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 多 | - | 黒 | 76.85 | | |
| C3 | 660 | I C15d | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 微 | - | 黒 | 76.83 | | |
| C3 | 661 | I C18e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 多 | - | 黒 | 74.50 | | |
| C3 | 662 | I C15d | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | - | 黒 | 76.59 | | |
| C3 | 663 | I C15d | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | - | 黒 | 76.76 | | |

| 区 | 年 | 位 置 | 掘り方埋土主体土色 | 混 入 物 | 底 面 レベル | 場所造構 | 出土遺物 | | | 備 考 | |
|----|-----|--------|----------------|-------|---------|------|-------|------|----------|------------|----|
| | | | | | | | 種別 | 図版 | 写真 | | |
| C3 | 664 | I C15d | 10YR3/4 喙褐色 | シ 多 | - | - | 76.85 | | | | |
| C3 | 665 | I C15d | 10YR3/4 喙褐色 | シ 中 | - | - | 76.82 | | | | |
| C3 | 666 | I C15d | 10YR3/4 喙褐色 | シ 少 | - | 微 | 76.82 | | | | |
| C3 | 667 | I C15d | 10YR3/4 喙褐色 | シ 少 | - | - | 76.85 | | | | |
| C3 | 668 | I C15d | 10YR3/4 喙褐色 | シ 微 | 微 | - | 76.89 | | | | |
| C3 | 669 | I C15d | 10YR3/4 喙褐色 | シ 微 | - | - | 76.88 | | | | |
| C3 | 670 | I C15d | 10YR2/3 黒褐色 | シ 少 | - | 微 | 76.86 | | | | |
| C3 | 671 | I C15d | 10YR4/4 棕褐色 | シ 微 | - | - | 76.97 | | | | |
| C3 | 672 | I C15d | 10YR4/3 にじむ黄褐色 | シ 少 | - | 微 | 76.94 | | | | |
| C3 | 673 | I C15e | 10YR3/4 喙褐色 | シ 一 | - | - | 76.92 | | | | |
| C3 | 674 | I C15e | 10YR4/3 にじむ黄褐色 | シ 微 | - | 微 | | | | | |
| C3 | 675 | I C15e | 10YR3/4 喙褐色 | シ 少 | - | 微 | 77.06 | | | | |
| C3 | 676 | I C15e | 10YR3/4 喙褐色 | シ 中 | - | - | 77.01 | | | | |
| C3 | 677 | I C15e | 10YR3/4 喙褐色 | シ 中 | 微 | 微 | 77.09 | | | | |
| C3 | 678 | I C15e | 10YR3/4 喙褐色 | シ 少 | 微 | 微 | 77.05 | 土器 | CK-165 | 55 | |
| C3 | 679 | I C15e | 10YR3/4 喙褐色 | シ 少 | - | 微 | 77.41 | 土器 | CK-166 | 55 | |
| C3 | 680 | I C15e | 10YR3/4 喙褐色 | シ 少 | 微 | 微 | 77.06 | 土器 | | | |
| C3 | 681 | I C15e | 10YR3/4 喙褐色 | シ 少 | 微 | 微 | 77.32 | 土器 | | | |
| C3 | 682 | I C15e | 10YR3/4 喙褐色 | シ 中 | - | - | 77.15 | 土器 | | | |
| C3 | 683 | I C15e | 10YR3/4 喙褐色 | シ 多 | 微 | 微 | 77.46 | 土器 | | | |
| C3 | 684 | I C14e | 10YR3/3 喙褐色 | シ 少 | 微 | 微 | 77.53 | 土器 | CK-167 | 55 | |
| C3 | 685 | ■ | 10YR3/4 喙褐色 | シ 敷 | - | 微 | | | | | |
| C3 | 686 | I C14f | 10YR3/2 黒褐色 | シ 少 | - | ○ | 77.99 | | | | |
| C3 | 687 | I C14e | 10YR3/2 黒褐色 | シ 少 | ○ | ○ | 78.26 | | | | |
| C3 | 688 | I C15e | 10YR3/1 黒褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 76.88 | | | | |
| C3 | 689 | I C16e | 10YR3/3 喙褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 76.54 | | | | |
| C3 | 690 | I C16e | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 76.33 | | | | |
| C3 | 691 | I C16e | 10YR3/1 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 76.09 | | | | |
| C3 | 692 | I C16e | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 | ○ | ○ | 76.24 | 土器 | | | |
| C3 | 693 | I C16e | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 | ○ | ○ | 76.57 | | | | |
| C3 | 694 | I C16e | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 76.36 | | | | |
| C3 | 695 | I C16e | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 76.41 | | | | |
| C3 | 696 | I C16e | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 76.40 | | | | |
| C3 | 697 | I C16e | 10YR3/1 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 76.24 | 土器 | | | |
| C3 | 698 | I C16e | 10YR3/3 喙褐色 | シ 少 | ○ | ○ | 76.27 | 土器 | CK-168+9 | 55 | |
| C3 | 699 | I C16e | 10YR3/3 喙褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 76.10 | | | | |
| C3 | 700 | I C16e | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 76.97 | | | | |
| C3 | 701 | I C17e | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 75.43 | | | | |
| C3 | 702 | I C17g | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 75.65 | 土器 | | | |
| C3 | 703 | I C17g | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 75.25 | | | | |
| C3 | 704 | I C17g | 10YR3/3 喙褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 75.27 | | | | |
| C3 | 705 | I C18b | 10YR3/3 喙褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 75.30 | | | | |
| C3 | 706 | I C18b | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 74.95 | | | | |
| C3 | 707 | I C18b | 10YR3/3 喙褐色 | シ 少 | ○ | ○ | 74.77 | | | | |
| C3 | 708 | I C18b | 10YR4/3 にじむ黄褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 74.74 | 土器 | | | |
| C3 | 709 | I C18b | 10YR4/3 にじむ黄褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 74.81 | | | | |
| C3 | 710 | I C18b | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 74.67 | | | | |
| C3 | 711 | I C18b | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 | ○ | ○ | 74.80 | | | | |
| C3 | 712 | I C18b | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 74.69 | | | | |
| C3 | 713 | I C18b | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | | | | | |
| C3 | 714 | I C18b | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 74.66 | | | | |
| C3 | 715 | I C18b | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 74.45 | 建物跡1 | | | |
| C3 | 716 | I C18b | 10YR4/3 にじむ黄褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 74.31 | 建物跡1 | | | |
| C3 | 717 | I C18b | 10YR3/3 喙褐色 | シ 少 | ○ | ○ | 74.24 | 建物跡1 | | | |
| C3 | 718 | I C18b | 10YR3/3 喙褐色 | シ 多 | ○ | ○ | | 建物跡1 | 土器 | CK-170+171 | 55 |
| C3 | 719 | I C19b | 10YR3/3 喙褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 73.64 | 建物跡1 | 土器 | CK-172 | 55 |
| C3 | 720 | I C19b | 10YR4/2 灰黃褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 73.73 | 建物跡1 | | | |
| C3 | 721 | I C19b | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | | 建物跡1 | 土器 | | |
| C3 | 722 | I C19b | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 74.08 | 建物跡1 | 土器 | | |
| C3 | 723 | I C19b | 10YR3/2 黑褐色 | シ 少 | ○ | ○ | 74.12 | 建物跡1 | | | |
| C3 | 724 | I C19b | 10YR4/2 灰黃褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 73.62 | 建物跡1 | | CK-173 | 55 |
| C3 | 725 | I C19b | 10YR4/2 灰黃褐色 | シ 多 | ○ | ○ | | 建物跡1 | 土器 | | |
| C3 | 726 | I C19b | 10YR3/3 喙褐色 | シ 少 | ○ | ○ | 74.04 | 建物跡1 | | | |
| C3 | 727 | I C19g | 10YR3/2 黑褐色 | シ 多 | ○ | ○ | 73.33 | 建物跡1 | 土器 | | |

| 区 | No | 位 置 | 掘り方理土主体土 | | 混 入 物 | | | 底 面 レベル | 埋 土 造 構 | 出土遺物 | | | 備 考 |
|----|-----|---------|-------------|----|--------|-----|---|------------|---------|------|----|----|-----|
| | | | 色 調 | 土質 | 地山ブロック | 重土塊 | 炭 | | | 種別 | 図版 | 写真 | |
| C3 | 792 | I C19e | 10YR5/6 黄褐色 | シ | - | 微 | 微 | 73.90 | | | | | |
| C3 | 793 | I C19e | 10YR4/4 棕褐色 | シ | 多 | - | - | 73.94 | | | | | |
| C3 | 794 | I C19e | 10YR3/4 暗褐色 | シ | 多 | 微 | 微 | 73.84 | | | | | |
| C3 | 795 | I C19e | 10YR4/4 棕褐色 | シ | 微 | 微 | 微 | 73.85 | | | | | |
| C3 | 796 | I C19e | 10YR3/4 暗褐色 | シ | 少 | 微 | 微 | 73.83 | | | | | |
| C3 | 797 | II C04d | 10YR2/3 暗褐色 | シ | 少 | 微 | ○ | 71.04 | | | | | |
| C3 | 798 | II C04d | 10YR2/3 暗褐色 | シ | 少 | - | ○ | 71.05 | | | | | |
| C3 | 799 | II C04d | 10YR4/6 棕褐色 | シ | 多 | - | 微 | 70.93 | | | | | |
| C3 | 800 | II C04d | 10YR4/4 棕褐色 | シ | 微 | - | - | 71.18 | | | | | |
| C3 | 801 | II C04d | 10YR3/4 暗褐色 | シ | 微 | - | 少 | 71.24 | | | | | |
| C3 | 802 | I C16d | 10YR3/3 黒褐色 | シ | 少 | ○ | ○ | 72.74 | | | | | |
| C3 | 803 | I C19g | | | | | | 73.10 | 建物跡 1 | 土器 | | | |
| C3 | 804 | I C19g | | | | | | 73.21 | 建物跡 1 | 土器 | | | |
| C3 | 805 | I C19g | | | | | | 73.52 | 建物跡 1 | | | | |
| C3 | 806 | * | 10YR3/4 暗褐色 | シ | 少 | 微 | 微 | | | | | | |
| C3 | 807 | * | 10YR4/6 棕褐色 | シ | 微 | - | 微 | | | | | | |
| C3 | 808 | * | 10YR3/4 暗褐色 | シ | 微 | - | 微 | | | | | | |
| C3 | 809 | * | | | | | | | | | | | |
| C3 | 810 | * | | | | | | | | | | | |
| C3 | 901 | II B04q | | | | | | 70.21 | | | | | |
| C3 | 902 | II B04q | | | | | | | | | | | |
| C3 | 903 | II B04q | | | | | | 70.25 | | | | | |
| C3 | 904 | II B02r | | | | | | 70.90 | | | | | |
| C3 | 905 | II B03r | | | | | | 70.53 | | | | | |
| C3 | 906 | II B03r | | | | | | 70.55 | | | | | |
| C3 | 907 | II B04r | | | | | | 70.52 | | | | | |
| C3 | 908 | II B04r | | | | | | 70.21 | | | | | |
| C3 | 909 | II B04r | | | | | | 70.21 | 建物跡 23 | | | | |
| C3 | 910 | II B04r | | | | | | 70.26 | | | | | |
| C3 | 911 | II B03e | | | | | | 70.96 | | | | | |
| C3 | 912 | II B03e | | | | | | 70.16 | 建物跡 22 | | | | |
| C3 | 913 | II B03e | | | | | | 71.09 | | | | | |
| C3 | 914 | II B03e | | | | | | | | | | | |
| C3 | 915 | II B04e | | | | | | 70.66 | | | | | |
| C3 | 916 | II B04e | | | | | | 70.49 | | | | | |
| C3 | 917 | II B04e | | | | | | 70.20 | | | | | |
| C3 | 918 | II B04s | | | | | | 70.47 | | | | | |
| C3 | 919 | II B04s | | | | | | 70.39 | | | | | |
| C3 | 920 | II B05e | | | | | | 70.22 | | | | | |
| C3 | 921 | II B05e | | | | | | | | | | | |
| C3 | 922 | II B05e | | | | | | 70.23 | | | | | |
| C3 | 923 | II B05e | | | | | | | | | | | |
| C3 | 924 | I B20t | | | | | | 72.44 | | | | | |
| C3 | 925 | II B03t | | | | | | 71.21 | | | | | |
| C3 | 926 | II B03t | | | | | | 71.12 | | | | | |
| C3 | 927 | II B03t | | | | | | 70.93 | | | | | |
| C3 | 928 | II B03t | | | | | | 70.84 | 建物跡 21 | | | | |
| C3 | 929 | II B04t | | | | | | 70.65 | | | | | |
| C3 | 930 | II B04t | | | | | | 70.70 | | | | | |
| C3 | 931 | II B04t | | | | | | | | | | | |
| C3 | 932 | II B03e | | | | | | 70.50 | | | | | |
| C3 | 933 | II B04t | | | | | | | | | | | |
| C3 | 934 | II B04t | | | | | | 70.83 | | | | | |
| C3 | 935 | II B04t | | | | | | 70.53 | | | | | |
| C3 | 936 | II B04t | | | | | | 70.66 | | | | | |
| C3 | 937 | II B04t | | | | | | | | | | | |
| C3 | 938 | II B04t | | | | | | 70.73 | | | | | |
| C3 | 939 | II B05t | | | | | | 70.52 | | | | | |
| C3 | 940 | II B05t | | | | | | | | | | | |
| C3 | 941 | II B05t | | | | | | 70.43 | | | | | |
| C3 | 942 | II B05t | | | | | | 70.43 | | | | | |
| C3 | 943 | II B05t | | | | | | 70.58 | | | | | |
| C3 | 944 | II C01a | | | | | | 72.25 | | | | | |
| C3 | 945 | II C01a | | | | | | | | | | | |

| 区 | No | 位 置 | 掘り方埋土主体土 | | 混 人 物 | | 底 面 レベル | 帶属造物 | 出土遺物 | | | 考 |
|----|-----|--------|-------------|----|-------|----|------------|--------|-------------|----|----|---|
| | | | 色 | 調 | 土質 | 地質 | | | 種別 | 図版 | 写真 | |
| C3 | 946 | E C01a | | | | | | | | | | |
| C3 | 947 | E C01a | | | | | | | | | | |
| C3 | 948 | E C02a | | | | | | | | | | |
| C3 | 949 | E C03a | | | | | | 建物跡18 | | | | |
| C3 | 950 | E C03a | | | | | 71.45 | | | | | |
| C3 | 951 | E C04b | | | | | 71.07 | | | | | |
| C3 | 952 | E C01c | | | | | 70.94 | | | | | |
| C3 | 953 | E C02c | | | | | 72.42 | | | | | |
| C3 | 954 | E C03c | | | | | | | | | | |
| C3 | 955 | I C15d | | | | | 76.82 | | | | | |
| C3 | 956 | E C03d | | | | | 71.72 | 建物跡20 | | | | |
| C3 | 957 | E C03d | | | | | 71.78 | | | | | |
| C3 | 958 | E C03d | | | | | | | | | | |
| C3 | 959 | E C03d | | | | | 71.30 | | | | | |
| C3 | 960 | E C03d | | | | | 71.56 | | | | | |
| C3 | 961 | E C05d | | | | | 70.91 | | | | | |
| C3 | 962 | E C05d | | | | | | | | | | |
| C3 | 963 | I C15e | | | | | 76.94 | | | | | |
| C3 | 964 | I C18e | | | | | 74.30 | 建物跡 2 | | | | |
| C3 | 965 | I C18e | | | | | 74.41 | | | | | |
| C3 | 966 | I C19e | | | | | 73.97 | | | | | |
| C3 | 967 | E C02e | | | | | | | | | | |
| C3 | 968 | E C03e | | | | | | 建物跡 4c | | | | |
| C3 | 969 | E C03e | | | | | 71.36 | | | | | |
| C3 | 970 | I C19f | | | | | 74.10 | | | | | |
| C3 | 971 | I C18f | | | | | 74.20 | | | | | |
| C3 | 972 | I C18f | | | | | 74.22 | | | | | |
| C3 | 973 | I C19f | | | | | 73.76 | 建物跡 2 | | | | |
| C3 | 974 | I C19f | | | | | 73.71 | | | | | |
| C3 | 975 | I C19f | | | | | 73.68 | 建物跡 1 | | | | |
| C3 | 976 | I C19f | | | | | 73.68 | 建物跡 1 | | | | |
| C3 | 977 | I C19g | | | | | 73.45 | 建物跡 1 | | | | |
| C3 | 978 | I C20g | | | | | 73.51 | 建物跡 1 | | | | |
| C3 | 979 | I C20g | | | | | | 建物跡 1 | | | | |
| C3 | 980 | I C19f | | | | | 73.92 | 建物跡 1 | | | | |
| C3 | 981 | I C19g | | | | | | 建物跡 1 | | | | |
| C3 | 982 | I C18h | | | | | 74.63 | 建物跡 1 | | | | |
| C3 | 983 | I C18h | | | | | 74.43 | 建物跡 1 | | | | |
| C3 | 984 | I C19h | | | | | | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 1 | I C15h | | | | | | | 土器 | | | |
| C4 | 2 | I C18h | | | | | 79.55 | | 土器 | | | |
| C4 | 3 | I C15h | | | | | 78.99 | | 土器 | | | |
| C4 | 4 | I C14h | | | | | 78.54 | | 土器 | | | |
| C4 | 5 | I C14h | | | | | 78.40 | | 土器 | | | |
| C4 | 6 | I C18g | | | | | 79.04 | | | | | |
| C4 | 7 | I C14h | 10YR2/3 黒褐色 | シ | | | 78.76 | | | | | |
| C4 | 8 | I C14h | | | | | 78.30 | | 土器 | | | |
| C4 | 9 | I C14h | | | | | 78.47 | | 土器 | | | |
| C4 | 10 | I C14h | | | | | 78.71 | | 土器 | | | |
| C4 | 11 | I C14h | 10YR3/3 増褐色 | シ | | | 78.55 | | | | | |
| C4 | 12 | I C14h | 10YR3/3 増褐色 | シ | | | 78.30 | | | | | |
| C4 | 13 | I C14h | 10YR3/3 増褐色 | シ | | | 78.10 | | | | | |
| C4 | 14 | I C15h | 10YR3/3 増褐色 | シ | | | 78.10 | | | | | |
| C4 | 15 | I C15h | 10YR3/3 増褐色 | シ | | | 77.98 | | | | | |
| C4 | 16 | I C14i | 10YR3/3 増褐色 | シ | 少 | | 78.51 | | | | | |
| C4 | 17 | I C14i | | | | | 78.62 | | | | | |
| C4 | 18 | I C15j | | | | | 78.27 | | | | | |
| C4 | 19 | I C16h | 10YR4/4 棕色 | 粘シ | | | 75.93 | | | | | |
| C4 | 20 | I C15h | 10YR2/3 黑褐色 | シ | | | 77.11 | | | | | |
| C4 | 21 | I C16h | | | | | 76.94 | | | | | |
| C4 | 22 | I C16h | 10YR3/3 増褐色 | シ | 多 | | 77.04 | | | | | |
| C4 | 23 | I C16i | 10YR3/3 増褐色 | シ | 多 | | 77.01 | | | | | |
| C4 | 24 | I C16i | | | | | 77.03 | | | | | |
| C4 | 25 | I C15i | | | | | 78.73 | | 土器 CK-177~9 | 55 | | |

| 区 | No | 位 置 | 掘り方埋土主体土 | | 混 入 物 | 底 面 レベル | 母 質 遺 構 | 出土遺物 | | 備 考 |
|----|----|--------|----------|-----|-------|------------|---------|------|-------|----------------|
| | | | 色 | 調 | | | | 土質 | 地山ガラフ | |
| C4 | 26 | I C15j | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 77.26 | | | | |
| C4 | 27 | I C15j | 地山ブロック層 | 粘 | 大 | 77.36 | | | | 土器 |
| C4 | 28 | I C15j | 地山ブロック層 | 粘 | 大 | 77.70 | | | | |
| C4 | 29 | I C15j | 10YR5/6 | 黄褐色 | 粘シ | 77.05 | | | | 土器 |
| C4 | 30 | * | | | | | | | | |
| C4 | 31 | 欠 | | | | | | | | |
| C4 | 32 | I C16h | 地山ブロック層 | 粘 | 大 | 76.68 | | | | 土器 |
| C4 | 33 | I C16j | 地山ブロック層 | 粘 | 大 | 76.99 | | | | |
| C4 | 34 | I C16j | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 76.85 | | | | |
| C4 | 35 | 欠 | | | | | | | | |
| C4 | 36 | I C16j | 地山ブロック層 | 粘・砂 | 大 | 76.73 | | | | |
| C4 | 37 | I C16j | 地山ブロック層 | 粘・砂 | 大 | 76.65 | | | | |
| C4 | 38 | I C16j | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 76.62 | | | | 土器 |
| C4 | 39 | I C16j | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 76.19 | | | | |
| C4 | 40 | I C16j | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 76.16 | | | | |
| C4 | 41 | I C16j | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 76.15 | | | | |
| C4 | 42 | * | | | | | | | | |
| C4 | 43 | I C17h | | | | 75.98 | | | | |
| C4 | 44 | 欠 | | | | | | | | |
| C4 | 45 | I C17i | 10YR2/3 | 黒褐色 | シ | 少 | 75.91 | | | 土器 |
| C4 | 46 | I C17i | 10YR2/3 | 黒褐色 | シ | 少 | 75.81 | | | |
| C4 | 47 | I C17i | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | | 75.88 | | | |
| C4 | 48 | I C17i | 地山ブロック層 | 粘 | 大 | 75.93 | | | | |
| C4 | 49 | I C17i | 10YR4/4 | 褐色 | 粘シ | | 75.88 | | | |
| C4 | 50 | I C17j | 10YR2/3 | 黒褐色 | シ | 少 | 75.81 | | | |
| C4 | 51 | I C17j | | | | 75.65 | | | | 土器 |
| C4 | 52 | I C17j | | | | 75.36 | | | | |
| C4 | 53 | I C17j | 10YR2/3 | 黒褐色 | シ | 少 | 75.41 | | | |
| C4 | 54 | I C17j | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 少 | 75.28 | | | |
| C4 | 55 | I C17j | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 少 | 75.48 | | | |
| C4 | 56 | I C17j | | | | 75.65 | | | | |
| C4 | 57 | I C17j | 10YR2/3 | 黒褐色 | シ | 少 | 75.57 | | | |
| C4 | 58 | I C17j | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 少 | 75.50 | | | |
| C4 | 59 | I C17j | | | | 75.35 | | | | |
| C4 | 60 | I C17j | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | 75.24 | | | |
| C4 | 61 | I C17j | | | | 75.19 | | | | |
| C4 | 62 | I C17j | 地山ブロック層 | 粘 | 大 | 75.16 | | | | |
| C4 | 63 | I C17j | 10YR2/3 | 黒褐色 | シ | 少 | 75.43 | | | 土器 |
| C4 | 64 | I C17j | 10YR2/3 | 黒褐色 | シ | 少 | 75.49 | | | |
| C4 | 65 | * | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 無 | | | | |
| C4 | 66 | I C17j | 10YR2/3 | 黒褐色 | シ | 無 | 75.73 | | | |
| C4 | 67 | I C17j | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | | 75.68 | | | |
| C4 | 68 | I C17j | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 多 | 75.54 | | | |
| C4 | 69 | I C17j | | | | 75.28 | | | | |
| C4 | 70 | I C18j | 10YR2/3 | 黒褐色 | シ | 少 | 75.14 | | | |
| C4 | 71 | I C18j | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 無 | 75.99 | | | 土器 |
| C4 | 72 | I C16k | | | | 75.91 | | | | |
| C4 | 73 | I C17k | | | | 75.83 | | | | |
| C4 | 74 | I C17k | | | | 75.57 | | | | 土器 |
| C4 | 75 | I C17k | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 少 | 75.77 | | | |
| C4 | 76 | I C17k | | | | 75.72 | | | | 土器 |
| C4 | 77 | I C17k | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 無 | 75.40 | | | |
| C4 | 78 | I C17k | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 無 | 75.40 | | | |
| C4 | 79 | I C17k | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 無 | 75.40 | | | |
| C4 | 80 | I C18i | 10YR3/2 | 黒褐色 | シ | 少 | 75.04 | | | |
| C4 | 81 | I C18i | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 無 | 75.10 | | | |
| C4 | 82 | I C18i | 10YR4/4 | 褐色 | シ | | 74.64 | | | |
| C4 | 83 | I C18i | 10YR3/2 | 黒褐色 | シ | 無 | 74.56 | | | 土器 |
| C4 | 84 | I C18i | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 無 | 74.67 | | | |
| C4 | 85 | I C18i | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 無 | 74.80 | | | 土器 CK-180-1 55 |
| C4 | 86 | I C18i | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 無 | 74.67 | | | |
| C4 | 87 | I C18i | 10YR2/3 | 黒褐色 | シ | 無 | 74.84 | | | |
| C4 | 88 | I C18i | 10YR2/3 | 黒褐色 | シ | 少 | 74.88 | | | |
| C4 | 89 | I C18i | 10YR2/3 | 黒褐色 | シ | 少 | 74.90 | | | |

| 区 | Rn | 位 置 | 掘り方埋土主体土 | | 混 入 物 | | 底 面 レベ ル | 帰属造様 | 出土遺物 | | | 備 考 |
|----|-----|--------|-------------|----|-------|----|-------------|-------|---------------|-----|-----|-----|
| | | | 色 | 調 | 土質 | 物質 | | | 種別 | 回 反 | 写 真 | |
| C4 | 90 | I C18j | 10YR2/3 黒褐色 | シ | 少 | | 74.84 | | 土器 | | | |
| C4 | 91 | I C18j | 10YR3/3 喙褐色 | 砂シ | 微 | | 74.79 | | | | | |
| C4 | 92 | I C18j | 10YR2/3 喙褐色 | シ | | | 74.95 | | | | | |
| C4 | 93 | I C18j | 10YR2/3 黒褐色 | シ | | | 74.88 | | | | | |
| C4 | 94 | I C18j | 10YR3/3 喙褐色 | 砂シ | 微 | | 74.90 | | | | | |
| C4 | 95 | I C18j | 10YR2/3 黒褐色 | シ | | | 74.80 | | | | | |
| C4 | 96 | I C18j | 10YR2/3 黒褐色 | シ | 少 | | 74.69 | | | | | |
| C4 | 97 | I C18j | 10YR2/3 黒褐色 | シ | やや多 | | 74.88 | | | | | |
| C4 | 98 | I C18j | 10YR2/3 黒褐色 | シ | 少 | | 74.90 | | 土器 CK-182-3 | 55 | | |
| C4 | 99 | I C18j | 10YR2/3 黒褐色 | シ | 少 | | 74.90 | | 土器 | | | |
| C4 | 100 | 矢 | | | | | | | 土器 CK-183 | 55 | | |
| C4 | 101 | I C18j | 10YR2/3 黒褐色 | シ | 多 | | 74.95 | | | | | |
| C4 | 102 | * | | | | | | | | | | |
| C4 | 103 | * | 10YR2/3 黒褐色 | シ | 微 | | | | 土器 CK-184-185 | 55 | | |
| C4 | 104 | I C18j | | | | | 74.59 | | | | | |
| C4 | 105 | I C19i | | | | | 74.21 | | | | | |
| C4 | 106 | I C19b | | | | | 74.10 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 107 | I C19b | | | | | 73.61 | 建物跡 1 | 土器 | | | |
| C4 | 108 | I C13b | | | | | | | 土器 | | | |
| C4 | 109 | I C13i | | | | | 79.70 | | 土器 | | | |
| C4 | 110 | I C13i | | | | | 79.66 | | 土器 | | | |
| C4 | 111 | I C20g | | | | | 73.20 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 112 | I C20g | | | | | 73.22 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 113 | I C20g | | | | | 73.01 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 114 | I C20g | | | | | | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 115 | H C01g | | | | | 72.96 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 116 | H C01g | | | | | 72.93 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 117 | H C01g | 地山ブロック層 | 粘 | | | 72.97 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 118 | I C20g | 10YR3/4 喙褐色 | 粘シ | 少 | | 73.15 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 119 | H C01g | | | | | | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 120 | H C01g | | | | | 72.98 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 121 | H C01g | | | | | 72.74 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 122 | H C01g | | | | | 72.84 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 123 | H C01b | | | | | 73.06 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 124 | H C01b | | | | | 72.81 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 125 | H C01b | | | | | 73.02 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 126 | H C01b | | | | | 72.87 | 建物跡 1 | 土器 | | | |
| C4 | 127 | I C20b | | | | | 73.18 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 128 | I C20b | | | | | 73.07 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 129 | I C20b | | | | | 73.05 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 130 | I C20b | | | | | 73.10 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 131 | I C20b | | | | | 73.21 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 132 | I C20b | | | | | 73.79 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 133 | I C20b | | | | | 73.01 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 134 | I C20b | 10YR3/4 喙褐色 | シ | やや多 | | 73.53 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 135 | * | | | | | | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 136 | I C20b | | | | | 73.35 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 137 | I C20a | | | | | 73.03 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 138 | I C20a | | | | | 73.18 | 建物跡 1 | 土器 | | | |
| C4 | 139 | I C19i | | | | | 73.57 | 建物跡 1 | 土器 | | | |
| C4 | 140 | I C20b | 10YR3/3 喙褐色 | シ | 多 | | 73.26 | 建物跡 1 | | | | |
| C4 | 141 | I C19b | 10YR3/3 喙褐色 | シ | 多 | | 73.27 | 建物跡 1 | 土器 | | | |
| C4 | 142 | I C19i | | | | | 73.32 | 建物跡 1 | 土器 | | | |
| C4 | 143 | I C18j | 10YR3/3 喙褐色 | シ | | | 75.07 | | | | | |
| C4 | 144 | I C17k | 10YR3/3 喙褐色 | シ | | | 75.74 | | | | | |
| C4 | 145 | I C19i | 10YR3/3 喙褐色 | 砂シ | 少 | | 73.82 | | | | | |
| C4 | 146 | I C19j | 10YR2/3 黒褐色 | 砂シ | | | 73.76 | | 土器 | | | |
| C4 | 147 | I C19i | 10YR2/3 黒褐色 | 砂シ | | | 73.71 | | 土器 | | | |
| C4 | 148 | I C19k | | | | | 73.92 | | | | | |
| C4 | 149 | I C19k | 10YR2/3 黒褐色 | シ | 少 | | 74.09 | | 土器 | | | |
| C4 | 150 | I C19k | 10YR3/3 喙褐色 | シ | 微 | | 73.75 | | 土器 | | | |
| C4 | 151 | I C19k | | | | | 73.85 | | 土器 | | | |
| C4 | 152 | I C19k | 10YR2/3 黒褐色 | シ | | | 73.76 | | 土器 | | | |
| C4 | 153 | I C20j | | | | | 73.39 | | 土器 | | | |

| 区 | No | 位置 | 掘り方埋土主体土 | | 混入物 | | 底面 レベル | 帰属追跡 | 出土遺物 | | 備考 |
|----|-----|---------------------|----------|-----|-----|---------|-----------|------|--------------|----|------|
| | | | 色 | 調 | 土質 | 底面 状 | | | 種別 | 図版 | |
| C4 | 154 | I C20j | | | | | 73.07 | | | | |
| C4 | 155 | I C20j 10YR3/3 増褐色 | シ | 微 | 微 | 微 | 73.52 | | | | |
| C4 | 156 | I C20k | | | | | 73.23 | | | | |
| C4 | 157 | I C20l 10YR2/3 黒褐色 | シ | 板状 | | | 73.12 | | 土器 CK-186・7 | 55 | |
| C4 | 158 | I C20l 10YR2/3 黒褐色 | シ | 微 | 微 | 微 | 72.82 | | | | |
| C4 | 159 | I C20l 10YR2/3 黒褐色 | | | | | 73.48 | | | | |
| C4 | 160 | II C01k | | | | | 72.40 | | | | |
| C4 | 161 | II C01j | | | | | | | | | |
| C4 | 162 | II C01j 10YR3/3 増褐色 | 砂シ | 無 | | | 72.69 | | | | |
| C4 | 163 | II C01j 10YR3/3 増褐色 | 砂シ | 微 | | | 72.69 | | | | |
| C4 | 164 | I C20l 10YR3/2 黒褐色 | シ | 板微 | 板微 | 板微 | 73.01 | | | | |
| C4 | 165 | II C02k | | | | | 71.92 | | | | |
| C4 | 166 | II C02k | | | | | 71.81 | | | | |
| C4 | 167 | II C02k 10YR3/3 増褐色 | シ | 板微 | 板微 | 板微 | 72.37 | | | | |
| C4 | 168 | II C02k 10YR3/3 増褐色 | シ | 板微 | 板微 | 板微 | 72.26 | | | | |
| C4 | 169 | II C02k | | | | | | | | | |
| C4 | 170 | II C01j 10YR3/3 増褐色 | 砂シ | 無 | | | 72.46 | | | | |
| C4 | 171 | II C01j 10YR2/3 黒褐色 | 砂シ | 無 | 無 | 無 | 72.57 | | | | |
| C4 | 172 | II C02j | | | | | 72.07 | | | | |
| C4 | 173 | II C02j | | | | | 71.92 | | 土器 CK-188 | 55 | |
| C4 | 174 | II C03j | | | | | 71.62 | | | | |
| C4 | 175 | II C03j | | | | | 71.42 | | | | |
| C4 | 176 | II C03j 10YR3/2 黒褐色 | シ | やや多 | | | 71.42 | | | | |
| C4 | 177 | II C03k | | | | | 71.52 | | | | |
| C4 | 178 | II C03k 10YR3/2 黒褐色 | シ | 板微 | | | 71.73 | | | | |
| C4 | 179 | II C03k 10YR3/3 増褐色 | シ | やや多 | 板微 | 板微 | 71.54 | | | | |
| C4 | 180 | II C03k | | | | | | | | | |
| C4 | 181 | II C03k 10YR2/2 黒褐色 | シ | やや多 | 少 | 少 | 71.40 | | 土器 CK-189・90 | 55 | |
| C4 | 182 | II C03k 10YR2/2 黒褐色 | シ | 微 | | | 71.62 | | | | |
| C4 | 183 | II C03k 10YR3/4 増褐色 | 粘シ | 少 | 少 | 少 | 71.75 | | | | |
| C4 | 184 | II C03k 10YR3/2 黒褐色 | シ | 少 | 微 | 微 | 71.37 | | 土器 CK-191 | 55 | |
| C4 | 185 | II C03k | | | | | 71.43 | | | | |
| C4 | 186 | II C04k | | | | | 70.96 | | | | |
| C4 | 187 | ■ | | | | | | | | | |
| C4 | 188 | II C04k | | | | | 70.95 | | | | |
| C4 | 189 | II C02i 10YR3/3 増褐色 | シ | 微 | | | 72.04 | | | | |
| C4 | 190 | ■ 10YR3/3 増褐色 | シ | 微 | | | | | 土器 | | |
| C4 | 191 | II C03j 10YR3/3 増褐色 | シ | やや多 | | | 71.70 | | | | |
| C4 | 192 | II C03j 10YR3/3 増褐色 | シ | 多 | | | 71.69 | | | | |
| C4 | 193 | II C03g | | | | | 71.66 | | 土器 CK-192 | 55 | |
| C4 | 194 | II C03g 10YR3/3 増褐色 | 粘シ | 多 | | | 71.72 | | | | |
| C4 | 195 | II C03g 10YR3/3 増褐色 | 粘シ | 多 | | | 71.74 | | | | |
| C4 | 196 | II C04g 10YR3/3 増褐色 | シ | 少 | | | | | | | |
| C4 | 197 | ■ 10YR3/3 増褐色 | シ | やや多 | | | | | | | |
| C4 | 198 | II C04g 10YR3/3 増褐色 | シ | やや多 | | | | | | | |
| C4 | 199 | II C04g | | | | | | | | | |
| C4 | 200 | II C04f 10YR3/3 増褐色 | シ | 多 | | | | | | | |
| C4 | 201 | II C04f 10YR3/3 増褐色 | シ | 板微 | 板微 | 板微 | | | | | |
| C4 | 202 | II C04f 10YR3/3 増褐色 | シ | 少 | | | | | | | |
| C4 | 203 | I C20j 10YR2/3 黒褐色 | シ | 微 | 微 | 微 | 72.91 | | 土器 CK-193 | 55 | |
| C4 | 204 | II C02e | | | | | | | | | |
| C4 | 205 | II C01f | | | | | 72.79 | | | | |
| C4 | 206 | II C01f | | | | | 73.05 | | | | |
| C4 | 207 | I C20g 地山ブロック層 | 粘 | 大 | | | | | 建物跡1 | | 礫石有。 |
| C4 | 208 | I C20g 10YR3/3 増褐色 | シ | 多 | | | | | 建物跡1 | | |
| C4 | 209 | I C20g 地山ブロック層 | 粘 | 大 | | | | | 建物跡1 | | |
| C4 | 210 | I C20g | | | | | 72.90 | | | | |
| C4 | 211 | I C19h | | | | | 73.16 | | 建物跡1 | | |
| C4 | 212 | I C04f | | | | | | | | | |
| C4 | 213 | I C05f | | | | | | | | | |
| C4 | 214 | I C05f | | | | | | | | | |
| C4 | 215 | ■ | | | | | | | | | |
| C4 | 216 | I C05g | | | | | | | | | |
| C4 | 217 | I C05g | | | | | | | | | |

| 区 | № | 位 働 | 掘り方埴土主体土 | | 混 入 物 | 底 面 レベル | 帰属遺構 | 出土遺物 | | | 備 考 |
|----|-----|---------|----------|---|-------|------------|-------|-------|----|----|-----|
| | | | 色 | 調 | 土質 | 含む物質 | | 種別 | 図版 | 写真 | |
| C4 | 218 | * | | | | | | | | | |
| C4 | 219 | II C04i | | | | | 71.21 | | | | |
| C4 | 220 | I C13h | | | | | | | | | |
| C4 | 221 | I C13h | | | | | | | | | |
| C4 | 222 | * | | | | | | | | | |
| C4 | 223 | * | | | | | | | | | |
| C4 | 224 | * | | | | | | | | | |
| C4 | 225 | * | | | | | | | | | |
| C4 | 226 | * | | | | | | | | | |
| C4 | 227 | * | | | | | | | | | |
| C4 | 228 | * | | | | | | | | | |
| C4 | 229 | * | | | | | | | | | |
| C4 | 230 | * | | | | | | | | | |
| C4 | 901 | II C01f | | | | | 72.72 | | | | |
| C4 | 902 | I C13g | | | | | 79.25 | | | | |
| C4 | 903 | I C14g | | | | | 79.04 | | | | |
| C4 | 904 | I C20g | | | | | 73.14 | 建物跡 1 | | | |
| C4 | 905 | I C20g | | | | | 73.19 | 建物跡 1 | | | |
| C4 | 906 | II C01g | | | | | 73.08 | 建物跡 1 | | | |
| C4 | 907 | I C15h | | | | | 77.96 | | | | |
| C4 | 908 | I C15h | | | | | 77.27 | | | | |
| C4 | 909 | I C18h | | | | | 75.02 | | | | |
| C4 | 910 | I C20i | | | | | | | | | |
| C4 | 911 | I C20h | | | | | | | | | |
| C4 | 912 | II C01h | | | | | | | | | |
| C4 | 913 | II e01h | | | | | 73.10 | 建物跡 1 | | | |
| C4 | 914 | I C13i | | | | | 80.02 | | | | |
| C4 | 915 | I C13i | | | | | 80.07 | | | | |
| C4 | 916 | I C17i | | | | | 75.99 | | | | |
| C4 | 917 | I C17i | | | | | 75.70 | | | | |
| C4 | 918 | I C17i | | | | | 75.64 | | | | |
| C4 | 919 | I C16i | | | | | 75.13 | | | | |
| C4 | 920 | I C16i | | | | | 75.02 | | | | |
| C4 | 921 | I C16i | | | | | | | | | |
| C4 | 922 | I C16i | | | | | 75.06 | | | | |
| C4 | 923 | I C16i | | | | | 74.67 | | | | |
| C4 | 924 | I C19i | | | | | 73.98 | | | | |
| C4 | 925 | I C19i | | | | | 73.85 | | | | |
| C4 | 926 | I C20i | | | | | 73.31 | 建物跡 1 | | | |
| C4 | 927 | I C20i | | | | | 73.25 | 建物跡 1 | | | |
| C4 | 928 | II C02i | | | | | 72.04 | | | | |
| C4 | 929 | II C02i | | | | | 72.01 | | | | |
| C4 | 930 | I C15j | | | | | 77.55 | | | | |
| C4 | 931 | I C15j | | | | | 77.46 | | | | |
| C4 | 932 | I C15j | | | | | 77.50 | | | | |
| C4 | 933 | I C15j | | | | | 77.56 | | | | |
| C4 | 934 | I C15j | | | | | 77.25 | | | | |
| C4 | 935 | 欠 | | | | | | | | | |
| C4 | 936 | I C17j | | | | | 75.43 | | | | |
| C4 | 937 | I C16k | | | | | 74.67 | | | | |
| C4 | 938 | II C04g | | | | | 71.54 | | | | |
| C4 | 939 | II C03g | | | | | 71.57 | | | | |
| C4 | 940 | I C17k | | | | | 75.88 | | | | |
| C4 | 941 | I C17k | | | | | 75.55 | | | | |
| C4 | 942 | I C16k | | | | | 74.80 | | | | |
| C4 | 943 | II C03k | | | | | 71.50 | | | | |
| C4 | 944 | II C03k | | | | | 71.46 | | | | |
| C4 | 945 | II C04k | | | | | 71.17 | | | | |

(2) 壁穴住居状遺構

形態・規模が壁穴住居跡に類似しながらもがをもたないもの、及び、床面状の平坦な底面を持ち一般的な土坑よりは大形のものを住居状遺構とした。以下に記載する3棟を検出した。

住居状C 4 J 2 (第26図・写真図版20)

【位置・検出状況】C 4区東部、I C 13.1グリッド付近に位置する。IV b層上面で概ね円形を呈する影として検出された。プラン内部と周囲の土の違いは不明瞭であったが、微量の炭化物粒が混入することや、周囲との含水程度の差から遺構の可能性があると判断し精査に着手した。

【規模・形状】4.0×3.9mの円形～隅丸方形を呈する。壁には直線的な箇所も観察されるため、本来は多角形であった可能性がある。

【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相当の黒褐色シルトを主体とする。掘り方底面はほぼ水平に仕上げられているが、底面の中央部に基盤層(Ⅶ層)の岩が突き出てしまっている。掘り方底面からこの岩の頭が隠れる高さまでの間を、地山粘土ブロックを大量に含む土(8層)で埋め戻した様子が観察でき、上面に炭化物粒が張り付くよう広がることや部分的に硬化した箇所が認められることなどから、本層上面を床面と解釈することもできよう。しかし、この貼床状の土層は岩の上で盛り上がってから斜面下方に向かって傾斜し床面としては不安定な状態となっている。

北東側の壁直下では貼床状の土層の直上に焼土ブロックと炭化物を多く含む層(13層)がのる。さらにその上を覆うように壁際に堆積している地山粘土ブロック層は壁の崩落土であろう(5・12層)。その後、自然なレンズ状堆積が進み埋没し終えたものと思われる。

【壁・床面】壁は埋没の過程で崩落したためかやや外傾して立ち上がる。残存する最大高は約50cm、斜面下方の南西側はこれより低くなり約30cmとなっている。床面を識別するのは困難でこれを確定するには至らなかったが、上述の通り8層上面を床面と仮定すれば、中央部がやや盛り上がり壁の内側に沿って環状に低くなっている。

【柱穴】柱穴は認識できなかったが、壁際に沿って不規則な凹凸が認められるのでこの凹部を掘り方として柱底部を埋設していた可能性を指摘しておきたい。

【重複】他の遺構との重複はない。

【遺構の時期】埋土、出土遺物から縄文時代中期末葉～後期初頭に属するものと判断できる。

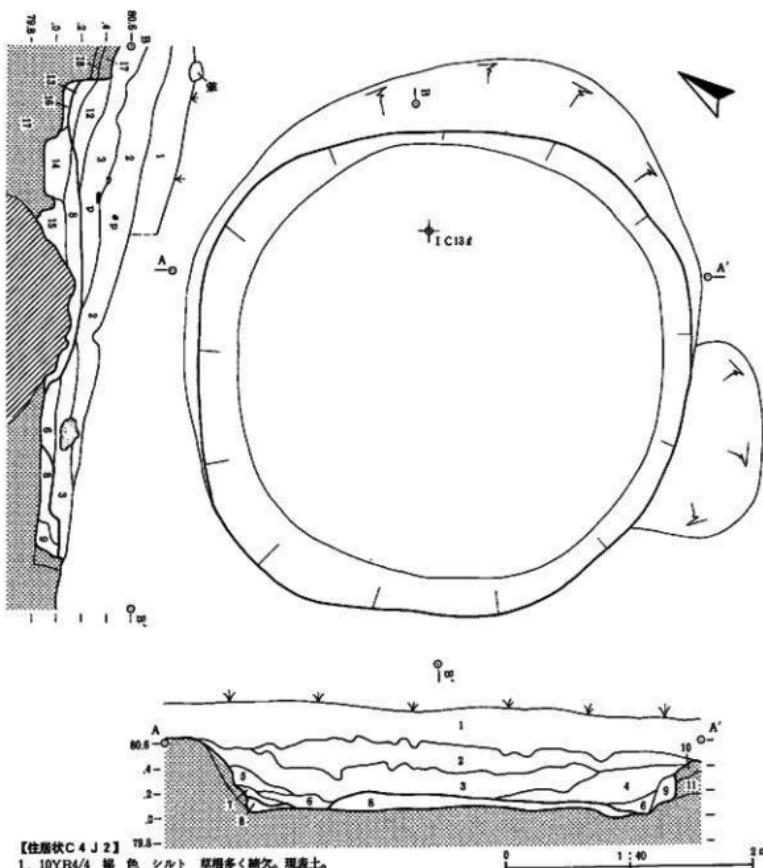
【出土遺物】縄文土器片(CK-1~5: 第38図・写真図版51)。石器(Sa-1: 第[2]-242図・写真図版253)。磨石(SF-1: 写真図版294)。

住居状C 4 J 3 (第27図・写真図版21)

【位置・検出状況】C 4区東部、I C 13mグリッド付近に位置する。IV b層上面で概ね円形を呈する影として検出された。プラン内部と周囲の土の違いは不明瞭であったが、微量の炭化物粒が混入することや、周囲との含水程度の差から遺構の可能性があると判断し精査に着手した。

【規模・形状】3.9×3.8mの円形～隅丸方形を呈する。壁には直線的な箇所も観察されるため、本来は多角形であった可能性がある。

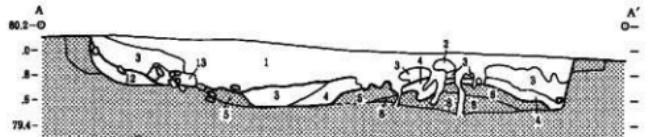
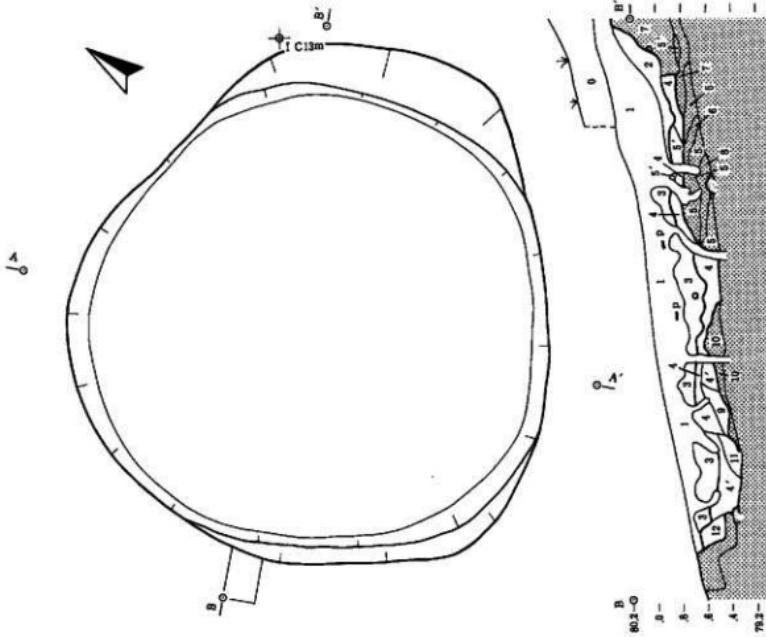
【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相当の黒褐色～暗褐色シルトを主体とし、全体にやや砂質を帯びる。上方からの草木根による攪乱(1層)が掘り方底面にまで及び、本来の埋積土が著しく乱されているため堆積状況の把握は困難である。底面付近は基盤層(Ⅶ層)の岩や礫が露出して全体に凹凸が激しく、また地山土層中に地滑り等によると思われる黒色土層が挟在するなど、床面を識別するのもまた難しい状況であった。土器



【住居状C 4 J 2】 79.5-

1. 10YR4/4 棕色 シルト 草根多く缺欠。現走土。
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト やや砂質帯びる。特有。炭酸塩含む。
3. 10YR2/3 黒褐色 シルト 上・下位層より黒味強。炭・土器片少冊。壁際で黒味増す。
4. 10YR3/4 暗褐色 シルト 地山土・繊片含み、3より黄味。
5. 10YR2/3 黑褐色 シルト 地山粘土ブロック大量(ほぼ粘土ブロック層)。ブロック径大。
6. 10YR2/3 黑褐色 シルト 地山ブロック強。
7. 10YR3/3 黑褐色 シルト 地山ブロック多(5に似るがブロック径小)。本層上面が床面か?
8. 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 地山土多量含む。貼り灰土?
9. 10YR4/6 棕色 粘土質シルト 地山砂含み、やや砂質。
10. 10YR4/6 棕色 粘土質シルト 地山⇒旧表土の転移層(基本層序IV b層相当)。
11. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト 白色風化層多量。地山(基本層序VI層相当)。
12. 10YR2/3 黑褐色 シルト 地山粘土ブロックや多。
13. 10YR2/3 黑褐色 シルト 地山粘土・繊多。炭土ブロック・炭多量含む。
14. 10YR2/3 黑褐色 シルト 地山ブロック強。粘性有。柱穴?
15. 10YR2/3 黑褐色 シルト 12~14よりやや明。地山層・粘土ブロック散。
16. 10YR4/6 棕色 粘土質シルト 地山層少。
17. 10YR4/6 棕色 粘土 地山粘土層。
18. 10YR2/3 黑褐色 シルト 17層に接在し、調査区外に延びる薄層。地滑り等の痕跡か。

第26図 住居状C 4 J 2



【住居状C 4 J 3】

0. 10YR4/4 暗褐色 シルト 木草很多。根深。葉質土。
 1. 10YR4/4 暗褐色 シルト 木草很多。縫育。
 2. 10YR4/4 暗褐色 シルト 1よりやや暗い。
 3. 10YR2/3 増褐色 シルト 炭酸塩。土器片含。
 4. 10YR3/3 增褐色 シルト 地山粘土ブロック少食。木根上面が床面か?
 4. 10YR3/3 增褐色 シルト 4より地山ブロック少ない。
 5. 10YR4/6 暗褐色 黏土 地山粘土層。
 5. 10YR4/6 暗褐色 黏土 5が施いたもの?
 6. 10YR2/3 黒褐色 シルト 5(地山粘土層)に挟在する薄層。地割り等の痕跡か。
 7. 10YR5/6 黄褐色 黏土 5よりやや汚れた感じ。
 7. 10YR5/6 黄褐色 黏土 7に強く似る。
 8. 10YR4/4 暗褐色 黏土質シルト 地山粘土小ブロック少食。(根カクラン?)
9. 10YR3/3 増褐色 シルト。
 10. 10YR4/6 暗褐色 黏土 5の汚れたもの?
 11. 10YR3/3 増褐色 シルト 3に似る。
 12. 10YR5/6 黄褐色 黏土 地山粘土。
 13. 10YR3/3 増褐色 シルト 3に地山層多。全体に根カクラン著しく、また地山粘土層に黒色土層層が挟在するなど解釈(分層)が困難。

第27図 住居状C 4 J 3

片・炭化物を含む暗褐色土層（3層）に覆われる4・4'・12層は地山ブロックを含み比較的平坦な面を形成しているので、この上面を床面と仮定し精査を進めた。

【壁・床面】斜面上方側の北東壁が崩落によりやや大きく外傾するほかは、直立に近い角度で立ち上がる。残存する最大高は約40cm、斜面下方の南西側はこれより低くなり約20cmとなっている。上述の通り床面の識別は困難であるが、上記の仮定に従い4・4'・12層等の上面を床面とすれば、全体に平坦で凹凸は少ないが斜面下方側にあたる南西方向に傾斜した不安定な面であるといえる。

【柱穴】掘り方埋土の様相が錯綜しており柱穴は認識できなかった。柱穴状の明瞭な掘り方をもたず、回部に柱を配置していた可能性もある。

【重複】他の遺構との重複はない。

【遺構の時期】埋土、出土遺物から縄文時代中期末葉～後期初頭に属するものと判断できる。

【出土遺物】縄文土器片（CK-6～11：第38図・写真図版51）。凹石（Sf-2：第[2]-263図・写真図版294）。住居状C 4 J 4（第28図・写真図版22）

【位置・検出状況】C 4 区中央部、I C 18 j グリッドに位置する。V a 層上面で円形に近い隅丸方形を呈する明瞭な影として検出された。

【規模・形状】2.2×2.1mの円形～隅丸方形を呈する。

【埋土と堆積状況】埋土は亘層相当の暗褐色シルトを主体とする。底面直上には地山粘土ブロックを多量に含む層（8・9層）が壁際により厚く堆積し、北壁・東壁寄りの床面直上には20～50cmの礫が点在している。これらは壁または上部構造の倒壊に伴うものと考えられる。

この上には纖維が明瞭な炭化物・焼土を大量に含む層またはほぼ炭化物で占められる層（5・6層）がある。その上位にも量を減じながら炭化物等を含む層が堆積して埋没を終えている。炭化物層は直接、その上位の土層は周辺の地表面に広がっていた焼土及び炭化物を巻き込んで表土が漸次流入し、堆積したものと考えられる。

埋土中に観察される焼土・炭化物が本遺構の廃絶に関係するのものか否かは不明であるが、西隣の建物跡1（大形円形建物跡）を構成する新期柱穴（新旧がある）の掘り方埋土に、同様の焼土ブロックや炭化物が多量に含まれ、これらが同一起源のものであるとするならば、本遺構と建物跡1（旧）が極めて近い時間に存在・廃絶したことを示唆するものとも言えよう。

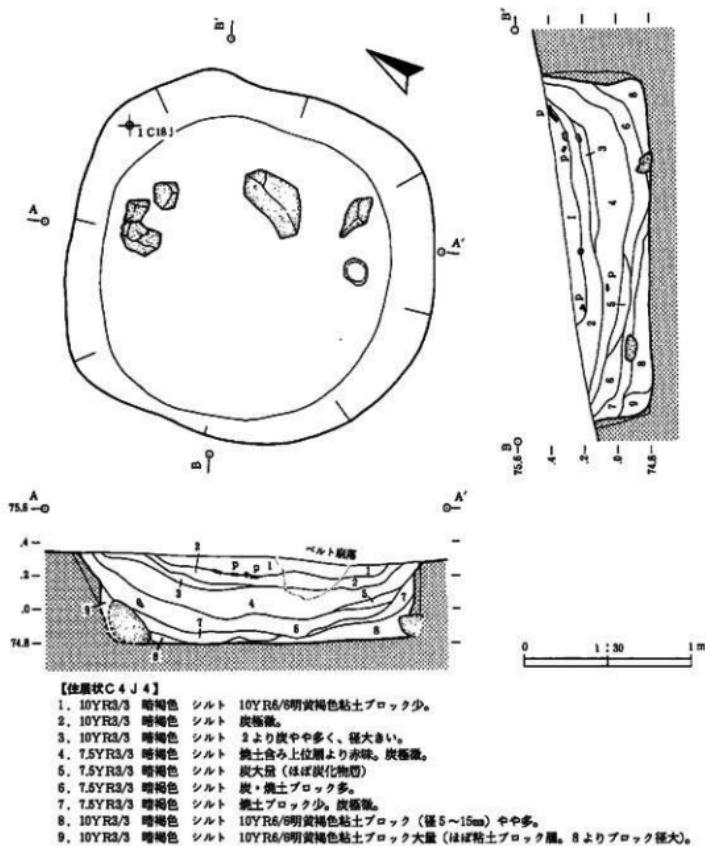
【壁・床面】壁は斜面上方側の東壁が60cm、斜面下方の西壁で35cmを測る。僅かに外傾するもののほぼ垂直に立ち上がっており、床面とは遺構の下端でほぼ直角に接している。床面は凹凸を持たずにほぼ完全に平坦であり、水平が保たれ安定した面が形成されている。貼床が施された箇所や硬化部分は認めらず、調査時には地下水を多く含み軟弱な状態となっていた。

【柱穴】遺構内部からはこれに伴う柱穴は検出されていない。ただし、第28図には示さなかったが、本遺構の周囲に柱穴状ビットが複数検出されており（一部は本遺構と重複し、より新しい）、これらが本遺構に伴う可能性は否定できない。

【重複】なし。

【遺構の時期】埋土、出土遺物から縄文時代後期初頭のものとみられる。

【出土遺物】縄文土器片（CK-12～21：第38図・写真図版51）。石鏃（Sa-2～6：第[2]-242図・写真図版253）。石錐（Sb-1：第[2]-245図・写真図版256）。石斧（Sd-3：写真図版276）。



第28図 住層状C 4 J 4

(3) 土坑 (第29~35図・写真図版23~30)

合計32基を検出した。柱穴群(建物跡群)の南側でC区辺縫跡の沢筋に沿うように分布する円形土坑群と、尾根頂部付近に分布する円~椿円形の土坑群に分けられる。以下、遺構名順に個々の土坑について記載する。土坑C 4 p 1 (第29図・写真図版24)

【位置・検出状況】 I C13g ~ I C13h グリッドに位置する。表土除去段階に疊群が検出されその周囲を調べたところ、疊群を包囲する明瞭な椿円形の影としてV-a層上面で検出された。【規模・形状】 開口部径15.4×118cmの椿円形を呈する。検出面からの深さは28cmである。【埋土と堆積状況】 埋土はⅢ層相当の暗褐色シルトを主体とする。土層断面を観察すると3層が掘り返され、その後、地山粘土ブロックを含む土(1・2層)で人为的に埋め戻されている様子が観察できる。1層は土と共に多量の疊が埋められている。【重複遺構】 C 4 p 220・221と重複し、これらより新しい。【遺構の時期】 埋土の様相、出土遺物から縄文時代後期初頭に属するものと推定される。【出土遺物】 縄文土器(CK-26~33: 第39図・写真図版51)。石鏃(Sa-27: 第2[2]-242・写真図版253)。

土坑C 4 p 2 (第29図・写真図版24)

【位置・検出状況】 I C13h グリッドに位置し、土坑C 4 p 1 の南側にある。Ⅲ層相当の暗褐色シルトが不整形な広がりでみつかり、この範囲全体を徐々に掘り下げたところ範囲が絞り込まれ不明瞭ながら遺構の影が確認された。【規模・形状】 開口部径120×102cmの楕円形を呈する。検出面からの深さは28cmである。底面は平坦で壁はほぼ直立するが、上端の一部は木根による擾乱で壊されている。【埋土と堆積状況】 埋土はⅢ層相当の暗褐色シルトを主体とする。埋土は斜面上方の北東側から流入した様子が観察され、3層上面に遺物が集中して出土している。【重複遺構】 重複する遺構はない。【遺構の時期】 埋土の様相、出土遺物から縄文時代後期初頭に属するものと推定される。【出土遺物】 縄文土器 (CK-34~45 : 第39図・写真図版52)。石鎚 (Sa-28 : 第[2]-242・写真図版253)。

土坑C 4 p 3 (第30図・写真図版25)

【位置・検出状況】 I C13h ~ I C14h グリッドに位置する。Ⅲ層相当の暗褐色シルトが不整形な広がりでみつかり、この範囲全体を徐々に掘り下げたところ範囲が絞り込まれ不明瞭ながら遺構の影が確認された。【規模・形状】 開口部径122×92cmの楕円形～隅丸方形を呈する。検出面からの深さは27cmである。底面は平坦で壁はやや外傾して立ち上がる。上端の一部は木根による擾乱で壊されている。【埋土と堆積状況】 埋土はⅢ層相当の暗褐色シルトを主体とする。全体に地山粘土ブロックを含み人為堆積の様相を呈する。北壁西端部の埋土上部から2点の礫が出土している。上端からずり落ちたような状況を呈する。【重複遺構】 重複する遺構はない。【遺構の時期】 埋土の様相、出土遺物から縄文時代後期初頭に属するものと推定される。【出土遺物】 縄文土器 (CK-46~49 : 第39図・写真図版52)。

土坑C 4 p 4 (第30図・写真図版25)

【位置・検出状況】 I C14h グリッドに位置する。Ⅲ層相当の黒褐色シルトが不整形な広がりでみつかり、この範囲全体を徐々に掘り下げたところ範囲が絞り込まれ不明瞭ながら遺構の影が確認された。【規模・形状】 開口部径128×93cmの不整形楕円形を呈する。検出面からの深さは36cmである。底面は上端から25cm程度のところで一旦平坦になるが、底面西寄りの部分にさらに一段深い凹部を持っている。【埋土と堆積状況】 埋土はⅢ層相当の黒褐色シルトを主体とする。底面に沿って地山粘土ブロックを多く含む4層、その上に黒褐色シルト(3層)が堆積する。上部は木根による擾乱を受け、隣接する土坑C 4 p 10との境界は不明瞭である。【重複遺構】 重複はないが土坑C 4 p 10が西隣に近接している。【遺構の時期】 埋土の様相、出土遺物から縄文時代後期初頭に属するものと推定される。【出土遺物】 縄文土器 (CK-50 : 第39図・写真図版52)。

土坑C 4 p 5 (第30図・写真図版25)

【位置・検出状況】 I C14h ~ I C14i グリッドに位置する。Ⅲ層相当の黒褐色シルトが不整形な広がりをもって検出され、この範囲全体を徐々に掘り下げたところ範囲が絞り込まれ不明瞭ながら遺構の影が確認された。【規模・形状】 開口部径122×90cmの楕円形を呈する。検出面からの深さは40cmである。底面は北側が低く落ち込み、南側に向かって徐々に高くなる。壁はやや外傾して立ち上がると思われるが、上部を大きく擾乱されており、平面形・断面形ともに不明瞭である。【埋土と堆積状況】 埋土はⅢ層相当の黒褐色シルトを主体とする。木根により埋土の大半が擾乱を受けており、本来の埋土として残存するのは地山粘土ブロックを多く含み底面直上に堆積している2層のみである。【重複遺構】 重複する遺構はない。【遺構の時期】 埋土の様相、出土遺物から縄文時代中期末葉～後期初頭に属するものと推定される。【出土遺物】 縄文土器 (CK-51~53 : 第40図・写真図版52)。

土坑C 4 p 10 (第30図・写真図版25)

【位置・検出状況】 I C 14 h グリッドに位置する。Ⅲ層相当の黒褐色シルトが不整形な広がりをもって検出され、この範囲全体を徐々に掘り下げたところ範囲が絞り込まれ不明瞭ながら遺構の影が確認された。【規模・形状】 開口部径56×50の円形を呈する。検出面からの深さは18cmである。【埋土と堆積状況】 埋土はⅢ層相当の黒褐色シルトを主体とする。底面に沿って地山粘土ブロックを多く含む2層が堆積するが、上部は木板によって大きく搅乱を受け、隣接する土坑C 4 p 4との境界は不明瞭である。【重複遺構】 重複はしないが土坑C 4 p 4が東隣に近接している。【遺構の時期】 埋土の様相から縄文時代中期末葉～後期初頭に属するものと推定される。【出土遺物】 縄文土器片が出土しているが小片のため詳細な時期は不明である。

土坑C 4 p 17 (第30図・写真図版25)

【位置・検出状況】 I C 14 i グリッドに位置する。V a 層上面においてⅢ層相当黒褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】 開口部径91×81cmの略円形を呈する。検出面からの深さは18cmである。

【埋土と堆積状況】 埋土はⅢ層相当の黒褐色～暗褐色シルトを主体とする。底面上には地山粘土ブロックを多く含む3層が堆積し、その上を炭化物・焼土粒を僅かに含む1・2層が覆っている。【重複遺構】 重複する遺構はない。【遺構の時期】 埋土の様相、出土遺物から縄文時代後期初頭に属するものと推定される。

【出土遺物】 縄文土器 (CK-54 : 第40図・写真図版52)。石鎌 (Sa-29 : 第[2]-242図・写真図版253)。

土坑C 4 p 18 (第31図・写真図版25)

【位置・検出状況】 I C 13 j グリッドに位置する。V a 層上面においてⅢ層相当黒褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】 開口部径118×110cmの略円形を呈する。上端から40～50cmの深さで一旦平坦な面を持つが中央部にさらに深い凹部を持つ。上端から最深部までの深さは64cmを測る。【埋土と堆積状況】 埋土はⅢ層相当の黒褐色～暗褐色シルトを主体とする。下部ほど地山粘土ブロックを多く含む。

【重複遺構】 重複する遺構はない。【遺構の時期】 埋土の様相から縄文時代のものと推定できるが詳細は不明である。【出土遺物】 なし。

土坑C 4 p 74 (第31図・写真図版25)

【位置・検出状況】 I C 17 k グリッドに位置する。V a 層上面においてⅢ層相当黒褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】 開口部径100×100cmの円形を呈する。検出面からの深さは20cmである。底面は平坦で壁はやや外傾しながら立ち上がる。【埋土と堆積状況】 埋土はⅢ層相当の暗褐色シルトを主体とし、地山粘土ブロックを含む。人為堆積による埋土と判断される。【重複遺構】 C 4 p 144 (柱穴状ピット) と重複するが新旧関係は不明。【遺構の時期】 埋土の様相は縄文時代中期末葉～後期初頭のものに類似するが詳細は不明である。【出土遺物】 縄文土器片が出土しているが小片につき詳細な時期は不明である。

土坑C 4 p 104 (第31図・写真図版26)

【位置・検出状況】 I C 18 j グリッドに位置する。V a 層上面においてⅢ層相当黒褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】 南西部を新しい（近世以降？）溝に切られているため定かではないが、残存部分から開口部径134cmの円形を呈するものと推測できる。検出面からの深さは20cmである。底面は平坦で、壁は僅かに外傾して立ち上がる。【埋土と堆積状況】 埋土はⅢ層相当の黒褐色シルトを主体とする。底面上には点在する径30cmほどの大形礫とともに地山粘土ブロックを多く含む層が堆積し、その上に混入物のない黒褐色シルトが流れ込んでいる。【重複遺構】 C 3・C 4区の中央部を走行する近世以降（？）の溝に、南西部で切られている。【遺構の時期】 埋土の様相、出土遺物から縄文時代中期末葉～後期初頭のものと思われる。【出土遺物】 縄文土器 (CK-55～56 : 第40図・写真図版52)。

土坑C 4 p 105（第31図・写真図版26）

【位置・検出状況】 I C 19 i グリッドに位置する。V a 層上面においてⅢ層相当黒褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】 開口部径102×94cmの円形を呈する。検出面からの深さは14cmである。断面形は浅皿状を呈する。【埋土と堆積状況】 埋土はⅢ層相当の黒褐色シルトを主体とする。南側から地山ブロックを多く含む層（3層）が堆積した後、その上に黒褐色シルト（2層）が流入している。これを上方から1層が切っている様子が観察される。【重複造構】 重複する造構はない。【造構の時期】 埋土の様相は縄文時代中期末葉～後期初頭のものに類似する。【出土遺物】 遺物は出土しなかった。

土坑C 4 p 106（第32図・写真図版26）

【位置・検出状況】 I C 19 h ~ I C 19 i グリッドに位置する。V a 層上面においてⅢ層相当黒褐色シルトの梢円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】 開口部径92×74cmの梢円形を呈する。検出面からの深さは12cmである。断面形は浅皿状を呈する。【埋土と堆積状況】 埋土はⅢ層相当の暗褐色砂質シルトが主体である。底面直上の2層は地山土のブロックを含み南側により厚く堆積する。その上に混入物のない砂質シルトが流入している。【重複造構】 C 4 p 142、C 4 p 211と重複するが新旧関係は不明である。【造構の時期】 埋土の様相は縄文時代中期末葉～後期初頭のものに類似するが詳細は不明である。【出土遺物】 遺物は出土していない。

土坑C 4 p 108（第32図・写真図版26）

【位置・検出状況】 I C 13 h ~ I C 13 i グリッドに位置する。Ⅲ層相当の暗褐色シルトが不整形な広がりでみつかり、この範囲全体を徐々に掘り下げたところ範囲が絞り込まれ3つの土坑が重複しているらしいことが確認された。【規模・形状】 開口部径109×100cmの梢円形を呈する。地表面からの深さは26cmである。底面は平坦で壁はほぼ直立するように立ち上がる。【埋土と堆積状況】 埋土はⅢ層相当の暗褐色シルトが主体である。土坑C 4 p 109と土坑C 4 p 110の埋土を切って掘り込まれている。上部を木根による攪乱で乱され、本土坑の埋土として残存するのは2層のみとなっている。【重複造構】 土坑C 4 p 109と土坑C 4 p 110と重複する。【造構の時期】 埋土の様相は縄文時代中期末葉～後期初頭のものに類似するが詳細は不明である。

【出土遺物】 C 4 p 108~110付近一括取上の遺物として縄文土器片（CK-57~63：第40図・写真図版52）、石礫（Sa-31~32：第[2]-242・写真図版253）が出土している。縄文土器は前期初頭のものであり、おそらく土坑C 4 p 109・110に属するものと思われる。

土坑C 4 p 109（第32図・写真図版26）

【位置・検出状況】 I C 13 i グリッドに位置する。Ⅲ層相当の暗褐色シルトが不整形な広がりでみつかり、この範囲全体を徐々に掘り下げたところ範囲が絞り込まれ3つの土坑が重複しているらしいことが確認された。【規模・形状】 開口部径84×83cmの円形を呈する。検出面からの深さは24cmである。底面はほぼ平坦で、壁は底面から自然に連続し内窓気味に立ち上がる。【埋土と堆積状況】 埋土は暗褐色シルトが主体で地山土ブロックを大量に含み人为堆積層とみられる。土坑C 4 p 108に切られているため、堆積状況の詳細は不明である。【重複造構】 土坑C 4 p 108と重複し、土坑C 4 p 110と隣接する。【造構の時期】 周辺で検出された縄文時代中期末葉～後期初頭の造構埋土と比較してしまが密であり、また出土土器から判断して、縄文時代前期初頭のものであるとみられる。【出土遺物】 C 4 p 108~110付近一括取上の遺物として縄文土器片（CK-57~63：第40図・写真図版52）、石礫（Sa-31~32：第[2]-242・写真図版253）が出土している。

土坑C 4 p 110（第32図・写真図版26~27）

【位置・検出状況】 I C 13 i グリッドに位置する。Ⅲ層相当の暗褐色シルトが不整形な広がりでみつかり、

この範囲全体を徐々に掘り下げたところ範囲が絞り込まれ3つの土坑が重複しているらしいことが確認された。【規模・形状】開口部径80×77cmの円形を呈する。検出面からの深さは32cmである。底面はほぼ平坦で、壁は底面から自然に連続して垂直気味に立ち上がる。【埋土と堆積状況】埋土は暗褐色シルトが主体で、底面にのるのは地山土ブロックを多量に含んだ4層、この上に堆積するのは土器片・焼土を含む暗褐色土（3層）である。【重複遺構】土坑C 4 p 108と重複し、土坑C 4 p 109と隣接する。【遺構の時期】周辺で検出された縄文時代中期末葉～後期初頭の遺構埋土と比較してしまりが密であり、また出土土器から判断して、縄文時代前期初頭のものであるとみられる。【出土遺物】本土坑からは縄文土器片（CK-64～65：第40図・写真図版52）が出土している。また、C 4 p 108～110付近一括取上の遺物として縄文土器片（CK-57～63：第40図・写真図版52）、石礫（Sa-31～32：第[2]-242・写真図版253）が出土している。

土坑C 4 p 151（第33図・写真図版27）

【位置・検出状況】I C 19 k グリッドに位置する。IV b 層上面でⅢ層相当黒褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】開口部径89cmの円形を呈する。検出面からの深さは10cmである。底面には若干の凹凸を持ち、断面形は浅皿状を呈する。上部を流失し壁の状況は不明である。【埋土と堆積状況】埋土は焼土粒・炭化粒をごく僅かに含む黒褐色シルトの単層で、自然堆積によるものと判断される。底面に生じた亀甲状のクラックもこの土に充填されている。開口していた段階にクラックが生じ、後に流入した黒褐色シルトによって埋没したものと考えられる。【重複遺構】重複する遺構はない。【遺構の時期】埋土の様相及び出土土器から判断して、縄文時代後期初頭のものと判断される。【出土遺物】縄文土器片（CK-66～67：第40図・写真図版52）。

土坑C 4 p 152（第33図）

【位置・検出状況】I C 19 k グリッドに位置する。IV b 層上面でⅢ層相当黒褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】開口部径81×77cmの円形を呈する。検出面からの深さは12cmである。底面は平坦かつ水平で、壁はやや外傾して立ち上がる。斜面下方の西側の壁は東側に比して残りが悪い。【埋土と堆積状況】埋土は黒褐色シルトの単層で、自然堆積によるものと判断される。埋土・堆積状況とともに上掲の土坑C 4 p 151に酷似する。なお、埋土断面図・写真撮影は省略した。【重複遺構】重複する遺構はない。【遺構の時期】埋土の様相及び出土土器から縄文時代後期初頭のものと判断される。【出土遺物】縄文土器片（CK-68～69：第40図・写真図版53）。石礫（Sa-33：第[2]-242・写真図版253）。

土坑C 4 p 153（第33図・写真図版27）

【位置・検出状況】I C 20 j グリッドに位置する。IV b 層上面でⅢ層相当黒褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】開口部径96×92cmの円形で、検出面からの深さは20cmである。底面から壁に自然に連続する横状の断面形を呈する。【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相当の黒褐色シルトである。底面直上の黒褐色シルトを覆うように、壁から流れ出した暗褐色砂質シルトと表土から流れ込んだ黒褐色シルトがラミナ状に堆積している。断面によれば、この堆積層は西壁側で1層に切られるようにみえるが、1層が別の掘りこみによるものか本遺構の埋土の一部であるのかについては明らかにできなかった。【重複遺構】1層をのぞけば明らかに重複する他の遺構はない。【遺構の時期】埋土の様相及び出土土器から縄文時代後期初頭のものと判断される。【出土遺物】縄文土器片（CK-70～72：第40図・写真図版53）。石礫（Sa-34：第[2]-242・写真図版253）。

土坑C 4 p 154（第33図・写真図版28）

【位置・検出状況】I C 20 j グリッドに位置する。IV b 層上面でⅢ層相当の暗褐色砂質シルトの円形プラン

が明瞭に検出された。【規模・形状】開口部径98×94cmの円形を呈する。検出面からの深さは18cmである。底面は平坦かつ水平であり、壁は外傾して立ち上がる。【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相当の暗褐色砂質シルトを主体とする。それぞれの層間には5~10cm程度の礫が散見される。底面直上にのる2層は地山粘土ブロックをやや多く含み、3・4層は焼土粒・炭化粒を僅かに含んでいる。この上に堆積している1層は自然に流入したものとみられ、本遺構が本来の壁の上部を大きく失っているという判断に立てば、1層より下位の土層を除き、埋土の大半は自然堆積によるものと推測することができよう。【重複遺構】重複する他の遺構はない。【遺構の時期】埋土の様相から縄文時代中期末葉～後期初頭のものと推測される。【出土遺物】出土遺物はない。

土坑C 4 p 156 (第33図・写真図版28)

【位置・検出状況】IC 20 k ~ IC 20 l グリッドに位置する。IV b 層上面でⅢ層相当の暗褐色砂質シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】開口部径138×127cmの円形を呈する。検出面からの深さは8cmである。浅皿状の断面形を呈し、平坦な底面を持つ。上部を大きく失い、底面付近のみ残存しているものと思われる。【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相当の暗褐色～黒褐色シルトを主体とする。壁から流出したと思われる暗褐色砂質シルト(2層)が底面を覆い、その上に黒褐色シルト(1層)が堆積している。【重複遺構】重複する他の遺構はない。【遺構の時期】埋土の様相および出土遺物から縄文時代後期初頭のものと判断される。【出土遺物】縄文土器片(CK-73~78: 第40図・写真図版53)。石錐(Sa-35: 第[2]-242・写真図版253)。

土坑C 4 p 159 (第34図)

【位置・検出状況】IC 20 l グリッドに位置する。IV b 層上面でⅢ層相当の黒褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】開口部径88×81cmの円形を呈する。検出面からの深さは11cmである。底面は平坦で、壁へと内寄しながら自然に連続し外傾して立ち上がる。【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相当の黒褐色シルトを主体とする。炭化物粒を僅かに含むほかは混入物ではなく、自然堆積によって埋没したものとみられる。【重複遺構】重複する他の遺構はない。【遺構の時期】埋土の様相および出土遺物から縄文時代後期初頭のものと判断される。【出土遺物】縄文土器片。円盤状土製品(Dh-28: 第[2]-236図・写真図版248。Dh-2448: 表揚載)。

土坑C 4 p 160 (第34図・写真図版28)

【位置・検出状況】II C 1 k グリッドに位置する。IV b 層上面でⅢ層相当の黒褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】開口部径94×91cmの円形を呈する。検出面からの深さは22cmである。底面は平坦で、壁へと内寄しながら自然に連続し外傾して立ち上がる。【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相当の黒褐色シルトを主体とする。底面直上の2層は地山粘土ブロックを僅かに含み、これを拳へ人頭大の礫と共に暗褐色砂質シルトブロックを多量に含む1層が覆っている。人為堆積により埋没したものと判断され、類例から墓坑である可能性が高い。【重複遺構】重複する他の遺構はない。【遺構の時期】埋土の様相および出土遺物から縄文時代中期末葉～後期初頭のものと判断される。【出土遺物】縄文土器片(CK-79: 第40図・写真図版53)。

土坑C 4 p 166 (第34図・写真図版29)

【位置・検出状況】II C 2 k ~ II C 3 k グリッドに位置する。IV b 層上面でⅢ層相当の黒褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】開口部径100×95cmの略円形を呈する。検出面からの深さは20cmである。底面は平坦かつ水平で、壁は内寄気味に外傾して立ち上がる。【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相

当の黒褐色シルトを主体とする。2層上面には20cm前後の礫が複数のっており、特に中央部に集中する。また南東壁際で小形の土器（CK-80・81）が底面上から出土している。礫の入り方から人為堆積により埋没したものと判断され、類例から墓坑である可能性が高い。【重複遺構】重複する他の遺構はない。【遺構の時期】埋土の様相および出土遺物から縄文時代後期初頭のものと判断される。【出土遺物】縄文土器（CK-80～83：第41図・写真図版53）。石礫（Sa-36：第[2]-242図・写真図版253）。

土坑C 4 p 160（第34図・写真図版29）

【位置・検出状況】II C 2 k～II C 2 l グリッドに位置する。IV b 層上面でⅢ層相当の黒褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】開口部径128×126cmの円形を呈する。検出面からの深さは23cmである。底面は平坦で北東側の壁はほぼ直立して立ち上がり、一方対の南西側は底面から連続しやや大きく外傾している。堆積状況から埋土は南西側から堆積していることが分かり、堆積過程で本来の立ち上がりが壊されている可能性が高い。【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相当の黒褐色シルトを主体とする。底面直上には壁の崩落に伴うと思われるIV b 層相当の暗褐色砂質シルト（3層）がのり、旧表土であったろうⅢ層相当の黒褐色シルト層（2層）を間に挟んで、さらに再度暗褐色砂質シルト（1層）に覆われている。堆積方向は斜面下方の西側からで通常の自然堆積によるものとは異なっており人為的に埋め戻された可能性も否定できないが、各層の層相は自然堆積のものに似る。はじめに西側の壁が崩落しそこから埋土の流入が進んだと判断することもできる。【重複遺構】重複する他の遺構はない。【遺構の時期】埋土の様相および出土遺物から縄文時代後期初頭のものと判断される。【出土遺物】縄文土器（CK-84～87：第41図・写真図版53）。石礫（Sa-37：第[2]-242・写真図版29）

【位置・検出状況】II C 2 j グリッドに位置する。IV b 層上面でⅢ層相当の黒褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】開口部径150×132cmの不整規円形を呈する。検出面からの深さは16cmである。断面形は浅皿状を呈する。【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相当の黒褐色シルトを主体とする。底面直上の黒褐色シルト層の上には地山粘土ブロックと共に径10cmほどの礫を含む土が堆積しており、底面中央部には径40cmの大形の礫が置かれた状態となっている。人為堆積によって埋没したものと判断され、類例から墓坑である可能性が高い。【重複遺構】重複する他の遺構はない。【遺構の時期】埋土の様相および出土遺物から縄文時代後期初頭のものと判断される。【出土遺物】縄文土器（CK-88～90：第41図・写真図版53）。

石礫（Sa-37：第[2]-242・写真図版29）

土坑C 4 p 177（第35図）

【位置・検出状況】II C 3 k グリッドに位置する。IV b 層上面でⅢ層相当の黒褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】開口部径80×71cmの梢円形を呈する。検出面からの深さは14cmである。底面は平坦かつ水平で壁はやや外傾して立ち上がる。【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相当の黒褐色シルトを主体とする。壁から流出したとみられる暗褐色砂質シルトのブロックを含み、全体にやや砂質を帯びる。雨水等により地表面から流入した埋土とみられ、自然堆積によって埋没した遺構と判断される。なお、埋土は單層と判断し、土層断面の記録は省略した。【重複遺構】重複する他の遺構はない。【遺構の時期】埋土の様相および出土遺物から縄文時代中期末葉～後期初頭のものと推測される。【出土遺物】縄文土器片が出土しているが、小片につき時期等の詳細は不明である。

土坑C 4 p 180（第35図・写真図版30）

【位置・検出状況】II C 3 k グリッドに位置する。IV b 層上面でⅢ層相当の黒褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】開口部径164×158cmの円形を呈する。検出面からの深さは30cmである。底

面は平坦かつ水平で壁はほぼ垂直に立ち上がるが、斜面上方側の東壁は崩落によるためか外傾している。

【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相当の暗褐色シルトを主体とする。底面は炭片を大量に含む暗褐色粘土質シルトに覆われ、これと共に底面直上には60×20cmの板状の礫が横たわっている。これらの上には暗褐色砂質シルトが堆積している。底面上の礫の出土状況は類例から判断して墓坑である可能性を示唆するが、堆積状況は必ずしも人為堆積によるものであることを積極的には示していない。【重複造構】重複する他の造構はない。【造構の時期】埋土の様相および出土遺物から縄文時代中期末葉～後期初頭のものと判断される。

【出土遺物】縄文土器（CK-91～98：第41図・写真図版53）。

土坑C 4 p 182（第35図・写真図版30）

【位置・検出状況】II C 3 k～II C 3 l グリッドに位置する。IV b層上面でⅢ層相当の黒褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】開口部径106×102cmの円形を呈する。検出面からの深さは18cmである。断面形は浅皿状を呈する。【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相当の黒褐色シルトを主体とし、炭化物を少量含む。自然堆積により埋没したと考えられる。なお、埋土は単層と判断し土層断面の記録は省略した。

【重複造構】C 4 p 181とC 4 p 183と重複するが新旧関係は把握できなかった。【造構の時期】埋土の様相および出土遺物から縄文時代後期初頭のものと判断される。【出土遺物】縄文土器（CK-99～102：第41図・写真図版53）。石錐（Sb-2：第[2]-245図・写真図版256）。

土坑C 4 p 183（第35図・写真図版30）

【位置・検出状況】II C 2 l グリッド付近に位置する。IV b層上面でⅢ層相当の暗褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】開口部径86×69cmの橢円形を呈するが、西側の一部をC 4 p 182によって切られている。検出面からの深さは14cmである。断面形は浅皿状を呈する。【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相当の暗褐色粘土質シルトを主体とし、焼土粒・炭化物を少量含む。自然堆積により埋没したと考えられる。なお、埋土は単層と判断し土層断面の記録は省略した。【重複造構】C 4 p 182と重複する。【造構の時期】埋土の様相および出土遺物から縄文時代中期末葉～後期初頭のものと判断される。【出土遺物】縄文土器（CK-103：第41図・写真図版53）。

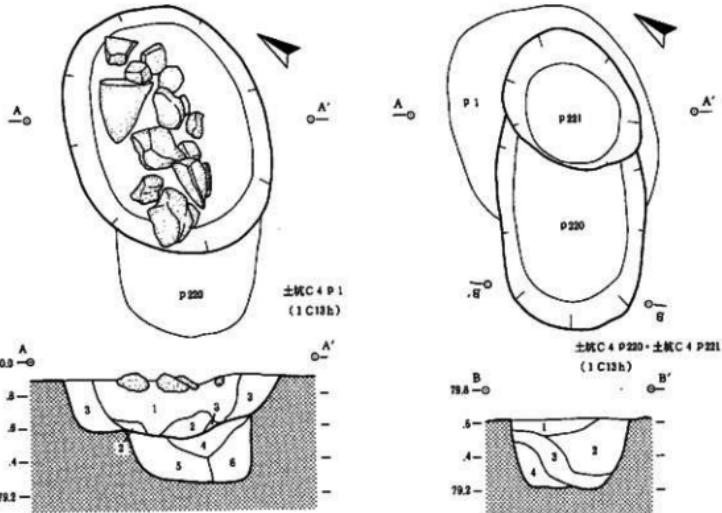
土坑C 4 p 185（第35図）

【位置・検出状況】II C 3 k グリッドに位置する。IV b層上面でⅢ層相当の暗褐色シルトの円形プランが明瞭に検出された。【規模・形状】開口部径82×80cmの円形を呈する。検出面からの深さは10cmである。断面形は浅皿状を呈する。【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相当の暗褐色砂質シルトを主体とし、炭化物を微量含む。径15～20cmの礫が底面直上にのっている。類例から墓坑である可能性をもつが、人為堆積であることを積極的に示す根拠は見いだされなかった。なお、埋土は単層と判断し土層断面の記録は省略した。【重複造構】重複する他の造構はない。【造構の時期】埋土の様相から縄文時代中期末葉～後期初頭のものと推測される。

【出土遺物】縄文土器小片を含むが時期等の詳細は不明である。

土坑C 4 p 220（第29図・写真図版24）

【位置・検出状況】I C 13 h グリッドに位置する。土坑C 4 p 1の精査段階にこれと重複していることが判明した。【規模・形状】橢円形を呈すると思われるが北西部を土坑C 4 p 221に切られている。開口部の残存する径は112×84cmである。検出面からの深さは40cmである。【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相当の黒褐色シルトを主体とする。地山ブロックを多量に含む土によって南側から埋められた様子が把握され、人為堆積によって埋没したものと考えられる。【重複造構】土坑C 4 p 1・221と重複し、p 1より古いがp 221との新旧は不明である。【造構の時期】埋土の様相から縄文時代中期末葉～後期初頭に属するものと推定さ

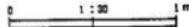
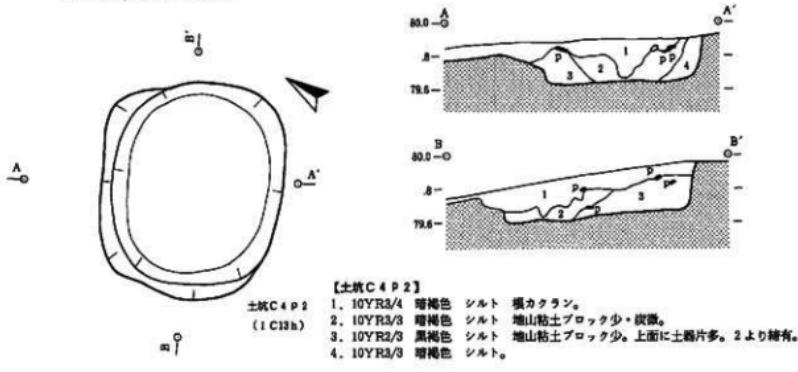


【土坑C 4 P 1・土坑C 4 P 221】

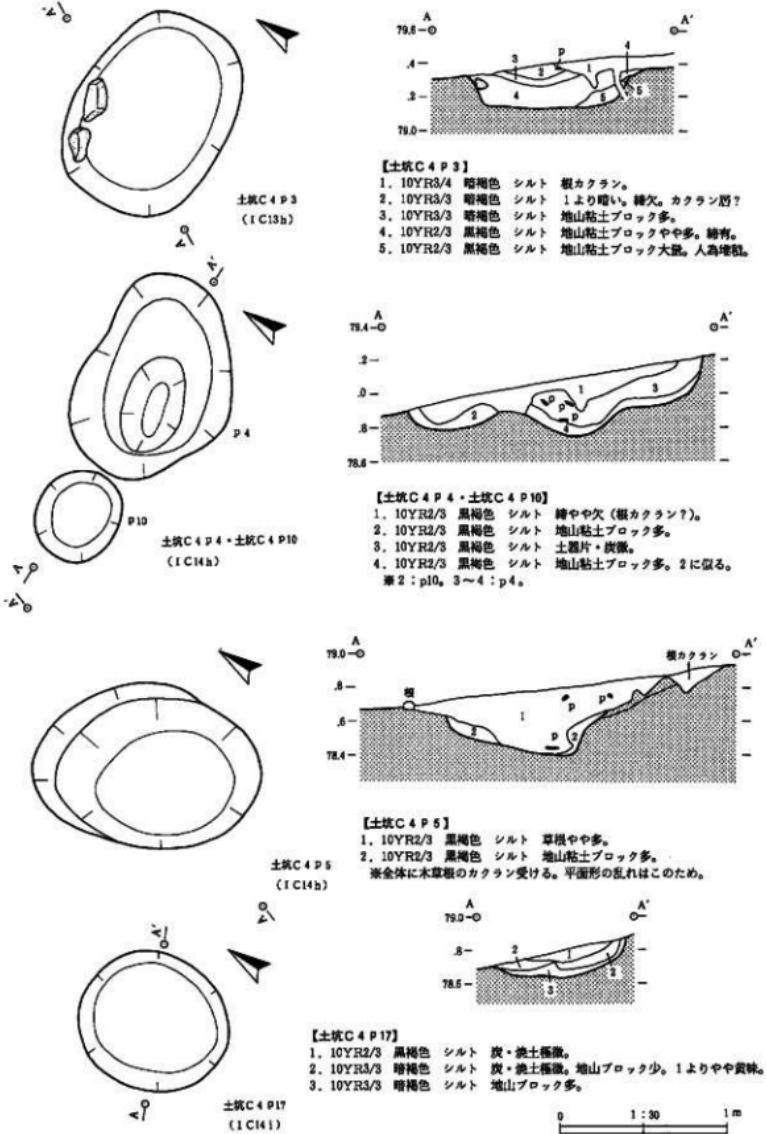
1. 10YR3/4 暗褐色 シルト 地山粘土ブロックや多。
 2. 10YR3/4 暗褐色 シルト 地山粘土ブロック様。炭・土器片含。
 3. 10YR4/4 褐色 シルト 稀有。
 4. 10YR3/4 暗褐色 シルト 地山粘土ブロック多。
 5. 10YR3/3 暗褐色 シルト 炭少。
 6. 10YR5/6 黄褐色 粘土 土器片・炭微含。
- 層1～3:p1。4～5:p221。

【土坑C 4 P 220】

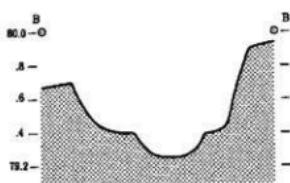
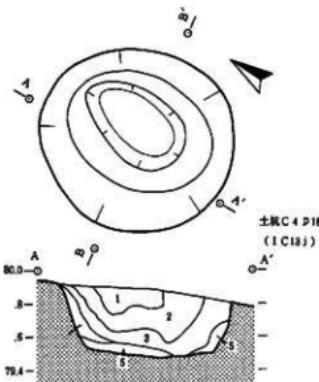
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 草很多。
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト 地山ブロック少。
3. 10YR2/4 暗褐色 シルト 土器片・炭含む。
4. 10YR4/4 褐色 シルト 地山ブロック多。



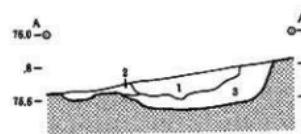
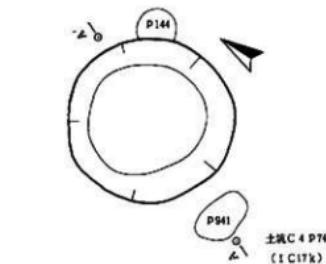
第29図 C区土坑 (1)



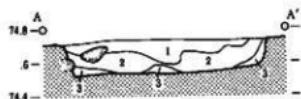
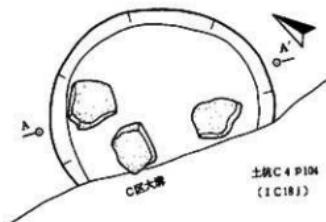
第30図 C区土坑 (2)



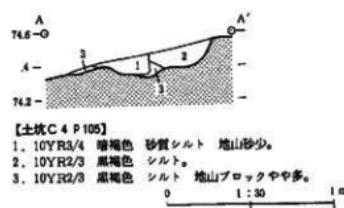
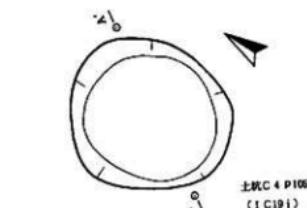
- 【土坑 C 4 P18】
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 最も黒味強。炭酸。
 2. 10YR3/4 暗褐色 シルト。
 3. 10YR3/4 暗褐色 シルト 地山土含みやや黄味。
 4. 10YR3/4 暗褐色 シルト 3より黄味強。
 5. 地山粘土ブロック層



- 【土坑 C 4 P74】
1. 10YR4/4 棕色 シルト 地山層・地山粘土ブロックや多。
 2. 10YR3/4 暗褐色 シルト。
 3. 10YR3/4 暗褐色 シルト 地山層・地山粘土ブロック少。
1より黒味有。



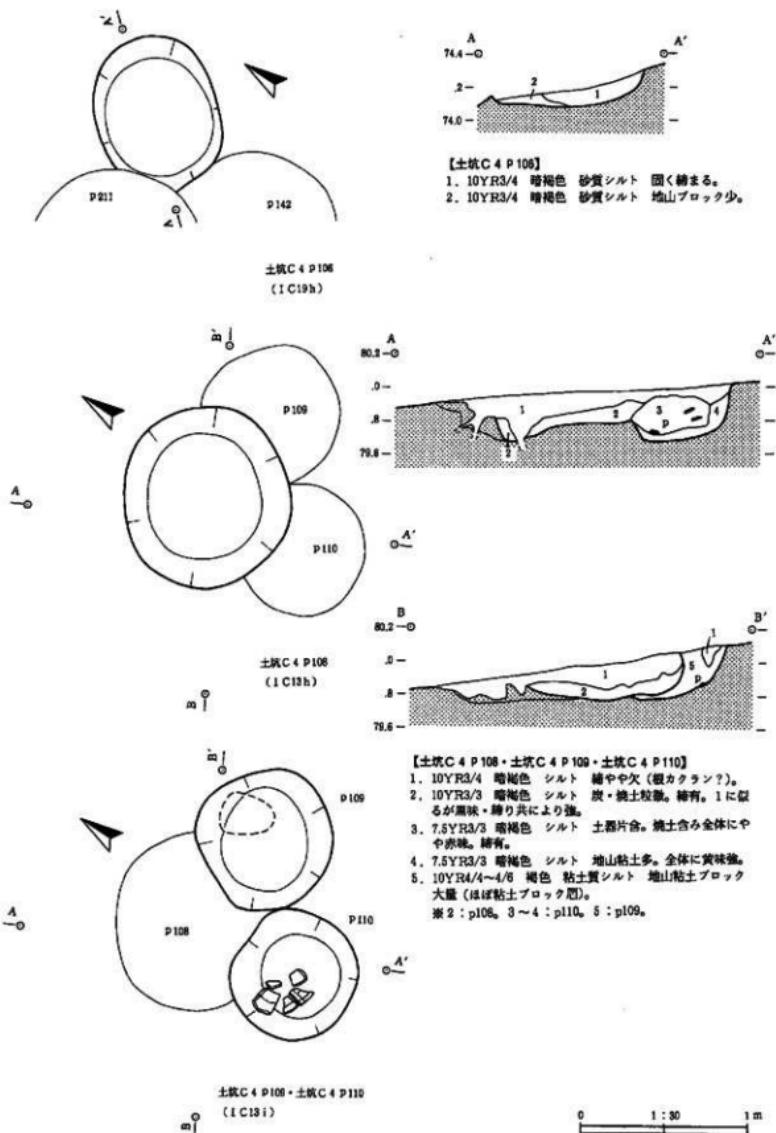
- 【土坑 C 4 P104】
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト。
 2. 10YR3/2 黒褐色 シルト 地山ブロック・炭少。
 3. 10YR3/2 黒褐色 シルト 地山ブロック多。
- 底面に人頭大の塊が点在。



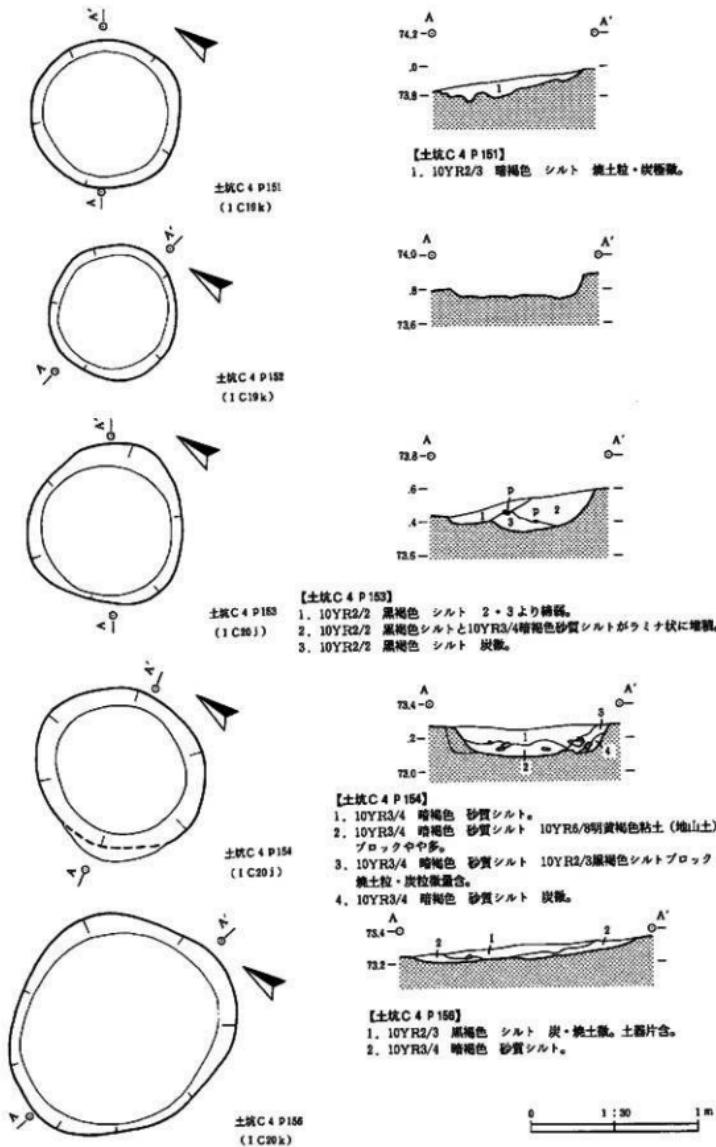
- 【土坑 C 4 P105】
1. 10YR3/4 暗褐色 砂質シルト 地山少。
 2. 10YR2/3 黒褐色 シルト。
 3. 10YR2/3 黒褐色 シルト 地山ブロックや多。

0 1m 1:30

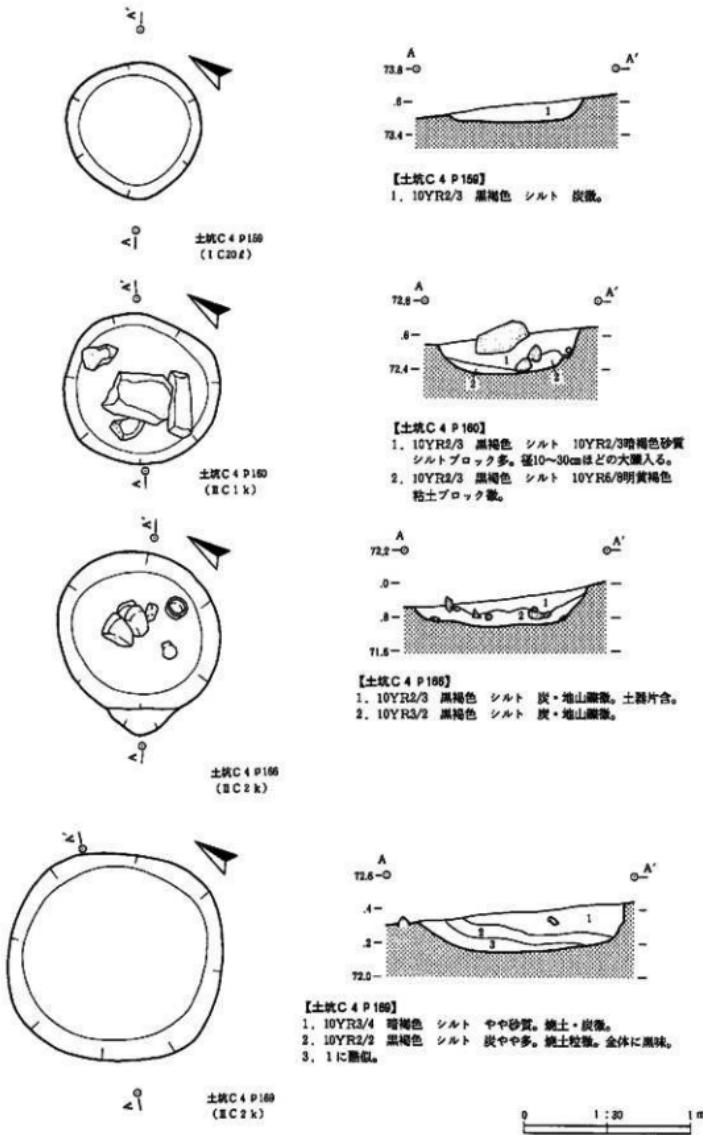
第31図 C区土坑 (3)



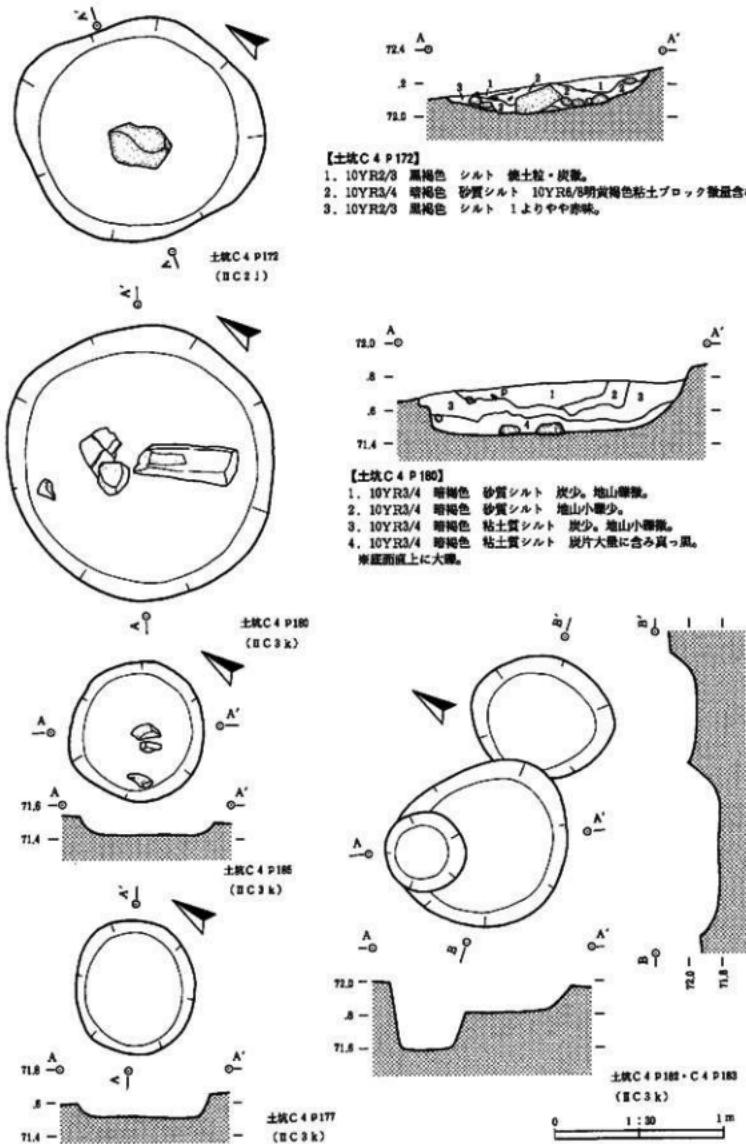
第32図 C区土坑 (4)



第33図 C区土坑 (5)



第34図 C区土坑(6)



第35図 C区土坑(7)

れる。【出土遺物】繩文土器片が出土しているが小片につき詳細な時期については不明である。

土坑C 4 p 221（第29図・写真図版24）

【位置・検出状況】I C 13 h グリッドに位置する。土坑C 4 p 1の精査段階にこれと重複していることが判明した。【規模・形状】開口部径84×80cmの円形を呈する。C 4 p 1に切られており残存する深さは26cmである。底面は平坦かつ水平で、壁はやや外傾して立ち上がる。【埋土と堆積状況】埋土はⅢ層相当の暗褐色シルトを主体とする。地山粘土ブロックを含む土によって埋められており、人為堆積によって埋没したものと判断される。【重複造構】土坑C 4 p 1・土坑C 4 p 220と重複する。C 4 p 1より古いが、C 4 p 220との新旧関係は不明である。【造構の時期】埋土の様相から繩文時代中期末葉～後期初頭に属するものと推定される。【出土遺物】繩文土器小片が出土しているが、詳細な時期等は不明である。

（4）土器埋設造構

C 3・C 4 区では柱穴群に粉れて土器を埋設した造構が2箇所みつかっている。いずれも強い二次火熱を受けており、炉跡と思われる。柱穴群との位置関係から建物跡（住居跡？）に伴う炉である可能性がある。

個々について、以下に記載する。

土器埋設造構 C 3 p 74（第36図・写真図版31）

II B 3 s グリッドに位置し、V a 層上面で検出された。土坑の埋土上部に土器が埋設された造構である。土坑は開口部78×70cm、検出面からの深さ28cmの円形を呈し、暗褐色の粘土質シルトに地山粘土ブロックを含む土で埋め戻されている。土器の埋設を目的とした掘り方としては必要以上の規模と整った形状を有することから、土坑は別の性格を持つ可能性がある。埋設された土器は3個体（CK-22～24：第36図）で、うち2つ（CK-22・23）が入れ子状に重ねられている。上部を削平されているため、いずれも底部付近のみ残存し本来の形状は窺い知れない。それぞれに土坑埋土をさらに掘り込んだ掘り方をもつ。土器は強い二次火熱を受けており器体外面に接する埋土は赤変している。これらのことから本造構は炉跡である可能性が高い。

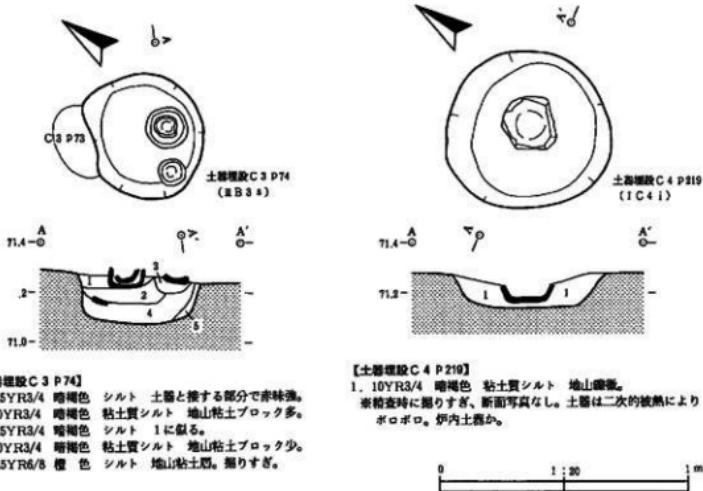
土器埋設造構 C 4 p 219（第36図・写真図版31）

I c 4 i グリッドに位置し、V a 層上面で検出された。100×100cmの円形の掘りこみに土器が埋設された造構である。掘り方は暗褐色粘土質シルトで充填されている。造構は上部を削平されており、土器は底部のみ残存している（CK-25：第36図）。強い二次被熱により脆弱で器面の剥落も著しい。よって本造構は炉跡である可能性が高い。

（5）陥穴状造構

陥穴状造構 C 3 p 623（第37図・写真図版31）

【位置・検出状況】I C 17 d グリッドに位置する。V a 層上面で暗褐色シルトの細長い影として検出された。【規模・形状】開口部は長さ306cm、最大幅46cmの細長い形状を呈する。断面はU字形、底面は南東側が一段低くなり、検出面からの深さは最大70cmとなっている。【埋土と堆積状況】埋土は暗褐色シルトを主体とする。壁崩落に伴い地山粘土ブロックを含む土が順次堆積していった様子が把握され、自然堆積によって埋没したものと判断される。【重複造構】なし。【造構の時期】繩文時代に属するものと思われるが帰属時期の詳細は不明である。【出土遺物】なし。



第36図 C区土器埋設遺構

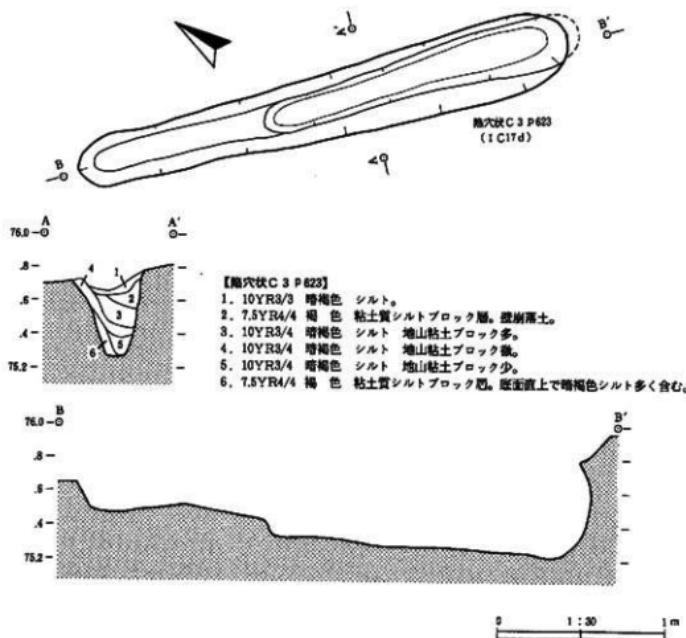
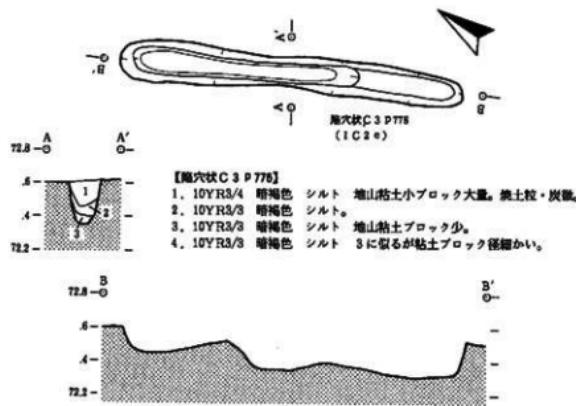
陥穴状遺構 C 3 p 776 (第37図・写真図版31)

【位置・検出状況】 I C 2 e グリッドに位置する。V a 層上面で暗褐色シルトの細長い影として検出された。

【規模・形状】 開口部は長さ206cm、最大幅24cmの細長い形状を呈する。底面は南東側が一段低くなっている。検出面からの深さは最大25cmである。【埋土と堆積状況】 埋土は暗褐色シルトを主体とする。壁崩落に伴い地山粘土ブロックを含む土が順次堆積していく様子が把握され、自然堆積によって埋没したものと判断される。【重複遺構】 なし。【遺構の時期】 繩文時代に属するものと思われるが帰属時期の詳細は不明である。【出土遺物】 なし。

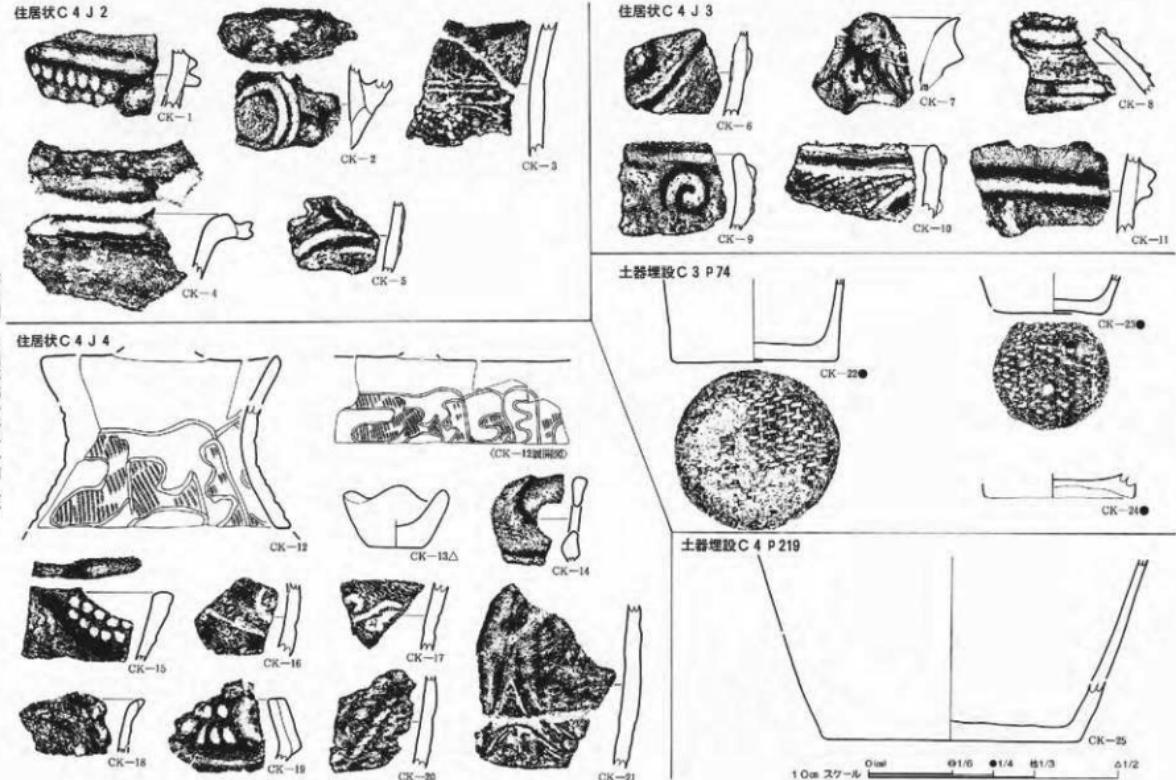
(6) C区沢跡

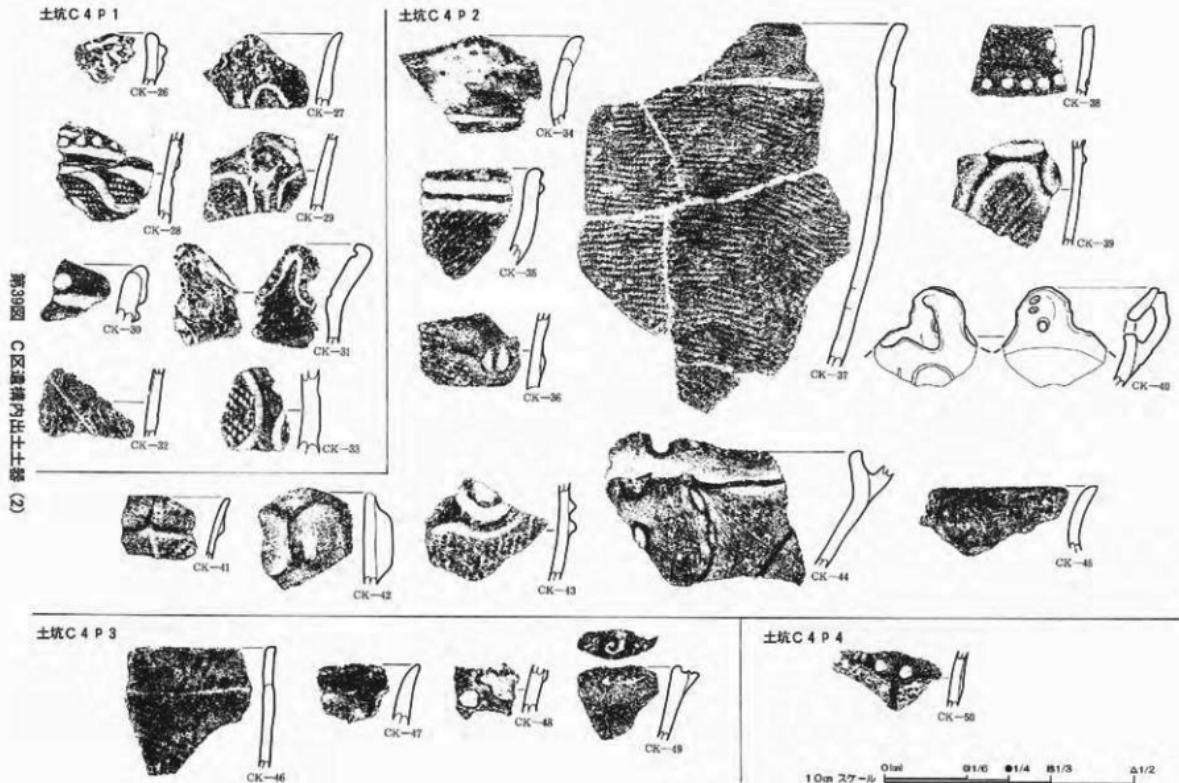
C 4 区と D 1 区の境界部は現在でも水のしみ出す沢跡となっている。沢筋は C 区遺構群の南縁を区切るように東から西へと走っており、C 区南部の土坑群や建物跡 1 (大形円形建物跡) はこの沢に面するように立地している。沢跡は地山層を削り込んでおり、底部中央には流水によって生じたと思われる雨裂状のクラックが無数に觀察される。クラックには中壇火山灰が堆積し、さらにその上にⅢ層土が堆積する。底面直上からも繩文時代中期末葉～後期初頭の土器が出土することから、集落が営まれた当時も地山面が露出する状態で流水が有ったと考えられる。C 区遺構外出土土器 (第 [2]-212~215図・写真図版225~227) の多くがこの沢跡の西端部 (II C 3 ~ 4 m ~ n) 付近で出土している。



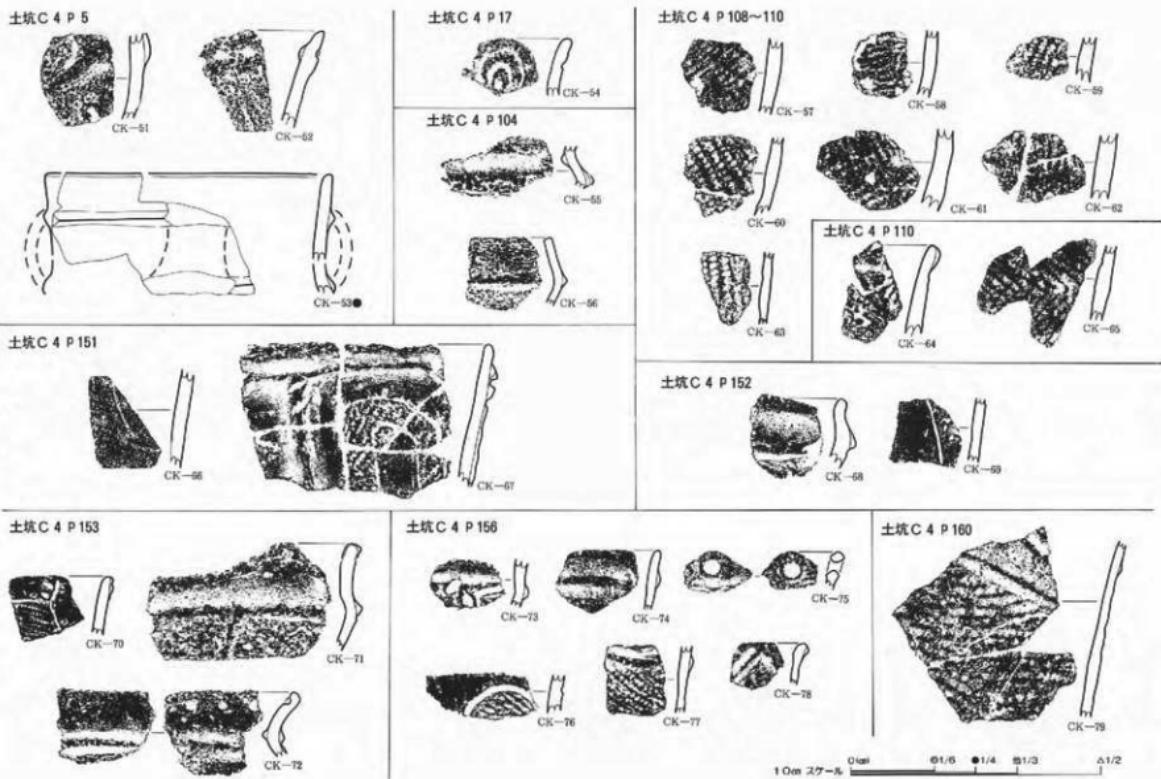
第37図 C区陥穴状造構

第38図 C区遺構内出土土器 (1)

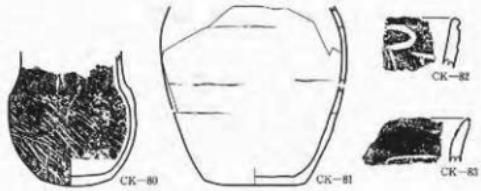




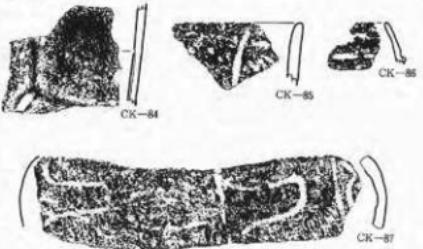
第40図 C区遺構内出土土器 (3)



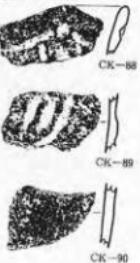
土坑 C 4 P 116



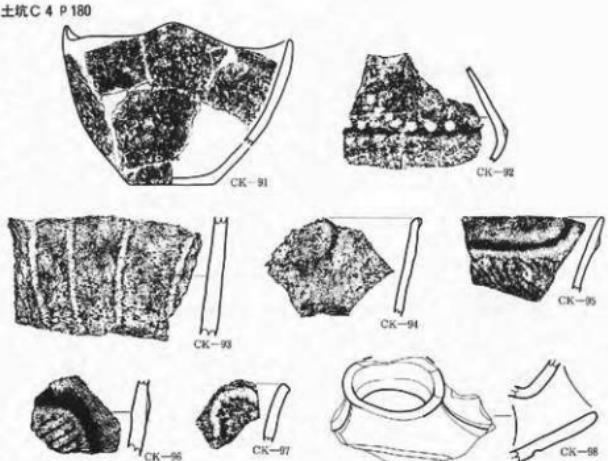
土坑 C 4 P 169



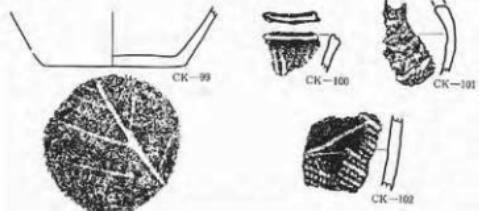
土坑 C 4 P 172



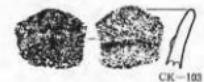
第41図
C区遺構内出土土器 (4)



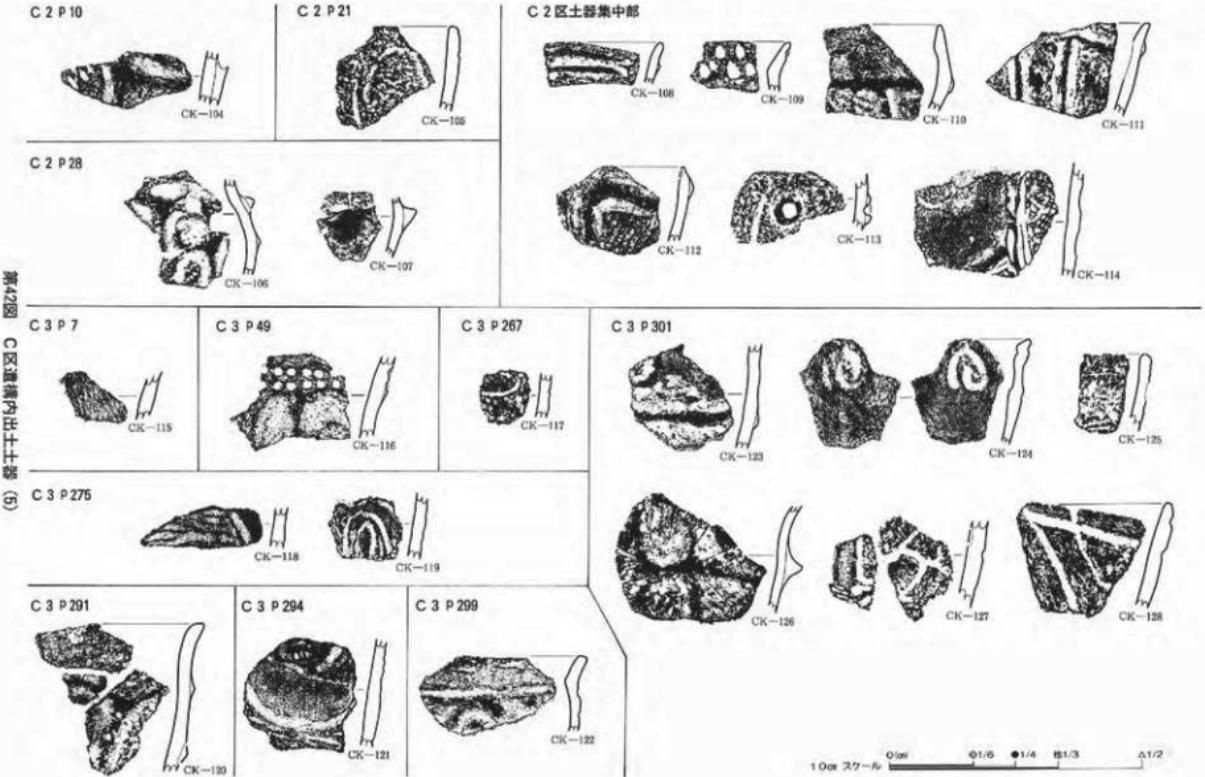
土坑 C 4 P 182

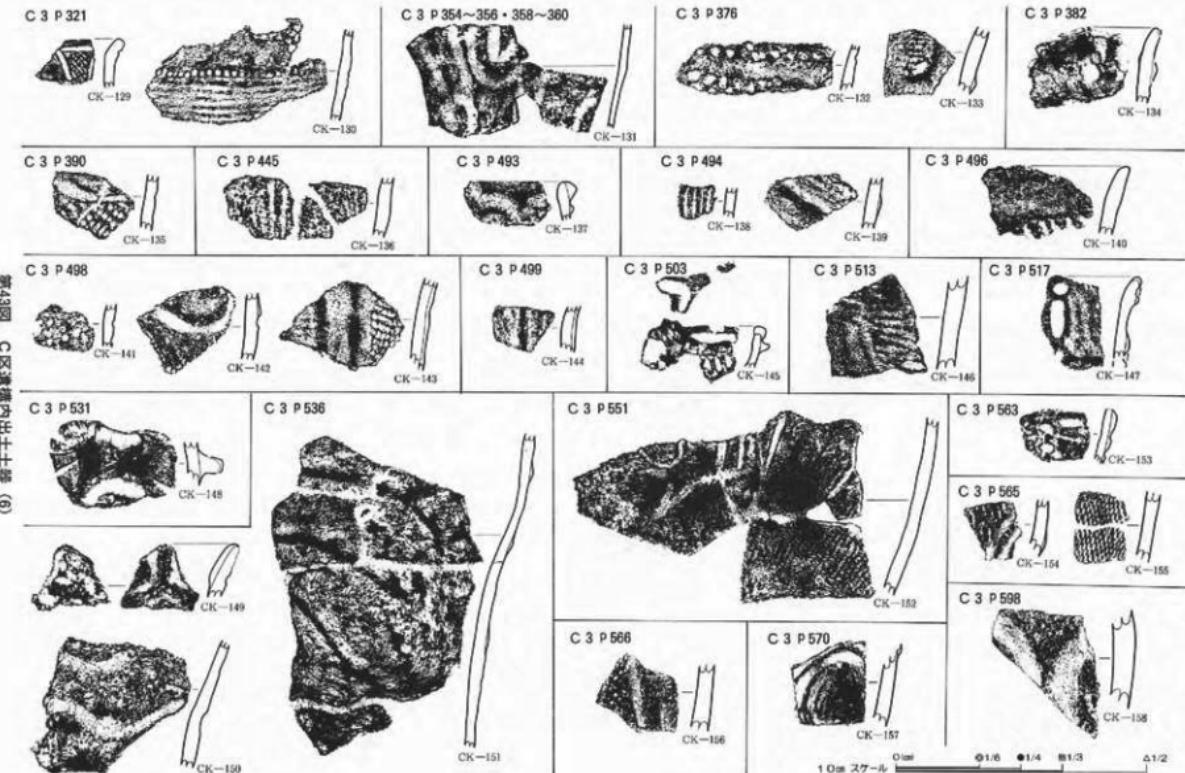


土坑 C 4 P 183



10cm スケール
○1/6 ●1/4 ▲1/3 △1/2





第44図 C区遺構内出土土器

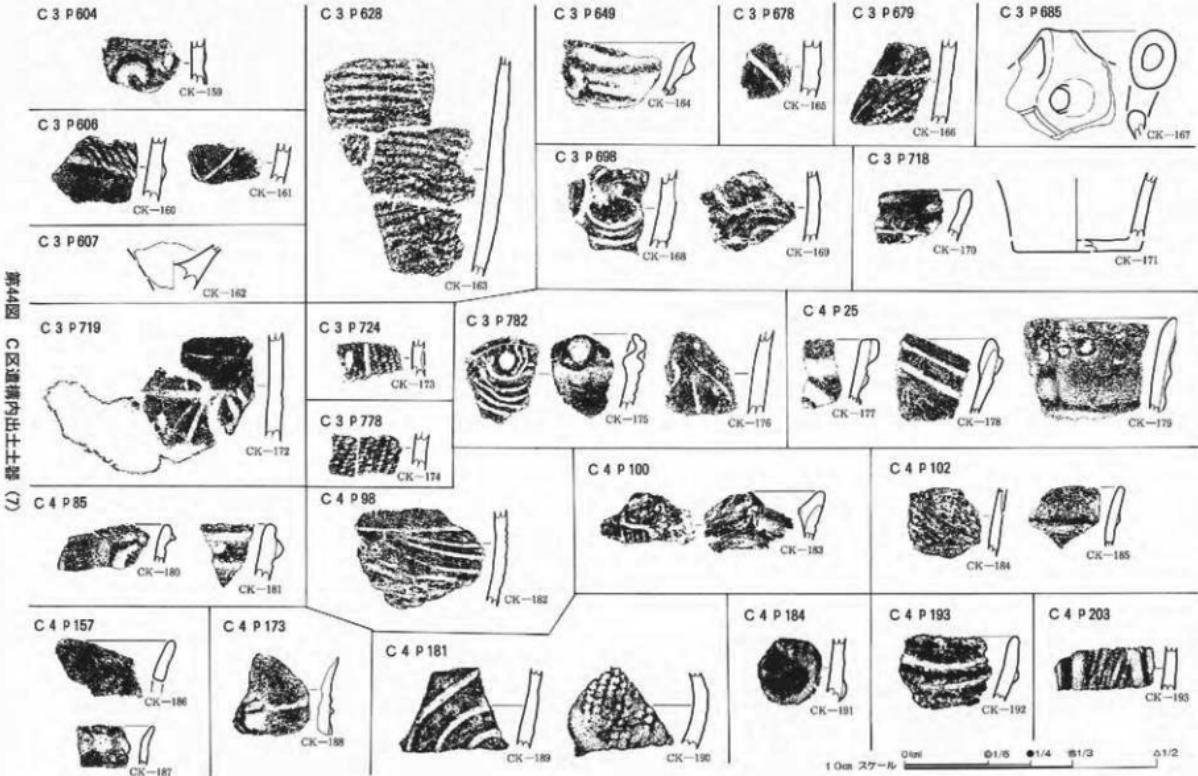


表4 C区遗物内出土土器

| 号 級 | 仮番号 | 出土 层 | 遺物種別 | 出土遺物名 | 層 位 | 器種 | 残存部位 | 装飾・文様 | 地文原体 | 器面色調 | 備考 | 回版 | 写真 |
|--------|--------|---------|------|------------------|--------|----|------|-------|------|------|----|----|----|
| CK-001 | C4-01 | C4 | 住居状 | C4KJ4住居跡 木梁跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-002 | 内-h157 | C4 | 住居状 | C4KJ3住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-003 | 内-h158 | C4 | 住居状 | C4KJ3住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-004 | 内-h159 | C4 | 住居状 | C4KJ3住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-005 | 内-h160 | C4 | 住居状 | C4KJ3住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-006 | 内-h161 | C4 | 住居状 | C4KJ3住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-007 | 内-h162 | C4 | 住居状 | C4KJ3住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-008 | 内-h163 | C4 | 住居状 | C4KJ3住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-009 | 内-h164 | C4 | 住居状 | C4KJ3住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-010 | 内-h165 | C4 | 住居状 | C4KJ3住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-011 | 内-h166 | C4 | 住居状 | C4KJ3住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-012 | 内-h167 | C4 | 住居状 | C4KJ3住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-013 | 内-h168 | C4 | 住居状 | C4KJ4住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-014 | 内-h169 | C4 | 住居状 | C4KJ4住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-015 | 内-h170 | C4 | 住居状 | C4KJ4住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-016 | 内-h171 | C4 | 住居状 | C4KJ4住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-017 | 内-h172 | C4 | 住居状 | C4KJ4住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-018 | 内-h173 | C4 | 住居状 | C4KJ4住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-019 | 内-h174 | C4 | 住居状 | C4KJ4住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-020 | 内-h175 | C4 | 住居状 | C4KJ4住居跡 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-021 | C3-01 | C3 | 土器埋設 | C3Kp074 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-022 | C3-02 | C3 | 土器埋設 | C3Kp074 | | | | | | | | 38 | |
| CK-023 | C3-03 | C3 | 土器埋設 | C3Kp074 | | | | | | | | 38 | |
| CK-024 | C4-06 | C4 | 土器埋設 | C4Kp219 | | | | | | | | 38 | |
| CK-025 | 内-h076 | C4 | 土坑 | C4Kp001 | | | | | | | | 38 | 51 |
| CK-026 | 内-h077 | C4 | 土坑 | C4Kp001 | | | | | | | | 39 | 51 |
| CK-027 | 内-h078 | C4 | 土坑 | C4Kp001 | | | | | | | | 39 | 51 |
| CK-028 | 内-h079 | C4 | 土坑 | C4Kp001 | | | | | | | | 39 | 51 |
| CK-029 | 内-h080 | C4 | 土坑 | C4Kp001 | | | | | | | | 39 | 51 |
| CK-030 | 内-h081 | C4 | 土坑 | C4Kp001 | | | | | | | | 39 | 51 |
| CK-031 | 内-h082 | C4 | 土坑 | C4Kp001 | | | | | | | | 39 | 51 |
| CK-032 | 内-h074 | C4 | 土坑 | C4Kp001 | | | | | | | | 39 | 51 |
| CK-033 | 内-h075 | C4 | 土坑 | C4Kp001 | | | | | | | | 39 | 51 |
| CK-034 | 内-h083 | C4 | 土坑 | C4Kp002 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-035 | 内-h084 | C4 | 土坑 | C4Kp002 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-036 | 内-h085 | C4 | 土坑 | C4Kp002 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-037 | 内-h086 | C4 | 土坑 | C4Kp002 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-038 | 内-h087 | C4 | 土坑 | C4Kp002 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-039 | 内-h088 | C4 | 土坑 | C4Kp002 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-040 | 内-h089 | C4 | 土坑 | C4Kp002 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-041 | 内-h090 | C4 | 土坑 | C4Kp002 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-042 | 内-h091 | C4 | 土坑 | C4Kp002 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-043 | 内-h092 | C4 | 土坑 | C4Kp002 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-044 | 内-h088 | C4 | 土坑 | C4Kp002 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-045 | 内-h089 | C4 | 土坑 | C4Kp002 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-046 | 内-h095 | C4 | 土坑 | C4Kp003 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-047 | 内-h096 | C4 | 土坑 | C4Kp003 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-048 | 内-h097 | C4 | 土坑 | C4Kp003 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-049 | 内-h086 | C4 | 土坑 | C4Kp003 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-050 | 内-h099 | C4 | 土坑 | C4Kp004 | | | | | | | | 39 | 52 |
| CK-051 | 内-h100 | C4 | 土坑 | C4Kp005 | | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-052 | 内-h101 | C4 | 土坑 | C4Kp005 | | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-053 | 内-h102 | C4 | 土坑 | C4Kp005 | | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-054 | 内-h103 | C4 | 土坑 | C4Kp017 | | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-055 | 内-h113 | C4 | 土坑 | C4Kp104 | | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-056 | 内-h114 | C4 | 土坑 | C4Kp104 | | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-057 | 内-h186 | C4 | 土坑 | C4Kp108~ p110 | | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-058 | 内-h187 | C4 | 土坑 | C4Kp108~ p110 | | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-059 | 内-h188 | C4 | 土坑 | C4Kp108~ p110 | | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-060 | 内-h189 | C4 | 土坑 | C4Kp108~ p110 | | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-061 | 内-h190 | C4 | 土坑 | C4Kp108~ p110 | | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-062 | 内-h191 | C4 | 土坑 | C4Kp108~ p110 | | | | | | | | 40 | 52 |

| 場 標 | 仮番号 | 出土 目 | 造構機別 | 出土遺構名 | 層 位 | 器種 | 残存部位 | 装飾・文様 | 地文原体 | 器面色調 | 備考 | 図版 | 写真 |
|--------|--------|---------|-------|------------------|--------|----|------|-------|------|------|----|----|----|
| CK-065 | 内-h192 | C4 | 十塁 | C4Kp108~ p110 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-064 | 内-h193 | C4 | 土坑 | C4Kp110 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-065 | 内-h194 | C4 | 土坑 | C4Kp110 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-066 | 内-h115 | C4 | 土坑 | C4Kp151 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-067 | 内-h116 | C4 | 土坑 | C4Kp151 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-068 | 内-h117 | C4 | 土坑 | C4Kp152 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-069 | 内-h118 | C4 | 土坑 | C4Kp152 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-070 | 内-h119 | C4 | 土坑 | C4Kp153 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-071 | 内-h120 | C4 | 土坑 | C4Kp153 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-072 | 内-h121 | C4 | 土坑 | C4Kp153 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-073 | 内-h122 | C4 | 土坑 | C4Kp156 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-074 | 内-h123 | C4 | 土坑 | C4Kp156 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-075 | 内-h124 | C4 | 土坑 | C4Kp156 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-076 | 内-h125 | C4 | 土坑 | C4Kp156 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-077 | 内-h126 | C4 | 土坑 | C4Kp156 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-078 | 内-h127 | C4 | 土坑 | C4Kp156 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-079 | 内-h130 | C4 | 土坑 | C4Kp160 | 埋土一括 | | | | | | | 40 | 52 |
| CK-080 | C4-02 | C4 | 土坑 | C4Kp166 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-081 | C4-03 | C4 | 土坑 | C4Kp166 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-082 | 内-h131 | C4 | 土坑 | C4Kp166 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-083 | 内-h132 | C4 | 土坑 | C4Kp166 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-084 | 内-h133 | C4 | 土坑 | C4Kp169 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-085 | 内-h134 | C4 | 土坑 | C4Kp169 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-086 | 内-h135 | C4 | 土坑 | C4Kp169 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-087 | 内-h136 | C4 | 土坑 | C4Kp169 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-088 | 内-h137 | C4 | 土坑 | C4Kp172 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-089 | 内-h138 | C4 | 土坑 | C4Kp172 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-090 | 内-h139 | C4 | 土坑 | C4Kp172 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-091 | C4-04 | C4 | 土坑 | C4Kp180 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-092 | 内-h141 | C4 | 土坑 | C4Kp180 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-093 | 内-h142 | C4 | 土坑 | C4Kp180 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-094 | 内-h143 | C4 | 土坑 | C4Kp180 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-095 | 内-h144 | C4 | 土坑 | C4Kp180 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-096 | 内-h145 | C4 | 土坑 | C4Kp180 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-097 | 内-h146 | C4 | 土坑 | C4Kp180 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-098 | 内-h147 | C4 | 土坑 | C4Kp180 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-099 | C4-05 | C4 | 土坑 | C4Kp182 | 底面直上 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-100 | 内-h150 | C4 | 土坑 | C4Kp182 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-101 | 内-h151 | C4 | 土坑 | C4Kp182 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-102 | 内-h152 | C4 | 土坑 | C4Kp182 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-103 | 内-h153 | C4 | 土坑 | C4Kp183 | 埋土一括 | | | | | | | 41 | 53 |
| CK-104 | 内-h008 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp010 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 53 |
| CK-105 | 内-h009 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp021 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 53 |
| CK-106 | 内-h010 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp028 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 53 |
| CK-107 | 内-h011 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp028 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 53 |
| CK-108 | 内-h001 | C5 | 柱穴その他 | C2SKSK01 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-109 | 内-h002 | C5 | 柱穴その他 | C2SKSK01 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-110 | 内-h003 | C5 | 柱穴その他 | C2SKSK01 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-111 | 内-h004 | C5 | 柱穴その他 | C2SKSK01 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-112 | 内-h005 | C5 | 柱穴その他 | C2SKSK01 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-113 | 内-h006 | C5 | 柱穴その他 | C2SKSK01 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-114 | 内-h007 | C5 | 柱穴その他 | C2SKSK01 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-115 | 内-h012 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp007 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-116 | 内-h013 | C5 | 柱穴その他 | C3Kp049 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-117 | 内-h014 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp267 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-118 | 内-h015 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp275 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-119 | 内-h016 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp275 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-120 | 内-h028 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp291 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-121 | 内-h017 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp294 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-122 | 内-h028 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp299 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-123 | 内-h022 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp301 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-124 | 内-h023 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp301 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-125 | 内-h024 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp301 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-126 | 内-h025 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp301 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-127 | 内-h026 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp301 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-128 | 内-h027 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp301 | 埋土一括 | | | | | | | 42 | 54 |
| CK-129 | 内-h018 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp321 | 埋土一括 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-130 | 内-h019 | C5 | 柱穴その他 | C5Kp321 | 埋土一括 | | | | | | | 43 | 54 |

| 局 編 | 仮番号 | 出土 年 | 遺構種別 | 出土遺構名 | 層 位 | 器種 | 残存部位 | 装飾・文様 | 地文原体 | 器面色調 | 備考 | 図版 | 写真 |
|--------|--------|---------|-------|------------------------------|--------|----|------|-------|------|------|----|----|----|
| CK-131 | 内-h041 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.354~ 356・358~ 360 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-132 | 内-h020 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.376 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-133 | 内-h021 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.376 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-134 | 内-h039 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.382 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-135 | 内-h031 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.390 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-136 | 内-h038 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.445 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-137 | 内-h033 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.493 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-138 | 内-h034 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.494 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-139 | 内-h035 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.494 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-140 | 内-h036 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.496 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-141 | 内-h037 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.496 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-142 | 内-h038 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.496 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-143 | 内-h039 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.498 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-144 | 内-h040 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.499 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-145 | 内-h042 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.503 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-146 | 内-h043 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.513 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-147 | 内-h044 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.517 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-148 | 内-h045 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.531 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 54 |
| CK-149 | 内-h046 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.536 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 55 |
| CK-150 | 内-h047 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.536 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 55 |
| CK-151 | 内-h048 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.536 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 55 |
| CK-152 | 内-h049 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.551 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 55 |
| CK-153 | 内-h050 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.563 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 55 |
| CK-154 | 内-h051 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.565 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 55 |
| CK-155 | 内-h052 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.565 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 55 |
| CK-156 | 内-h053 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.566 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 55 |
| CK-157 | 内-h053 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.570 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 55 |
| CK-158 | 内-h055 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.579 | 埋土一層 | | | | | | | 43 | 55 |
| CK-159 | 内-h055 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.584 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-160 | 内-h057 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.605 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-161 | 内-h058 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.606 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-162 | 内-h059 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.607 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-163 | 内-h060 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.628 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-164 | 内-h061 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.649 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-165 | 内-h063 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.678 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-166 | 内-h065 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.679 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-167 | 内-h064 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.685 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-168 | 内-h065 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.696 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-169 | 内-h066 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.698 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-170 | 内-h067 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.718 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-171 | 内-h068 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.718 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-172 | 内-h069 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.719 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-173 | 内-h070 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.724 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-174 | 内-h071 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.778 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-175 | 内-h072 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.782 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-176 | 内-h073 | C3 | 柱穴その他 | C3Kp.782 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-177 | 内-h104 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.025 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-178 | 内-h105 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.025 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-179 | 内-h106 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.025 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-180 | 内-h107 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.085 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-181 | 内-h108 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.085 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-182 | 内-h109 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.098 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-183 | 内-h110 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.098~ p100 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-184 | 内-h111 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.102 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-185 | 内-h112 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.102 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-186 | 内-h128 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.157 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-187 | 内-h129 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.157 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-188 | 内-h140 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.173 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-189 | 内-h148 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.181 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-190 | 内-h149 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.181 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-191 | 内-h154 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.184 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-192 | 内-h155 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.193 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |
| CK-193 | 内-h156 | C4 | 柱穴その他 | C4Kp.203 | 埋土一層 | | | | | | | 44 | 55 |

3. 南尾根

(1) 穴柱住跡

住居跡D 1 J 1 (第45図・写真図版33)

【位置・検出状況】 I D 18 f グリッド付近に位置する。V a 層上面でにぶい黄褐色シルトの円形の影として検出された。周囲の土との違いは不明瞭であったがプラン内部の土色がやや暗いことや炭化物粒を含むことなどから遺構と判断した。

【規模・形状】 斜面下方の南西側の壁は流失しているため本来の規模は不明であるが、残存する壁や硬化面の範囲から5.8×5.3mの略円形を呈すると思われる。検出面からの深さは10~20cmである。

【埋土と堆積状況】 埋土はⅢ層相当の黒褐色シルトを主体とし、全体に密に絡まっている。底面の凹部は貼床土と思われる黒褐色シルトで平坦にならされ、踏みしめられたように硬化している。床面とみられるこの上面には炭化物粒・焼土粒が散っている。さらにこの上を覆うのが地山粘土ブロックを含むにぶい黄褐色シルト層で、検出面に表れていたのはこの層である。埋土は斜面上方の東側から漸次、土が流入・堆積し埋没したものと考えられる。

【壁・床面】 壁は残存箇所で見る限り、やや外傾して直線的に立ち上がっている。床面はほぼ平坦だが中央部がやや低く、これに向かって緩く傾斜している。

【炉】 床面中央付近から南壁寄りに向かって2つの燃焼部が連結する複式炉が設けられている。燃焼部は中央寄りのもの50×40cm、壁寄りのもの60×50cmの円形の掘りこみが連結したもので、これらの長軸両端には石の抜き取り痕とみられる小穴をもつ。床面からの深さは10~15cmで、中央寄りの方が深い。掘りこみを持つ燃焼部にさらに連続して、床面中央には被熱により80×70cmの円形に赤変・硬化した範囲が認められる。逆に壁側には炉の一部をなすような痕跡はみられなかった。

【柱穴】 柱穴は認識できなかったが、壁際に沿って不規則な凹凸が認められるのでこの凹部を掘り方として柱底部を埋設していた可能性を指摘しておきたい。

【重複】 周溝遺構1と重複し、これに切られる。

【遺構の時期】 住居の形態、埋土及び出土遺物から縄文時代中期末葉に属するものと判断できる。

【出土遺物】 縄文土器片 (DK-1 : 第56図・写真図版56)。凹石 (Sf-4~6 : 第[2]-263図・写真図版294)。磨石 (Sf-6 : 表掲載)。その他剥片類。

住居跡D 2 J 1 (第46~47図・写真図版34)

【位置・検出状況】 I D 16 g グリッド付近に位置する。V a 層上面で褐色シルトの円形の影として検出された。周囲の土との違いは不明瞭であったがプラン内部の土色がやや暗いことや炭化物粒を含むことなどから遺構と判断した。

【規模・形状】 斜面下方の南側の壁は流失しているため本来の規模は不明であるが、残存する壁や硬化面の範囲から6.2×6.1mの円形を呈すると思われる。検出面からの深さは最大32cmである。

【埋土と堆積状況】 埋土はⅢ層相当の暗褐色シルトを主体とし、全体に密に絡まっている。掘り方は壁際にはところどころ凹部をもち、貼床土と思われる地山粘土ブロックで充填されている。床面中央部に貼り床はなく、露出した地山粘土層が平坦にならされ踏みしめられたように硬化している。床面とみられるこの上面には炭化物粒・焼土粒が散っている。床面を覆う暗褐色シルト (3層) は地山粘土ブロックを含む。さらに

この上を覆うのが埋土上部の褐色シルト（1・2層）であるが、草木根による新・旧の擾乱層とみられる。

【壁・床面】壁は南半部を失っているが、残存箇所で見る限り僅かに外傾して直線的に立ち上がる。床面は平坦かつ水平であるが、南部の床面は流失・削平を受け本来の面を失っている。整直下には幅10~20cm、深さ2~5cmの周溝が断続的に巡る。埋土は壁側ほど黒味が強く、内側の立ち上がりが曖昧である。周溝は改めて掘られたというより、貼床土に「埋め残された」という印象を受ける。開口していることが機能的条件である排水溝などとは異なり、壁材の痕跡とみるのが妥当と思われる。

【炉】床面中央よりも南壁寄りの位置に2つの燃焼部が連結する複式炉【炉(1)】が設けられている。燃焼部は中央部側の円形の掘りこみ（55×50cm）と、壁側に向かって拡がる長さ50cm・幅80cmの台形を呈するものとが連結しており、長軸両端を区切る礫（またはその痕跡）が埋め込まれている。内面は全体に赤変し、特に台形形掘りこみの中央部側壁面は強い火熱によって青灰色に変化している。これとは別に床面中央部のやや西寄りのところには、床面が直接被熱・赤変した115×100cmの精円形の範囲がある【炉(2)】。

【柱穴】柱穴は南壁沿いに3基確認した。全周巡るものと予想し床面・壁外を精査したが確認されなかった。壁際に沿って不規則な回凸が認められるのでこの四部を掘り方として柱底部を埋設していた可能性を指摘しておきたい。

【重複】重複する遺構はない。

【遺構の時期】住居の形態、埋土及び出土遺物から縄文時代中期末葉に属するものと判断できる。

【出土遺物】縄文土器片（DK-2～4：第56図・写真図版56）。石錐（Sa-44～45：第[2]-243図・写真図版253）。棒状石製品（Sk-11：第[2]-273図・写真図版304）。凹石（Sf-7：第[2]-263図・写真図版294）。

住居跡D 2 J 2（第47図・写真図版35）

【位置・検出状況】ID14gグリッド付近に位置する。D 2区東辺部調査区境界のV a層上面で褐色シルトの半円形の影として検出された。周囲の土との違いは不明瞭であったがプラン内部の土色がやや暗いことや炭化物粒を含むことなどから遺構と判断した。

【規模・形状】東部は調査区外へとでているため、全体の形状は不明であるが、隣接する住居跡と同様、直径5~6m程度の円形を呈するものと推測される。検出面からの深さは最大45cmである。

【埋土と堆積状況】埋土は褐色シルトを主体とし、全体に密に絡まっている。床面を覆う黒褐色シルト（4層）は壁際に厚く堆積し、さらにこの上を覆う褐色シルト（3層）は地山粘土ブロックをやや多く含む。埋土の上部は草木根による擾乱を受けている。

【壁・床面】壁は僅かに外傾して直線的に立ち上がる。床面は平坦かつ水平で、床面は踏み固められたよう硬化している。

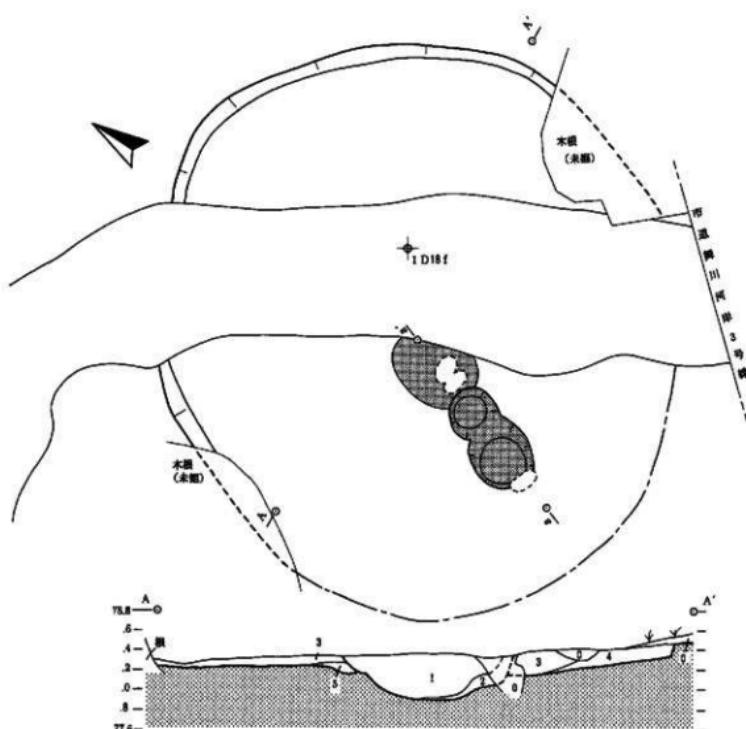
【炉】調査区内には検出されなかった。調査区外に残存するものと推測される。

【柱穴】床面精査でも柱穴は検出されないが、周溝内部には径15~20cmの小ピットが複数認められる。

【重複】重複する遺構はない。

【遺構の時期】住居の形態、埋土及び出土遺物から縄文時代中期末葉に属するものと判断できる。

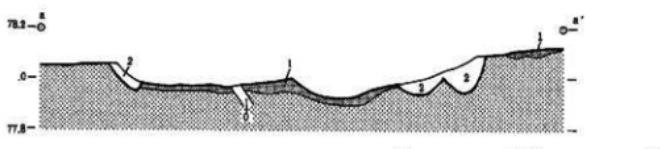
【出土遺物】縄文土器片（DK-5：第56図・写真図版56）。



【住居跡 D 1 J 1・周溝遺構 1】

0. 稲妻土及び根カクラン。
 1. 10YR3/2 黒褐色 シルト 灰極微。繊やや欠。
 2. 10YR3/2 黒褐色 シルト 地山粘土ブロック多。
 3. 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 全体にやや質硬。灰極微。繊有。
 4. 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 地山粘土ブロックや多。繊有。
 5. 10YR3/2 黒褐色 シルト 灰極微。特強。
- ※ 1～2：周溝遺構埋土。3～4：住居埋土。5：住居粘土土。

0 1 : 50 2 m

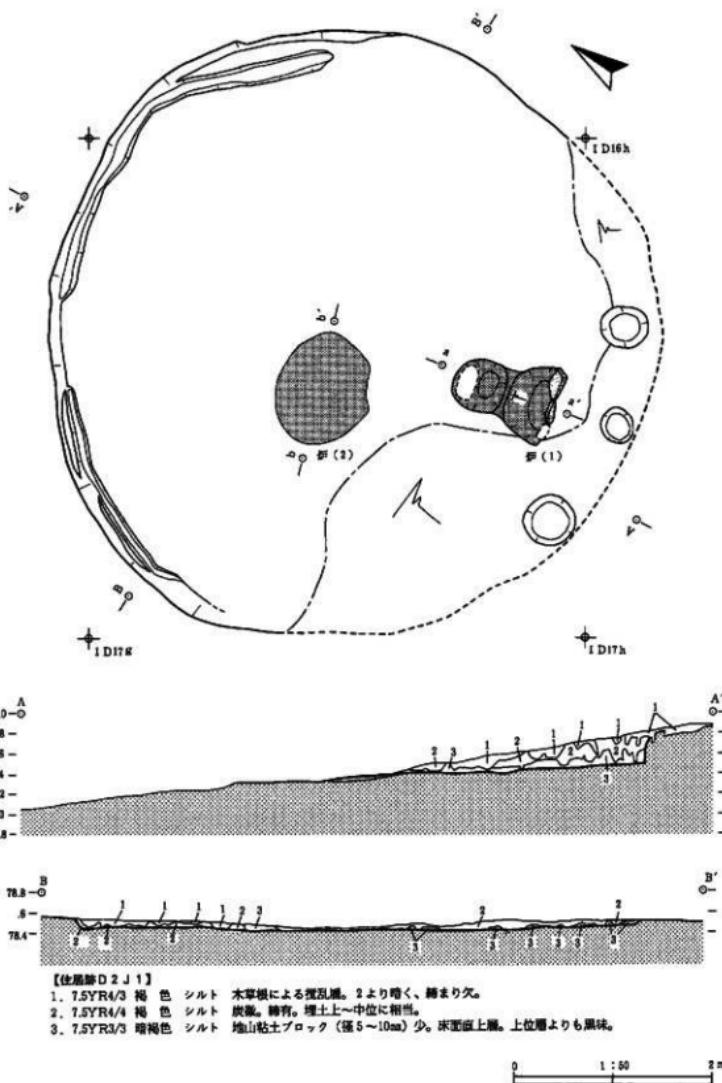


【住居跡 D 1 J 1-伊】

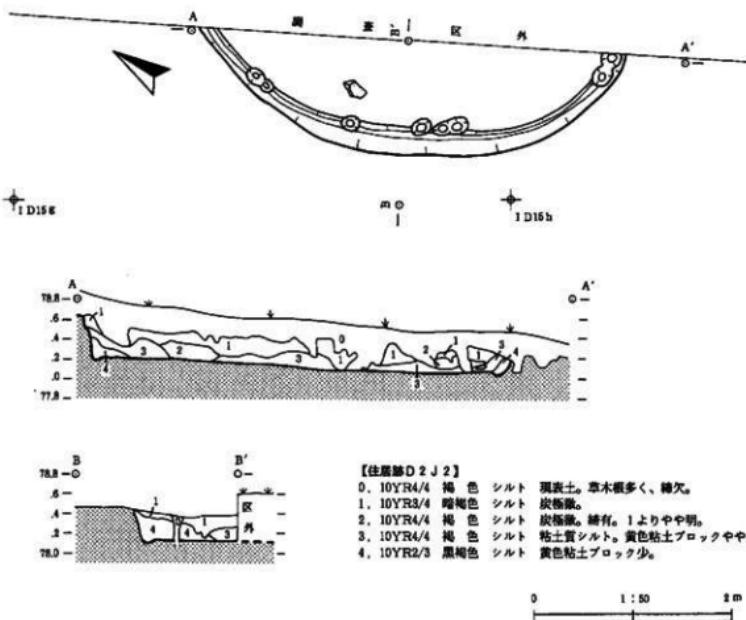
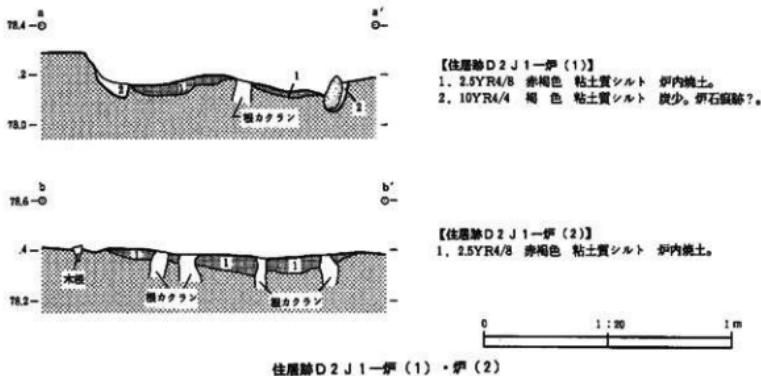
0. 根カクラン。
1. 2.5YR5/6 明赤褐色 粘土。
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト 灰微。地山粘土ブロック微。(伊石抜取跡?)

0 1 : 50 2 m

第45図 住居跡 D 1 J 1



第46図 住居跡 D 2 J 1 (1)



第47図 住居跡D 2 J 1 (2)・住居跡D 2 J 2

(2) 柱穴群

D 1 区柱穴群 (第48図・写真図版32・表5)

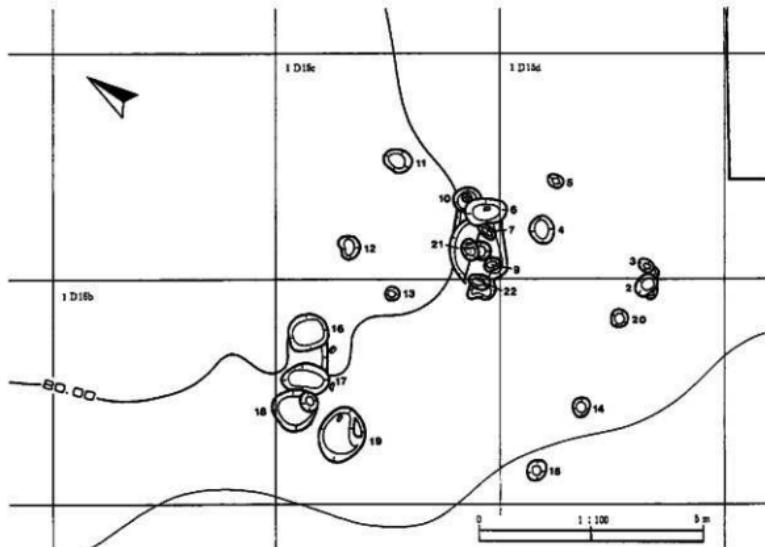
南尾根頂部にあたるD 1区東部では、柱穴状ビット22基が検出されている。配置から方形プランの建物跡を構成することも考えられる。埋土の主体はⅢ層相当の黒褐色シルトで、D 1 p 18、D 1 p 19からは縄文時代中期末～後期前葉の土器片が出土している(DK-8～11：第56図・写真図版56)。埋土の性状と出土遺物から造構も概ねこの時期に相当するものと考えている。

なお、柱穴配置(建物跡復元)については検討を行ったが、時間的、その他種々の制約から図示するに至らなかった。

D 2 区柱穴群 (第49図・表5)

南尾根上の緩斜面に相当するD 2区東辺部では、柱穴状ビット約110基が検出されている。標高77.5～75.0mの間に集中し、特に後述する周溝状造構2付近の平場に多い(I D 15～16 i～kグリッド)。東～西、南～北に沿った柱列が認められ、建物跡を構成する可能性が高い。これらの柱穴から出土する遺物は主に縄文土器片であり、他の時代のものは認められない。しかし、この柱穴群が縄文時代に帰属するものとするには、不確定要素が多い。ここでは便宜的に縄文時代の造構とともに扱っているが、同じ面で検出されている鍛冶炉状造構・周溝状造構2などの時期不明造構との関係を考慮する必要があろう。

なお、D 1区と同様に、柱穴配置の検討(建物跡復元)が種々の制約から不完全に終わり、図示できなかつたことをお詫びする。



第48図 D 1 区柱穴群

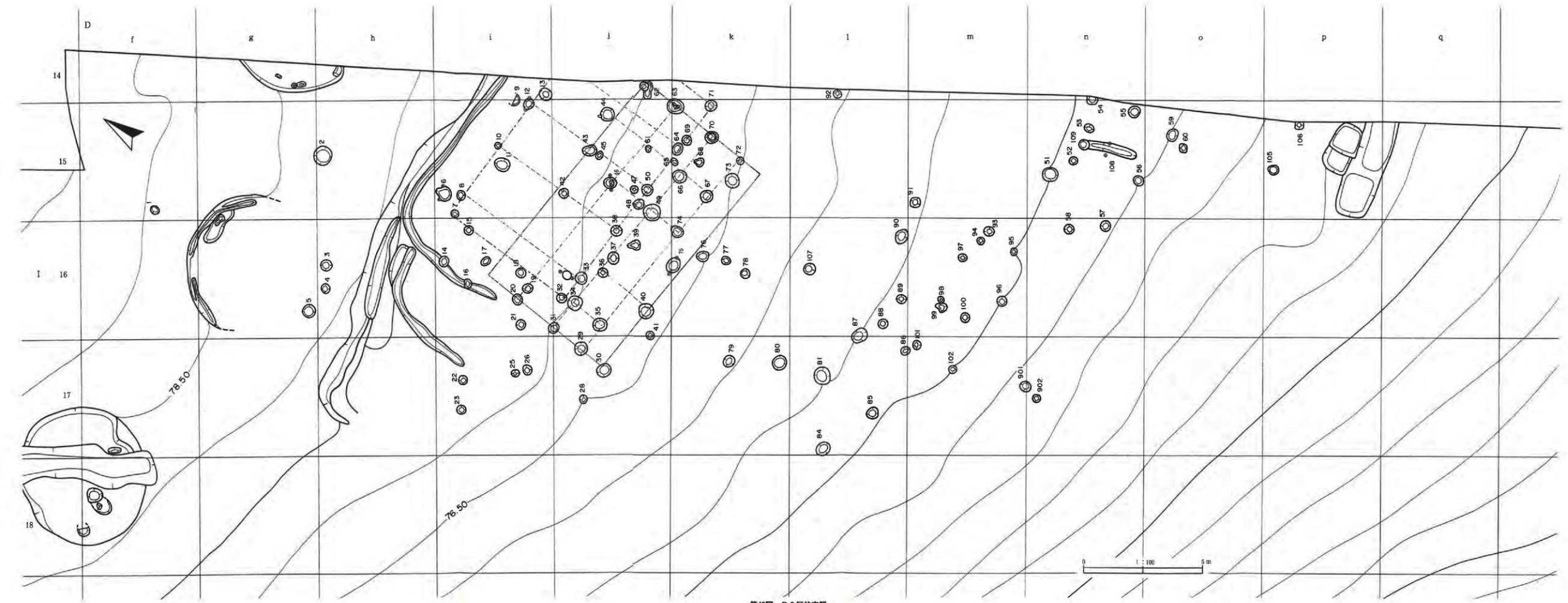


表5 D区柱穴一覧

| 区 | No | 位 置 | 掘り方(標準土主体土) | | 堆 入 物 | 堆 貨 レベル | 帰属造様 | 出土遺物 | | | 備 考 |
|----|----|--------|----------------|----|-------|---------|------|------|----|----|-----|
| | | | 色 | 調 | | | | 土質 | 地盤 | 基土 | |
| D1 | 1 | I D15a | 10YR2/3 黒褐色 | シ | 微 | 78.75 | | | | | |
| D1 | 2 | I D16d | 10YR2/3 黒褐色 | シ | 少 | 79.43 | | | | | |
| D1 | 3 | I D15d | 10YR2/4 墓褐色 | シ | 少 | 79.57 | | | | | |
| D1 | 4 | I D15d | 10YR2/3 墓褐色 | シ | | 79.74 | | | | | |
| D1 | 5 | I D15d | 10YR2/3 黒褐色 | シ | 微 | 79.58 | | | | | |
| D1 | 6 | I D15c | 10YR2/2 黒褐色 | 粘シ | 微 | 79.58 | | | | | |
| D1 | 7 | I D15c | 10YR2/2 黒褐色 | 粘シ | 微 | 79.63 | | | | | |
| D1 | 8 | I D15c | | | | | | | | | |
| D1 | 9 | I D15c | 10YR3/4 墓褐色 | シ | 少 | 79.68 | | | | | |
| D1 | 10 | I D15c | 10YR3/3 墓褐色 | シ | | 79.81 | | | | | |
| D1 | 11 | I D15c | 10YR3/4 墓褐色 | シ | 微 | 79.80 | | | | | |
| D1 | 12 | I D15c | 10YR4/3 にじい黄褐色 | シ | 微 | 79.80 | | | | | |
| D1 | 13 | I D16c | 10YR3/3 墓褐色 | シ | 微 | 80.01 | | | | | |
| D1 | 14 | I D16d | 10YR5/3 墓褐色 | シ | | 79.49 | | | | | |
| D1 | 15 | I D16d | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 微 | 79.38 | | | | | |
| D1 | 16 | I D16c | 10YR2/3 黒褐色 | シ | 少 | 79.79 | | | | | |
| D1 | 17 | I D16c | 10YR2/3 黒褐色 | シ | 多 | 79.73 | | | | | |
| D1 | 18 | I D16c | 10YR3/3 墓褐色 | シ | 少 | 79.75 | | | | | |
| D1 | 19 | I D16c | 10YR3/2 黒褐色 | シ | 少 | 79.63 | | | | | |
| D1 | 20 | I D16d | 10YR3/4 墓褐色 | シ | 多 | 79.56 | | | | | |
| D1 | 21 | I D15c | | | | 79.86 | | | | | |
| D1 | 22 | I D16c | | | | 79.70 | | | | | |
| D2 | 1 | I D15f | 10YR3/4 墓褐色 | シ | | 78.75 | | | | | |
| D2 | 2 | I D15h | 10YR3/4 墓褐色 | シ | 微 | 78.19 | | | | | |
| D2 | 3 | I D16h | 10YR5/6 黄褐色 | 粘シ | | 78.00 | | | | | |
| D2 | 4 | I D16h | 10YR4/6 梅色 | シ | | 77.94 | | | | | |
| D2 | 5 | I D16g | 10YR3/4 墓褐色 | シ | 少 | 77.92 | | | | | |
| D2 | 6 | I D15j | | | | 76.87 | | | | | |
| D2 | 7 | I D15j | 10YR4/6 梅色 | シ | | 76.93 | | | | | |
| D2 | 8 | I D15j | 10YR4/6 梅色 | シ | 多 | 76.95 | | | | | |
| D2 | 9 | I D15j | 10YR6/8 明黄褐色 | 粘シ | | 77.09 | | | | | |
| D2 | 10 | I D15j | | | | 76.98 | | | | | |
| D2 | 11 | I D15k | 10YR3/4 墓褐色 | シ | 多 | 76.75 | | | | | |
| D2 | 12 | I D15k | | | | 77.03 | | | | | |
| D2 | 13 | I D14i | 10YR4/6 梅色 | シ | 少 | 76.89 | | | | | |
| D2 | 14 | I D16k | 10YR4/6 梅色 | シ | 微 | 76.98 | | | | | |
| D2 | 15 | I D16k | 10YR4/6 梅色 | シ | ○ | 76.95 | | | | | |
| D2 | 16 | I D16k | | | | 76.82 | | | | | |
| D2 | 17 | I D16k | 10YR5/6 黄褐色 | シ | 微 | 76.97 | | | | | |
| D2 | 18 | I D16k | 10YR4/4 梅色 | シ | | 76.81 | | | | | |
| D2 | 19 | I D16k | 10YR4/6 梅色 | シ | 微 | 76.86 | | | | | |
| D2 | 20 | I D16k | 10YR4/6 梅色 | シ | 多 | 76.84 | | | | | |
| D2 | 21 | I D16k | 10YR4/6 梅色 | シ | 少 | 76.86 | | | | | |
| D2 | 22 | I D17i | 10YR3/4 墓褐色 | シ | 微 | 76.96 | | | | | |
| D2 | 23 | I D17i | 10YR3/4 墓褐色 | シ | | 76.82 | | | | | |
| D2 | 24 | I D17i | | | | 76.82 | | | | | |
| D2 | 25 | I D17i | | | | 76.82 | | | | | |
| D2 | 26 | I D17i | | | | 76.82 | | | | | |
| D2 | 27 | 欠 | | | | | | | | | |
| D2 | 28 | I D17i | | | | 76.82 | | | | | |
| D2 | 29 | I D17i | 10YR3/4 墓褐色 | シ | 少 | 76.42 | | | | | |
| D2 | 30 | I D17i | 10YR4/4 梅色 | シ | 微 | 76.30 | | | | | |
| D2 | 31 | I D16j | 10YR4/4 梅色 | シ | 少 | | | | | | |
| D2 | 32 | I D16j | 10YR5/8 黄褐色 | 粘シ | 多 | 76.64 | | | | | |
| D2 | 33 | I D16j | 10YR4/6 梅色 | 粘シ | | 76.61 | | | | | |
| D2 | 34 | I D16j | 10YR4/3 にじい黄褐色 | 粘シ | | 76.58 | | | | | |
| D2 | 35 | I D16j | 10YR4/6 梅色 | 粘シ | 少 | 76.53 | | | | | |
| D2 | 36 | I D16j | 10YR4/6 梅色 | 粘シ | | 76.71 | | | | | |
| D2 | 37 | I D16j | 10YR4/6 梅色 | シ | 微 | 76.55 | | | | | |
| D2 | 38 | I D16j | | | | 76.57 | | | | | |
| D2 | 39 | I D16j | 10YR4/6 梅色 | シ | 少 | 76.61 | | | | | |
| D2 | 40 | I D16j | 10YR3/4 墓褐色 | シ | 微 | 76.32 | | | | | |
| D2 | 41 | I D16j | 10YR4/3 にじい黄褐色 | シ | 微 | 76.39 | | | | | |
| D2 | 42 | I D15j | 10YR4/6 梅色 | シ | 少 | | | | | | |
| D2 | 43 | I D15j | 10YR3/4 墓褐色 | 粘シ | | 76.70 | | | | | |
| D2 | 44 | I D15j | 10YR2/3 黑褐色 | シ | 微 | 76.76 | | | | | |
| D2 | 45 | I D15j | | | | 76.76 | | | | | |

| 区 | 番 | 位 置 | 掘り方埋土主体土 | | 混 入 物 | | 底面レベル | 根莖造塊 | 出土遺物 | | 備 考 |
|----|-----|--------|----------|-----|-------|-------|-------|------|------|----|-----|
| | | | 色 | 調 | 土質 | 地図コード | | | 種類 | 種別 | |
| D2 | 46 | I D15j | | | | | | | | | |
| D2 | 47 | I D15j | | | | | | | | | |
| D2 | 48 | I D15j | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 多 | 76.66 | | | | |
| D2 | 49 | I D15j | 10YR5/6 | 黄褐色 | シ | 多 | 76.40 | | | | |
| D2 | 50 | I D15j | 10YR5/6 | 黄褐色 | シ | 多 | 76.64 | | | | |
| D2 | 51 | I D15e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.66 | | | | |
| D2 | 52 | I D15e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.69 | | | | |
| D2 | 53 | I D15e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.84 | | | | |
| D2 | 54 | I D14n | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.86 | | | | |
| D2 | 55 | I D15m | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.34 | | | | |
| D2 | 56 | I D15e | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 微 | 74.24 | | | | |
| D2 | 57 | I D16e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.28 | | | | |
| D2 | 58 | I D16e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.57 | | | | |
| D2 | 59 | I D15o | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.03 | | | | |
| D2 | 60 | I D15o | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.12 | | | | |
| D2 | 61 | I D15j | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | | | | | |
| D2 | 62 | I D14j | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 76.90 | | | | |
| D2 | 63 | I D15e | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | 76.60 | | | | |
| D2 | 64 | I D15e | 10YR4/6 | 褐色 | 粘シ | 微 | 76.50 | | | | |
| D2 | 65 | I D15k | | | | | | | | | |
| D2 | 66 | I D15k | 10YR4/5 | 褐色 | シ | 少 | 76.43 | | | | |
| D2 | 67 | I D15k | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 76.42 | | | | |
| D2 | 68 | I D15k | 10YR3/5 | 黄褐色 | 粘シ | 多 | 76.57 | | | | |
| D2 | 69 | I D15k | 10YR4/5 | 褐色 | シ | 少 | | | | | |
| D2 | 70 | I D15k | 10YR4/6 | 褐色 | シ | 微 | | | | | |
| D2 | 71 | I D15k | 10YR2/3 | 黒褐色 | 粘シ | 少 | 76.43 | | | | |
| D2 | 72 | I D15k | 10YR4/6 | 褐色 | シ | 多 | 76.40 | | | | |
| D2 | 73 | I D15k | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | 76.22 | | | | |
| D2 | 74 | I D16k | 10YR4/6 | 褐色 | シ | 微 | 76.49 | | | | |
| D2 | 75 | I D16k | | | | | 76.25 | | | | |
| D2 | 76 | I D16k | | | | | | | | | |
| D2 | 77 | I D16k | 10YR4/5 | 褐色 | シ | 微 | 76.22 | | | | |
| D2 | 78 | I D15k | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | 76.08 | | | | |
| D2 | 79 | I D17k | 10YR4/6 | 褐色 | シ | 微 | 75.80 | | | | |
| D2 | 80 | I D17k | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | 75.69 | | | | |
| D2 | 81 | I D17i | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 少 | 75.36 | | | | |
| D2 | 82 | 欠 | | | | | | | | | |
| D2 | 83 | 欠 | | | | | | | | | |
| D2 | 84 | I D17i | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.80 | | | | |
| D2 | 85 | I D17i | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 少 | 74.86 | | | | |
| D2 | 86 | I D17i | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 少 | 74.98 | | | | |
| D2 | 87 | I D16i | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 微 | 75.19 | | | | |
| D2 | 88 | I D16i | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 微 | 75.10 | | | | |
| D2 | 89 | I D16i | 10YR4/6 | 褐色 | シ | 微 | 75.14 | | | | |
| D2 | 90 | I D16i | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 多 | 75.13 | | | | |
| D2 | 91 | I D15m | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 75.37 | | | | |
| D2 | 92 | I D14i | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 75.93 | | | | |
| D2 | 93 | I D16i | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 微 | 74.87 | | | | |
| D2 | 94 | I D16i | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.96 | | | | |
| D2 | 95 | I D16m | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.83 | | | | |
| D2 | 96 | I D16m | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.65 | | | | |
| D2 | 97 | I D16m | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | | | | | |
| D2 | 98 | I D16m | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 75.07 | | | | |
| D2 | 99 | I D16i | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.96 | | | | |
| D2 | 100 | I D16i | 10YR4/4 | 褐色 | シ | 微 | 74.82 | | | | |
| D2 | 101 | I D17m | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.97 | | | | |
| D2 | 102 | I D17m | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.74 | | | | |
| D2 | 103 | ・ | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 微 | | | | | |
| D2 | 104 | 欠 | | | | | | | | | |
| D2 | 105 | I D15p | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 微 | 75.53 | | | | |
| D2 | 106 | I D15p | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 微 | | | | | |
| D2 | 107 | I D16i | 10YR3/4 | 暗褐色 | シ | 微 | 75.73 | | | | |
| D2 | 108 | I D15m | | | | | | | | | |
| D2 | 109 | I D15m | 10YR3/3 | 暗褐色 | シ | 微 | 74.36 | | | | |
| D2 | 109 | I D17m | | | | | 74.00 | | | | |
| D2 | 102 | I D17m | | | | | 74.10 | | | | |

(3) 土器埋設遺構

土器埋設遺構 D 1 p 1 (第50図・写真図版37)

D 1 区の最高位区域である 1 C15q グリッドに位置する。V a 層上面で検出された。直径35cm・深さ7cm の浅皿状の掘り方を持つ。掘り方の中央部には小形の壺形土器 (DK-6 : 第56図・写真図版56) が正位に据えられ、これを土器片 (DK-7 : 第56図・写真図版56) が取り囲むように配置されている。掘り方の埋土は暗褐色シルトで炭化物粒をごく僅かに含む。土器及び周辺の土に火熱を受けた痕跡は認められない。本遺構の周囲に他の遺構は検出されず、他とは独立して配置された印象を受ける。

(4) 脳穴状遺構

脳穴状遺構 D 2 p 108 (第50図・写真図版37)

【位置・検出状況】 I D 15m グリッドに位置する。VI層上面で黒褐色シルトの細長い影として検出された。

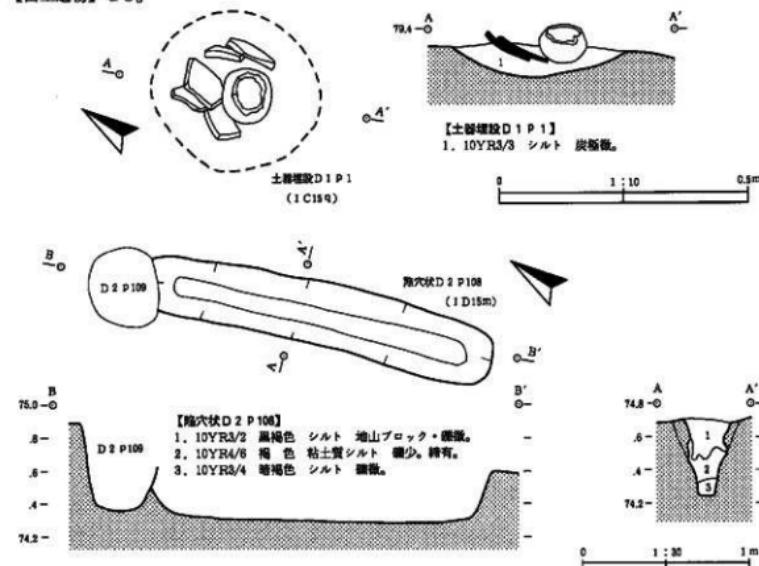
【規模・形状】 開口部は長さ220cm、最大幅40cmの細長い形状を呈する。底面はほぼ水平で、検出面からの深さは最大35cmである。

【埋土と堆積状況】 埋土は黒褐色～暗褐色シルトを主体とする。地山礫を含む土が、壁の崩落層を伴いながら漸次堆積していく状況が観察され、自然地積によって埋没したものと判断される。

【重複遺構】 北端部が D 2 p 109 (柱穴状ピット) と重複。これに切られる。

【遺構の時期】 繪文時代に属するものと思われるが、培育時期の詳細は不明である。

【出土遺物】 なし。



第50図 D区土器埋設構・脳穴状遺構

(5) 平安時代の堅穴住居跡

住居跡 D 2 H 1 (第51~52図・写真図版38~39)

【位置・検出状況】 II D 2 o グリッド付近に位置する。南尾根の南斜面で黒褐色シルトによる長方形のプランが検出され、斜面上方側に煙出しと思しきピットも合わせてみつかったことから、斜面下方側を失った古代の堅穴住居跡と判断し精査に着手した。

【規模・形状】 斜面下方側の南西部は床面以下まで流失しており、本来の規模・形状は不明であるが、残存する北東壁長から一辺約5.0m程度の方形を呈するものと推測される。

【埋土】 埋土は床面直上に於ける暗褐色砂質シルト (5 b 層) とその上に堆積する黒褐色シルト層 (5 a 層) からなる。両者の境界面には十和田a降下火山灰とみられる灰白色火山灰が塊状に堆積している。カマド周辺の床面上には焼土・炭化物片が多く含む土がひろがっている。

【床面】 床面は平坦かつ水平であるが、貼床を施された箇所は特に認められない。床面に現れているのは地山の砂質土で、全体に堅く締まっている。

【壁】 残存するのは北東壁及びその両端に接する北西壁・南東壁の一部である。床面と同様、堅く締まった地山の砂質土が平坦で整った壁面をなし、やや外傾しながら直線的に立ち上がる。壁の下端には幅15~25cm、深さ5cm程の壁溝がめぐり、埋土は壁面側がシルト質で暗く、一方、内側が砂質を帯びて明るい。この内側の砂質土は人為的に埋め戻されたものと思われ、本住居跡の壁溝は板材など壁材の設置・固定を目的としたものと考えられる。

【土坑・柱穴】 本住居跡の東隅、住居内部からみてカマドの右側には135×125cmの円形土坑が付属する。この土坑は住居のプランより若干外側に張り出している。土坑の一部が壁面を横穴状に抉り込み、立ち上がりがオーバーハングする形態のものであった可能性がある。土坑にはカマド周辺の床面に拡がる焼土ブロックや炭化物が流れ込んでいることから、住居の廃絶時に開口していたことは明らかである。屋内貯蔵施設的機能を想定できよう。

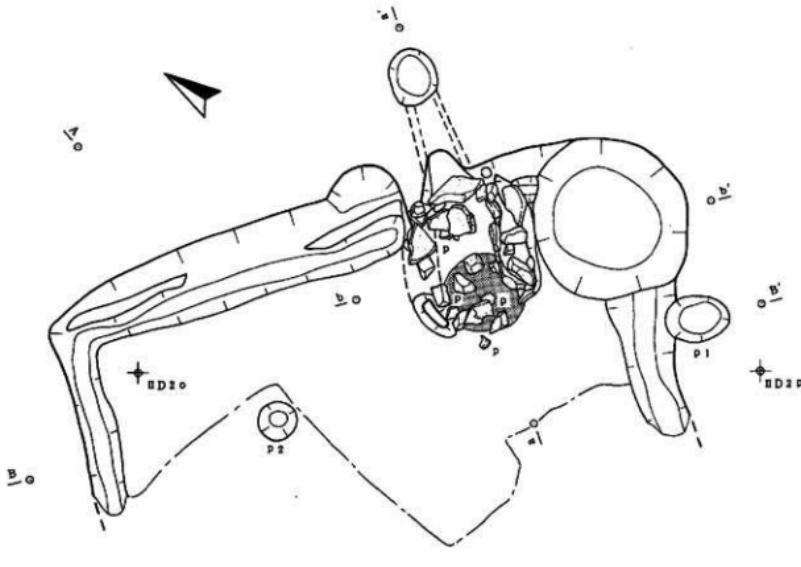
柱穴は北東壁に平行する線上に2基確認した (p 1・p 2)。住居跡のプランに対し柱穴配置は南東側に大きくずれ、p 1は床面上に吸まらず壁の外側にはみ出す。ちょうどカマドを中心に据えて配置したような位置にあり、カマドの「煙出し部」と p 1・p 2との距離はどちらも3.0m、p 1と p 2の間隔は3.5mで、煙出し部を頂点とした二等辺三角形を形成する配置関係となっている。上屋の中心軸が必ずしも振りこみのプランと一致しないことを示唆するか。

【カマド】 北東壁のやや南東寄りに設けられている。袖部には燃焼部内側に平坦面が描うよう板状礫が並べ置かれ、これらの間隙を地山粘土で外側から充填している。礫は内面側が火熱で赤変している。燃焼部は直径60cmの円形に堅く赤変しており、焼土の直上を乳白色の灰層がごく薄く覆っている。煙道は割り貫き式で壁から1m先の煙出し部まで貫通している。煙道の入口部(住居側開口部)には長さのある礫3個が鳥居状に組まれており、向かって左側の柱には縄文時代の遺物と思われる大形の石棒 (Sk-3 : 第[2]-272・写真図版304) が用いられている。精神的意図が込められたものか否かは知るべくもないが興味深い例である。

【重複】 重複する遺構はない。

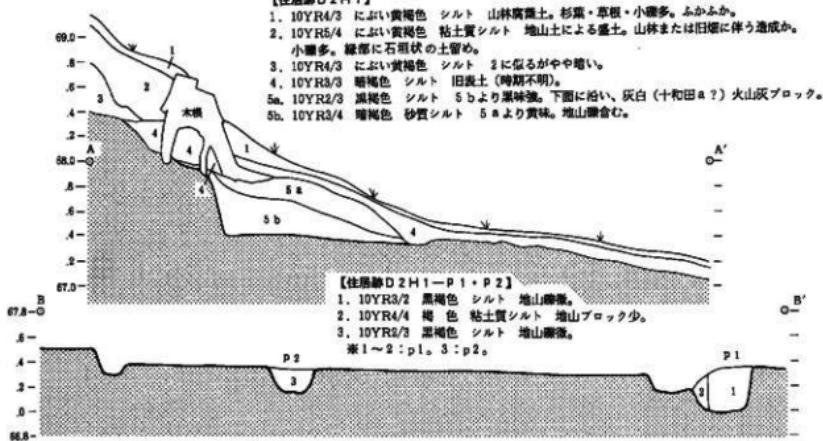
【遺構の時期】 灰白色火山灰の堆積状況と出土遺物から9世紀後半~10世紀初頭に位置づけられる。

【出土遺物】 土師器壺・台付壺・甕、須恵器甕ほか (DK-12~28 : 第56図・写真図版56、一部表掲載)。

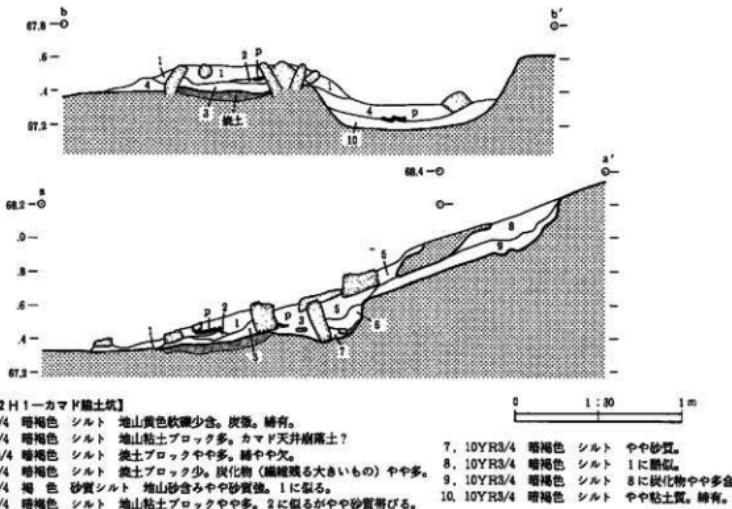


【住居跡 D 2 H 1】

1. 10YR4/3 にぼい黄褐色 シルト 山林廃棄土。杉葉・草根・小礫多。ふかふか。
2. 10YR5/4 にぼい黄褐色 粘土質シルト 地山土による盛土。山林または旧畠に伴う造成か。小礫多。縦部に石垣状の土留め。
3. 10YR4/3 にぼい黄褐色 シルト 2に似るがやや暗い。
4. 10YR3/3 黒褐色 シルト 旧土壌(時期不明)。
- 5a. 10YR2/3 黒褐色 シルト 5bより黒味強。下面に沿い、灰白(十和田a?)火山灰ブロック。
- 5b. 10YR3/4 増褐色 砂質シルト 5aより黄味。地山混合む。



第51図 住居跡 D 2 H 1 (1)



第52図 住居跡 D 2 H 1 (2)

(6) 近世墓坑群 (第53図・写真図版40)

D 2 区南部、I D 15p グリッドに位置する。近隣民家の墓所とされてきたところで、調査時にはすでに改葬が済んでいた。改葬の際に重機で掘りかえした穴のプランが検出され、埋め戻された擾乱層を除去してみると、墓坑最下部の埋土が僅かに残存しており、方形プランの墓坑の痕跡が4基検出された。

いずれも一辺 1 m 内外の正方形プランを持ち、検出面からの深さは北側の2基が 60~80 cm、南側の2基が 130 cm となっている。上部が削平されていることを考慮すれば、表土面からは 150 cm 程度の深さをもっていたと考えられる。埋土はオリーブ黒色の粘土質シルトで、水分を多く含み粘性が強い。底面近くはややグライ化している。棺やその痕跡は認められず埋葬形態は不明であるが、底面プランが一辺 75~80 cm の正方形であることから、規模・形状はこれに適したものであったと思われる。通例、この地域では箱形の木製の棺を用いた土葬が行われており、遺構の規模・形状はこれと合致する。

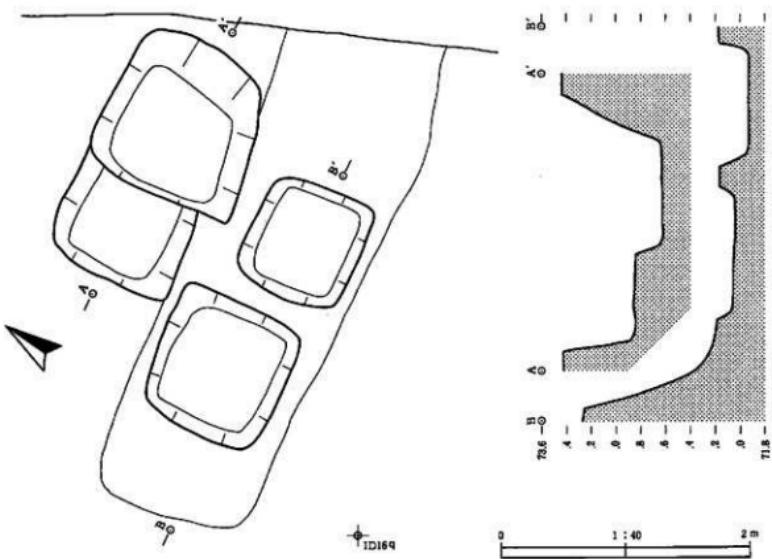
埋土中からは遺物は出土しなかったが、改葬時の擾乱層から煙管の雁首、寛永通宝が出土している。副葬品であろう。

(7) 時期不明の遺構

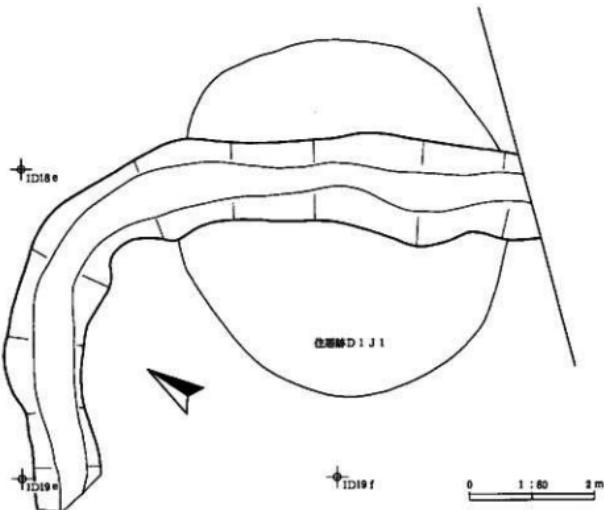
周溝状遺構 1 (第54図) (断面: 第45図)

【位置・検出状況】 D 1 区南東部、I D 18e ~ 18f グリッドに位置する。V a 層上面で、住居跡 D 1 J 1 を切って「く」の字に走行する黒褐色シルトの帯状のプランとして検出された。

【規模・形状】 I D 18e グリッド杭付近では直角に屈曲し、南東に約 7 m、南西方向に約 5 m のびる「く」



第53図 D区近世墓坑群



第54図 D区周溝状造構 1

の字状を呈する。幅は概ね120cm程度で、竪穴住居跡と重複する部分ではやや壁の崩落が進み170cm程に拡がっている。断面形は、壁の崩落が少ない箇所では逆台形、住居跡重複部付近ではU字状を呈する。南東端は市道に切られ、斜面下方側の北西端は流失している。市道を挟んだ南東側のD2区ではこれに連続する溝跡は検出されないことから、この溝は市道部分で止まっているか、あるいは、直角に曲がって市道に沿うように走行していたかのいずれかであると考えられる。直角のコーナー2箇所以上を持つと仮定すれば、平安時代の遺跡にみられる「方形周溝」に類似することから、周溝状遺構として記録している。

【埋土】黒褐色シルトを主体とする。埋土の下部には多量の地山粘土ブロックを含む。

【出土遺物】埋土には縄文土器片・剥片等が含まれるが、重複する住居跡D1J1の遺物と思われ、本遺構の時期を示すものではないと判断した。

【時期】遺構の帰属時期は不明である。

周溝状遺構2(第49図)

【位置・検出状況】D2区北部、ID15~16h~iグリッドに位置する。この付近は斜面の一部が段状に切り取られた平場となっており柱穴もまとめて検出されたことから、当初、縄文時代の大形竪穴住居跡または古代~近世の建物跡の床面である可能性を想定して精査を進めた。この過程で段の立ち上がりの下端に沿って細い溝状のプランが数条みつかり、屈曲して平場を取り囲むことが予想されたため、併せて精査を行った。

本来、主体となる遺構に付属する「周溝」と認識したものであり「周溝状遺構」の名は適切ではない。以下、段・平場と併せて記載する。

【規模・形状】平場は東西長16m(調査区外に延長する)、南北幅12mで、北側に地山を切り崩した段を持つ。段上と平場の比高は15~25cmで、段の下端には2条の溝が伴う。東側の溝は壁際で7.5m、南に屈曲して5mの長さをもつ。西側の溝は東側のものから派生するよう壁際を2m進んだ後、南に4m延びる。両者とも幅40~20cm、深さ10~2cm程度である。なお、柱穴との配置関係は未検討に終わっている。

【埋土】地山粘土・礫を多く含む褐色粘土質シルトが埋土となっている。

【出土遺物】縄文土器片が出土しているが、本遺構の帰属時期を示すとは思われない。

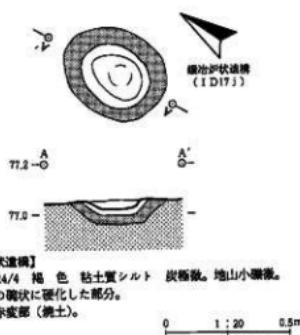
【時期】遺構の帰属時期は不明である。

鍛冶炉状遺構(第55図・写真図版40)

ID17jグリッドに位置する。周溝状遺構2の内側の平坦面は火山灰層(Va層)が割り取られ、下位のVI層が現れている。この平坦面上で、中心から順に褐色粘土質シルト・灰色硬化物・焼土の3重の同心円状のプランとして検出された。

灰色硬化物は碗状を呈し、内径24×15cmの稍円形の凹部を持つ。凹部には炭化物粒を僅かに含む褐色粘土質シルトが堆積している。硬化物は3~4cmの厚みを持ち、さらに周囲の土が外側に向かって厚さ5cmほど被熱・赤変している。

形態はいわゆる鍛冶炉に似るが周囲から鍛冶関連の遺物は検出されなかった。時期は不明である。



第55図 D区鍛冶炉状遺構

第56図 D区縄構内出土土器

— 116 —

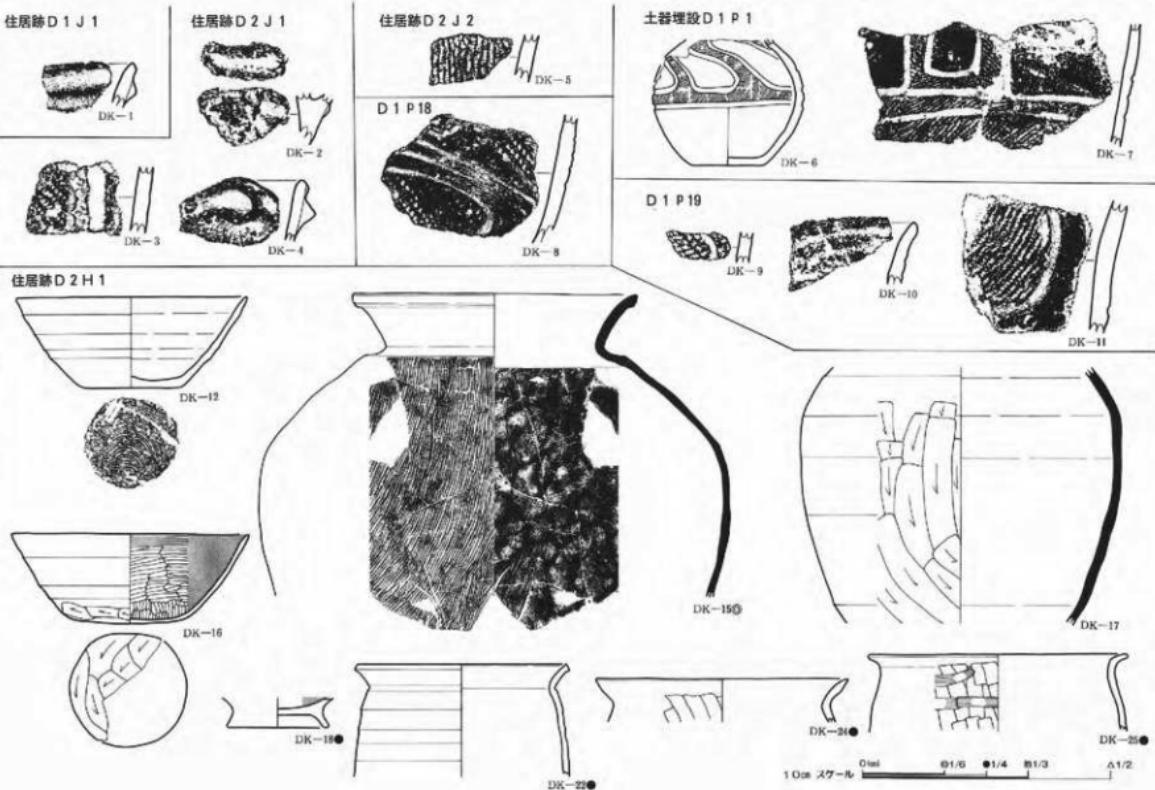


表6 D区遺構内出土土器

| 器種 | 伝番号 | 出土 区 名 | 遺構種別 | 出土遺構名 | 層位 | 器種 | 現存部位 | 装飾・文様 | 地文原体 | 器面色調 | 備考 | 図版 | 写真 |
|--------|--------|--------------|-------|------------------|----------------|------------|------|-------|------|------|----|----|----|
| DK-001 | 内-h176 | D1 | 住居 | D1区J1住居跡 | 埋土一括 | | | | | | | 56 | 56 |
| DK-002 | 内-h182 | D2 | 住居 | D2区J1住居跡 | 埋土一括 | | | | | | | 56 | 56 |
| DK-003 | 内-h183 | D2 | 住居 | D2区J1住居跡 | 埋土一括 | | | | | | | 56 | 56 |
| DK-004 | 内-h184 | D2 | 住居 | D2区J1住居跡 | 埋土一括 | | | | | | | 56 | 56 |
| DK-005 | 内-h185 | D2 | 住居 | D2区J2住居跡 | 埋土一括 | | | | | | | 56 | 56 |
| DK-006 | D1-01 | D1 | 土器埋設 | D1区p001 | 埋設土器 | | | | | | | 56 | 56 |
| DK-007 | 内-h177 | D1 | 土器埋設 | D1区p001 | 埋土一括 | | | | | | | 56 | 56 |
| DK-008 | 内-h178 | D1 | 柱穴その他 | D1区p017・ p018 | 埋土一括 | | | | | | | 56 | 56 |
| DK-009 | 内-h179 | D1 | 柱穴その他 | D1区p019 | 埋土一括 | | | | | | | 56 | 56 |
| DK-010 | 内-h180 | D1 | 柱穴その他 | D1区p019 | 埋土一括 | | | | | | | 56 | 56 |
| DK-011 | 内-h181 | D1 | 柱穴その他 | D1区p019 | 埋土一括 | | | | | | | 56 | 56 |
| DK-012 | D2-03 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | カマド | | | | | | | 56 | 56 |
| DK-013 | D2-06 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | カマド付近 | | | | | | | | |
| DK-014 | D2-09 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | カマド付近 | | | | | | | | |
| DK-015 | D2-01 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | カマド付近・ p1埋土 | 須恵器 大 瓢 | | | | | | 56 | 56 |
| DK-016 | D2-02 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | カマド付近・ p1埋土 | | | | | | | 56 | 56 |
| DK-017 | D2-04 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | カマド付近・ p1埋土 | | | | | | | 56 | 56 |
| DK-018 | D2-05 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | カマド籠土焼 埋土 | | | | | | | 56 | |
| DK-019 | D2-06 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | カマド籠土焼 埋土 | | | | | | | | |
| DK-020 | D2-07 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | カマド籠土焼 埋土 | | | | | | | | |
| DK-021 | D2-17 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | カマド籠土焼 埋土 | | | | | | | | |
| DK-022 | D2-10 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | 埋土一括 | | | | | | | 56 | |
| DK-023 | D2-11 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | 埋土一括 | | | | | | | | |
| DK-024 | D2-12 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | 埋土一括 | | | | | | | 56 | |
| DK-025 | D2-13 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | 埋土一括 | | | | | | | 56 | |
| DK-026 | D2-14 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | 埋土一括 | | | | | | | | |
| DK-027 | D2-15 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | 埋土一括 | | | | | | | | |
| DK-028 | D2-16 | D2 | 平安住居 | D2区H1住 | 埋土一括 | | | | | | | | |

V. 捨て場および遺構外出土遺物

1. 捨て場の調査

(1) 概要

捨て場はB区とした水田造成地の盛土の下から検出された。当区は斜面上方側の南半部を削平しそれを下方の北側に盛り返すことで水平な水田面に造成されていた。このため南半部は地山層以下まで削り取られ、一方北半部は盛土に覆われる形で捨て場の堆積層が残されていた。

捨て場が形成されているのは、北尾根上の緩斜面部（C区）から北西に下る沢（B区沢跡）に開拓された「振り鉢」を半削したような凹地である。土器をはじめとする各種の生活遺物と、掘削行為に伴うと思われる多量の土砂が、沢跡を埋め立てかるかのように交互に堆積していた。面的に広がりを持って出土する遺物のまとまりは同時あるいは短い時間幅のうちに運搬されたものと考えられ、これらが廃棄土層を間に挟んで幾重にも重なっていたため、まとまった層位的資料を得ることが可能な良好な遺存状況を呈していた。

調査では可能な限り多くの遺物を層位的資料として取り上げよう努めた。出土した土器は、縄文時代中期末葉から後期前葉までのもので総量は530箱（/40匁）以上に及び、結果として1500点近くの土器及び破片資料を層位別に掲載することができた。

捨て場の調査方法や掲載方法の詳細について以下に述べる。

(2) 捨て場の調査と掲載方法

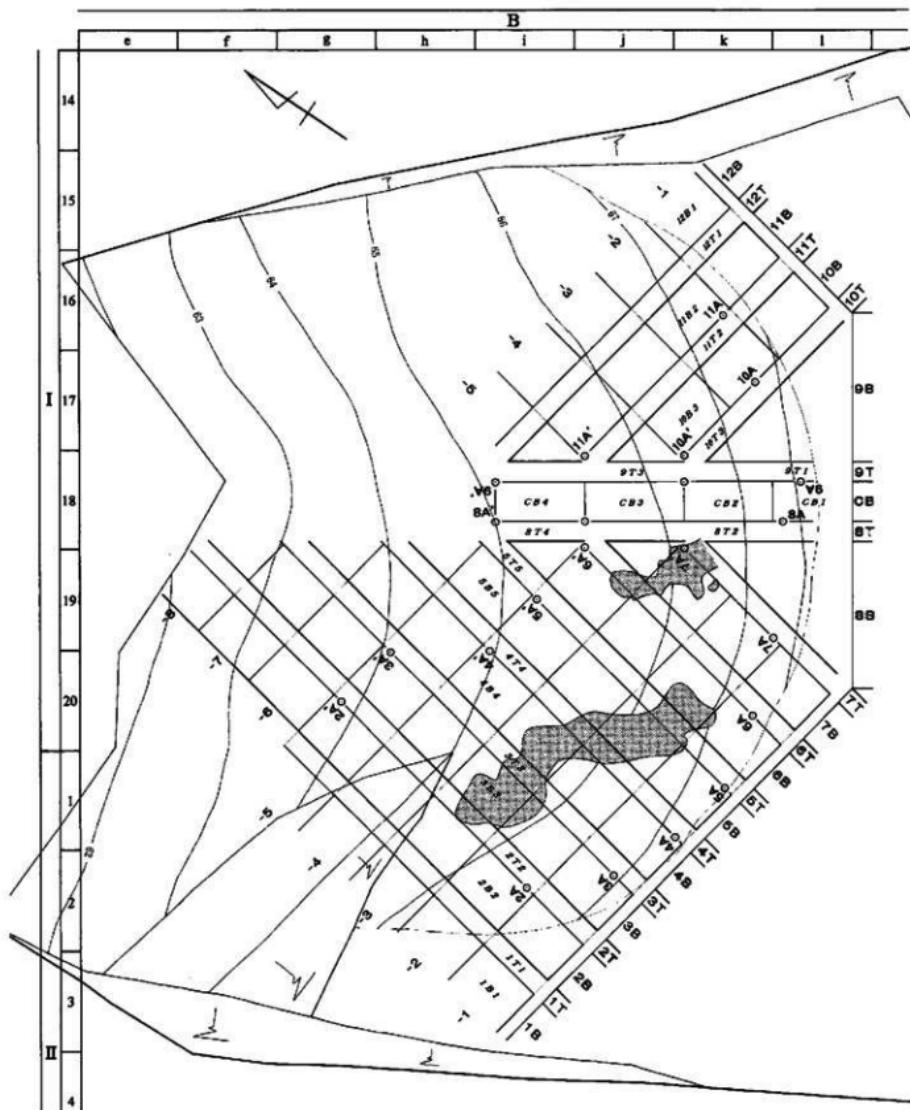
①捨て場の区割（第57図）

B区は埋没した沢跡であることが精査の初段階に判明し、多量の遺物が層位的な上下を保って堆積している可能性があると思われた。沢跡には沢筋の両脇から土が流入・堆積していることが予想され、傾斜方向に合わせた堆積状況の観察を行うには先に設定したグリッドとは軸の異なる区割が必要となった。斜面は沢筋に向かって「北下り」と「西下り」となっている。そこで、この斜面方向に合わせた区割を設けるにはちょうどグリッド軸線と45°の傾きを持たせればよいと考え、沢筋を中心軸としてグリッドの対角線を結んだ樹枝状のトレーナーを設定し、これをさらに細分した独自の区割を設けて捨て場を覆うこととした。

トレーナーは沢筋の西側に7本：[1T～7T]、沢筋沿いに2本：[8T・9T]、沢筋の東側に3本：[10T～12T]を設定した。それぞれのトレーナーに隣接し振り残されてベルトとなる部分は、西側を[1B～7B]、東側を[10B～12B]とした。また、7T～8T間の三角地を[8B]、9T～10T間の三角地を[9B]とした。沢筋に沿った8Tと9Tに挟まれたベルトは「中央ベルト」と名付け、記号を[C B]とした。

上記のトレーナー・ベルトを第57図に示したように細分し、グリッドと同様、遺物の出土地点名として用了いた。斜面上部から順に1から番号を付し、[1T 1] [2T 2] [CB 3] のように特定の区を指し示している。また、例えば1B 1から1B 2までを区分せずに連続して振り下げた場合、出土遺物の地点名は[1B 1-2]のように「-」でつないで表した。

トレーナーの断面は斜面上方側から見える面を記録した。この断面は隣接するベルトの側面でもあり、分層による各層名は両者に共通する。例えば2Tの断面（第57図：2A-2A'）は2Bが共有し、2B内の遺物の出土層位は2T断面の層位に従うことになる。なお、CBは8Tと9Tに挟まれ、共有断面を2面持っている。そこでCBの遺物は原則として9T層位に従って取り上げ、8T断面に近い部分や、相当する層が9



第57図 B区捨て場区割図

T断面にない場合に限り8T層位を用いた。この場合層名の頭に「*」を付し9T層位のものと区別した。
(例. C B 2 : *17=C B 2から出土、8T層位の17層に帰属することを示す。地点・層位表記の詳細は④で後述。)

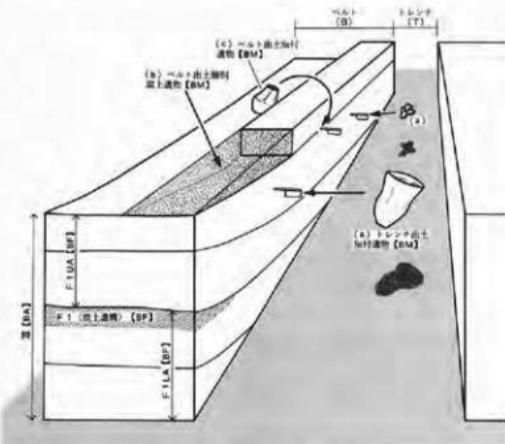
②遺物取上方法（第58図）

層別資料の取り上げ 捨て場の精査はまず上述のトレンチ部を掘り下げるところから始めた。深さ約10cmずつ段階的に掘り下げ、遺物の集中が面的に広がる箇所（復元可能な單一個体または同時廃棄による複数個体のまとまり）に到達したところで断面にガムテープと竹串で作った目印を打った。目印にはトレンチを細分した区画（1T1、2T4など）毎に「No.1」から番号を記入して他の遺物と区別した。この際、遺物を残したまま周囲を若干掘り下げて断面を観察し、同一層位に位置づけてよいかを確認してから遺物を取り上げた。これを繰り返してさらに下方へと掘り進み、地山面に到達した時点でトレンチ断面の全体を観察して分層・実測、このとき断面に打った目印も併せて記録した。

トレンチ内の精査が終わると次に断面を共有する隣接ベルトの精査を行った。ベルトの精査方法には2通りある。ひとつは断面の分層線に従って層ごとに掘り下げ、まとめて「〇層出土」とする方法、もう一つは断面部分を幅30cm程度に狭めて掘り下げ、トレンチと同じように遺物のまとまり毎に番号を付しトレンチ断面に目印を打って最後に断面を記録する方法である。前者はベルト全体を層別取上げの対象とした場合の方法であるのに対し、後者は時間的な制約から一旦は層別取上げを断念し全層一括取上げの対象とした一部のベルトにおいて、良好な出土状態が認められた場合に避難措置的に用いた方法である。

従って、層別資料として取り上げられた遺物には(a)トレンチ出土のNo.付遺物、(b)ベルト出土の層別取り上げ遺物、(c)ベルト出土のNo.付遺物、の3つが存在することとなる。本書では層別に取り上げた土器は各層毎に括って掲載しており、No.つきの(a)と(c)もそれぞれ層別する層の他の資料と一緒に掲載している。

さて、断面のマークに用いた竹串製の目印は狭いトレンチの中では少々邪魔な存在であり、作業中に誤っ



第58図 捨て場出土遺物の取上方法

て接触し脱落させてしまうことが度々あった。そこで作業員には脱落させてしまった目印は決して勝手に断面に戻すことのないよう周知徹底し、脱落した目印のNo.は記録から削除することとした。このため、連番で打ったNo.のうち相当数が欠番となってしまっていることをお断りしておきたい。

なお、各No.と層位の対応関係については表6に示している。

焼土遺構を基準とした取り上げ 捨て場で検出された帶状焼土遺構（後述）は複数のトレンチ・ベルトにまたがる長さを持ち、この焼成面を境界として捨て場堆積層を上下に大別することが可能である。また各トレンチ間の層の対比を行う「鍵」面としても有効であった。先述のように時間的制約から分層を無視して遺物取り上げを行ったベルトがいくつかあるが、遺物の遺存状況が良好な場合、層位の記録を省略することが躊躇される場面も多く、焼土遺構（後述）を「鍵」とした最低限の分層取り上げを行うことで対処した。

ところで、当初焼土遺構はその規模の大さから現地で形成されたものではなく廃棄された焼土ではないかという指摘が寄せられ、焼土層（赤変部）がその上・下位層から独立する廃棄層であるという解釈と、現位置を保った焼土であるという担当者の解釈とが平行した時期があった。このため、調査では焼土遺構の上・下位層のほかに焼土層そのものも単独の層として扱い遺物を取り上げることになった。後に断面觀察や遺物の接合状況から本遺構は現位置を保つ焼土であると判断、結果として、焼成による下方への赤変の深度は層位的には意味を持たず、焼成を受けた面そのものが「鍵」面となることを確信した。よって焼土層出土の遺物は焼土遺構焼成面の下位の層に含まれるべきものであるという結論に至っている。本報告書では焼土層出土遺物をその上・下位層の中間に位置づけたまま掲載しているが、上記の点にご留意いただきたい。

その他 トレンチ内の精査時に散発的に出土した遺物、層別取上げを断念したベルトの遺物、包含層が薄いため捨て場の区割に入れなかった区域のグリッド取上遺物などがこれにあたる。いずれも駿河期包含層である基本層序Ⅲ層からの出土であるため、整理段階まで「Ⅲ層一括取上遺物」と呼んでいたものである。

③捨て場出土土器の扱い方

「取上方法別」掲載 B区捨て場出土土器は取上方法別にまとめて第2分冊（遺物図版編）に掲載している。土器にはⅢ章2.（4）で示した「取上区分記号」を冠して以下のように掲載番号を付した。

- （イ）層別取上土器…………… BM-1～1476（第2-1～141図・写真図版57～166・表9）
- （ロ）焼土遺構の上下の土器… BF-1～130（第2-142～157図・写真図版167～182・表10）
- （ハ）その他…………… BA-1～519（第2-158～209図・写真図版183～223・表11）

（イ）は該当するトレンチ断面の各層別に野原で区切り、同一層位ごとにまとめて図示した。各層は原則として堆積状況と同じように上位の層（新しい層）から順に巻頭から巻末に向かって配列・掲載している。

（ロ）は焼土遺構の上位層・焼土・下位層に大別して上位から順に掲載した。またそれを区画毎に区分して斜面下方側の地点（区画）が上に来るよう配列した。捨て場は斜面上方から下方に向かって堆積しており、斜面下方ほど新しい層が堆積していることによる。

（ハ）は、捨て場の区割で取り上げたものは（ロ）と同様の理由で各トレンチ・ベルトの斜面下方から順に区画毎に掲載した。グリッドで取り上げたものはグリッド名（英数字順）に掲載している。

層別取上土器の地点・層位 ひとつの復元個体は異なる地点・層位から出土した複数の破片群からなる。そこで表9には「出土地点・層位」欄として〔主〕・〔副〕の2つを設け、〔主〕には復元された土器の主なる地点・層位名、〔副〕には〔主〕以外に接合している破片の全ての地点・層位名を羅列し、その個体を構成する破片群の平面的・層位的な広がりを示した。

取上区分は原則として〔主〕に該当する層位をもとに行った。しかしⅢ章でも述べたとおり、層位の資料

をできるだけ多く掲載するため、[主]が細分層位でなくとも[副]にトレンチ断面層位に帰属させられる破片が含まれている場合は積極的に(イ)の「層別資料」【BM】に含めた。当然この個体は[主]である【BF】破片・【BA】破片の割合の方が大きく、もし個体中の一部分でしかない[副]の【BM】破片が現位置を保ったものでなかったとすれば、その個体の正しい帰属層位を示していないことになる。よって資料としての信頼度は純粋な層別資料と比して明らかに劣る。そこで、層別資料【BM】として扱うにあたり[副]層位を根拠にしたものについては表9「取上区分」欄に【S】と記入して明示し、また、「採用副地点・層位」欄には[副]に羅列した地点・層位のうち根拠としたものを抜き出して示した。さらに第2分冊に掲げた層別資料の図版内では、掲載番号の末尾に「※」を付して他と区別できるよう配慮した。

異地点接合 [副]に別のトレンチ断面の層位に帰属する破片が含まれている場合は、表9「異地点接合」の欄に「L」(他のトレンチ断面の層とリンクする意)と記入して示した。トレンチ間の層の対応関係や堆積過程における遺物の動きを検討する際の手がかりになると考へたからである。

④出土地点と層位の表記 (第59図)

層位的な位置の表記は下表・下図のように記号化した。

| | 表記例 |
|---------------------|-------------------|
| 1層 | 1 |
| 1層の上面 | 1 U |
| 1層の上半部 | 1 MU |
| 1層の下半部 | 1 ML |
| 1層の下面 | 1 L |
| 1層～2層～3層 | 1～3 |
| 1層と3層間に他層がなく直接接する部分 | 1↔3 |
| 5層上面を境界として上位の層全て一括 | 5 UA |
| 5層上面を境界として下位の層全て一括 | 5 LA |
| 基本層序Ⅲ層一括 | Ⅲ (ローマ数字は基本層序に対応) |

これらを①の区割表記と組み合わせて、

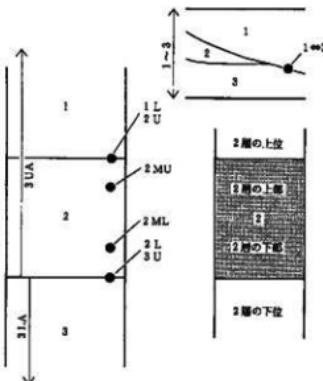
「出土地点：層位」

のように表している。例えば1 T 2 の3層から出土したものは「1 T 2 : 3」となる。

また、文中に用いる「上部」・「上位」など垂直方向の相対的な位置関係を指示する語の使い分けは、第59図に示したとおり、そのものに含まれる一部分を指す場合「上(下)部」、そのものの範囲に含まれない他者との位置関係を指す場合は「上(下)位」とした。焼土遺構を例にとれば「焼土は上部ほど赤変硬化が著しく、上位には灰層・炭化物層がのる」といった使い分けである。

⑤実測図・遺物図版凡例

実測図の表現方法は本冊第8図に示したほか、「捨て場出土土器-層別」の図版内表示の詳細については第2分冊冒頭(p.2・「捨て場出土土器-層別」の扉ウラ)に記しているので参照されたい。



第59図 層位(位置関係)の表記方法

(3) 土層 (第60~68図)

ここでは各トレンチ断面に観察される土層の堆積状況と各層出土の土器について略述する。第60~68図には2T~11Tの断面図とともに主な出土土器を層別に掲載した。なお、堆積状況については原則として堆積過程を追うように下位の層から順に上位に向かって（つまり古い方から新しい方へ）記載することとする。

1 T (写真図版43)

1T・1Bは捨て場西縁部にあたり包含層であるIII層の堆積（残存）状況は良くない。このため土層の細分および断面実測は省略している。地山小礫を含む黒褐色シルトが堆積し、遺物はIVa層上面付近に集中して出土している。

2 T (第60図・写真図版43)

2T断面に観察される最も古い遺物包含層は基本層序IVa層に相当する15層で、斜面上方側の2T2最下部に堆積している。本層の上部及び上面からは縄文時代中期末葉の大木10式土器と、より古期の大木9式土器が混在して出土している。15層のようなIVa層相当層は捨て場堆積層の主体であるIII層の最下部と接して捨て場全域に認められ大木9式土器を包含している。15層の上位に堆積する14~7層はII層相当の黒色~黒褐色土で、14・11・8層は多量の炭化物を含む。断面には現れていないが、後述する帯状焼土遺構（2TではF1）の焼成面は12層下面と接しており、これより上位の炭化物層は帯状焼土遺構に由来する可能性がある。6層以上の層は黒褐色土を主体とするも地山砂礫及び粘土ブロックを多量に含み、数次にわたって土砂の廃棄が行われたことを示している。2T4~2T5の範囲は水田造成以前に用いられていた道路によって上部の土層を削平されているが、IV層の上位には7層及び10層類似の土層が残存してしており、それぞれ7層・10層とした。しかし両者の境界面である10層上面からは縄文時代後期初頭の門前式に特徴的な円形貼付文と鏡状隆起を有する深鉢が出土していることから、これらは7層・10層とは連続せず、さらに新期の土層である可能性が高い。

3 T (第61図・写真図版43~44)

3T1の25層が最も古いと思われるが、3T2との境界付近が攪乱によって断ち切られており25~22層と3T2以下の土層との関係は不明となっている。3T2以下で最も古いのはIVa層直上の21層で炭化物を多量に含む。この層の堆積以降12層までは、IV層ベースの暗褐色粘土質シルト層と炭化物を多量に含む黒色シルト層が交互に堆積している。3T断面には2つの焼土（3T:F1・F2）が認められ、古期のF2（断面図a'層）は18層上面、新期のF1（断面図a~e層）は12層上面をそれぞれ焼成面としている。後述の帯状焼土遺構に相当するのはF1である。F1（帯状焼土遺構）の形成後は、焼土ブロックや炭化物を含む層が数次にわたって堆積し、間に廃棄土層と思われる地山粘土ブロックと礫を含んだ層や自然堆積の黒色土層を挟んでいる。全体として自然堆積層と人為的廃棄土層（または地山崩落層）が交互に堆積する状況を呈する。出土土器に目を向けると、20層には大木9式相当の土器がみられ、この上位層からは大木10式土器が出土する。9層上部~上面では大木10式でも新しい要素を持つ土器がまとまって出土し、これには後期最初頭のいわゆる觀音堂式相当土器も含まれている。3T4~3T5では2Tと同様に新しい層がIVa層上に接して堆積しており、4層以上では胴部上半に方形区画の文様帯を持ち円形貼付文が付される門前式相当土器の出土がみられる。

4 T (第62図・写真図版44~45)

28層は炭化物を大量に含む黒色土層で、その上下にはIV層ベースの暗褐色粘土質シルトに焼土・炭化物を含む層が堆積している。24層は上方から数次にわたって廃棄されたと思われる地山粘土（V a層）ブロック層で、間に挟まれた黒色シルトの薄層と互層をなす。22層上面は帯状焼土遺構（4 TではF 1）の焼成面とされており被熱・赤変の深度は30cmを超えて27層に達している。焼成面直上の20層は炭化物を大量に含み、さらに上位の19~16層にも本焼土遺構に由来すると思われる焼土ブロック・炭化物が多く含まれる。これより上位には地山粘土ブロックを多く含む層と自然堆積の黒~黒褐色シルトが交互に堆積している。なお4 Bでは断面沿いの僅かな幅で層別取上げを行ったほかは、時間的制約からⅢ層出土遺物として一括したため層別別に示せる土器は少ない。62図上半に示した土器は概ね大木10式の範疇に含まれるものであるが、トレーナー断面図の下に載せた31・28L \leftrightarrow IV U・16L \leftrightarrow 19Uの各層出土土器は大木9式及び大木10式古段階に相当するものを含んでいる。IV層上面に直接接する部分を持つ層はその層自体の形成時期に間わらずIV a層に含まれる古い土器が混入する傾向にある。これは捨て場全体に共通し他のトレーナーでもみられる現象である。

5 T (第63図・写真図版45~47)

遺物を包含する最古期の土層は5 T 1の24層で、大木9式~大木10式（古段階）に相当する土器がまとまって出土している。帯状焼土遺構（5 TではF 1）の焼成面は21 b層上面でIV a層にまで赤変範囲が及んでいる。焼土遺構の上下からは大木10式の新しい要素が認められる土器が一定量出土していることから、焼土の形成時期は土器と同じ時期であると推測される。焼成面より上位では暗褐色シルト・黒褐色シルト・地山ブロックを大量に含む層などが交互に堆積している。8層付近で隆起を断ち切るような刻みを持ついわゆる銀音堂式相当の土器が、6層以上ではこれに後続するとされる門前式の特徴を有する土器が出土している。

6 T (第64図・写真図版47~48)

最も古いのは17層（IV a層相当）でこの上面からは大木9式及び大木10式新段階に相当する土器が混在して出土している。14層まではIV層ベースの暗褐色シルトに炭化物を含む層が堆積する。帯状焼土遺構は6 TではF 2に相当し14層上面を焼成面とする。F 2焼成面の上位に接するのは炭化物層の13層で大木10式相当の土器が多量に出土した。この層はIV・V層土を多量に含む人為堆積層（12~9層）に覆われ、9層上面を焼成面として再び焼土が形成されたらしい（6 T:F 1）。調査で検出されたのは焼土ブロック層で現位置を保ったものではなかったが、焼土ブロック及び炭化物の密度の高さから焼土の生成した地点はごく付近であると考えられる。F 1焼成面と思われる9層の上位にはF 2と同様に炭化物層が堆積し、その後再び人為的廃棄土層と自然堆積層が交互に堆積していく様相を示している。概ねF 1焼成面（9 U）を境とした上位では、いわゆる銀音堂式・門前式の特徴を有する土器が出土し、さらに上位に向かって後期前葉までの土器を包含している。

7 T (第65図・写真図版48~49)

24層はIV a層相当層でこの直上には人為堆積と思われる地山粘土ブロック層（23層）が堆積する。22~20層までは炭化物や地山礫片を含むIV a層ベースの自然堆積層で、この上位を再び人為的に廃棄されたと思われる地山粘土ブロック層（19層）が覆う。18~14層でも同様に人為堆積層と思われる粘土ブロックを多量に含む層が堆積しており、この間盛んに人為的廃棄土が供給されたことを示している。14 b層は焼土ブロック層で「7 T:F 2」として分層に用いているが17層上面に焼成面を持つ再堆積層である。同じく9層も焼土ブロック層で「7 T:F 1」としている。F 1とF 2の間に焼土ブロックや径の大きい炭化物が多く含まれる層が堆積している。11~6層は黒~黒褐色の粘土質シルト、その上は砂質シルトを主体土とする自然堆

積層が堆積している。出土遺物は概ね18層付近を境界として下位が大木10式、上位が鏡音堂式に相当するとと思われ、より上位では門前式の特徴を有するものも含まれる。

8 T (第66図・写真図版49)

8 T断面はC B南西面にある。8 T 1～8 T 2ではIV a層相当の22層直上に自然堆積の黒色シルト層(21層)があり、この上を覆うように炭化物層(19～20層)が堆積する。この炭化物層はC Bの北東面である9 T断面の19層に連続するものであり、遺物が面的な広がりを持って集中的に出土している(調査時8 T・9 T共通の層名として「集中層A」と呼称)。これより上位は地山ブロック・焼土ブロックを含む廐棄土層と、炭化物を含む自然堆積の黒色土層が交互に堆積する状況が繰り返し認められる。4層から上位は地山疊を含む暗褐色シルトが主体土となる。8 T出土の土器をみると、後期最初頭に位置づけられるいわゆる鏡音堂式に相当するものが最も古い段階に位置する。その後、堆積が進むほどに門前式の特徴を有する土器が主体となり、さらに上位に向かって後期前葉までの土器が出土している。中期末葉の大木10式に相当する土器がほとんどみられないのは、捨て場堆積土の供給地点(3 T 1～4 T 1付近)からの距離が離れているため、いわゆる鏡音堂式期にいたるまでは廐棄土や遺物などの堆積物が8 T付近に到達しなかったためと考えられる。

9 T (第67図・写真図版49～50)

9 T断面はC Bの北東面にある。21～20層はIV a層相当22層の再堆積層である。この上位には8 T 20～19層に連続する炭化物層の19層(「集中層A」)が堆積し、多量の土器が出土した。17～13層までは人為的な廐棄土層と思われる地山粘土ブロック層が連続して堆積する。これは8 T断面の18～10層にみられる人為堆積層と自然堆積の互層部分に相当するものと思われる。10層は焼土層で、やや汚れた印象はあるものの焼土ブロック層ではなく断面に炭化物の混在も認められないので、現位置を保っている可能性がある。これより上位は8層・5層など地山粘土ブロックを多く含む人為堆積層を挟みながら、黒褐色～暗褐色シルト主体土とする層が堆積している。出土遺物はIV a層相当層である21～22層から大木9式土器が出土したほかは、8 Tと同様、鏡音堂式相当の土器が最も古い段階に位置し、堆積が進むほどに門前式の特徴を有する土器が主体となり、さらに上位に向かって後期前葉までの土器が出土している。なお9 T 4付近の最下位にみられる22層はIV a層相当の22層に類似するが、出土する土器は後期前葉(第67図右下段)のものが主体であることから、この上位に接する7層以上に含まれるべきものを誤認した可能性が高い。また、9 T 4の最下部、IV層相当層上面と3層下面が接する部分に灰白火山灰が面的な広がりをもって堆積しており(写真図版42)、中微火山灰(To-Cu)との鑑定結果を得た。

10 T (第68図・写真図版50)

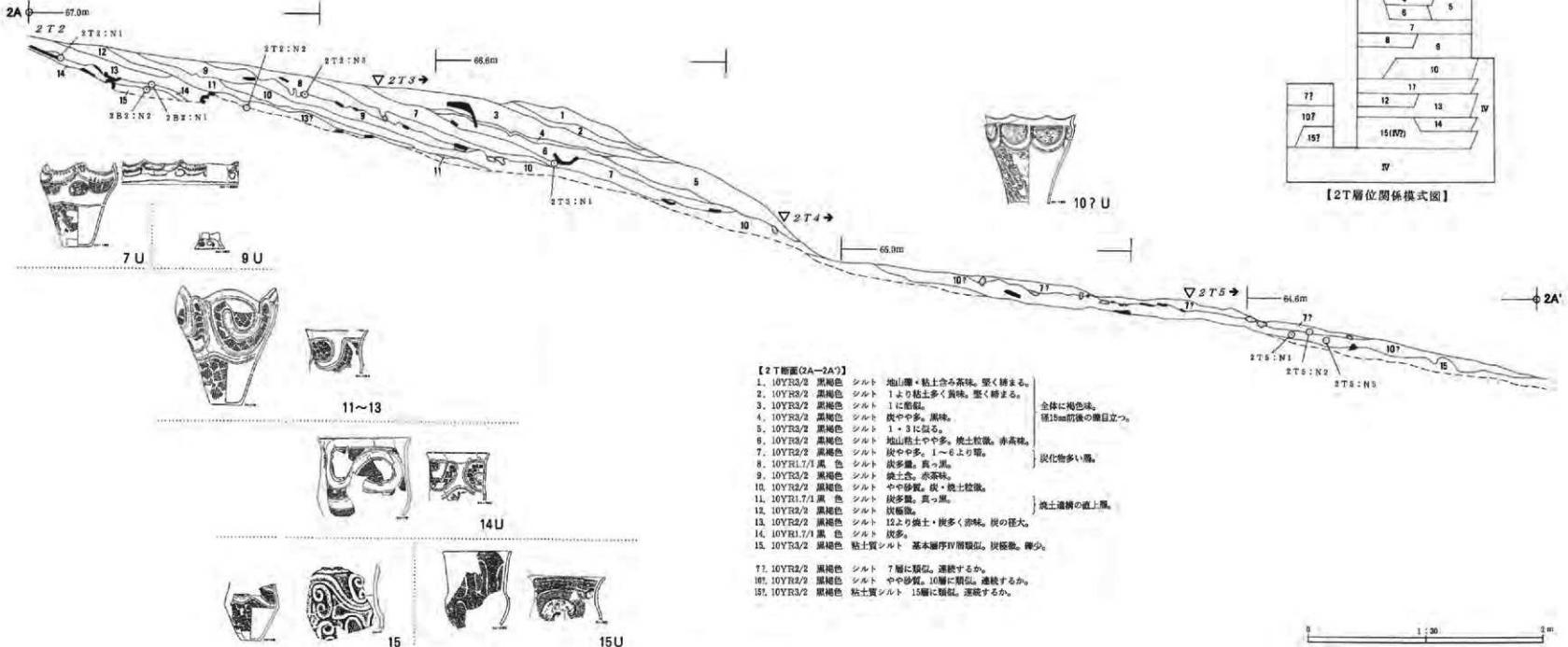
堆積土は全体に黒褐色～暗褐色シルトが主体である。風倒木痕と思われる擾乱によって本来の堆積層が乱されている部分が多いが、10 T 2付近ではIV a層上面に接して自然堆積層の10層が残存しており、10層下部からは縄文時代後期初頭の土器が面的にまとまって出土している。

11 T (第68図・写真図版50)

IV a層相当の7層の上位には黒褐色シルトを主体土とする自然堆積層が堆積している。遺物は主に3層最下部と7層が直接接する面からまとまって出土している。10 Tと同様縄文時代後期初頭の土器が中心となっている。

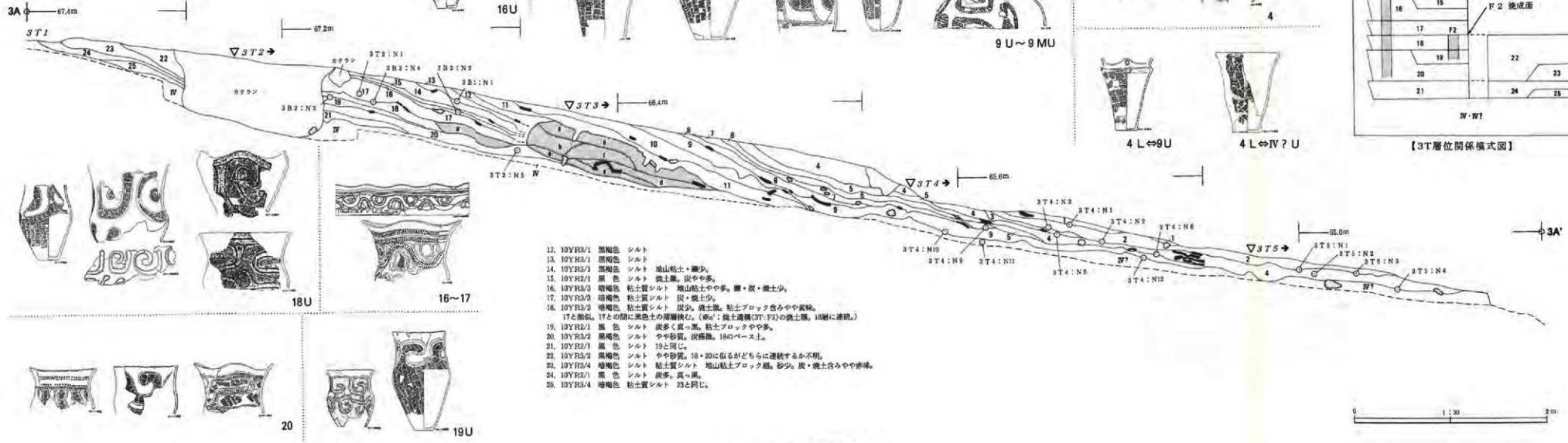
12 T

捨て場の北東縁にあたり、残存する堆積層も僅かであったため、分層・記録は省略した。

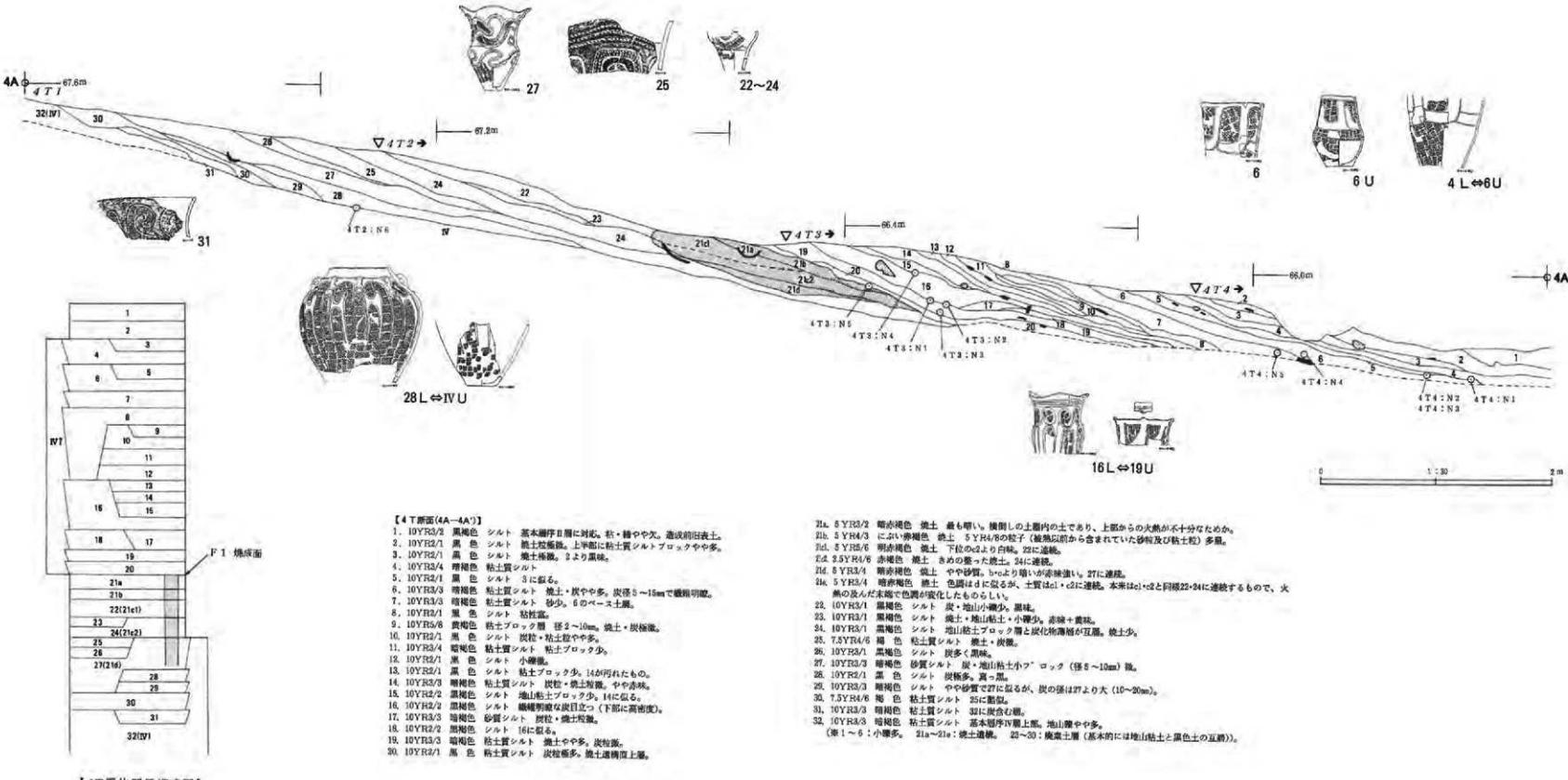


第60図 B区捨て場土断面 [2T]

- 【3 T断面(3A-3A')】
1. 10YR2/1 黒・色 シルト 小礫少。真っ黒。
 2. 10YR2/1 黒褐色 シルト 地山粘土や多。1より茶味。
 3. 10YR2/1 黒・色 シルト 粘土質や多。真・黒。
 4. 10YR2/3 明褐色 シルト 粘土質や多。1下部より黒味。
 5. 10YR2/1 黒・色 シルト 粘土質や多。1下部より黒味。
 6. 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘土質や多。真・黒。
 7. 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘土質。炭・灰。
 8. 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘土質。炭・灰。
 9. 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘土質。炭・灰。
 10. 10YR2/1 黒褐色 シルト 粘土・黄砂多く。炭・灰子人。赤茶味。
 11. 10YR2/1 黑褐色 シルト 粘土・黄砂多く。炭・灰子人。赤茶味。
 12. 10YR2/1 黑褐色 シルト 粘土・黄砂多く。炭・灰子人。赤茶味。
 - a. 5YR4/6 黑褐色 粘土 植物混入やや多。
 - b. 5YR4/6 赤褐色 粘土 Aより青れなく明。やや白味。
 - c. 2.5YR4/6 明赤褐色 粘土 植物混入汚れなし。緑まる。
 - d. 5YR4/6 明赤褐色 粘土 Cより青味。緑まる。
 - e. 5YR4/6 赤褐色 粘土 やや砂質。dより赤味。下部に沿て赤味が増す(5YR3/4)。20mに連続。
- (※a~e: 带状風土遺構(ST:PT)の出土物。因習知。性状の違いは発成面以下の層相を反映したものらしい。)

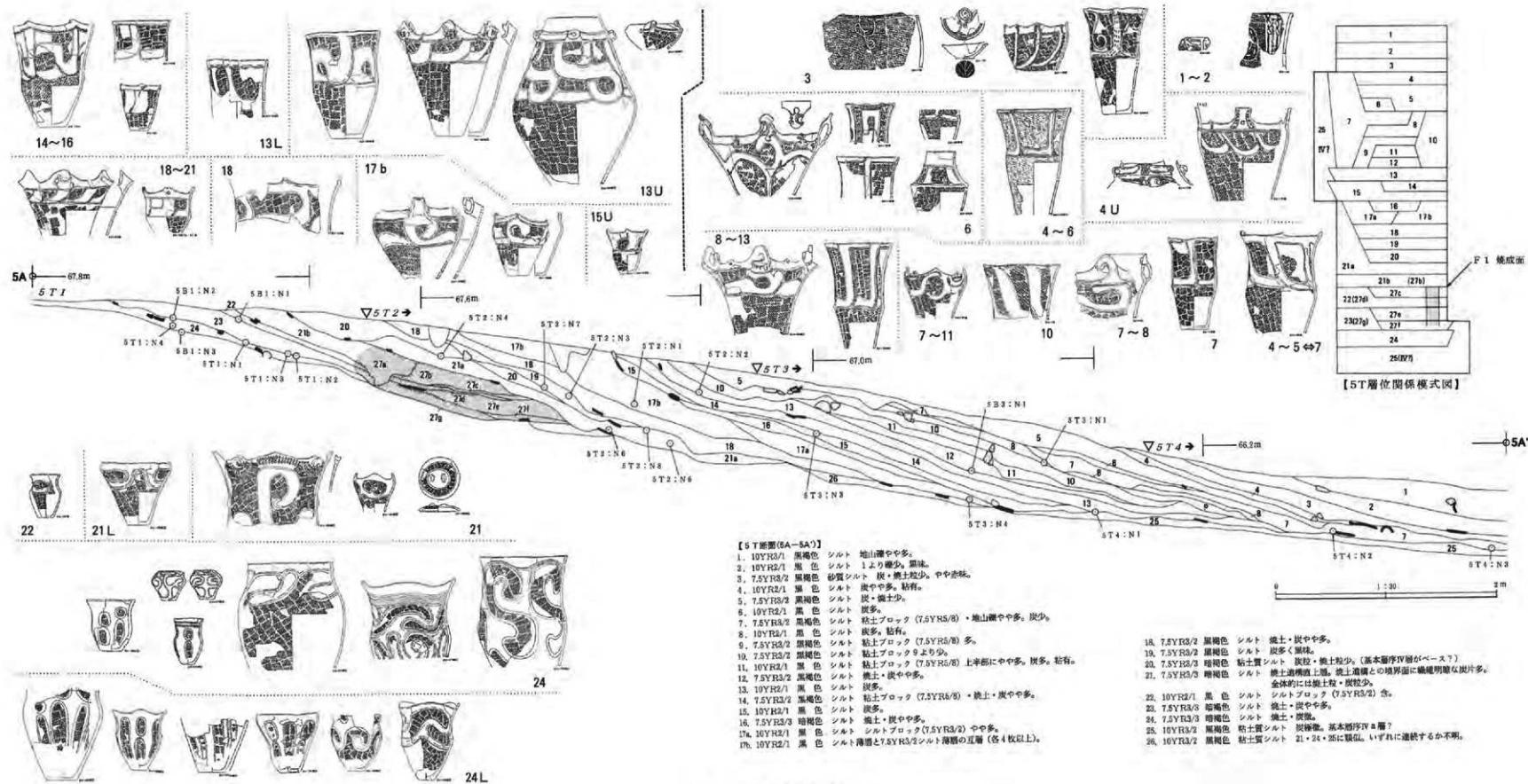


第61図 B区捨て場土層断面 [3 T]

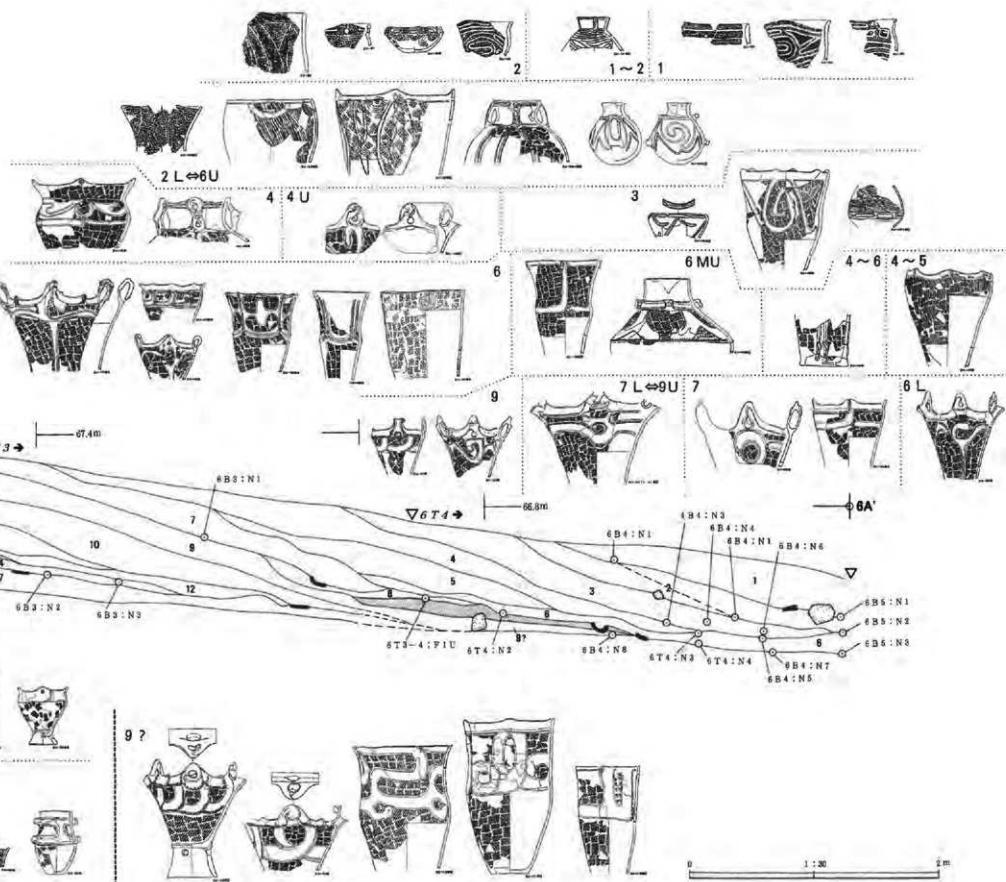
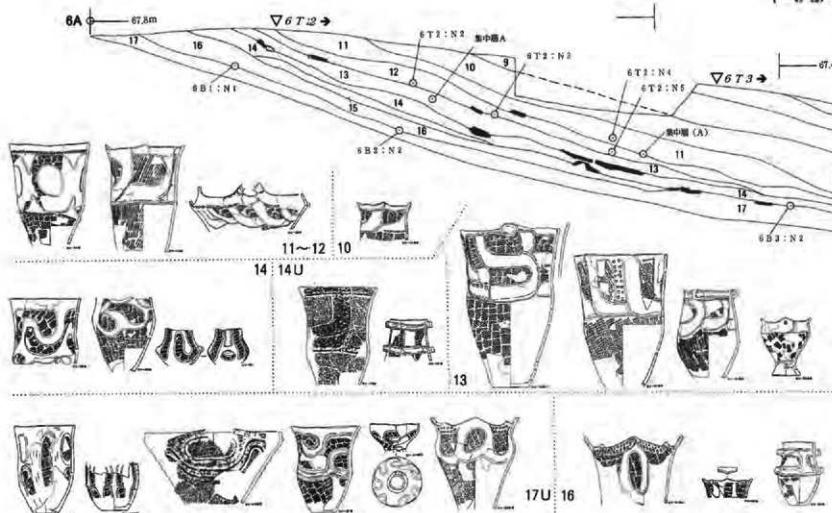
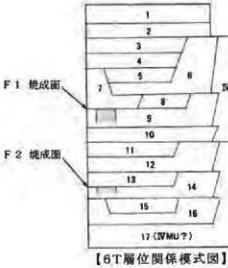


【4T層位関係模式図】

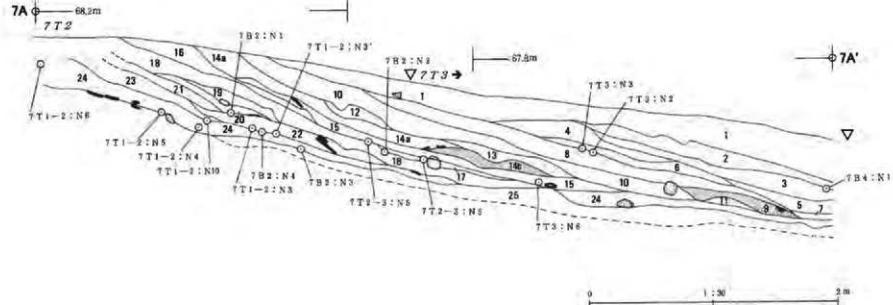
第62図 B区捨て場土層断面 [4 T]



第63図 B区拾て場土層断面 [5T]



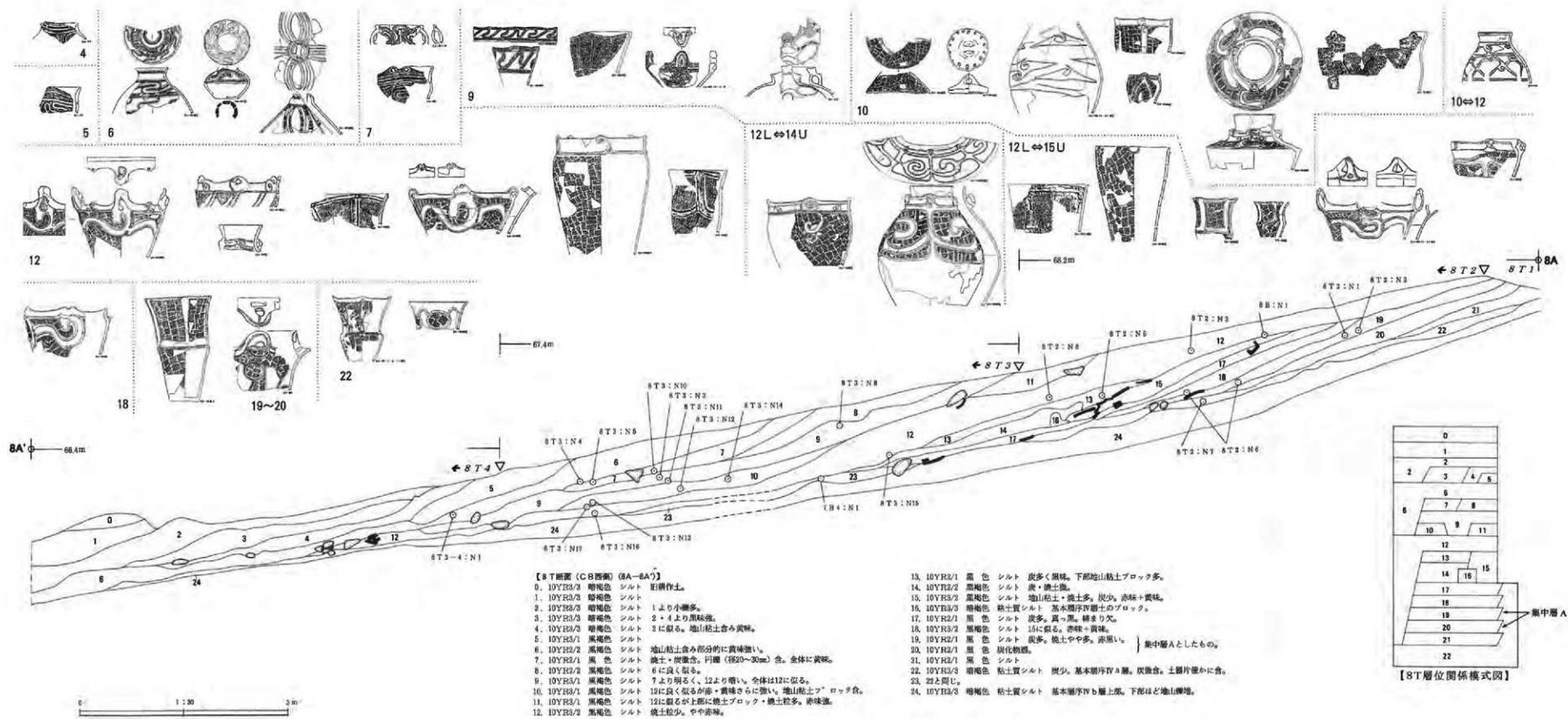
第64図 B区捨て場土層断面 [6T]



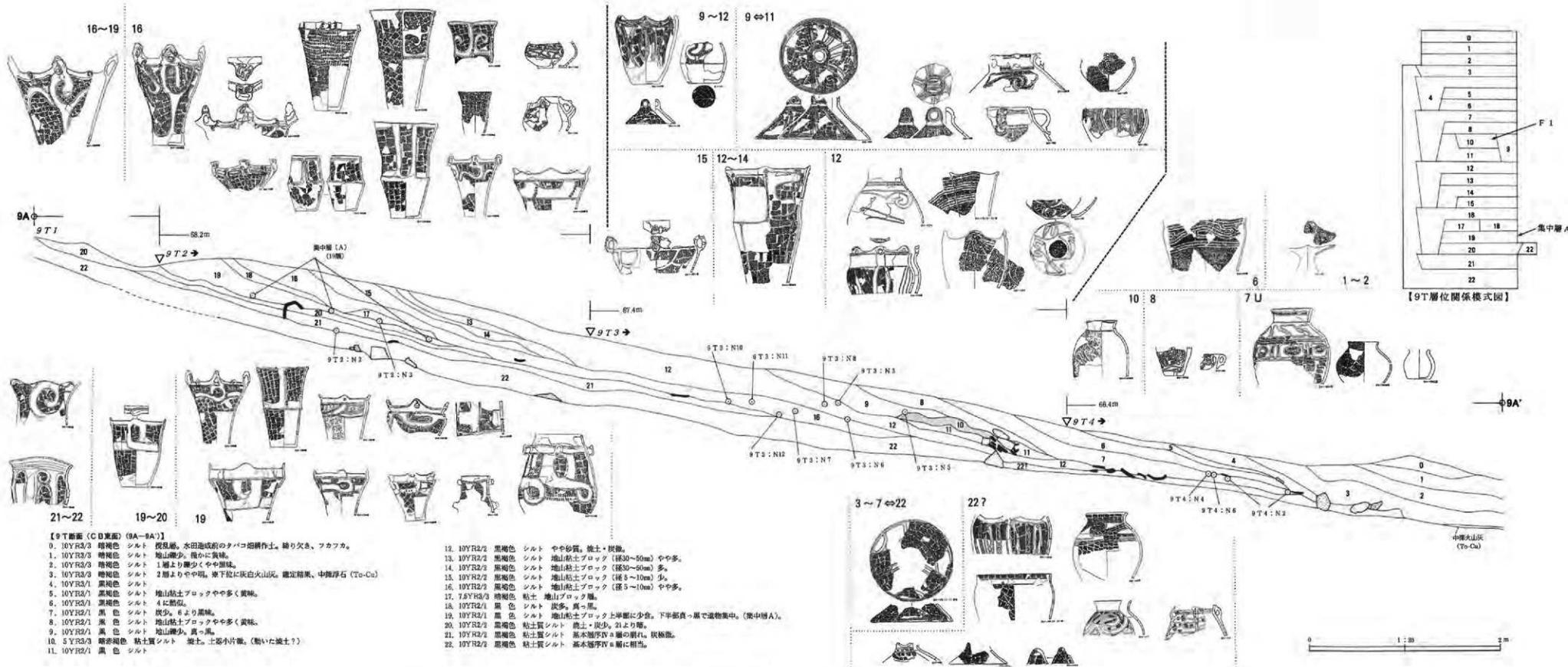
【7T層位関係模式図】



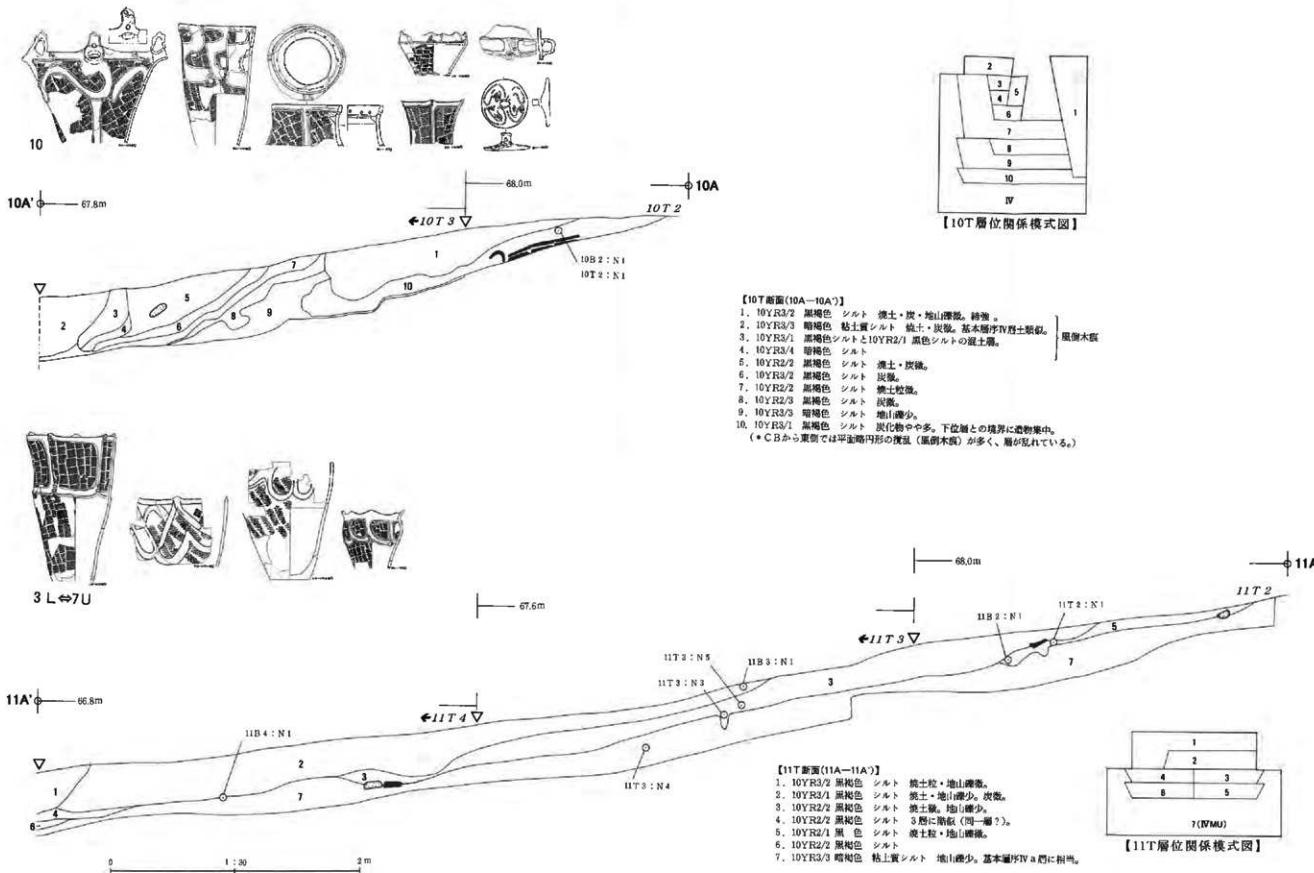
第65図 B区捨て場土層断面 [7T]



第66図 B区捨て場土層断面 [8T]



第67図 B区捨て場土層断面 [T]



第68図 B区捨て場土層断面 [10T・11T]

(4) 带状焼土遺構 (第57図・写真図版41)

捨て場堆積層中には複数の焼土層及び焼土ブロックを多量に含む層が確認されている。これらを「鍵」として捨て場出土土器を取り上げ、層位的な上下の区分に用いたことは前述のことおりである。

このうち、捨て場区割の2B3～6B1に及ぶ焼土遺構は最も規模が大きく、長さ12m、最大幅2mの帯状を呈する。捨て場堆積層は鋤り鉢の縁から流し込まれたかのように扇状に拡がっており、焼土遺構はその時点での堆積層の末端（北縁）に沿うように弧状に展開している。焼土層は30cmを超える厚みを持つ部分もあり火熱が深く及んだことを示している。焼成面直上には径数mm～1cmほどの繊維明瞭な炭化物が広がるが、焼成面以下の焼土層に炭化物が含まれることはない。

焼土内には二次被熱で明色化した土器が多量に含まれる。焼土中から出土した土器には赤変部以外の土器と接合して完形近くまで復元される個体も複数あることから、これらの土器は焼土形成以前に廻棄され既に土中に埋没していたものであると考えられる。また焼土中からは焼けた獸骨片が集中して出土するが、焼成面にのった状態が観察されることはないと判断される。焼土が形成された行為と獸骨の集中出土の間に間違性はない判断できる。土器と同様、土中の骨片は火熱による二次的な焼成により被熱範囲でのろ遺存し、火熱の及ばない黒色土中にあったものは腐食して失われたと解釈するのが妥当であろう。見方を変えれば捨て場堆積層には本来、焼土内と同程度の密度で獸骨が含まれていたことを示しているともいえる。捨て場には土器等の遺物のほかにも相当量の有機質遺物が廻棄されていたものと思われる。

上記の状況を考え合わせると、本遺構の焼土は明らかに現位置を保ったものであり、捨て場において大規模に火を燃やす行為が行われた痕跡であることは間違いない。捨て場における大規模な焼土遺構の持つ意味を推測するには根拠に乏しいが、捨て場そのものが精神的意味合いを有する場として意識されていたと仮定するならば、火を用いた何らかの祭記儀礼が行われた痕跡と解釈することも可能であろう。

帶状焼土遺構等焼土層の名称に関する重要な事項

さて、本来であれば「V章1.(2)②遺物取り上げ方法」で明示しておくべきであったが、編集の不手際でここに記す重要な事項がある。是非ご留意いただきたい。

各トレンチ断面において焼土層（あるいは焼土ブロック層）をしめす「F1」・「F2」などの記号は、トレンチ間で全て共通する特定の層を指し示しているのではなく、あくまでも個々のトレンチ断面に現れた焼土層に対し上位（新期）に相当するものから順に1から付した名称である。例えば上記の帶状焼土遺構は2T～5Tでは「F1」だが、6Tではさらに新しい焼土層が存在することから「F2」となっている。

各トレンチで検出される焼土層の対応関係は精査終了近くまで確認できず（ベルトに隠れた部分が未確認だったため）、この記号は便宜的に付したものであった。室内整理段階に整理・統一する予定だったが、出土層位名として既に多量の遺物に用いていたため改名作業時のエラーが懸念された。このためトレンチ内における分層基準としての役割を優先し、改名は行わないことにしたわけである。トレンチ間の層の対比に混乱を誘いかねず不親切の勝りは免れない。右表に対応関係を記しご寛恕を請う次第である。

トレンチ断面焼土（F1・F2）対応表

| トレンチ | 新→ | | | 古→ | |
|------|----|----|----|----|----|
| 2T | | | | F1 | |
| 3T | | | | F1 | F2 |
| 4T | | | | F1 | |
| 5T | | | | F1 | |
| 6T | | F1 | | F2 | |
| 7T | | F1 | F2 | | |
| 9T | F1 | | | | |

※斜体が「帶状焼土遺構」

(5) 捨て場の形成過程

①捨て場の堆積パターン

各トレンチの堆積状況から推測される捨て場の形成過程は以下のようにまとめることができる。

〈a〉。まず、3 T 1～4 T 1付近の斜面上方側、すなわち北尾根頂部の遺構集中部方向から掘削行為に伴って排出されたと思われる地山粘土ブロックが廃棄される。間には自然堆積の黒色土の薄層が数枚入ることからこの行為は断続的に數次にわたって行われたと考えられる。ほぼ同一地点から流し込むように土砂が供給されたことにより、堆積層はこの供給（廃棄）地点を頂点とする扇状の広がりをもつ。一方、廃棄土層が到達しないところでは、IV a層相当層は沢筋の流水の作用による再堆積を繰り返しつつ常に地表に露出した状態となる。このIV a層は捨て場堆積層の主体土であるⅢ層が供給される以前の旧表土であり、既にこの時点まで大木9式相当の土器を包含していたと考えられる。〈b〉。廃棄土層の上をIV層土（尾根頂部にみられる暗褐色砂質シルト）主体の自然堆積層が覆う。これらは焼土・炭化物を僅かに含み、遺構が集中する尾根頂部から流入したものと思われる。〈c〉。扇状にせり出した捨て場堆積層の末端に沿って弧状に展開する「帯状焼土遺構」が形成される。現位置を保った焼土はほかに検出されなかったものの、同遺構の上・下位にも大量の焼土・炭化物を含む土層が確認されることから、燃焼を伴う同様の行為は繰り返し行われていた可能性が高い。〈d〉。焼土遺構焼成面の直上には炭化物層が広がり、これに由来する焼土ブロック・炭化物を多量に含む再堆積層がこの上に堆積する。

〈a〉～〈d〉のパターンを繰り返し、捨て場堆積層は9 T付近まで拡大している。8 T・C B・9 T付近は沢筋の最深部にあたりIV層上面には水穴が多数みられることから捨て場形成段階においても湧水が豊富だったと推測され、南から北に向かって前進してきた堆積層の土砂は沢筋付近では流水による浸食再堆積を複雑に繰り返しているものと思われる。また、人為堆積層は流水に運られたためか沢筋の対岸には及ばず、10 T以東に堆積するのはⅢ層の自然堆積層のみが観察される。

②土器の出土傾向と土層堆積過程

さて、大木9式土器を包含するIV a層と新期の層が直接接する部分において、両者それぞれに包含される土器が時期差をこえて混在することは先に述べた。捨て場では土砂・遺物の供給地点（3 T 1付近）に近い側から順に迫り出すように堆積が進んだため、堆積範囲の末端部では地表に露出しているIV a層とこれを覆う最新期の層とが常に接する状態にあったわけである。各トレンチにおける最古期堆積層から出土した土器に着目すると、供給地点に近い2 T～5 Tでは大木9式土器（IV a層帰属）と混在するのはこれに後続する大木10式古段階の土器であるのに対し、6 T以降ではIV a層の直上から出土するのは大木10式でも新しい要素を持つ土器で、古段階相当のものはみられなくなる。つまり供給地点から遠ざかるほど新しい土器が直接IV a層上面に接して出土する傾向が把握できる。

帯状焼土遺構がその時点における捨て場の末端に沿って弧状に形成されていると仮定すれば、6 Tの最古期相当層が堆積する6 T 1はその弧の延長上にあたり、焼土遺構形成時点の直前・直後に相当する土層が堆積していることになる。他のトレンチでも帯状焼土遺構の上下からは大木10式の新段階に相当する土器が出土しており形成時期もこれと同じと考えられるため、6 T 1に大木10式古段階の土器が欠落し新段階のもののみが出土するという状況はこれと矛盾しない。このことは大木10式古段階の土器を包含する層の分布範囲は帯状焼土遺構よりも内側に収まることを示している。垂直方向の層の上下関係のみならず、遺物の平面的な分布傾向からもこの捨て場が層位的に良好な状態を保っていることを示す傍証といえよう。

2. 捨て場出土土器

捨て場からは縄文時代中期末葉～後期前葉を中心とする大量の土器が出土した。重量にして6340.3kgに及び、これらから立体復元個体及び破片資料を選別・登録し合計2125点掲載している。実測図は第2分冊「遺物図版編」に掲載した。通例、本節において土器の分類・細分を行い、個々についても詳述すべきところではあるが、個別の観察事項は本冊巻末に掲載した一覧表に譲り、以下には特記事項のみを示すこととする。無論、時間不足が大きな制約となったことは事実であるが、報告者の意図的作業結果を開陳することより、少しでも多くの資料を提示することに力点を置こうとする当初の方針を優先した結果である。掲載土器の選別方法や掲載方針等、本書における出土土器の扱い方については「Ⅲ章 2.(3) 遺物の選別と掲載方法」及び「V章 1.(2) 捨て場の調査と掲載方法」に示しているので是非ご参照いただきたい。

(1) 層別資料【BM-1～1476】(表9・第[2]-1～141図・写真図版57～166)

各トレンチ断面の層別に取り上げを行ったもので、掲載土器では最も層別的に細分された資料となる。トレンチ(T)と隣接ベルト(B)は共有する断面毎に一組として扱い、2T-2B出土土器から順に計1476点を掲載した。また、前節のトレンチ断面図(本冊第60～88図)にも各「T-B」から出土した主な土器を第2分冊から抽出し層別資料の概要を一覧できるようにしている。

2B-2T (BM-1～37)

掲載37点。BM-1(以下、「BM-」省略)は内窓する口縁部に連続刺突がめぐる深鉢。波状口縁と胴部文様は4単位を意識したと思われるが、割付間隔や口縁部隆帯の加飾パターンに規則性を欠く。2～4は1とともに〔2T3:N1〕。5・8は台付土器の台部で8は円形透かしを持つ。9は円形貼付文と鎖状隆帯を持つ後期初頭土器で、10は9に類似した意匠が沈線で描かれ、波状口縁を模した山形突起を持つ粗製深鉢。9～11の出土した10?層は類似する10層には連続せず、より新期の可能性大(第60図参照)。21・25・27は帶縄文が並列・垂下する大木9式相当。

3B-3T (BM-38～120)

掲載83点。38は台を持つミニチュア土器。天地逆の可能性があるが他にワイングラス状の中実の柱状脚を持つものもあるため高さのある方を台とみた。42・46は内窓して口縁部下に最大径もつ深鉢。口縁部にU字状の崩消部を1単位のみ持つ。平面的には近接して出土。作業員の通称「双子土器」とおり互いに酷似。52は注口状の把手をもつ深鉢。胴部文様の崩消部を縦取る隆帯の剥落部に「下描き」と思われる沈線。56は図に表現できなかったが注口状把手を持つ深鉢。施文要素の切り合いから把握された施文手順は「隆帯→縄文→沈線→隆帯上刺突」。56は沈線区画内を尖った工具の刺突で充填し意匠を表現した壺形土器。沈線は切れ切れで意匠端部には短隆帯。把手4単位のうち1つが注口。86は紐通しを持つ小形壺形土器。89は列点状の刺突で加飾された台付土器の台部。99は小形の台付土器。図表現できなかったが台欠損部下端に円形透かし(3単位)の痕跡あり。117a・bは4層最下部とIV?層上面が接するところから出土。前者に帰属?

4B-4T (BM-121～147)

掲載27点。126は16層最下部と19層上面が接する部分から出土した大木9式相当土器。IVa層に近い部分でもあり、層の誤認か擾乱の影響うけた可能性あり。135は波状口縁・S字状の縄文部は4単位だが、文様帯と胴部下半を区画する波頭状の隆帯は5単位。142は〔4T2:N6〕としてIV層上面から出土した壺形土器。胴部文様・頭部下の把手とも8単位。

5 B - 5 T (BM-148~321)

掲載174点。166は内面に文様を持つ小形浅鉢。内面は推定図のように沈線による文様が3単位に区画されるらしく、区画上辺に沿う隆帯の端部に円形貼付文をもつ。180は立体的な把手をもつ朝顔形の深鉢で、隆帯上に2個1単位の刻目をもつほか、部分的に鏡状の短隆帯と円形貼付文が付される。円形貼付文は平たく輪郭が不明瞭で刺突の周囲が盛り上がる程度。188は底部剥落面にアスファルト。192は1単位の山形突起を持つ粗製深鉢で左半5層、右半が7~8層から出土。横倒しのまま埋没?。204は大形の壺形土器。把手・文様は5単位。229は3単位の波状口縁(突起?)を持つ台付のミニチュア土器。台部下端に3箇所の抉りを持ち三足状呈す。260の小形壺形土器をはじめ259~262は〔5 B 2 : N 5〕の一括取上資料。271~277も〔5 B 1 : N 2〕の一括取上資料。うち272は注口を有する小形土器で、地文はなく意匠を浮き彫り状に表現。内外面とも赤色顔料が塗布(内面付着は容器とされたためか)される。289~298は5 T断面で最古期の24層最下部から出土した土器で大木9式に相当するものが主体である。25層は層名こそ下位に位置するが堆積範囲は5 T 4付近であり、出土土器(299)をみても帶状焼土造構よりも新規の堆積層であることは明らかである。

6 B - 6 T (BM-322~665)

掲載344点。上位の堆積層からは後期前葉相当の土器がまとまって出土。322及びそれ以下にみられる磨消繩文帯が入り組んで意匠を形成するものは最上位の1層に集中。341は地文無く沈線文のみで加飾された壺形土器。2層出土の346は口縁部に8単位の透かしを持つ浅鉢。同層及び3層の土器は対向して垂下する弧状文の頂部に円形・鉤状の沈文をもつものや重層する弧状沈線文で加飾されるものが主体で、ごく細い燃糸文を地文とし沈線区画を意匠しつつも磨消しが不完全。402等、ミニチュア土器にも同様の弧状沈線文がみられる。401~403などワイングラス形のミニチュア土器も特徴的。4層出土の435は口縁部とその下のJ(U?)字状文に円形貼付文を持つ深鉢で、地文(繩文L R)が脚部下半に横回転、上半に縱回転で施文される。436は大振りの8字状把手を持つ壺形土器。450(a・b)にみられるのはいわゆる藤手文の一部。464は太く深い多条沈線が施文され器壁も厚い重厚な土器。6層以下から隆帯上に2個一対の刻目を持つものが目立つ。475・477・478は刻みがハの字状に向かい合う。隆帯持たない476は把手も小振りで沈線も縦細、円形貼付文は不明瞭または円形刺突のみ。516は台付注口深鉢。概ね10層以下では口縁が屈曲内傾して立体的な把手を持つ朝顔形の土器はほとんどみられず、平口縁の土器が支配的。638以降には異時期層が直接接する部分から出土した土器。各取り上げ単位において主体となる土器から、本来の帰属層位の推定は可能であろう。

7 B - 7 T (BM-666~843)

掲載178点。3層上面出土の696~710は〔7 B 4 : N 1〕の一括取上げ資料。朝顔形に口縁が開く696・697は隆帯上に2個一対の刻目もつ。バケツ形で脚部上半が方形区画の文様帯となる701~703も同様。699は注口持つ浅鉢で、内面全面と外面の無文部に赤彩。700の壺形土器は頭部と口縁部破片の接合面に、製作段階につけられた刻目もつ。同様の例はBM-1315(C B 2 : 19)の壺形土器でも確認。製作技法に関連するか。

8 B - 8 T - C B (BM-844~994)

掲載151点。層名に*が付くのは8 T断面の層位で取り上げたC B内出土土器。881~886は6層出土で〔8 T 3 - 4 : N 1〕の一括取上資料。このうち881・882は磨消繩文帯による波紋状の意匠が連續し基点に小さい円形刺突を持つ壺形土器。883は笠形の大きな壺形土器で対向する弧状沈線文を持つ。931は10層出土とした〔削〕層位扱い(「V章1.(2)③捨て場出土土器の扱い方」参照)の壺形土器である。下半を失っ

表7 B区捨て場地取上遺物層別一覧

| | N1 | N2 | N3 | N4 | N5 | N6 | N7 | N8 | N9 | N10 | N11 | N12 | N13 | N14 | N15 | N16 | N17 |
|-------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|-------------------------|-------------------------|---------------------------|------|-------------------------|--------------------------|-------|--------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2B1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2B2 | 14U | 15U | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2B3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2B4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2B5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3T1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3T2 | 14U | 13? | 9U | | | | | | | | | | | | | | |
| 3T2-3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3T3 | 7U | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3T4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3T5 | 10? | 10?U | 10? | | | | | | | | | | | | | | |
| 3B1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3B2 | 14U | 16U | 19U | 18U | | | | | | | | | | | | | |
| 3B3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3B4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3B5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4T1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4T2 | 17ML | | | | 20 | | | | | | | | | | | | |
| 4T3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4T4 | 3U | 2L \leftrightarrow 4U | 3U | | 4U | 4L \leftrightarrow 9U | | | 6L \leftrightarrow 9U | 9L \leftrightarrow IVU | IVMU? | 9L \leftrightarrow IVU | | | | | |
| 4T5 | 2L \leftrightarrow 4U | 4 | 2L \leftrightarrow 4U | 4L \leftrightarrow IV?U | | | | | | | | | | | | | |
| 4B1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4B2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4B3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4B4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4B5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4T1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4T2 | | | | | | | 28L \leftrightarrow IVU | | | | | | | | | | |
| 4T3 | 16L \leftrightarrow 19U | 16L \leftrightarrow 19U | 19L | 16U | 21U(F1U) | | | | | | | | | | | | |
| 4T4 | 4L \leftrightarrow 6U | 6U | 6U | 6 | | 7 | | | | | | | | | | | |
| 4T5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5B1 | 23U | 24U | 24L | | | | | | | | | | | | | | |
| 5B2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5B3 | 13U | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5B4 | (8~13) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5B5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5T1 | 24U | 24U | 24U | 24 | | | | | | | | | | | | | |
| 5T2 | 17b | 13L | 19 | 21U | 21 | 21L | 19L | 21MU | | | | | | | | | |
| 5T3 | 8 | | 15U | 17a | | | | | | | | | | | | | |
| 5T4 | 13L \leftrightarrow 25U | 7 | 7 | | | | | | | | | | | | | | |
| 5T5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6B1 | 17U | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6B2 | | 17U | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6B3 | 7L \leftrightarrow 9U | 14L \leftrightarrow 17U | 14L \leftrightarrow 17U | | | | | | | | | | | | | | |
| 6B4 | 1~2 | | 4U | 3 | 3L \leftrightarrow 6U | 3 | 6L \leftrightarrow IVU | 9? | | | | | | | | | |
| 6B5 | 2L \leftrightarrow 6U | 6L \leftrightarrow IVU | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6T1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6T2 | 12L | 12L | 11 | 12 | | | | | | | | | | | | | |
| 6T3 | | 6L \leftrightarrow F1U | 6MU | 6L | | | | | | | | | | | | | |
| 6T4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | N1 | N2 | N3 | N4 | N5 | N6 | N7 | N8 | N9 | N10 | N11 | N12 | N13 | N14 | N15 | N16 | N17 |
|-------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|-----|---------------------------|-------|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 6T4-5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6T5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7B1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7B2 | 20L \leftrightarrow 22U | 18 | 25U | 22L \leftrightarrow 24U | | | | | | | | | | | | | |
| 7B3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7B4 | 8U | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7B5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7T1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7T1-2 | | | 22L \leftrightarrow 24U | 24 | 24L | 24 | | | | 24U | | | | | | | |
| 7T2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7T2-3 | | | | | | | 18U | | | | | | | | | | |
| 7T3 | | 6L \leftrightarrow 8U | 6L \leftrightarrow 8U | | | | | 15 | | | | | | | | | |
| 7T4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7T5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8B | 12L \leftrightarrow 15U | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8T1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8T2 | 19 | 19 | 12 | | | | 13~19 | 22 | 12 | | | | | | | | |
| 8T3 | | | 9 | 6L | 7U | | | | | | | | | | | | |
| 8T3-4 | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8T4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8T5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| CB1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| CB2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| CB3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| CB4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| CB5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9T1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9T2 | 22U | 17L \leftrightarrow 19U | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9T3 | | 12U | | | 10U | 12L \leftrightarrow 16U | 16 | 12 | | | 16 | 16 | 16 | | | | |
| 9T4 | 7MU | | TU | | | 7U | | | | | | | | | | | |
| 9T5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9B | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10T1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10T2 | 10 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10T3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10T4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10T5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10B1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10B2 | 10 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10B3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10B4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10B5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11T1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11T2 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11T3 | | 3L \leftrightarrow 7U | 7 | 3L \leftrightarrow 7U | | | | | | | | | | | | | |
| 11T4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11T5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11B1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11B2 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11B3 | | 2L \leftrightarrow 7U | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11B4 | 2L \leftrightarrow 7U | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11B5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

表8 捨て場土器 地点別出土重量表（捨て場区割取上げ分）

| | 1B | 1T | 2B | 2T | 3B | 3T | 4B | 4T | 5B | 5T |
|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1 | | | 3.0 | | 9.0 | | 5.5 | 20.0 | 12.0 | 67.5 |
| 2 | 9.0 | 1.0 | 93.0 | 29.5 | 117.5 | 35.5 | 63.5 | 31.0 | 99.5 | 101.0 |
| 3 | 9.0 | 25.5 | 118.0 | 29.5 | 92.0 | 53.5 | 119.2 | 36.5 | 193.0 | 82.0 |
| 4 | | 2.5 | 33.5 | 32.0 | 111.5 | 30.0 | 116.5 | 31.0 | 102.0 | 47.5 |
| 5 | | 2.5 | 25.0 | 13.0 | 26.5 | 22.0 | 100.0 | 1.0 | 63.0 | |
| 6 | | | 68.5 | | 7.5 | | 36.0 | | 8.0 | |
| 7 | | | | | 1.5 | | | | | |
| 一括 | 14.0 | | | | | | | | 3.5 | 35.0 |
| 計 | 32.0 | 31.5 | 341.0 | 104.0 | 365.5 | 146.5 | 456.2 | 115.0 | 568.0 | 264.0 |
| B-T計 | | | 63.5 | 445.0 | | 512.0 | | 570.2 | | 832.0 |

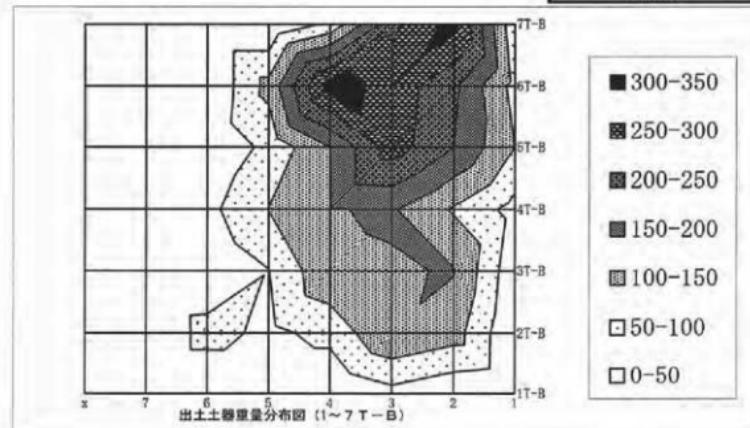
| | 6B | 6T | 7B | 7T | 8B | 8T | 9B | 9T | 9B |
|------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1 | 68.0 | 14.5 | 29.0 | 31.5 | | 8.5 | 11.5 | 18.0 | |
| 2 | 159.5 | 49.5 | 272.0 | 46.5 | | 101.0 | 144.0 | 56.0 | |
| 3 | 182.0 | 99.5 | 176.0 | 61.5 | | 142.5 | 168.5 | 87.5 | |
| 4 | 252.5 | 71.2 | 62.0 | | | 58.5 | 109.0 | 37.0 | |
| 5 | 116.5 | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | |
| 一括 | 14.5 | 1.0 | 14.5 | | 152.0 | | | | 63.0 |
| 計 | 793.0 | 235.7 | 553.5 | 139.5 | 152.0 | 310.5 | 433.0 | 198.5 | 63.0 |
| B-T計 | | 1028.7 | | 693.0 | | 462.5 | 433.0 | | 261.5 |

| | 10T | 10B | 11T | 11B | 12T | 12B | |
|------|------|-------|------|-------|------|------|---------------|
| 1 | 2.5 | 5.5 | 2.5 | | | | |
| 2 | 14.5 | 40.0 | 18.0 | 38.0 | 9.0 | | |
| 3 | 36.0 | 70.0 | 34.5 | 46.5 | 6.5 | 3.0 | |
| 4 | | 40.5 | 30.5 | 48.0 | 13.0 | 14.0 | |
| 5 | | | | 16.5 | | | |
| 6 | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | |
| 一括 | | | | | | | B-T合計 (kg) |
| 計 | 53.0 | 156.0 | 85.5 | 148.0 | 27.5 | 17.0 | 5788.4 |
| B-T計 | | 209.0 | | 233.5 | | 44.5 | |

グリッド取上げ分合計
551.9

捨て場出土土器合計 (kg)

6340.3



ているが、やや外傾して直線的に立ち上がる肩部がほぼ直角に屈曲し、文様帶とされる広い肩部を持つ。把手と文様は3単位で、円形貼付文と縫帶で加飾される。屈曲部から下は無文。991は底部からやや内寄気味に立ち上がり肩部中央で急激にくびれて段を持ち、また緩やかに外反しながら口縁が朝顔形に開く特異な形状を持った深鉢である。肩部上半の文様は対向して垂下する弧状沈線の端部に円形沈文を持つ。

C B - 9 T - 9 B (BM-995~1452)

掲載458点。捨て場の凹地を形成したB区沢跡の沢筋に沿ったベルト「C B」とその北東面に接する9Tから出土した土器である。1~2層出土の995は嘴状の口縁部を持つ片口土器と思われる。概ね6層までは磨消繩文による文様が横位に展開する土器が主体で、これ以下では多条沈線で描かれる文様が目立つ。1158・1159はS字状沈線が連結し鎖状をなして垂下する。1189・1192などは櫛刷状の細い多条沈線が縱方向に施文される粗製土器。1198は肩部上半が方形区画の文様帶とされ、下半部も上半の区画線の中央から垂下する隆帯で区画されている。16層出土の1223は典型的な門前式の深鉢で隆帯剥落面に繩文が認められる。把握される施文順序は繩文→隆帯→沈線。1237は肩部上半を4単位に区画された深鉢で、沈線で描かれた意匠の内部が磨り消されている。このうち1区画では人体を表現したと思われる文様が描かれており、足先と腰部に円形貼付文が付されている。頸部の破片は再度探したが発見できなかった。1245は切断蓋付壺で外面に赤彩。

10 B - 10 T (BM1453~1467)

掲載15点。1457は口縁部下に孔が巡り、孔の直下の内面には受け部となる段が全周する。孔には紐擦れの痕跡は認められない。何らかの過渡器の機能を持ったものと推測される。

11 B - 11 T (BM-1468~1476)

掲載9点。1470は5単位の突起と方形区画をもつ深鉢。2個一対の刻目持つ。1474は肩部上半に乱雜に描かれた沈線文の内部が磨り消される。1476は8単位の区画文が連続し、交点に円形貼付文持つ。

(2) 焼土遺構とその上下の資料【B F - 1 ~ 130】(表10・第[2]-142~157・写真図版167~182)

各トレンチ断面に認められる焼土遺構(F 1・F 2など。一部焼土ブロック層含む。)の上面を鍵として上下に区分して取り上げた土器である。なお、登録・掲載したのは立体復元土器のみで不掲載となった破片資料も豊富にあることをお断りしておく。

B F - 18 (以下「B F -」省略)は注口持つミニチュア土器。底部が小さく丸底を呈し自立しない。22もミニチュア土器で柱状の脚持つワイングラス形。52の深鉢は椭円形区画内に筋の小さな繩文を、その他には大きな繩文を使い分けている。93は大形の壺形土器で内面及び外面無文部に赤彩。

(3) その他【B A - 1 ~ 519】(表11・第[2]-158~209・写真図版183~223)

捨て場出土土器のうち、層別取上げを行わず捨て場堆積層(Ⅲ層)出土土器を一括したものである。上の「B F -」と同様、立体復元土器のみ登録・掲載しており、不掲載の破片資料は豊富に存在する。

B A - 13・19 (以下「B A -」省略)は肩部上半に横位に展開する磨消繩文による文様帶を持つ。14は円盤状の壺形土器でアーチ状の把手を持ち、一方15は笠形の壺形土器で頂点に中空のやや大きな把手を持つ。23は口縁の両端がひき出され2単位の波状を呈する小形の土器である。29は肩部径に比して極端に小さい底部を持つ土器である。隆帯による文様を持つが地文はない。上半部を欠損し器形の全容は不明。40は口縁部下にほぼ水平に突出した円筒状の注口をもつ鉢形土器。71は沈線による複雑な曲線文をもつ土器で透かしのある台部を持つと思われる。75は広く平らな底部を持ち器壁が短く立ち上がる洗面器に似た無文の土器であ

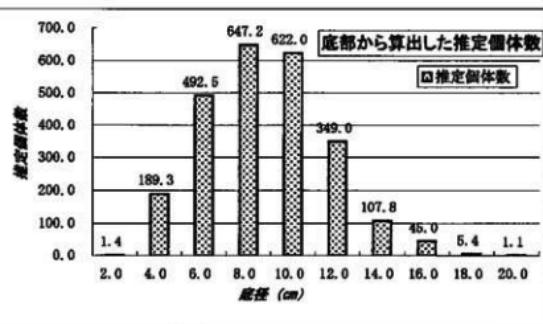
る。87は4単位の方形区画のうち3単位はS字状・1単位のみX字状の意匠が配されている。後者は円形貼付文を頭部に見立てれば人体文にも見えるか。150は底部内面に沈線文を持つ土器。158は肩部下半で切断された小形の壺形土器。169は四足持つミニチュア土器。188もミニチュア土器で口縁の一部が片口状に引き出されている。277は末端の角張った工具を用いた刺突列が重層して全面を覆う小形の土器である。口縁には2箇所以上の波頂部(突起?)を持つものと思われ、底部は急激に細くなることから柱状脚を経て台部へと至るものと推測される。310は三角形の透かしが不規則に(しかしバランス良く)配された台部を持つ土器である。346は柱状脚を持つミニチュア土器で、脚部の付け根付近に脚部を貫通孔をもつ。376(a+b)は注口土器で、aは注口反対側の口縁に付く把手であろう。448以降は捨て場区分ではなくグリッド単位で取り上げた土器であるが、時間不足から一覧表に観察事項の記入が行えなかった。506は肩部上半に刺突列点文が重層する土器である。このような刺突文が器面に広く施される土器(上掲227など)は北陸地方縄文時代後期初頭の三十幅柄式に類似するものである。

(4) 底部資料【B B - 1 ~ 6994】(表12)

捨て場出土土器のうち実測掲載対象外の底部資料について底径・残存率の計測を行った。まず6994点を対象として残存部から底径(1cm単位)を復元し、残存率(10%単位)を記録した。その後、残存率10% = 0.1として底径別に合計し推定個体数を算出した。例えば底径が同じであれば「[10%残存の底部] × 10個」で1個体と見なした。言うまでもなく別個体どうしが同じ個体の一部として扱われることになり、従ってここで算出される個体数は最小値を示していることとなる。

結果、底部片から推定された個体数は合計2,460.7点となり、下表のように底径8cm(26.3%)・10cm(25.3%)のものがそれぞれ全体の4分の1ずつを占め、両者をあわせると半数を超える。底径のピークはこの付近にある。これに6cm(20%)、12cm(14.2%)が続いている。

| 底径(cm) | 推定個体数 |
|---------|---------|
| 2.0 | 1.4 |
| 4.0 | 189.3 |
| 6.0 | 492.5 |
| 8.0 | 647.2 |
| 10.0 | 622.0 |
| 12.0 | 349.0 |
| 14.0 | 107.8 |
| 16.0 | 45.0 |
| 18.0 | 5.4 |
| 20.0 | 1.1 |
| 合計推定個体数 | 2,460.7 |



3. その他の遺構出土土器

(1) A区出土土器【AA-1~46】(表13・第[2]-210~211図・写真図版224)

A3区では土器を包含する黒色土層の下面(地山面)で重機または耕作機械の爪痕とみられる痕跡が確認されており、部分的に櫻乱を受けている可能性が高いが、遺物の出土状況や密度からB区捨て場の堆積土に連続する末端部分に相当するものと思われる。出土土器は後期前葉のものが中心で、北尾根上の遺構分布域(遺物投棄地点)から北方(斜面下方)に遠ざかるほど新しい層が堆積している捨て場の状況と矛盾しない。磨消繩文による入組文や多条沈線文の土器が中心となっている。

(2) C区出土土器【CA-1~103】(表13・第[2]-212~215図・写真図版225~227)

C区は広い範囲で地山直上まで後世の削平を受けており、遺物を包含するⅢ層が残存するのはC区沢跡付近に限られる。出土するのは円形貼付文・鎖状隆帯を持つ土器・多条沈線文を持つ土器など、繩文時代後期初頭~前葉に位置づけられるものが中心となっており、当区に展開する遺構群の時期を示すものと思われる。

4. 土 製 品

土偶・耳飾・環状土製品・鉢形土製品・斧形土製品・石皿形土製品・土鍵・円盤状土製品・その他が出土した。実測図は第2分冊遺物図版編に掲載している。個々の観察事項等は本番巻末の一覧表に譲り、以下には主に各種類の概要と特記事項について記載する。

(1) 土 偶 【Da-1~93】(表14・第[2]-216~226図・写真図版228~239)

93点が出土し、地点順に全点を図化・掲載した。尾根上遺構分布面からの出土は見られず、全てがB区捨て場堆積層及びこれの延長上にあたるA3区から出土している。いずれも欠損部位を持ち、完形で出土したものはない。顔面は眉~鼻をY~V字状に隆起させ、目・鼻腔・口を刺突で表現したものが多く、粘土紐などで頭頂部にねじり鉢巻状に鬚を表現したものも見られる。Da-12(以下「Da-」省略)は上・下顎が前方に突出した特異な形状をしており、人間以外の動物の頭部を表現したようにもみえる。手のひらは匙状に凹ませて表現したが多い。脚は湾曲して膝部でふくらんだのち足下で若干狭まる「O脚」状を呈するものが目立つ。18・65には刻目で足指が表現されている。肩部は無文のほか、刺突文(35ほか)や沈線文(40ほか)・網文(23)・磨消繩文(48・67)で加飾されるものも認められる。つくりは全て中実で、21では粘土板を貼り合わせて作った頭部に棒状粘土を差し込み頭部を固定した様子が欠損面に見て取れる。欠損部位にアスファルトが付着している例も多く、欠損部の補修が行われたことを示す(図中、黒塗済し部)が、アスファルト付着面で接合するものはなかった。16は丸めた背中に背骨が浮き出て見える様子を表しており、屈折像の土偶であると思われる。13も肘部が接合面から剥がれた状態となっていることから、屈折像土偶の腕である可能性が高い。

(2) 耳 飾 【Db-1~21】(表15・第[2]-227~228図・写真図版240~241)

滑車形をした土製耳飾である。計21点出土し、全点を実測・出土地点順に掲載した。いずれもB区捨て場堆積層からの出土である。径は5cm前後、重量は40g前後のものが多いが、薄作りで径2cmに満たない小形のものもある。中心に貫通孔を持つ場合が多く、紐が通る程度の(径5mm以下)の細い孔を持つものと、全体が環状を呈するほど中心が大きく開くものとに分けられる。Db-2・8・13・17(以下「Db-」省略)は無孔である。表面が刺突文で装飾されるものには、縁部や中心の孔に沿って環状に刺突列が並ぶもの(3・6・7・14・16・21)、環状刺突列に十字や放射状の刺突列が加えられるもの(4・10・11・15?・17)、6

字状や溝状の刺突列が加えられるもの（2・13）などが見られる。2・6・8では刺突列に加えて鱗状の隆帯を貼り付け、巴文状の文様を表出している。

（3）環状土製品【D c - 1～20】（表16・第[2]-229～231図・写真図版241～243）

環状あるいは筒状の土製品を一括した。計20点を登録し全点を実測・出土地点順に掲載した。いずれもB区捨て場堆積層から出土したものである。このうち、D c - 2・7・9・12・15～19（以下「D c -」省略）は「腕輪形土製品」とも呼ばれ、2・9は入組沈線文、7は網文RLで装飾されている。また18は上面盤が滴形を呈する点で他と異なる。これらは腕輪としての実用には適さない重量を持つと思われるため、実際の用途は不明である。4・20は一端がラッパ状に開き上下非対称の形状を呈する。

（4）鐸形土製品【D d - 1～16】（表17・第[2]-231～232図・写真図版244～245）

計16点出土し全点を実測・出土地点順に掲載した。いずれもB区捨て場堆積層からの出土である。鐸形の形状で、上面盤は円～椭円形を呈する。頂部には指頭で挟み引き出されたような「摘み部」と貫通孔を持つものが一般的である。D d - 13・16（以下「D d -」省略）は摘み部の側端部に孔を持ち、また、5は摘み部を持たずに頂部から内側に貫く孔を持つ点で他と異なっている。器面は無文のものが多いが、1は多条沈線、5は磨消網文、6は沈線による曲線文でそれぞれ加飾されている。

（5）斧形土製品【D e - 1～13】（表18・第[2]-232～233図・写真図版245）

石斧に形状が似た（石斧を模した？）土製品である。計13点出土し全点を実測・出土地点順に掲載した。D e - 1（以下「D e -」省略）がA3区から出土したほか、全てB区捨て場堆積層からの出土である。全て欠損品で全体の形状が知れるものはないが、幅4cm前後、厚さ2cm前後でほぼ共通した大きさを持つらしいことが窺われる。基部の破片とみられる2・3・6・9・12はいずれも側縁からの貫通孔を持つ。一方、先端部の破片である4・5は石斧刃部のように端部に至るにつれて厚さを減じているが、同時に幅も細くなり、通常刃部側に最大幅を持つ石斧とは形状が異なる。沈線・刺突によって加飾される1は、以上の他の個体の形状から見れば、上下反転して図示している可能性がある。

（6）石皿形土製品【D f - 1～6】（表19・第[2]-234～235図・写真図版246）

石皿を模したと思われる土製品である。6点出土し全点を実測・出土地点別に掲載した。いずれもB区捨て場堆積層から出土したものである。この中で特に目を引くのはD f - 3（以下「D f -」省略）で、他のほとんどが石皿を模したミニチュア製品であるのに対し、本個体は実寸大に作られ、使用を繰り返すに伴い石皿中央部に生じる凹みまでが忠実に表現されている。器面全体は丁寧なナデで調整され、底部には四脚をもつ。中央の凹みは焼成前に作っていたものであり器面にも使用の痕跡が認められないことから、実用品ではないと思われる。6もまた実寸大の石皿形土製品の一部であろう。実寸大のものを除くミニチュア製品のうち、1・2・4の底面にも3と同様に四脚がつけられている。

土製品等で模倣する対象物は製作者にとって特別な価値（魅力？）をもっていたと仮定すれば、石皿の中でも有脚のそれは優品であるという意識が製作者にあったことを示唆しているのかも知れない。

（7）土 繩【D g - 1～9】（表20・第[2]-235図・写真図版247）

計9点出土し全点を実測・出土地点別に掲載した。出土地点はD g - 1～3（以下「D g -」省略）がA3区、4～8がB区捨て場堆積層、9がC区沢跡である。円形の4を除き、平面形はいずれも長辺円形を呈する。長軸に沿って溝を有するものと、溝に加え貫通孔を持つものがある。重量は2の45.2gが最大、6

の8.1gが最小である。

(8) 円盤状土製品【D h - 1 ~ 2527】(表21・第[2]-236図・写真図版247~248)

土器片の周囲を打ち欠いたり研磨したりして円盤状に仕上げ再利用しているものである。

計1555点を登録した。ここから(イ) A区出土のうち文様を有する完形のもの、(ロ) B区捨て場「6B」出土のうち刷別取上を行ったもので文様を有する完形のもの、(ハ) 造構内出土のものを抜き出し、計28点を実測・掲載した。図掲載したものの掲載番号はD h - 1~28、これら以外の表掲載のみのものはD h - 1001 ~2527としている。

直径は概ね4cm前後、重量は10g前後に集中する。表面には円形貼付文や頸状隆帯、陸帯を断ち切るような刻目、磨消繩文など縄文時代中期末葉～後期前葉に相当する土器の文様が認められる。

(9) その他の土製品【D i - 1 ~ 51】(表22・第[2]-237~241図・写真図版248~252)

上掲のもの以外の土製品を一括し、計51点を実測・掲載した。

D i - 1 ~ 4 (以下「D i -」省略)は皿を伏せたような基台部と板状の舌部(仮称)からなるもので、この遺物を仮に「舌状土製品」呼ぶ。基台部には、大形のものは2対4個、小形のものは1対2個の孔(または貫通するひとつの孔)をもつ。1にみられるように孔には通した紐が器台部側に押しつけられたような紐擦れの痕跡が認められる。これは基台部下面を何かに固定したか、あるいは基台部を上にしてつり下げた場合に生じた痕跡と思われる。一方、舌部は舌のような形状のもの(1)と、鹿角様に枝分かれするもの(2~4)がある。

5・6はスプーン状土製品である。5には大きな体部に把手が付く。6は柄部を欠損している。

7・8は棒状の土製品で、中心に孔を持つ。8の孔は途中でとまり貫通しない。

9・10は三角形の土製品である。細かい刺突で加飾されており、無文面側に向かって各角が若干湾曲している。

11~19は土偶の一部か。49の粘土塊には手で丸めたような指の跡が残る。50の粘土塊には縄物に押しつけられたような痕跡が見られる。

(10) 焼粘土塊【D j - 1 ~ 4】(表23・第[2]-241図・写真図版252)

細かい破片は多く出土しているが、ここには平坦な面を持つものと手でこね上げたような粘土塊、計4点を掲載した。

D j - 1 ~ 3は平坦面を持つ粘土塊である。この面には特にナデ等の調整の痕跡は認められず、むしろ別の平坦な面に押しつけられてできた面のように見える。胎土には目立った混和材は見られず均質な粘土である。

D j - 4には指の跡のような溝状の凹凸をもった粘土塊であるが、単なる粘土塊ではなく、何らかの大形の土製品の一部である可能性もある。

5. 石器・石製品

出土した各種石器及び石製品について以下に記載する。実測図は第2分冊遺物図版編に掲載している。個々の観察事項等は本番巻末の一覧表に譲り、以下には主に各器種の概要と特記事項について述べる。

(1) 石 錐【S a - 1 ~ 3254】(表24・第[2]-242~244図・写真図版253~255)

2363点を登録した。出土点数が膨大なため、図・写真を掲載したのは全体のごく一部に限られる。以下には掲載個体の選抜に用いた区分に従い記載する。

造構内出土の石錐 (S a - 1 ~ 45)

S a - 1 (以下「S a -」省略)は住居状C 4 J 2、2 ~ 6は住居状C 4 J 4 塙土から出土した石錐である。いずれも無茎錐で、石材には黒曜石、赤色頁岩が用いられている。7 ~ 41はC区柱穴群出土。これ以下はD区各造構の塙土から出土したものである。

捨て場出土層別取上上の石錐 (S a - 101 ~ 126)

B区捨て場で最も石錐の出土量が多かったのは5Bで、そのうち、完形かつ層別に取上げられているものを実測した。101~110は5Bの1 ~ 2層出土石錐で伴出土器は縄文時代後期初頭相当。一方、122~124は18 ~ 21層出土石錐で伴出土器は中期末葉相当である。その他の個体の出土層位は表24を参照されたい。

唯一101が有茎錐で、その他は全て無茎錐である。1 ~ 2層出土の個体とより下位層出土のものとを比較すると、幅に対する長さの比率が小さく、全体に小型化する傾向が認められる。

装着痕跡をもつ石錐 (S a - 201 ~ 230)

石錐の基部を装着・固定した痕跡を残すものである。痕跡の残存状態が良好なものは実測を行いその他は全て写真掲載とした。図中の「黒色塗り潰し」部はアスファルトと思われる黒色物質が見られる範囲、「斜線」で示した部分は周囲と比して風化が弱く色調が異なる範囲を示している。いずれも石錐の主軸上に沿って観察されており、石錐を基部側から挟み込むようにして固定されていたことを示している。

いわゆる嘴状石器と類似個体 (S a - 301 ~ 308)

「比較的小型・両面加工の石器で、先端部に、鳥の嘴に似た鋭く尖る部分を持つ石器」(秋田県埋蔵文化財センター 1989 「八木遺跡発掘調査報告書」秋田県文化財調査報告書第181集)で、いわゆる「嘴状石器」とされるものに相当すると思われるものをまとめた。S a - 303には基部にアスファルトと思われる黒色付着物が観察される。

その他の石錐 (S a - 1001 ~ 3254)

上記以外の個体は表掲載のみにとどめた。1001 ~ 1336はA区出土、1337 ~ 3075はB区捨て場出土、3076 ~ 3249はC区造構外出土、3250はD区造構外出土、3251 ~ 3254は調査区内出土(地点不明)のものである。

(2) 石 錐【S b - 1 ~ 183】(表25・第[2]-245 ~ 246図・写真図版256 ~ 263)

計183点登録した。全点を写真掲載しうち29点を図示した。以下のように分類している。分類と個々の遺物の対応関係は表25を参照されたい。

I. 細長く摘み部よりも長い刃部を持ち、全体に入念な細部加工が施されたもの。

II. I によく似た細長い刃部を有するが、幅の広い摘み部を持たず全体の形状が棒状を呈するもの。

III. 素材剥片の形状を残し、細部加工範囲が刃部周辺に限定されるもの。以下のように細分される。

a. I に似て棒状の刃部と摘み部の境界は明瞭だが、摘み部に近づくほど刃部の幅が広がり、摘み部に素材剥片の縁辺をそのまま残すもの。

b. 摘み部と刃部の境界が不明瞭で、細部加工は刃部から摘み部の側縁に限定され、全体の形状が尖頭状を呈するもの。

c. 素材剥片の一端に突出する短い刃部を持つもの。

本来の機能から本器種に含めるべきではないものが含まれている可能性があり、今後、詳細に検討する必要がある。

(3) 石 錐【S c - 1 ~ 87】(表26・第[2]-246~248図・写真図版264~275)

87点を登録した。全点を写真掲載とし、うち19点を図示した。なお本器種は摘み部を欠損すると他の不定形石器との区別が困難となるため、登録外の不定形石器には相当数の当該器種が含まれるものと推測される。以下のように細分する。

I. いわゆる縦型石錐。摘み部軸線と石器長軸がほぼ並行するもの(表中細分欄では「縦」)。

II. いわゆる横型石錐。摘み部軸線と石器長軸がほぼ直交するもの(表中細分欄では「横」)。

III. 摘み部に類似する突起部をもつものの、特殊な形状を呈するもの(表中細分欄では「他」)。

Iは大半が縦長剥片を素材とする。摘み部上面に素材剥片の打面を残すものが多く、刃部下端に打面とは反対側の石核面が認められるものも少なくないことなど、素材剥片の長さを最大限に活かそうとする意図がくみとれる。刃部は片面のみ調整が施される場合が多い。IIは横長剥片あるいは精円形の剥片を素材としている。刃部以外に施される細部加工は全体形状を整える程度にとどまる。IIIは本器種に形状こそ似るもの、大きさ等を考慮すれば同一の目的に使用しうるとは考えにくく、異器種として扱うのが妥当かも知れない。

なお、第248図に図示したのは摘み部のくびれに黒色付着物が認められる個体である。いずれもI(縦型)で、紐などを巻き付けて固定した痕跡とみられる。

(4) 石 斧【S d - 1 ~ 111】(表27・第[2]-249~254図・写真図版276~283)

111点を登録し、うち108点を写真掲載、37点を図示した。中央よりもや基部寄りの部分で欠損するものが多い。S d - 49・78には同様の部位にツブレ状の傷が集中して認められることから、柄に装着・固定して使用された場合、力(衝撃)が集中して加わり、欠損部位となりやすい箇所であったと推定される。

(5) 石 盔【S e - 1 ~ 42】(表28・第[2]-255~262図・写真図版284~293)

42点を登録し全点を写真掲載、うち21点を図示した。上面観が長方形～隅丸方形を呈するもの(S e - 22・36等)と、素材形状に従い精円形を呈するもの(S e - 8・25等)がある。また底面には脚の有無があり、有脚の場合底面から直接四脚がのびるもの(S e - 18・29等)と、『』(J)状の高まりの上にさらに脚がつけられているもの(S e - 8・22等)がある。内面中央に形成されている精円形の凹部は使用によって生じしたものと思われる。また、欠損後に凹石として再利用されているものも全点中8点と比較的多い。

(6) 敗磨器類【S f - 1 ~ 484】(表29・第[2]-263~268図・写真図版294~297)

計481点を登録し、選抜した50点のみ実測・写真掲載を行った。各使用度は複合し、いずれか単独の器種に帰属させることは困難であり、使用痕のバリエーションが比較的明瞭にわかる凹石を基準に分類し、他の痕跡と複合して凹部を持つものは全て凹石に含めて分類・細分した。表中の分類・細分基準は以下の通り。

【分類】 1 = 凹部1面のみ。 【細分】 1 = 凹部1箇所に集中。

2 = 凹部2面。 2 = 凹部8字状に接するが、2つ以上のもの。

3 = 凹部3面以上。 3 = 2箇所以上に明らかに離れてあるもの。

4 = 欠損等により不明。

凹石と複合しない磨石・敲石は痕跡が明瞭なものだけを登録し、判然としないものは下記の「(15)敗磨器素材譜」へ帰属させた。敲石のうち特異なのは、第[2]-267図上段に掲載した角錐状の端部を持つものであ

る。敲打で形成された平坦な面は、使用痕というよりも整形されたという印象が強い。

砥石に分類したものは次のように細分した。a = 砥溝を持つもの。b = 滑持たず面が使われるもの。

(7) 石 錐【S g - 1 ~ 20】(表30・第[2]-268~269図・写真図版298~299)

計20点出土し、全点を図示した。S g - 2 は有溝石錐、S g - 3 は切目石錐で、その他は全て疊石錐である。疊石錐は主に扁平な礫の短軸両端を打ち欠き、紐（縄）を巻き付ける部分に抉りを設けたもので、S g - 4 ~ 19には巻き付けた縄を固定したアスファルトと思われるタール状の付着物が残っている。他遺跡の類例では、明瞭な抉りを持たない自然礫にも同様の付着物が確認されていることから、本遺跡においても調査で遺物と認識しなかった自然礫が同じ目的で使用されていた可能性がある。

(8) 有孔石製品【S h - 1 ~ 12】(表31・第[2]-270~271図・写真図版300)

自然礫に人工的な穿孔が施されたものを一括した。計12点登録し、全て図示した。S h - 1 ~ 2 はいわゆる石笛で盛岡市湯沢遺跡の例（「笛状石製品」）が良く知られる。両者とも孔部が半割されるように欠損しており、孔内面の回転穿孔による線状痕が極めて明瞭に観察される。これは S h - 3 にも同様に観察される。S h - 4 ~ 5 でも長軸方向に長い孔が穿たれており、4 では両端からそれぞれ穿孔が行われているが、互いの孔の接点がすべて内部で「く」の字に曲がった孔となっている。S h - 6 ~ 8 は2個一対の孔、S h - 9 ~ 11 は1個の孔を持つ。これらは垂節具であろうか。12は回転穿孔の痕跡を持たず自然物の可能性がある。

(9) 有孔 磚【S i - 1 ~ 47】(表32・写真図版301~303)

計47点出土し全てを写真掲載とした。図掲載は省略している。自然の營力あるいは素材磚の特質性により人力の聞わないところで孔を持つに至ったと思われる磚をまとめた。遺跡からまとまった量が出土していることから、人間が意図的に選択・採集して遺跡に持ち込んだものと判断し、遺物として登録を行った。

(10) 斧形石製品【S j - 1 ~ 5】(表33・第[2]-271図・写真図版304)

5点出土し全てを図示した。図下端部が若干広くなる短冊形を呈し、石斧刃部のような鋭利な端部を持つ。S j - 1 ~ 2 は図上端部に孔を持つ。全面に整形・研磨に伴う擦痕が認められる。

(11) 棒状石製品【S k - 1 ~ 18】(表34・第[2]-271~274図・写真図版304~305)

計18点を登録し、全て図示した。石棒・石剣・石刀・その他棒状の不明石製品を一括した。S k - 1 ~ 2 (以下「S k -」省略) は小形の石棒で、両端に頭部を持つ。このうち2は副頭中央に有刻の帯状の高まりを持ち、両端と中央部に赤彩が施されている。3は大形の石棒で平安時代住居跡D 2 H 1 のカマド構築材として再利用されていた。7は先端部と中央部の間のくびれ部分に敲打痕が集中する。整形途中のものか。10 ~ 15は石剣・石刀類の一端。いずれも整形・研磨の擦痕が顕著である。

(12) 器状石製品【S l - 1 ~ 4】(表35・第[2]-274図・写真図版305)

計4点を登録し、全て図示した。土器等の器を模した石製品と考えられ、S l - 1 はミニチュア土器にも類似する形態のものがあり、これと同様に台付の器を表現していると思われる。S l - 2 ~ 4 は範形容器を模したようにも見えるが詳細は不明である。いずれも凝灰岩製で、整形時の擦痕が観察される。

(13) 円盤状石製品【S m - 1 ~ 64】(表36・第[2]-275~277図・写真図版306~309)

計64点を登録し全点写真掲載、うち32点を図示した。周囲を打ち欠きあるいは研磨して円盤状に仕上げら

れている。直径は大半が4~6cm程度である。

(14) 石核・剥片石器素材礫【S n - 1~2 (仮 z 1~51)】(表37・第[2]-278図・写真図版309)

剥片石器の素材剥片を剥取する石核、及び素材原石を登録した。登録したのは51点で、うち掲載番号を付して図示したのは石核2点である。

S n - 1は両面剥離状に剥片剥取が行われ、図上部及び右側縁に稜が形成されている。

S n - 2は礫面を打面として連続的な剥離が行われており、箱形の整った形状を呈している。未だ消費段階の中途に位置するものと思われる。

素材礫としては奥羽山脈産の頁岩・瑪瑙、北上山地産の赤色頁岩・ベガマタイト・チャートなどが持ち込まれている。

(15) 敗磨器素材礫【S o - 1~1020】(表38)

遺跡から出土した敗磨器類の素材となる自然礫を登録した。このなかには実際に使用されながらも明確な使用痕を残さなかったために、上掲の「(6) 敗磨器類」に登録されなかったものを多く含んでいると思われる。形状から以下のように分類した。

円 磨 … 平面形・断面形ともに円形に近い、球状の礫。

円盤礫 … 平面形は円~梢円形で、断面形が扁平な礫。

素材礫 … 最も敗磨器に用いられやすい、平面・断面ともに梢円形を呈する礫。

棒状・板状礫 … 棒状あるいは延べ板状の礫。

個々の出土地点、計測値等は表中に記載している。時間的な余裕がなく検討できずに終わっている。

(16) 溶 岩【S p - 1~204】(表39)

遺跡からの出土が目立った安山岩質溶岩をまとめた。石材の特質から、凹石や砥石として利用されているものが目立つ。(15)と同様、素材礫も合わせて計測を行った。同じく未検討に終わっている。

6. 動物遺存体

清水遺跡の動物遺存体はすべてがB区捨て場堆積層から出土したものである。当遺跡の捨て場からは繩文時代中期末葉から後期初頭にかけての土器が約7トン出土し、また、捨て場の縁に沿う形で形成された帯状の焼土遺構は特異な遺構として注目される。

このような捨て場に伴う焼土遺構は從前より祭祀に関連する可能性が指摘されている。当遺跡においても、集落内における位置や、規模・形状等の特異性から何らかの祭祀行為による痕跡と判断している。

獸骨類はこの捨て場の精査段階で出土したもので、鑑定の結果、シカ・イノシシ・キツネ・種不明の鳥類等が含まれていることがわかったが、地点別による出土傾向の偏りはみられない。これは捨て場が土器のみならず食物残渣等、日常生活において排出される各種廃棄物の処分エリアであったことを物語っている。焼土中より検出された骨片は、焼土形成時、すなわち捨て場において燃焼を伴う行為がなされるより以前に捨て場に投棄され埋没したものが、上方からの火熱によって焼成され、腐敗を免れて今日まで形状を残したと考えるのが妥当であろう。

今回の調査に限れば、捨て場における祭祀と、出土した動物遺存体との直接的な関連性を積極的に示す状況は観察されていない。

VII. ま と め

考察すべき対象は多岐にわたるが、時間的制約から以下に調査成果を要約し、まとめとしたい。

遺構分布の中心は北尾根頂部の緩斜面上で、多数の柱穴群が主体であった。全体の分布をみると緩斜面の中央部を取り囲んでU字状（～環状？）に展開するように思われ、方形あるいは円形に配置されて建物跡を構成するものも確認された。このうち柱穴群南端部（「U」字下端）に位置する建物跡1は他と比して敷設規模が大きく、柱穴は径・深さとも1m前後、環の外径は約13mを測る。さらに丸太材を半割したと思われる柱材の痕跡が複数の柱穴で確認され、環の西側には溝状の掘りこみが対になる出入口状の施設をもつなどの特徴が認められる。上部構造や性格については大いに検討の余地があるが、柱穴群の中にあって他の建物と重複せず同位置への建て替えが繰り返し行われていることなどからも、集落において象徴的な存在であったことは想像に難くない。柱穴群南側のC区沢跡の沢縁では円形土坑がまとめて分布している。ほとんどは自然堆積により埋没したものであるが、数基では底面から土器や大型礫が出土しており、本来、開口して機能していた土坑（貯蔵穴？）を墓坑に転用したものと思われる。柱穴群東端部でも人為堆積とみられる稍円形土坑が検出されている。これら北尾根頂部（C3・C4区）で検出された遺構は出土遺物等から縄文時代後期初頭及びその前後と判断される。

北尾根の北側斜面に形成されたB区捨て場からは、縄文時代中期末葉～後期前葉（門前式前後が中心）の土器が大コンテナ約530箱分（7トン弱）出土した。捨て場には多量の土器が施設された層と地山粘土（礫）を多量に含む腐葉土層が交互に堆積しており、北部斜面をえぐるB区沢跡が北側に向かって扇状に埋め立てられていった状況が把握された。また、捨て場堆積層の北縁に沿うように弧をなす帯状埴土遺構も注目される。捨て場が精神的意味を与えられた場だったと仮定すれば、この焼土遺構が何らかの祭祀行為に伴うものと解釈できるかもしれない。

一方、南尾根では頂部の標高78m線上に堅穴住居跡3棟が弧状に並んだ状態で検出されており、北尾根とは遺構の分布状況を異にするようである。

北尾根と南尾根はともに東側調査区外で高位面へと連続しており、両者の接点であるこの区域の調査が行われていない現段階では両尾根遺構群の互いの関係について不明といわざるを得ない。また、北尾根の緩斜面は西側調査区外へと連続しており、遺構群がより西側に拡がることは明らかである。従って調査区内において弧～環状に展開するかに見える北尾根遺構群も、全体の構造を知るには未調査区域の様相が判明するのを待たねばならない。

次に遺物について。本遺跡出土の遺物の大半は北尾根の捨て場から出土したもので、特に大木10式～門前式の土器が中心となる。土器以外には土偶（約100点）をはじめ、耳飾や斧状・腕輪状・鱗状・石皿状・円盤状の各土製品、石鎧（約2500点）・石匙・石椎・石斧・石皿・敲磨器類・石棒・石笛などの各石器・石製品、縄の固定痕がのこる石鎧・土器、ミニチュア土器などが出土している。また、本文中では紙数が限られ記載できなかったが、石鎧専用の母材として直径3cm程度の黒曜石の円盤が大量に持ち込まれていることがわかっている。これは花泉町下館銅屋遺跡、藤沢町上野平遺跡など近域の同時期遺跡と類似する事象であり、周辺地域における黒曜石の流通状況について知る手がかりとなろう。

さて、先にも述べたとおり、今回の調査で出土した遺構・遺物等の資料は極めて膨大なものであり、本書の作成にあたってはこれらを資料化し提示することに主眼を置いて作業を進めてきた。しかし、いよいよ刊行を迎えるこの段階に至ってみると、当初の目的に近づけることさえままならなかつた現実に、ただ自身の

力量の欠如を恨むのみである。

ともあれ、今後継続して検討していかなければならない課題は山積するものの、今回の発掘調査は当地域における縄文集落の調査としては過去にない大規模なものであり、大量の遺物とそれを用いた人々の生活痕跡が広がりをもって確認されたことは大きな成果である。該期の生活様式を総合的に理解する上で重要な資料を提示できたものと考えたい。

そして最後になるが、本遺跡の発掘調査・報告書作成にご協力を賜った全ての方々に対して心からの謝意を表し、ここに清水遺跡の報告を終えたいと思う。

〈参考・引用文献〉

- 和田 哲ほか (1971)『貝鳥塚』花泉町教育委員会
及川 浩 (1974)『門前貝塚』陸前高田市教育委員会
後藤勝彦 (1974)『縄文後期宮戸I b式周辺の吟味』『東北の考古・歴史論集』
高橋文夫ほか (1977)『湯沢遺跡発掘調査報告書(遺構編)』(財)岩手県埋蔵文化財センター
一関市史編纂委員会 (1978)『一関市史』第1巻通史
本堂壽一 (1978・1979)『八天遺跡(園版編・本文編)』北上市教育委員会
中村良幸 (1979)『立石遺跡』大迫町教育委員会
田中則和ほか (1981)『六反田遺跡発掘調査報告書』仙台市教育委員会
岩手県博物館 (1982)『岩手の土器』
三浦謙一 (1982)『湯沢遺跡発掘調査報告書(遺物編)』(財)岩手県埋蔵文化財センター
南 久和 (1982)『金沢市チカモリ遺跡』『考古学ジャーナル』203 ニュー・サイエンス社
南 久和ほか (1983)『金沢市新保本町チカモリ遺跡一遺構編一』金沢市教育委員会
加藤道男ほか (1984)『東北自動車道遺跡調査報告書』IX(二風谷遺跡)宮城県教育委員会
難谷常正 (1986)『門前式土器の再検討』『岩手県立博物館研究報告』4
中村良幸 (1986)『報音堂遺跡』大迫町教育委員会
能都郡教育委員会・真島遺跡発掘調査委員会 (1986)『真島遺跡(本文編)』
南 久和 (1986)『石川県チカモリ遺跡』季刊『考古学』第15号
深沢克友 (1987)『史跡・寺地遺跡』新潟県背海町
池谷創之 (1988)『東北地方における縄文時代中期末縄土器の変遷と後期土器の成立』『沼津市博物館紀要』12
柳原清一 (1988)『「木大10式」統考』『北異古代文化』19
石井 寛 (1989)『縄文集落と擬柱柱建物跡』『測量研究集録』6
小林 克 (1989)『八木遺跡発掘調査報告書』秋田県埋蔵文化財センター
丹羽 広 (1989)『中期大木式土器様式』『縄文土器大図』1小学館
本間 宏 (1990)『東北地方南部における縄文後期前縄土器群の変遷課程』『縄文時代の諸問題』
藤巻正信 (1991)『関越自動車道関係発掘調査報告書』城之腰遺跡(本文編)』新潟県教育委員会
小野寺啓ほか (1992)『一関市の歴史』上
金子昭彦 (1998)『新山権現社遺跡発掘調査報告書』(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
三宅教気 (1998)『縄文後晚期のムラ一群馬県矢張遺跡』季刊『考古学』第43号 雄山閣
佐々木勝 (1994)『岩手県における縄文時代擬柱柱建物跡について』『岩手県立博物館研究報告』12
本間 宏 (1994)『大木10式土器の考え方』『しのぶ考古』10
稻村晃嗣ほか (1997)『横久遺跡』北上市教育委員会
松本達造 (1999)『下館御屋遺跡発掘調査報告書』(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
酒井宗孝 (2000)『上野平遺跡発掘調査報告書』(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
鈴木克彦 (2000)『東北地方北半部の中期・後期区分に関する縄年学的研究(上)』『縄文時代』11
宮本節子 (2000)『相ノ沢遺跡発掘調査報告書』(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
鈴木克彦 (2001)『東北地方北半部の中期・後期区分に関する縄年学的研究(下)』『縄文時代』12

附編 1 放射性炭素年代測定

造構の実年代を特定する手段として、埋土から採取した炭化物の放射性炭素 ^{14}C 年代測定を行った。試料としたのは下記の炭化木炭粒、計 5 点である。採取は調査員が自ら行っており、測定結果に採取時の不手際が反映されている可能性があるため、採取状況も付記することとした。

| 試料名 | 測定No. | 採取造構名 | 層位 | 採取状況 |
|------------------|---------|---------------|-----------------------|---|
| No.1 Beta-137660 | C4p138 | ：底面直上埋土 | | 半截後數度水没。完掘時に断面を横に掘り込んで採取。採取土層は密でクラック無し。 |
| No.2 Beta-137661 | C4p211 | ：柱痕土（埋土 2 層） | 同上 | |
| No.3 Beta-137662 | C4p136 | ：柱痕土（埋土 1 層） | | 半截後數度水没。完掘時に断面より採取。クラックや多。 |
| No.4 Beta-137663 | 住居跡D2J1 | ：炉(2) 烧土直上 | | 炉精査時、焼成面検出直後に採取。採取時霧雨。 |
| No.5 Beta-137664 | 住居状C4J4 | ：炭化物層（埋土 5 層） | 査段階で数度水没。断面を横に掘り込み採取。 | |

年代測定は歴古環境研究所に委託した。なお、同研究所担当者の松田隆二氏より測定内容について詳細なご教示を得、また測定結果の数値を見るかぎりサンプリングエラーの影響は認められないとのコメントを得ている。以下に、測定結果報告書を掲載する。

(村上)

◇◇◇ ◇◇◇ ◇◇◇ 放射性炭素年代測定結果報告書 ◇◇◇ ◇◇◇ ◇◇◇

岩手県「清水遺跡」における放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

1. 試料と方法

| No. | 試料 | 試料の種類 | 重量 | 前処理・調製 | 測定法 |
|-----|-----------|-------|-------|--------------------|---------------------|
| 1 | SZ99-No.1 | 炭化物 | 0.08g | 酸／アルカリ／酸洗浄 石墨調製 | AMS 法 (加速器質量分析法) |
| 2 | SZ99-No.2 | 炭化物 | 0.31g | 酸／アルカリ／酸洗浄 石墨調製 | AMS 法 (加速器質量分析法) |
| 3 | SZ99-No.3 | 炭化物 | 0.34g | 酸／アルカリ／酸洗浄 石墨調製 | AMS 法 (加速器質量分析法) |
| 4 | SZ99-No.4 | 炭化物 | 0.18g | 酸／アルカリ／酸洗浄 石墨調製 | AMS 法 (加速器質量分析法) |
| 5 | SZ99-No.5 | 炭化物 | 0.33g | 酸／アルカリ／酸洗浄 石墨調製 | AMS 法 (加速器質量分析法) |

2. 測定結果

| 試料名 | ^{14}C 年代 (年BP) | $\delta^{13}\text{C}$ (‰) | 補正 ^{14}C 年代 (年BP) | 歴年代 | 測定No. Beta- |
|-------|-----------------------------|------------------------------|--------------------------------|--|----------------|
| No. 1 | 3440±50 | -26.0 | 3420±50 | 交点 BC 1725 2σ BC 1880 to 1610 1σ BC 1760 to 1670 | 137660 |
| No. 2 | 3680±40 | -25.3 | 3680±40 | 交点 BC 2035 2σ BC 2190 to 2165, BC 2150 to 1945 1σ BC 2130 to 2010 | 137661 |
| No. 3 | 2300±40 | -25.5 | 2290±40 | 交点 BC 385 2σ BC 405 to 350, BC 300 to 220 1σ BC 395 to 370 | 137662 |
| No. 4 | 3770±50 | -25.6 | 3760±50 | 交点 BC 2190, BC 2165, BC 2150 2σ BC 2310 to 2025 1σ BC 2265 to 2260, BC 2220 to 2125, BC 2075 to 2055 | 137663 |
| No. 5 | 3610±50 | -25.2 | 3610±50 | 交点 BC 1955 2σ BC 2125 to 2075, BC 2055 to 1875 1σ BC 2025 to 1900 | 137664 |

1) ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在（1950年 AD）から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5,568年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ の測定値に補正值を加えた上で算出した年代。

4) 歴年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動に対する補正により歴年代 (西暦) を算出した。具体的には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定、サンゴのU-Th年代と ^{14}C 年代の比較により補正曲線を作成して歴年代を算出する。最新のデータベース ("INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver M., et al., 1998, Radiocarbon 40 (3)) により、約19,000年 BPまでの換算が可能となっている。ただし、1 0,000年 BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

歴年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と歴年代補正曲線との交点の歴年代値を意味する。 1σ (68%確率)・ 2σ (95%確率) は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した歴年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の 1σ ・ 2σ 値が表記される場合もある。

5) 測定No.

測定は、Beta Analytic Inc. (Florida, U.S.A.) において行われた。Beta- は同社の測定 No. を意味する。

附編 2 一関市清水遺跡出土の火山灰分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

< 目 次 >

はじめに

1. 試料

2. 分析方法

(1) テフラ分析・屈折率測定

(2) 重鉱物分析

(3) 火山ガラス比分析

3. 結果

(1) テフラ分析・屈折率測定

(2) 重鉱物分析

(3) 火山ガラス比分析

4. 考察

引用参考文献

< 図表一覧 >

表 1 重鉱物・火山ガラス比分析結果

図 1 重鉱物組成および火山ガラス比

図版1 軽石・重鉱物・火山ガラス

はじめに

清水遺跡は、一関市舞川の山麓緩斜面に立地する。今回の発掘調査により、縄文時代中期末葉～後期初頭の遺物包含層の下位に、テフラに由来すると考えられる軽石のブロック状堆積物が検出されている。今回の自然科学分析調査では、このブロック状堆積物を対象に、テフラ分析および屈折率測定、重鉱物分析、火山ガラス比分析を行い、テフラの特徴を捉える。

1. 試 料

試料は、「SZ-98-B区」とされる、にぶい黄橙色の砂質シルトである。

2. 分析方法

(1) テフラ分析・屈折率測定

試料は、適量を蒸発皿に取り、水を加え、超音波洗浄装置により分散、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより、泥分を除去する。得られた砂分を、实体顕微鏡および偏光顕微鏡下で観察し、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石の産状を調べる。さらに、火山ガラスの屈折率の測定を行ふ。なお、屈折率の測定は、古澤(1995)に示された温度変化型屈折率測定装置を用いて行う。

(2) 重鉱物分析

試料約40gに水を加え、超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分を、ポリタングステート(比重約2.96に調整)により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものを、「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は、「その他」とする。

(3) 火山ガラス比分析

重鉱物分析の処理により得られた軽鉱物分を偏光顕微鏡下にて観察、火山ガラスとそれ以外の碎屑物を250粒を計数し、碎屑物中における火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは、便宜上軽鉱物に含め、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破碎片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長くのびた纖維束状のものとする。

3. 結 果

(1) テフラ分析・屈折率測定

試料中には、中砂～粗砂径で発泡が良好～やや良好の淘汰のよい白色軽石が、多量含まれる。また、細砂～極細砂径の無色透明のスポンジ状に発泡した軽石型火山ガラスが中量含まれ、纖維束状のものも認められる。火山ガラスの屈折率は、平均値1.5110、最小値1.5096、最大値1.5131であった。

(2) 重鉱物分析

結果を表1・図1に示す。試料中の重鉱物は、斜方輝石が最も多く、次に不透明鉱物、單斜輝石を含む。

(3) 火山ガラス比

結果を表1・図1に示す。試料中には、軽石型火山ガラスが非常に多く含まれる。

表1 重鉱物・火山ガラス比分析結果

| 試料名 | カンラン石 | 斜方輝石 | 單斜輝石 | 角閃石 | 不透明鉱物 | その他 | 合計 | バブル型火山ガラス | 中間型火山ガラス | 軽石型火山ガラス | その他 | 合計 |
|----------|-------|------|------|-----|-------|-----|-----|-----------|----------|----------|-----|-----|
| SZ-98 B区 | 2 | 111 | 50 | 4 | 75 | 8 | 250 | 4 | 0 | 209 | 37 | 250 |

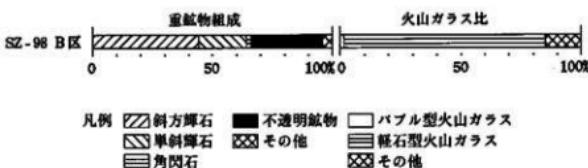


図1 重鉱物組成および火山ガラス比

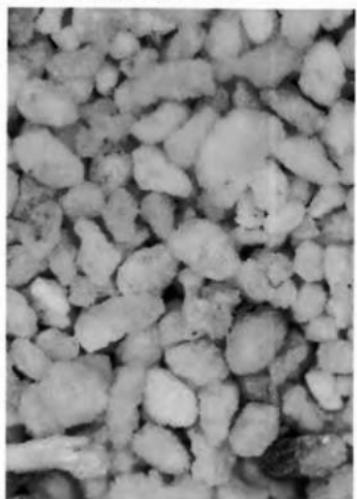
4. 考 察

今回の分析結果と、町田ほか（1984）、Hayakawa, Y. (1985)、Arai et al. (1986)、町田・新井（1992）等の記載および検出層準から、本試料中の軽石や火山ガラスは、約5500年前に十和田カルデラより噴出した、To-Cuに由来すると考えられる。

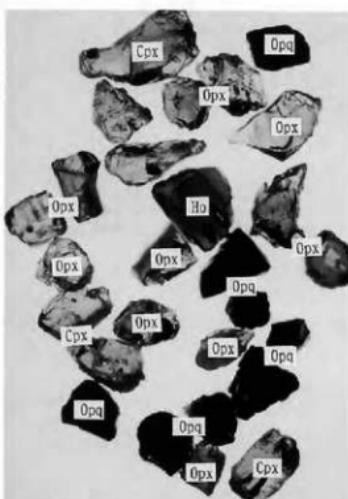
引用文献

- Arai, F., Machida, H., Okumura, K., Miyauchi, T., Soda, T., and Yamagata, K. (1986) Catalog for Late Quaternary Marker-Tephras in Japan II -Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido-. Geographical of Tokyo Metropolitan University, 21, p. 223-250.
- 古澤 明 (1995) 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別。地質学雑誌, 101, p.123-133.
- Hayakawa, Y. (1985) Pyroclastic Geology of Towada Volcano. Bull. Earthq. Res. Inst., Univ. Tokyo, 60, 507-592.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス, 276p., 東京大学出版。
- 町田洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫 (1984) テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラのカタログー。渡辺直経編「古文家財に関する保存科学と人文・自然科学」p.865-928。

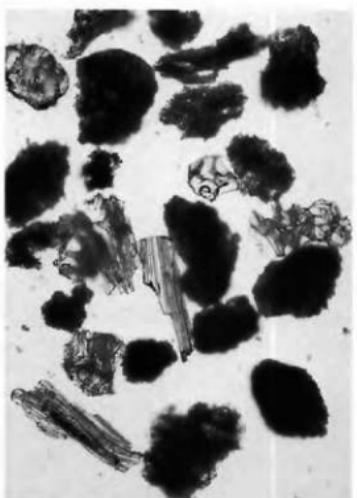
図版1 経石・重鉱物・火山ガラス



1. To-Cu 軽石



2. 重鉱物



3. 火山ガラス

0.5mm
(1)
0.5mm
(2, 3)

Opx : 斜方輝石 Cpx : 単斜輝石
Ho : 角閃石 Opq : 不透明鉱物

附編3 一関市清水遺跡の動物遺存体

佐々木 務 (岩手県教育委員会生涯学習文化課)

清水遺跡から出土した動物遺存体は、焼土遺構中あるいはその周辺部から出土したもので、全て、変色等の熱を受けた痕跡を持っている。確認された種類は右の通りである。

破片数は337点、ほとんどは小破片で同定できたものは少ない。確認できた範囲ではシカ・イノシシ・キツネ・種不明の鳥類である。イノシシ・シカについてはともに未成熟な個体が少なからず含まれているようである。焼土中からの出土が主体となっているが、この焼土が現地性のもので、他の出土遺物が焼土中と遺物包含層のほかの部分と出土の状況が違わないのであれば、本来は、遺物包含層の他の部分にも動物遺存体が多く含まれていたものと推定される。焼けたことによって保存されたもの以外は、腐食し、土に還ってしまったと考えられる。ほとんどが小さな破片になっている出土する破片の大きさであるが、犬やネズミなどによる食痕は確認していないため、包含層に廃棄される時点で小破片となっていた可能性が高い。骨髄を食べたり、骨角器として骨などを利用していたと思われる。若干だが、加工が認められる破片も出土している。

・シカ (*Cervus Nippon Temminck*)

・イノシシ (*Sus scrofa Linnaeus*)

・キツネ (*Vulpes vulpes Linnaeus*)

・種不明の鳥類

清水遺跡出土動物遺存体

| 発掘番号 | 破片号 | 地 点 | 層位・遺構 | 種 | 種 名 | 部 位 | 被焼度 | 破片の状況 (部分) | その他 | 写真 |
|------|-----|-------|--------|----|-------|-----------|-----|-------------|-------------|----|
| 1 | 75 | 3B | F1 | 哺乳 | イノシシ | 左下顎骨 | 有 | 破片 | 小形の個体 (未成熟) | |
| 2 | 86 | 3B | F1 | 哺乳 | イノシシ | 上顎 M3 | 有 | 破片 | 衝撃を留めし、摩耗無し | |
| 3 | 93 | 3B | F1 | 哺乳 | ? | ? | 有 | 破片 | カットマーク有り | |
| 4 | 101 | 3B | F1 | 哺乳 | キツネ | 上顎骨 | 有 | 達化焼 | | |
| 5 | 102 | 3B | F1 | 哺乳 | ? | 椎体 | 有 | 破片 | | |
| 6 | 103 | 3B | F1 | 哺乳 | ? | 蝶突起 | 有 | 破片 | | |
| 7 | 122 | 3B | F1 | 哺乳 | ? | ? | 無 | 破片 | 四肢骨破片 | |
| 8 | 292 | 3B | F1 | 哺乳 | シカ | 左蹠骨 | 有 | 達化焼 | | |
| 9 | 293 | 3B | F1 | 哺乳 | シカ? | 右肩甲骨 | 有 | 破片 | | |
| 10 | 86 | 3B2 | 18 | 哺乳 | イノシシ? | ? | 無 | 破片 | 頭骨片? | |
| 11 | 89 | 3B2 | 18 | 哺乳 | イノシシ | 脛骨 | 有 | 破片 (詳細部位不明) | 近位端末ゆ合 | |
| 12 | 287 | 3T | F1 | 哺乳 | シカ | 右大腿骨 | 有 | 近位 | | |
| 13 | 288 | 3T | F1 | 哺乳 | シカ | 右前股骨 | 有 | 達化焼 | | |
| 14 | 291 | 3T | F1 | 哺乳 | ? | ? | 有 | 破片 | | |
| 15 | 325 | 3T | F1 | 鳥 | ? | 上顎骨 | 有 | 達化焼半分 | | 有 |
| 15 | 132 | 3T2 | 三 | 哺乳 | ? | ? | 有 | 破片 | 椎骨片? | |
| 17 | 133 | 3T2 | 三 | 哺乳 | ? | ? | 有 | 破片 | 椎骨片? | |
| 18 | 134 | 4B | F1 | 哺乳 | イノシシ | 右頸頭骨 | 有 | 破片 | カットマーク有り | 有 |
| 19 | 179 | 4B | F1 | 哺乳 | シカ? | 中手 or 中足骨 | 有 | 達化焼 | | |
| 20 | 180 | 4B | F1 | 哺乳 | シカ? | 中手 or 中足骨 | 有 | 達化焼 | | |
| 21 | 301 | 4B | F1 | 哺乳 | シカ | 角 | 有 | 破片 | | |
| 22 | 203 | 5B1 | 24 | 哺乳 | ? | ? | 有 | 破片 | 加工品 | |
| 23 | 204 | 5B3 | 18 | 哺乳 | ? | 左前脛骨 | 有 | 接着する2破片 | 小型の個体 | |
| 24 | 205 | 5B7 | 三 | 哺乳 | シカ | 東趾骨 | 有 | ほぼ完形 | | 有 |
| 25 | 206 | 5T2 | 三 | 哺乳 | シカ | 中手 or 中足骨 | 有 | 達化焼 | | |
| 26 | 207 | 5T9 | 三 | 哺乳 | ? | 肋骨 | 有 | 破片 | | |
| 27 | 216 | 6B4 | 三 | 哺乳 | ? | 尾椎 | 有 | 破片 | | |
| 28 | 332 | 6T4-5 | 三 | 哺乳 | シカ | 左中手骨 | 有 | 破片 | | 有 |
| 29 | 221 | 6B-7B | F1 | 哺乳 | ? | 肋骨 | 有 | 破片 | | |
| 30 | 222 | 6B-7B | F1 | 哺乳 | ? | 肋骨 | 有 | 破片 | | |
| 31 | 223 | 6B-7B | F1 | 哺乳 | キツネ | 右下顎骨 | 有 | 達化焼 | | |
| 32 | 245 | 8T2-3 | 三 | 哺乳 | シカ | 尺骨 (左) | 有 | 破片 | | 有 |
| 33 | 284 | 9T2 | 19 | 哺乳 | ? | 肋骨 | 有 | 破片 | | |
| 34 | 285 | 9T2 | 19 | 哺乳 | ? | 肋骨 | 有 | 破片 | | |
| 35 | 306 | CB2 | 三 | 哺乳 | シカ | 茎節骨 | 有 | 半分残存 | | |
| 36 | 307 | CB2 | 三 | 哺乳 | シカ? | 中膝骨 | 有 | 達化焼 | | |
| 37 | 320 | CB3 | 三 | 哺乳 | ? | ? | 有 | 破片 | イノシシ前甲骨? | |
| 38 | 321 | CB4 | 3~7+22 | 哺乳 | シカ? | 中足骨 | 有 | 破片 | | |
| 39 | 322 | CB4 | 5 | 哺乳 | ? | 離子骨 | 有 | ほぼ完形 | | |
| 40 | 1 | 10B3 | 三 | 哺乳 | ? | 椎体 | 有 | 破片 | | |
| 41 | 2 | 10B3 | 三 | 哺乳 | ? | 椎骨片 | 有 | 破片 | | |



15 (325)



18 (134)



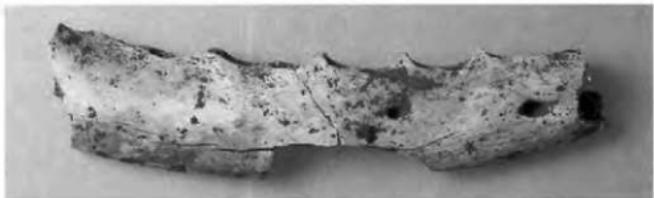
24 (205)



28 (232)



32 (245)



31 (223)